

我が国の大学・公的研究機関における研究者の独立の過程に関する分析  
－研究職歴と研究権限についての大規模調査－

2011 年 3 月

文部科学省 科学技術政策研究所  
第1調査研究グループ

齋藤 経史    中務 貴之    茶山 秀一

Independence Processes of Researchers in Japan  
- Large-scale Survey of Job History and Authority for Research -  
March 2011

Keiji SAITO, Takayuki NAKATSUKASA, and Hidekazu CHAYAMA  
1<sup>st</sup> Policy-Oriented Research Group  
National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP)  
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)  
JAPAN

本報告書の引用を行う際には、出典を明記願います。

# 我が国の大学・公的研究機関における研究者の独立の過程に関する分析 －研究職歴と研究権限についての大規模調査－

文部科学省 科学技術政策研究所 第1調査研究グループ 齋藤経史 中務貴之 茶山秀一

## 要旨:

本調査〔アカデミックキャリアパスの実態把握のための調査〕では、同一機関内の内部昇格を含む研究職歴における研究環境・権限、任期の有無および状態、研究者としての独立の自覚を調査した（有効回答 4,456, 回収率 66.3%）。研究環境・権限は総じて「発表論文の責任者」「担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者」「特定の部下（大学院生）の指導の責任者」「研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者」「独立した研究室」の順に拡大していくこと、これら 5 つの権限を満たした PI (Principal Investigator) は研究者のうち 36% であることが確認された。加えて、1950 年代生まれの世代と 1970 年代生まれの世代を比較すると、研究環境は概して改善していることが示された。

## Independence Processes of Researchers in Japan - Large-scale Survey of Job History and Authority for Research -

Keiji SAITO, Takayuki NAKATSUKASA, and Hidekazu CHAYAMA

1st Policy-Oriented Research Group,

National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP), MEXT

## ABSTRACT:

We investigate career paths and research environment from researchers in universities and public research institutes. (4,456 responses, valid response rate: 66.3%) In general, Authority for research expands as follows: (1)corresponding author, (2)budget manager of an assignment, (3)immediate supervisor for subordinates or graduate students, (4)budget decision-maker in a research group, (5)independent laboratory/room. The share of “principle investigator” who obtain the above 5 authorities is 36%. Compared to researchers born in the 1950s, researchers born in the 1970s generically obtain authority for research earlier.



# 目次

## 概要

<b>第 1 章</b>	<b>調査の背景と本報告書の位置づけ</b>	1
1.1	初めに	1
1.2	研究者のキャリアパスに関する調査分析：本報告書の位置づけ	2
<b>第 2 章</b>	<b>調査概要〔アカデミックキャリアパスの実態把握のための調査〕</b>	4
2.1	調査方法および前回調査との関係	4
2.2	前回調査の概要	5
2.3	本調査の調査票、調査項目について	6
2.4	本報告書におけるデータ項目の出所	7
2.5	分析用データの作成方法	8
2.6	配布数と回収数の状況	10
<b>第 3 章</b>	<b>回答者の属性と公的統計との比較</b>	11
3.1	現在の本務における機関種別の所属割合	11
3.2	機関種別の職階割合	12
3.3	大学教員の大学種別分野割合	13
3.4	大学教員の大学種・分野別の男女比率	13
3.5	大学教員の年齢層割合	14
3.6	本調査の有効回答について	14
<b>第 4 章</b>	<b>現在の研究職における研究環境・権限の状況</b>	15
4.1	研究環境および権限の定義と概観	15
4.2	年齢層別の状況	17
4.3	分野別の状況	19
4.4	任期の有無別の状況	22
4.5	「研究者としての独立の自覚」の有無別の状況	24
4.6	研究機関の移動経験別の状況	27
4.7	大学と公的研究機関の比較	29
4.8	国立大学と私立大学の比較	34
<b>第 5 章</b>	<b>研究職歴を遡った研究環境・権限の分析</b>	36
5.1	研究職歴を遡った分析と研究環境の経験の概観	36
5.2	任期のない研究本務職に就いた年齢の世代間比較	38
5.3	「研究者としての独立の自覚」を持った年齢の世代間比較	39
5.4	PI となった年齢の世代間比較	40
5.5	研究環境・権限の経験状況の世代間比較	41
5.6	PI (Principal Investigator) の条件に関する考察	47

<b>第 6 章</b>	<b>PI 経験年齢別グループによる比較分析</b>	50
6.1	PI 経験年齢によるグルーピング	50
6.2	「独立の自覚」を持った年齢と PI 経験年齢	50
6.3	「任期のない職」を得た年齢と PI 経験年齢	51
6.4	研究機関の移動経験と PI 経験年齢	51
6.5	PI 経験年齢と論文生産性	52
<b>第 7 章</b>	<b>終わりに</b>	53
<b>参考文献</b>		54
<b>謝辞</b>		55

## 参考資料目次

参考資料 1 : 本文内の図の元データ

参考資料 2 : 参考図表

参考資料 3 : 調査票

## 図表目次

図表 2-1	本調査〔アカデミックキャリアパスの実態把握のための調査〕の流れ	4
図表 2-2	前回調査〔研究組織の人材の現状と流動性に関する調査〕の回収率	5
図表 2-3	配布数と回答数（前回調査における機関種別）	10
図表 2-4	配布数と回答数（最終学歴の分野別）	10
図表 3-1	現在の本務の機関種と最終学歴の分野	11
図表 3-2	自然科学部門の研究組織に属する研究者数の比較	12
図表 3-3	現在の本務の機関種と職階	12
図表 3-4	教員の大学種・分野割合の比較（左：本調査結果 右：学校教員統計）	13
図表 3-5	教員の男女比率の比較（左：本調査結果 右：学校教員統計）	13
図表 3-6	自然科学部門の教員の年齢層割合	14
図表 4-1	現職における研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳	16
図表 4-2	年齢層別：研究環境・権限、独立の自覚、任期の状況の内訳	18
図表 4-3	研究環境・権限、独立の自覚、任期のない職の割合（分野別）	20
図表 4-4	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート（分野別）	21
図表 4-5	研究環境・権限、独立の自覚の有無のレーダーチャート（任期の有無：職階別）	23
図表 4-6	任期の有無別の PI 割合	24
図表 4-7	研究環境・権限、任期の有無のレーダーチャート（「独立の自覚」の有無：年齢層別）	25
図表 4-8	現職の本務に関する研究環境・権限、任期の有無の相関係数表	26
図表 4-9	移動経験別の PI の該当者割合（1960 年代、1950 年代生まれ）	27

図表 4-10	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート（移動経験：年齢層別） .....	28
図表 4-11	移動経験別 3 年間の平均英語論文数（1960 年代、1950 年代生まれ） .....	29
図表 4-12	研究環境・権限、独立の自覚、任期の状況の内訳（国内大学：年齢層別） .....	30
図表 4-13	研究環境・権限、独立の自覚、任期の状況の内訳（公的研究機関：年齢層別） .....	31
図表 4-14	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート（機関種別：職階別） .....	33
図表 4-15	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート（大学種別：年齢層別） .....	35
図表 5-1	研究環境・権限、独立の自覚、任期のない職の経験割合 .....	36
図表 5-2	研究環境・権限、独立の自覚、任期のない職の経験者数と経験した年齢 .....	37
図表 5-3	任期のない研究本務職を経験した割合の世代間比較（全研究者） .....	38
図表 5-4	「研究者としての独立の自覚」を経験した割合の世代間比較（全研究者） .....	39
図表 5-5	PI を経験した割合の世代間比較（全研究者） .....	40
図表 5-6	本務経験が大学（海外の大学を含む）のみの回答者割合 .....	41
図表 5-7	理学分野における研究に関する経験割合の世代間比較（本務経験が大学のみの者） .....	42
図表 5-8	工学分野における研究に関する経験割合の世代間比較（本務経験が大学のみの者） .....	43
図表 5-9	医学分野における研究に関する経験割合の世代間比較（本務経験が大学のみの者） .....	44
図表 5-10	農学分野における研究に関する経験割合の世代間比較（本務経験が大学のみの者） .....	45
図表 5-11	PI の経験割合の世代間比較（本務経験が大学のみの者） .....	48
図表 5-12	「独立した研究室」を除く 4 条件の経験割合の世代間比較（本務経験が大学のみの者） .....	48
図表 5-13	35 歳時点の世代間比較レーダーチャート（本務経験が大学のみの者） .....	49
図表 6-1	30 歳までの「独立の自覚」と PI 経験年齢（本務経験が大学のみの 1950 年代生まれの者） .....	50
図表 6-2	30 歳までの「任期のない職」と PI 経験年齢（本務経験が大学のみの 1950 年代生まれの者） .....	51
図表 6-3	大学間の移動経験別の PI 経験年齢（本務経験が大学のみの 1950 年代生まれの者） .....	51
図表 6-4	PI となった年齢別 過去 3 年間の英語論文数（本務経験が大学のみの 1950 年代生まれの者） .....	52

## 【概要】

### 本報告書の目的

本報告書では、大学や公的研究機関に属する研究者の職歴や研究環境のデータを用いて、研究者の独立の過程および独立した研究者(PI : Principal Investigator)の条件を考察する。研究分野や世代による違いに焦点を当て、研究者の独立の過程を定量的に分析することが本報告書の目的である。

### 調査の概要

本調査〔アカデミックキャリアパスの実態把握のための調査〕では、同一機関内の内部昇格を含む研究職歴における研究環境・権限、任期の有無および状態、研究者としての独立の自覚を尋ねた。各職歴における研究環境・権限の調査項目として、「発表論文の責任者」「担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者」「特定の部下（大学院生）の指導の責任者」「研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者」「独立した研究室を持った」を尋ねた。

本調査は 2008 年度に自然科学部門の研究組織に所属する研究者に対して行った〔研究組織の人材の現状と流動性に関する調査（研究者調査）〕の回答者に追加調査を依頼する形で実施した。この回答において、有効な電子メールアドレスが記載されていた 6,718 名に対して、2009 年 11 月から 12 月にかけて調査を実施した。本調査では、4,456 名の研究者から有効回答(回収率 66.3%)が得られた。

### 本報告書の結論

本調査では、現在の本務に関する研究環境・権限として〔該当する〕と回答した割合が高い順に「発表論文の責任者」「担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者」「特定の部下（大学院生）の指導の責任者」「研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者」「独立した研究室を持つ」であった。これら 5 つの研究環境・権限を全て満たした場合を PI (Principal Investigator)と設定して集計すると、36%の研究者が PI に該当する。また、研究職歴を遡った分析を行ったところ、発表論文に関する責任、個人課題を含む予算管理、指導の責任、グループの予算管理、独立した研究室を持つという順序で研究環境・権限が拡大していく様子が定量的に確認された。

また、本調査における「独立した研究室」は、調査票に“大学の研究室相当”と注記し、必ずしも部屋を意味するわけではない。しかし、回答者にとっては明確な判別が困難であった可能性があり、50 歳代の大学に所属する研究者では「独立した研究室を持つ」と回答した者の割合は 74%であったが、50 歳代の公的研究機関に所属する研究者において、その割合は 40%となっている。

研究職歴から本務経験が大学のための研究者を抽出し、35 歳時点における PI の経験割合を 1950 年代生まれの世代と 1970 年代生まれの世代で比較すると、理学では 16%で横ばい、工学では 21%から 28%へ増加、医学では 8%から 5%へ減少、農学では 13%から 23%へ増加している。一方、「独



立した研究室を持つ」を除いた 4 項目を全て満たした経験割合に着目すると、1950 年代生まれの世代から 1970 年代生まれの間に、理学で 26%から 27%へ、工学で 31%から 46%へ、医学で 15%から 20%へ、農学で 22%から 32%と各分野で増加している。同一年齢時点で評価すると、総じて研究における権限はより若い世代において拡大していることが確認された。

なお、1960 年代生まれの世代から 1970 年代生まれの世代の間に任期付きの研究者の割合が増加しているが、同等の職階であれば任期付き研究者であっても研究における権限は任期のない研究者とほぼ同等となっている。また任期の有無と「研究者としての独立の自覚」にも明瞭な関係は見られない。総じて、任期の有無は研究環境・権限や研究者の独立の自覚と無関係であることが示唆される。

## 調査結果の概要

### (A) 自然科学系の大学組織・公的研究機関において PI に該当する研究者の割合は 36%。

(A-1) 現職本務における研究環境・権限として、「該当する」と回答した割合が高い順に「発表論文の責任者（81%）」「担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者（79%）」「特定の部下（大学院生）の指導の責任者（62%）」「研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者（58%）」「独立した研究室（42%）」である。

(A-2) 調査項目の 5 種の研究環境・権限を全て満たした場合に、本調査報告書における「PI（Principal Investigator）」と設定し、集計したところ、4,456 名のうち 1,588 名（36%）が PI であった。なお、「独立した研究室」を除いた 4 種の研究環境・権限を全て満たした研究者の割合は 46%である。

(A-3) 主体的に研究を遂行することが可能な研究者であったかを調査するために、「研究者としての独立の自覚」を尋ねたところ、4,456 名のうち 3,232 名（73%）が「研究者としての独立の自覚」を持っていた。

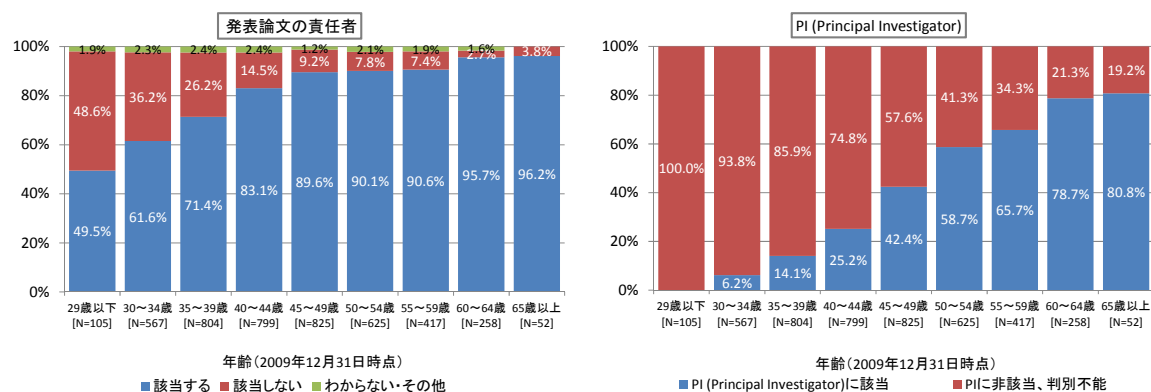
(A-4) 現職本務における任期の状態としては、「任期のない職」が 71%で最も割合が高かった。続いて、「更新・再任の可能性(上限あり)」が 13%、「更新・再任の可能性(上限なし)」が 10%、「更新・再任なしを前提」が 4%、「テニユア職への移行・昇進が前提」が 1%であった。

### (B) 30 歳代前半の研究者で「発表論文の責任者」の割合は 62%、 50 歳代前半の研究者で「PI」に該当する割合は 59%。

(B-1) 各研究環境・権限に該当する者が、過半数となる年齢層を見ると、「発表論文の責任者」および「担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者」は 30 歳代前半、「特定の部下

（大学院生）の指導の責任者」および「研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者」は 40 歳代前半、「独立した研究室」および「PI」は 50 歳代前半であった。

概要図表 1 「発表論文の責任者」および「PI」の年齢階層別割合



(B-2) 「研究者としての独立の自覚」を持つ割合が過半数となる年齢層は、30 歳代後半である。「研究者としての独立の自覚」を持つ割合は、30 歳代前半では 43%、30 歳代後半では 57%、40 歳代前半では 72%となっている。

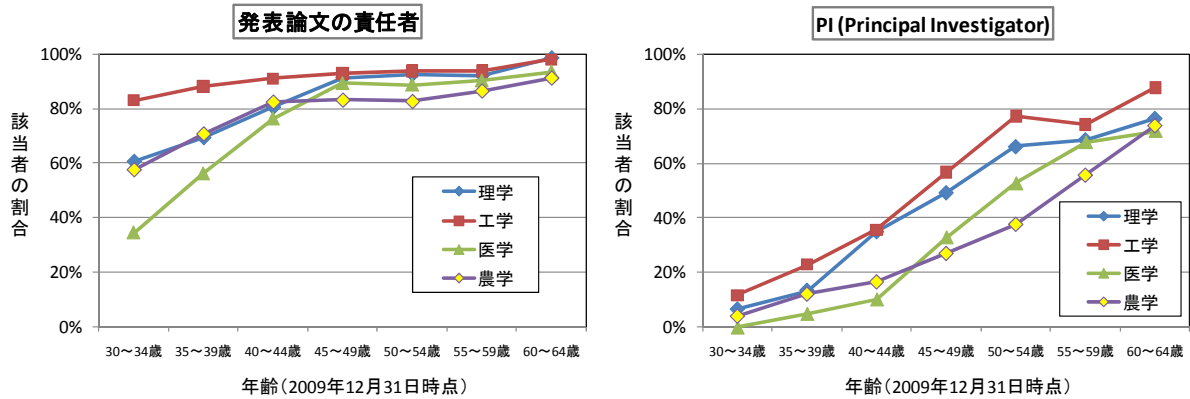
(B-3) [任期のない職] は 30 歳代後半で過半数となり 62%となっている。一方、[任期のある職] の内容は多様であり、30 歳代後半において [更新・再任の可能性(上限あり)] が 18%、[更新・再任の可能性(上限なし)] が 11%、[更新・再任なしを前提] が 6%、[テニユア職への移行・昇進が前提] が 2%となっている。

**(C) 30 歳代前半の研究者で「発表論文の責任者」の割合は工学では 83%、医学では 35%、50 歳代前半の研究者で「PI」に該当する割合は工学では 77%、医学では 53%。**

(C-1) 研究環境・権限に該当する割合を同じ年齢層で分野別に比較すると、総じて工学で高く、医学で低い傾向がある。30 歳代前半において「発表論文の責任者」となる割合は、最も高い工学が 83%である一方、最も低い医学では 35%となっている。

(C-2) 調査項目の 5 つの研究環境・権限を全て満たして「PI」となっている割合は、50 歳代前半において高い分野順に工学 (77%)、理学 (66%)、医学 (53%)、農学 (38%) となっている。

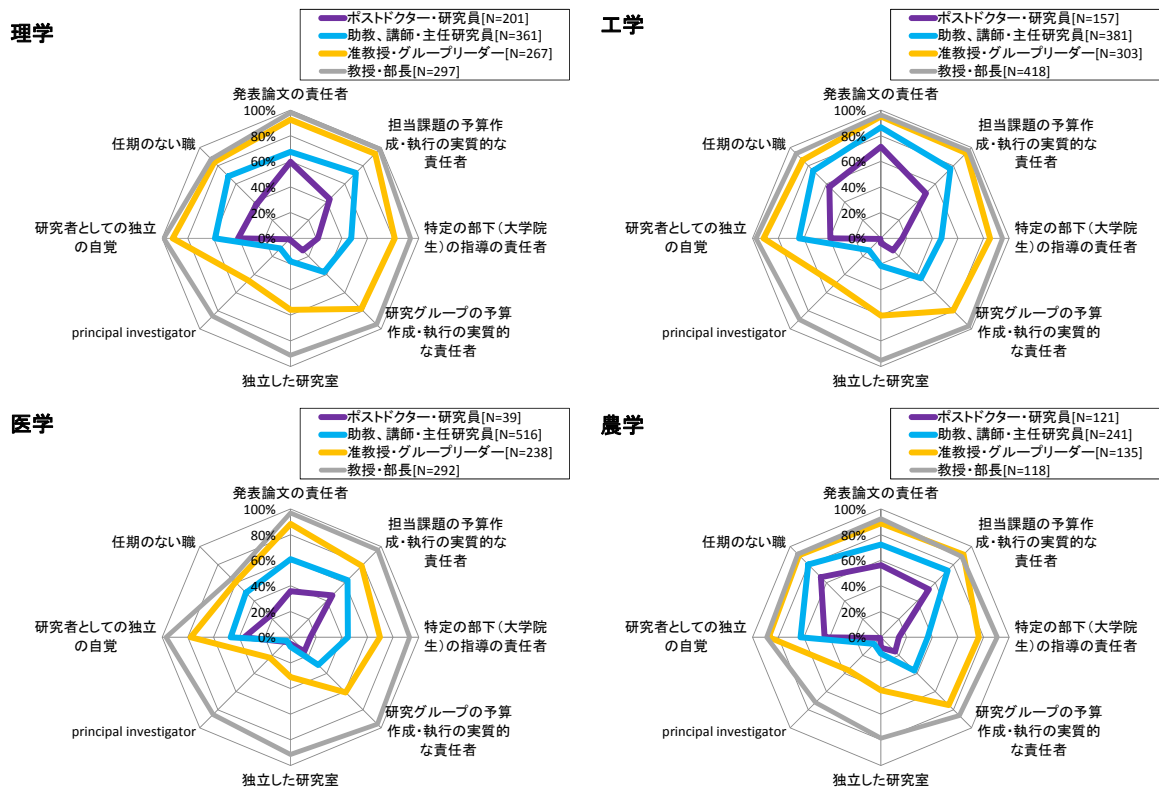
概要図表 2 「発表論文の責任者」「PI」の年齢階層・分野別割合



(C-3) 助教、講師・主任研究員クラスにおいて「研究者としての独立の自覚」を持っている者は工学で64%、農学で63%、理学で59%、医学で47%である。

(C-4) 助教、講師・主任研究員クラスにおいて、「任期のない職」に該当する者は、農学で最も高く80%となっており、次いで工学で75%、理学で68%、医学で49%となっている。また、農学分野ではポストドクター・研究員クラスにおいても「任期のない職」は66%となっている。農学分野において「任期のない職」の割合が高い理由として、大学に所属している回答者の割合が他の分野に比べて低いことが挙げられる。回答者の大学所属割合は理学で75%、工学で74%、医学で95%、農学で48%となっている。

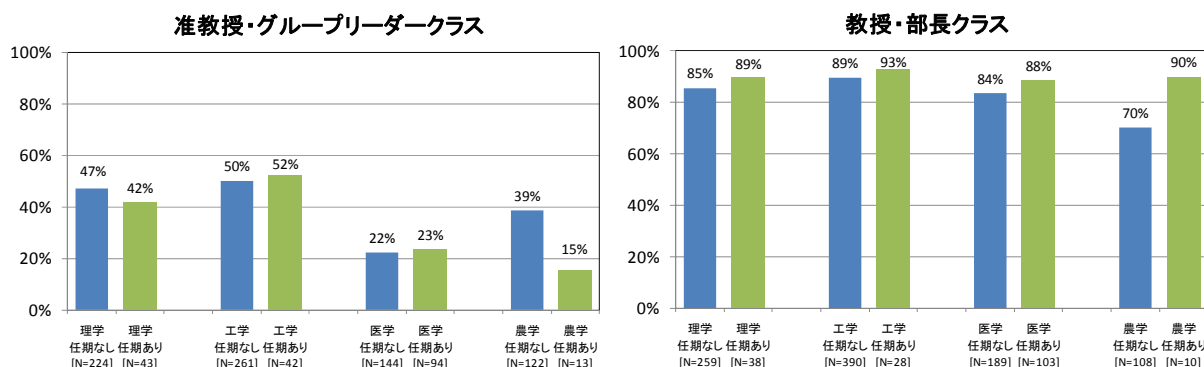
概要図表 3 研究環境・権限の職階別レーダーチャート



**(D) 研究機関の移動を経験した研究者の方が PI となっている割合が高い。**

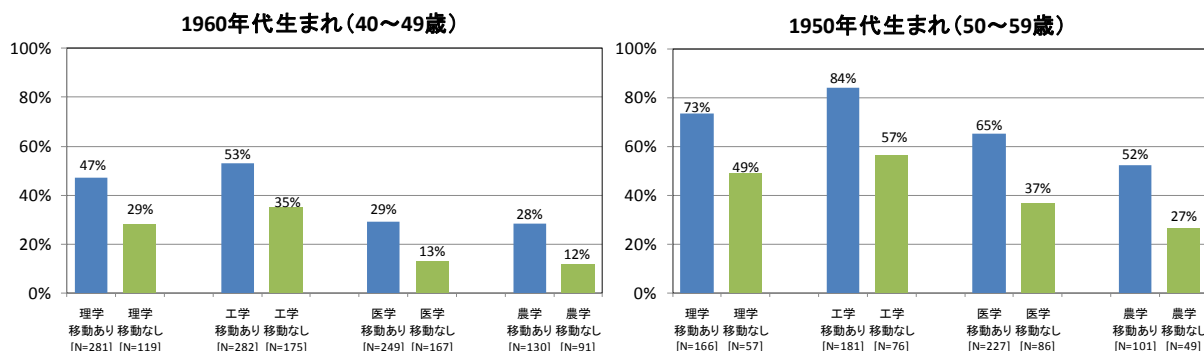
(D-1) 准教授・グループリーダークラス以上では、任期の有無にかかわらず PI の該当者割合は、ほぼ同じとなっている。准教授・グループリーダークラス以上の職階においては、任期の有無が研究環境・権限に無関係であることが示唆される。

概要図表 4 任期の有無別「PI」の該当者割合（職階別）



(D-2) 研究機関の移動経験別に PI の該当者割合を見ると、同じ年齢層でも機関の移動経験がある者の方が PI の割合が高まっている。同一年齢層で比較すると、研究機関の移動を経験した者の方が PI となっている割合が高い。

概要図表 5 研究機関の移動経験別「PI」の該当者割合（年齢階層別）

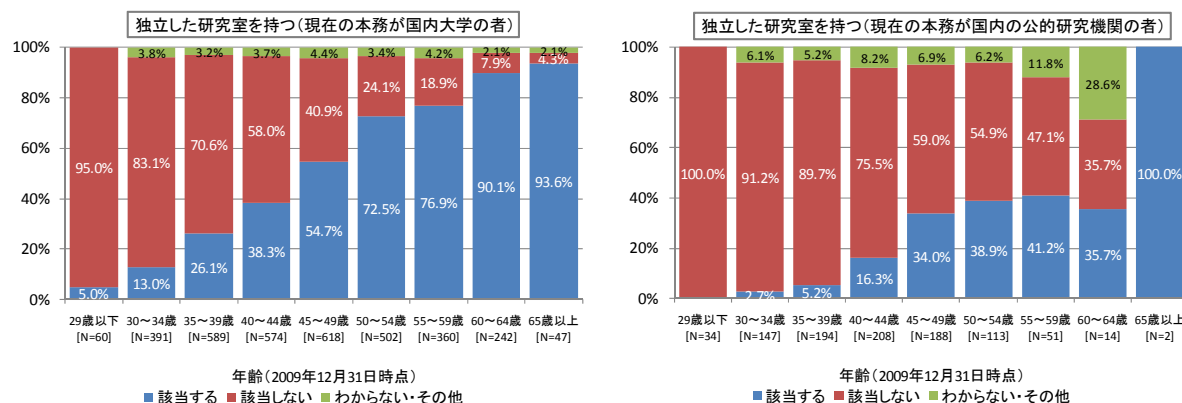


**(E) 大学においては年齢層の上昇によって、研究に関する権限を持つ割合は単調に増加。公的研究機関では年齢層の上昇によって、割合は増加した後に減少へ転じる。**

(E-1) 「担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者」となる割合を見ると、国内大学に所属する者では 40 歳代前半で 81%、40 歳代後半で 87%、50 歳代前半で 91%と年齢層の上昇に伴い単調に増加する。一方で、国内の公的研究機関（独立行政法人、国立試験研究機関、公設試験場）に所属する者は、40 歳代前半で 75%、40 歳代後半で 84%、50 歳代前半で 79%と高年齢層で低下する傾向がある。

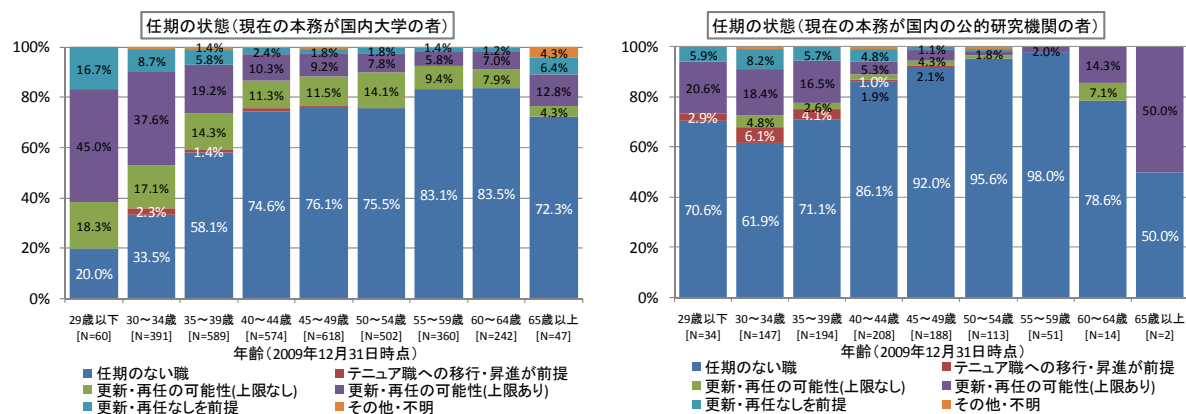
(E-2) 「独立した研究室を持つ」割合を見ると、国内大学に所属する者では年齢層の上昇に伴い単調に増加し、40 歳代前半で 38%、50 歳代前半で 73%、60 歳代前半で 90%となっている。一方、公的研究機関に所属する者では 40 歳代前半で 16%、50 歳代前半で 39%、60 歳代前半で 36%と 50 歳代で頭打ちとなり、水準としても大学に所属する者に比べて低い。

概要図表 6 機関種別「独立した研究室を持つ」の内訳（年齢階層別）



(E-3) 「任期の状態」の内訳を見ると、国内大学に所属する者では「任期のない職」が 30 歳代前半で 34%、40 歳代前半で 75%となっている。一方、公的研究機関に所属する者では、「任期のない職」が 30 歳代前半で 62%、40 歳代前半で 86%となっており、大学に所属する者に比べて「任期のない職」の割合が高い。また、大学に属する者では 40 歳代、50 歳代においても 20%以上が任期付き雇用であるが、そのうちの半数以上は「更新・再任の可能性（上限なし）」の形態となっている。

概要図表 7 機関種別「任期の状態」の内訳（年齢階層別）



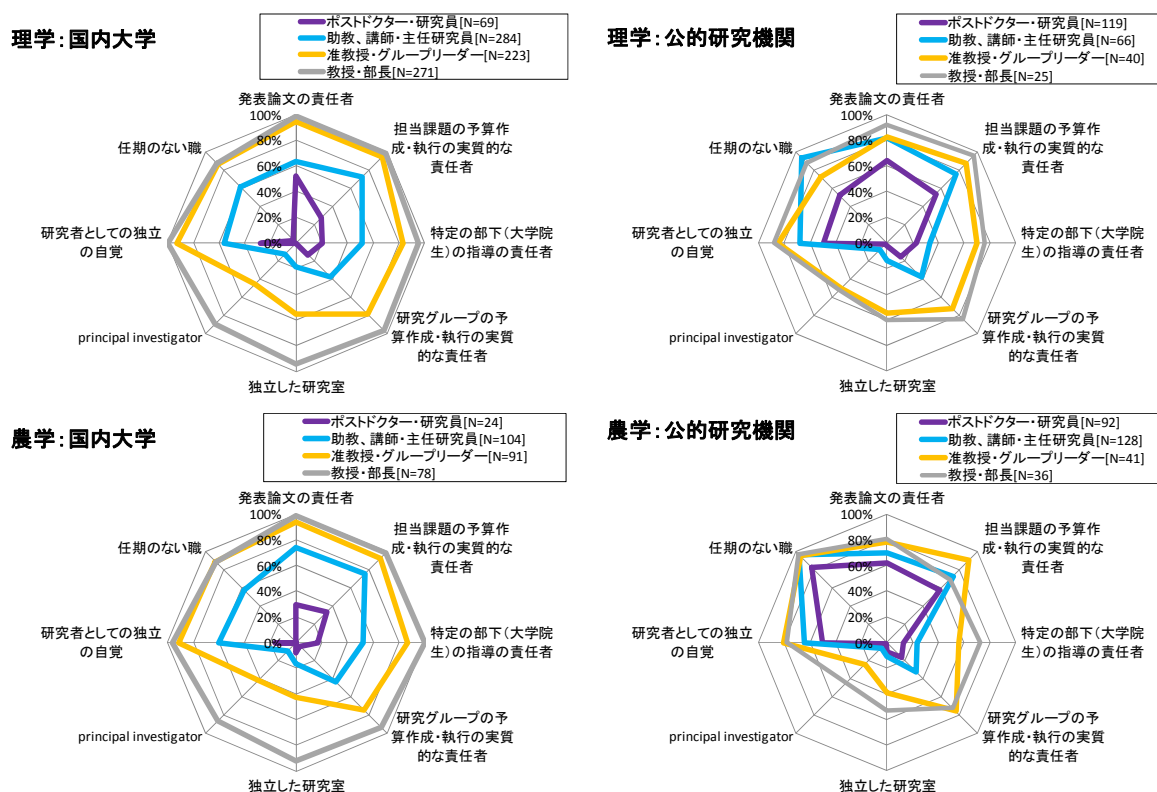
(E-4) 国内大学に所属するポストドクター・研究員クラスにおいて、「担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者」の該当者割合は、理学で 28%、工学で 11%、医学で 39%、農学で 33%となっている。一方、国内の公的研究機関に所属するポストドクター・研究員クラスにおいて、「担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者」の該当者割合は、

理学で 54%、工学で 60%、医学で 64%、農学で 58%となっている。

(E-5) 国内大学に所属するポストドクター・研究員クラスにおいて、「研究者としての独立の自覚」を持つ者の割合は理学で 28%、工学で 25%、医学で 22%、農学で 17%となっている。一方、国内の公的研究機関に所属するポストドクター・研究員クラスにおいて、「研究者としての独立の自覚」を持つ者の割合は、理学で 50%、工学で 42%、医学で 64%、農学で 50%となっている。ポストドクター・研究員クラスにおいて、公的研究機関に所属する者は、研究における権限および研究者としての独立の自覚を持つ割合が国内大学に所属する者に比べて高い。

(E-6) 国内大学に所属する研究者に限定して理学と農学を比較すると、「任期のない職」は、ポストドクター・研究員クラスで共に 5%未満、助教、講師・主任研究員クラスで共に 60%前後である。すなわち、概要図表 3 に示した農学における「任期のない職」の割合の高さは所属機関種の構成の違いが原因になっており、国内大学に属する者に限定すれば理学と同水準となる。

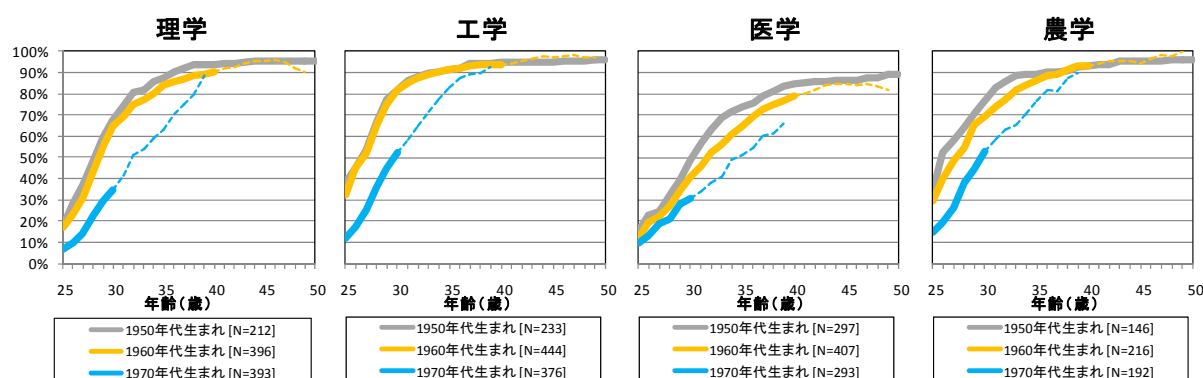
概要図表 8 機関種別の研究環境・権限の職階別レーダーチャート（理学と農学）



**(F) 同一年齢における任期のない職の経験割合を比較すると、1960 年代生まれに比べ 1970 年代生まれの研究者は、理学、工学、医学、農学の全ての分野で割合が低い。**

(F-1) 過去の研究本務職の職歴を遡って分析し、異なる世代を同じ年齢において比較する。  
30 歳時点における任期のない本務職の経験割合を 1960 年代生まれの世代と 1970 年代生まれの世代の間で比較すると、理学で 65%から 35%、工学で 82%から 52%、医学で 41%から 31%、農学で 69%から 53%と、いずれの分野でも低下している。

概要図表 9 任期のない研究本務職を経験した割合の世代間比較（全研究者）



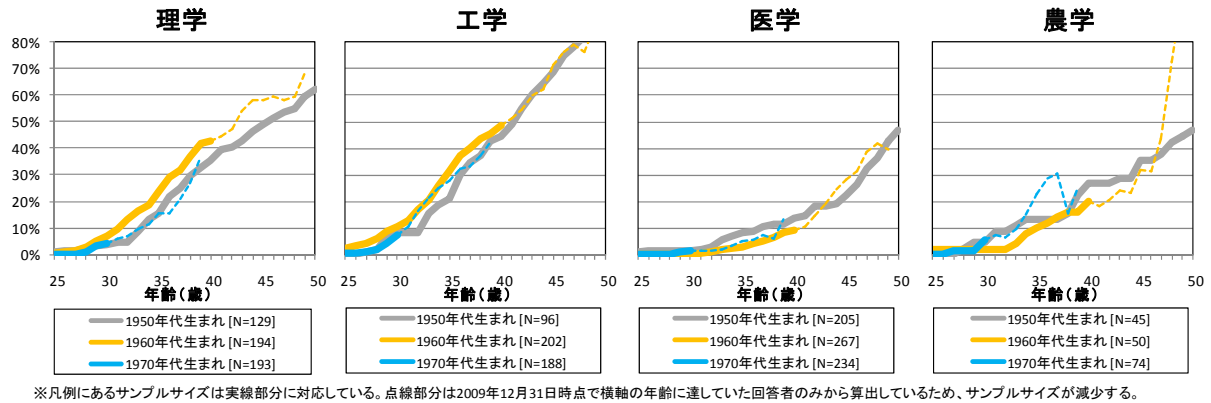
(F-2) 「研究者としての独立の自覚」を持ったことのある者の割合は、1960 年代生まれの世代から 1970 年代生まれの世代の間で、分野によって異なる動きが現れている。30 歳時点においては、理学で 42%から 31%へ低下したのに対し、工学は 41%、農学は 28%でそれぞれ横ばい、医学では 10%から 16%へ上昇している。

**(G) 35 歳時点における研究環境・研究の権限を比較すると、1950 年代に生まれの研究者に比べ、1970 年代生まれの研究者では総じて改善の傾向がある。**

(G-1) 本務経験が大学のみ研究者に限定して、35 歳時点における PI の経験割合を 1950 年代生まれの世代と 1970 年代生まれの世代で比較すると、理学は 16%のまま横ばい、工学では 21%から 28%へ増加し、医学では 8%から 5%へ減少し、農学では 13%から 23%へ増加している。医学の PI 割合は、他の分野の同年齢に比べて 1950 年代生まれの世代から低水準にあったが、世代の経過に伴い一層の低下が見られる。



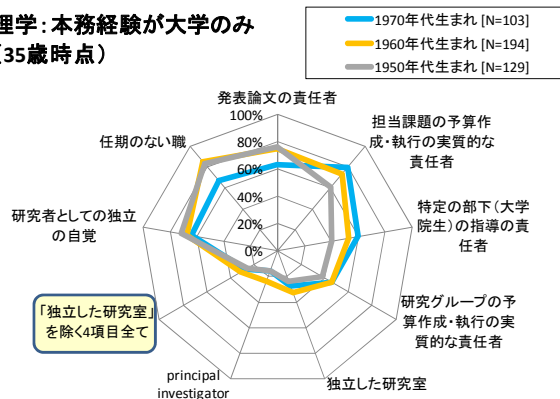
概要図表 10 PI を経験した割合の世代間比較（本務経験が大学のみの者）



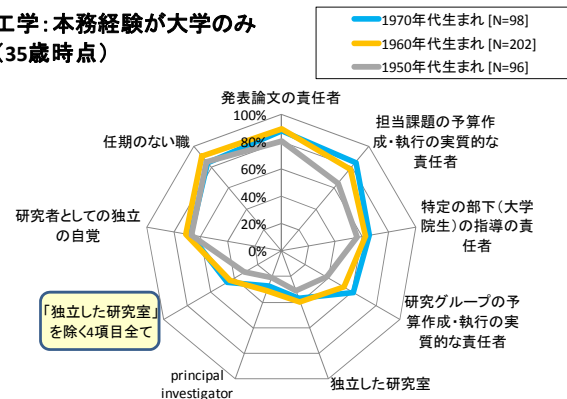
(G-2) 「独立した研究室を持つ」を除いた 4 項目を全て満たした割合に着目し、本務経験が大学のみの研究者に限定して 35 歳時点における 1950 年代生まれの世代から 1970 年代生まれの変化を見ると、理学で 26%から 27%へ、工学で 31%から 46%へ、医学で 15%から 20%へ、農学で 22%から 32%と各分野で増加している。「独立した研究室を持つ」という条件を除けば、研究環境・権限は改善の傾向が見られる。

概要図表 11 35 歳時点における研究環境、自覚、任期の有無レーダーチャート（本務経験が大学のみの者）

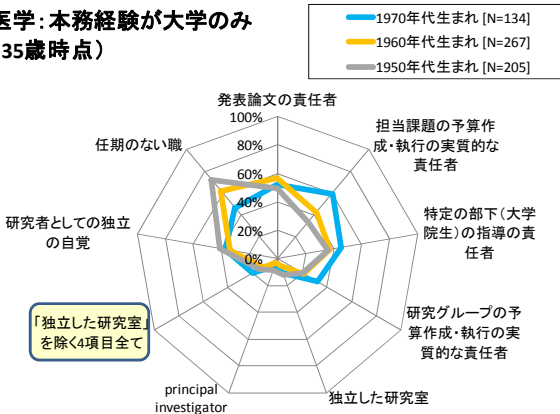
理学：本務経験が大学のみの  
(35歳時点)



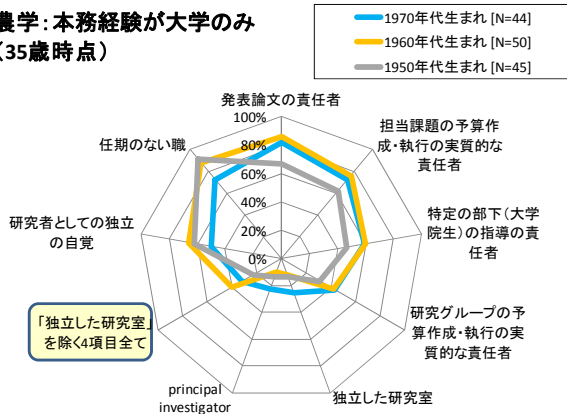
工学：本務経験が大学のみの  
(35歳時点)



医学：本務経験が大学のみの  
(35歳時点)



農学：本務経験が大学のみの  
(35歳時点)

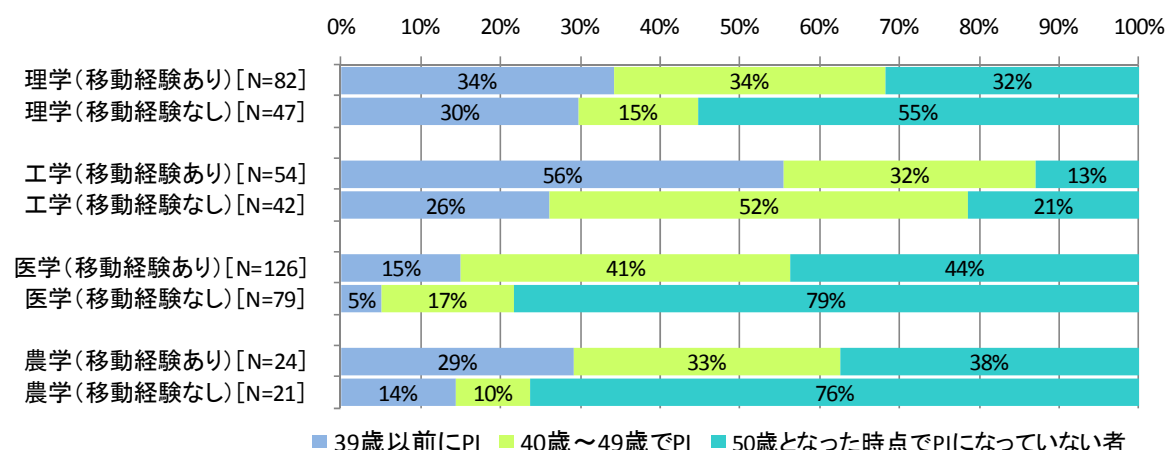




**(H) 大学間移動を経験した研究者は、より若い時点で PI となっていた割合が高い。**

(H-1) 1950 年代生まれの本務経験が大学のみを抽出し、大学間移動の経験別に PI になった年齢層を比較すると、移動経験を持つ者の方が早期に PI になる傾向がある。工学、医学、農学においてその差異が大きく、移動を経験した者が 39 歳以前に PI となる割合は移動を経験しない者に比べて 2 倍以上となっている。

概要図表 12 大学間の移動経験別の PI 経験年齢（本務経験が大学のみ 1950 年代生まれの者）



(H-2) PI となった年齢層別に査読付きの英語論文数を比較すると、若い時期に PI となった者の方が英語論文の本数が多い傾向がある。特に医学ではその傾向が顕著で、40 歳代に PI になった者の過去 3 年間の英語論文数の平均が 14.6 本であるのに対し、39 歳以前に PI になった者の過去 3 年間の英語論文数の平均は 23.6 本となっている。



# 第1章 調査の背景と本報告書の位置づけ

## 1.1 初めに

我が国における科学技術の将来は、その担い手である科学技術人材の研究活動にかかっている。1990年代からの大学院重点化・ポストドクター等一万人支援計画によって、博士課程修了者が拡大するとともに任期付きの研究職に就くことが一つの雇用形態として定着した。その一方で、ポストドクター後のキャリアパスが不透明であるという指摘もなされている。

科学技術・学術審議会 人材委員会では、平成21年8月に「知識基盤社会を牽引する人材の育成と活躍の促進に向けて」<sup>1</sup>を発表し、その中で“ポストドクターの任期を満了した後、他の機関でポストドクターを累次に亘って繰り返す者が少なくなく、ポストドクター後のキャリアパスが不透明であるとの指摘があり、いわゆる「ポストドク問題」への対応を進める必要がある。”と記載されているように、任期制の導入やポストの不足などの影響もあって、若者が研究者としてのキャリアパスが見えにくい状況にある。

また、総合科学技術会議基本政策専門調査会に設置された基礎研究強化に向けた長期方策検討WGにおいて、平成22年1月に取りまとめられた報告書「基礎研究強化に向けて講ずべき長期的方策について－基礎研究を支えるシステム改革－」において下記のように記載されている。<sup>2</sup> “実際にアカデミア分野に進んだ若手研究者(研究員、助手、講師など)についても、その43%が、「将来のキャリア設計のイメージが不透明で、不安を覚えたから」研究者を辞めたいと思ったことがあると回答している。若手研究者に独立して研究できる機会を与えると同時に、どのような条件をクリアすれば研究者としての次のステージに移ることができるかという将来のキャリアパスを明確に示すことにより、若手研究者が将来への展望を持つことができるようにすることが必要。” また、基礎研究強化に向けた研究資金の改革に対する提言のひとつとして、PI (Principal investigator) 制度の導入の提言がなされているものの、“従来は研究組織の長である大学の教授や研究所の部長・室長等だけがPIと考えられていたが、近年は助教や准教授のPIも増加しており、PIの定義を明確にしていく必要がある。”とも記載されており、職名が多様化している中、研究における権限等についても合わせて把握していく必要がある。

このため、本報告書では、大学・公的研究機関に所属する研究者に着目し、そのキャリアパスを把握すると同時に、各職歴における研究の環境や研究における権限、任期の状況などを合わせて分析する。また、研究分野間・世代間での違いなどを考慮した上で、任期のないテニユア職を獲得する時期およびPIに相当する研究職に就く年齢等について考察する。

---

<sup>1</sup> [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu10/toushin/attach/1287784.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu10/toushin/attach/1287784.htm)

<sup>2</sup> <http://www8.cao.go.jp/cstp/project/kiso/index.html>

## 1.2 研究者のキャリアパスに関する調査分析：本報告書の位置づけ

我が国の研究者のキャリアパスに関する研究は、研究機関の移動に着目することから始まった。研究機関の移動に関する分析は新堀（1965）による日米英仏独の人名録から大学教授を無作為抽出した国際比較にまで遡る。<sup>3</sup> その後、大学教員の流動性に関する研究は山野井（1990）によってとりまとめられ、全国大学職員録等を用いた悉皆調査を初めとして様々な流動性の研究が行われた。<sup>4</sup> さらには、米国のカーネギー教育振興財団によって実施された大学教授職国際調査に関する調査結果が、有本編（1996）にて分析された。<sup>5</sup> そのいずれにおいても、我が国における大学教員の流動性は国際的に見て低水準であった。

我が国における大学教員等の流動性が低水準にあることが一因となって、日本政府は研究者の流動性向上を推進するようになった。1996 年の科学技術基本計画から 2006 年の第三期科学技術基本計画に至るまで、「人材の流動性の向上」は、重要視されており、ポストドクターを含む任期制研究者制度の浸透を促すようになった。同時にその効果を検証するために文部科学省 科学技術・学術政策局（2005）、科学技術政策研究所・三菱総合研究所（2005）科学技術政策研究所（2009a）、治部・近藤（2007）、中務・治部・角田（2009）を初めとする流動性に関する調査・分析が実施された。その結果として、我が国の研究者の流動性が増加傾向となっていることが確認された。<sup>6</sup>

研究者の流動性向上の政策から最も強い影響を受ける博士課程修了者やポストドクターに関しては集中的な調査が行われた。科学技術政策研究所（2009b）では、2008 年に 2002 年度～2006 年度の博士課程修了者の悉皆調査を行い、修了直後および調査時点の所属や職業を尋ね、博士課程修了後の流動を分析している。<sup>7</sup> さらに、博士課程修了後の一就業形態として確立したポストドクターに関して袈岩・三須・角田（2008）、三須・袈岩・角田（2008）ではポストドクターの博士号取得機関や他機関でのポストドクター経験やキャリアに関する意識を調査している。<sup>8</sup>

---

<sup>3</sup> 新堀（1965）によれば、米英仏独の大学教授の平均勤務校数は 2.5～3.0 であったが、日本の平均勤務校数は 1.5 であった。ただし、カミングス（1972）においては“日本ではエリート学者の経歴は一般の学者の経歴よりも変化に乏しい。ところが西欧ではこの逆である。”として、人名録による調査結果が国によって異なる偏りを持つことを示唆している。またカミングス（1972）では、1967 年に日本の大学教員全体に対して層化無作為抽出によって行った調査において、有効回答 805 人の平均勤務校数は 1.64 であったとしている。

<sup>4</sup> 山野井（1990）によれば、1978 年と 1979 年の大学職員録を用いて教員データを分析したところ、現役の教員として大学間を移動した者は 89,782 人のうち 1,406 人（1.57%）であった。

<sup>5</sup> 有本編（1996）では日本の大学教員の移動割合が国際的に見て低水準であること、20 歳代から 50 歳代で高等教育機関の移動経験数に変化がないことを示し、“早期に就職した機関からじっと動かず、六〇歳を過ぎて、やっと他へ移動することを意味している。任期制がなく、終身在職権が若い時期に確保でき、終身雇用制に保護されるシステムの構造がこのような数字に具現しているものと観察できよう”と論じている。

<sup>6</sup> 文部科学省 科学技術・学術政策局（2005）および中務・治部・角田（2009）においては、科学技術研究調査報告（総務省統計局）をもとに、セクター別の研究者の割合を算出し、民間企業 1,000 名、大学等 600 名、公的研究機関等 300 名、その他の機関 100 名として層化無作為抽出で標本を選定している。一方で治部・近藤（2007）は民間企業に所属する研究者の登録が極めて少ない JST Read を用いて分析している。科学技術政策研究所（2005）においては民間企業に所属する研究者を調査対象に含めているが、科学技術政策研究所（2009a）においては民間企業に所属する研究者は調査対象外となっている。これらの調査結果の比較には、大学に所属する研究者に限定するなど  
の注意が必要である。

<sup>7</sup> 科学技術政策研究所（2009b）によれば、2002 年～2006 年度の満期退学含む博士課程修了者 75,197 人（うち修了直後の所属が判明した者 53,335 人）のうち、修了した博士課程と同一の大学に所属している者は 12,799 人となっている。

<sup>8</sup> 袈岩・三須・角田（2008）では、2007 年の調査時点で在籍している機関以外でのポストドクター等としての経験を尋ねており、有効回答 1,035 人のうち経験のない者が 65.2%、国内の他機関で経験がある者が 30.0%、海外の機関で経験がある者が 9.4%となっている。

研究者の流動性に関連する調査研究が進展する中で、分析のテーマは広がっている。流動化政策の根拠となっている流動化による研究環境の活性化や研究能力の向上を定量的に確認するための調査研究も行われている。小林・塚原・山田（1986）、科学技術政策研究所（2009a）では研究者の研究機関の移動と論文の生産性の関係に焦点を当てている。<sup>9</sup> また、近年においては研究者の国際移動に焦点を当てる調査研究が増加している。村上（2010）では日本の機関に在籍する外国人研究者およびアメリカの機関に在籍する日本人研究者を分析している。<sup>10</sup> 海外においても研究者の流動や国際流動性への関心は高く、Freeman 編（2009）では、国際化しているアメリカの博士課程の分析等が収められている。<sup>11</sup> 加えて、OECD（2008）・門田訳（2009）では、各国の研究者の流動データや政策をとりまとめ、Auriol（2010）では Careers of Doctorate Holders 調査の結果から博士号取得者の国際流動性の高さを論じている。

以上のように、研究者の流動性に関する多様な調査分析が行われている。しかし、その一方で、研究機関を移動しないこと、つまりは同一研究機関内の内部昇格や雇用形態の変更に関する調査研究は数少ない。1988 年から 2008 年までの全国大学職員録を用いて国立大学の教授へのキャリアパスを分析した細坪（2010）によれば、2006 年から 2008 年の間に同一国立大学の准教授以下の職階から教授に昇格した者は 1223 名（76.5%）だが、大学を移動して教授に就任した者は 376 名（23.5%）となっており、機関移動を伴って教授に就任した者は 4 分の 1 に満たない。<sup>12</sup> 近年においても、国立大学における教授就任は内部昇格が大勢を占めている。研究機関の移動にのみ着目すれば、大勢を占める研究機関内の内部昇格やその実態を見落とす懸念がある。

このため、本報告書では研究者が移動する場合のみならず、移動しない場合つまりは同一機関内での内部昇格や雇用形態の変更を明示的に取り扱う。本調査では、科学技術政策研究所（2009a）の調査対象者に対して、内部昇格を明示的に尋ねる追加調査を実施した。加えて、これまで定量的な調査がされてこなかった研究環境や研究における権限に関する大規模調査を行った。本報告書では、内部昇格を包含する形で研究者の独立の過程および研究環境の変遷を定量的に分析する。

---

<sup>9</sup> 小林・塚原・山田（1986）においては、1983 年の郵送アンケート調査結果から最終学歴の教育機関と調査時点で勤務している大学の間での大学間移動と過去 5 年間の研究成果の関係を分析し、負の相関が得られている。一方、科学技術政策研究所（2009a）においては、2008 年のウェブアンケート調査から最終学歴取得後初めて勤務した研究機関と現職の研究機関までの移動の有無と過去 3 年間の研究成果の関係を分析し、正の相関が得られている。両者の間で移動の定義が異なっているが、研究者の機関移動に関する動向や研究生産性との関係が二時点の間に大きく変化した可能性がある。

<sup>10</sup> 村上（2010）では、2004 年に実施した日本の機関に在籍する外国人研究者への調査および 2005 年から 2006 年にかけて実施したアメリカの機関に在籍する日本人研究者への調査から、海外機関での研究の動機、満足度、帰国の予定に関して分析をしている。

<sup>11</sup> 第 2 章の Internationalization of U.S. Doctorate Education においては、アメリカにおける博士号取得者の悉皆調査となっている Survey of Earned Doctorates のデータを用いて経済学や工学分野で外国人の博士号取得者がアメリカ人を上回っていること、中国人の博士号取得者が急増していること等を示している。

<sup>12</sup> 細坪（2010）に記載されている国立大学における教授就任数は移動前の大学において教授であった者も含まれている。細坪氏の厚意により別途、集計して頂いたところ、他の国立大学で准教授以下の職階であった者が移動を伴って国立大学の教授に昇格した例は 2006 年～2008 年で 215 人であった。国立大学にて教授に昇格した者 1,438 人のうち機関の移動を伴うケースの割合は 15%に過ぎない。

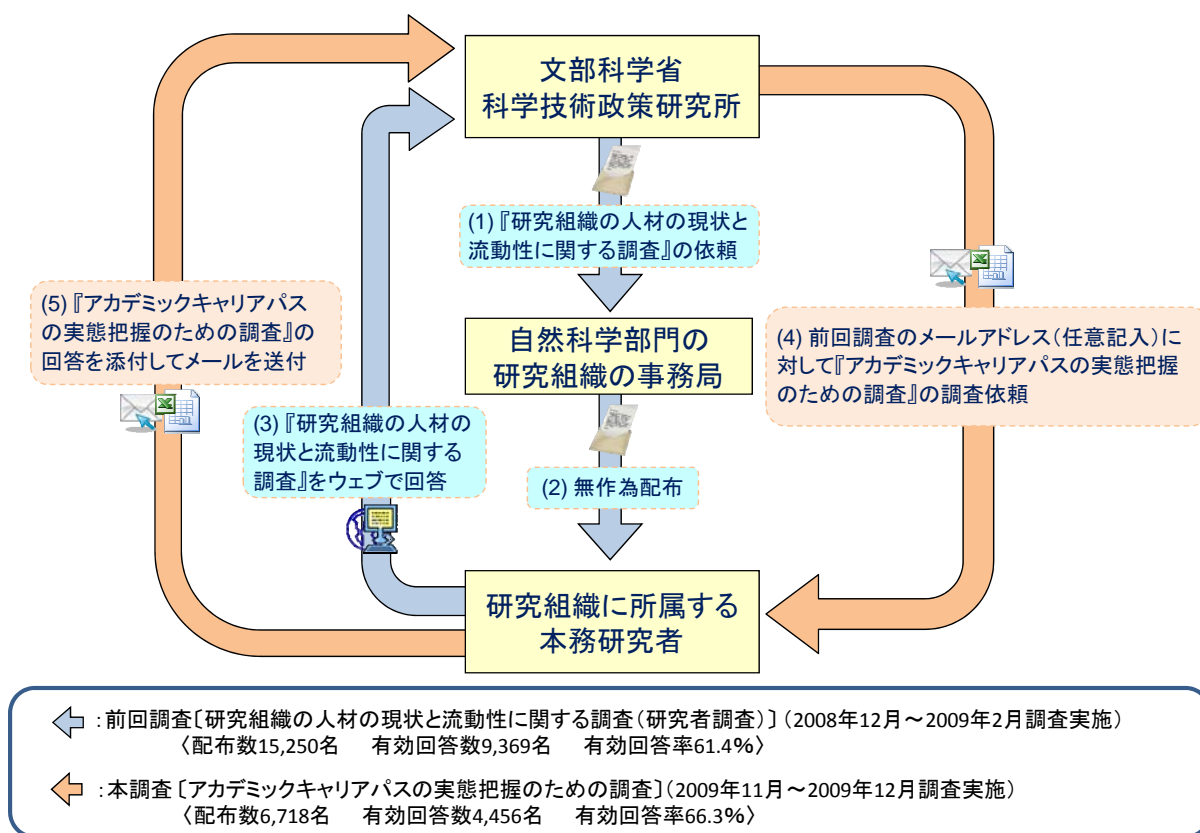
## 第2章 調査概要〔アカデミックキャリアパスの実態把握のための調査〕

### 2.1 調査方法および前回調査との関係

本調査は、[科学技術人材に関する調査（NISTEP Report No.123）]の一環として行った〔研究組織の人材の現状と流動性に関する調査（研究者調査）〕の回答者に再調査を依頼する形で実施した。この調査では、研究者の移動を伴う職歴の変化のみを尋ねており、同一機関内での昇格等の職階変化については調査していなかった。このため、新たに〔アカデミックキャリアパスの実態把握のための調査〕として、機関内での内部昇格を含めたキャリアパスや各職歴における研究環境・研究における権限について調査を行った。以下では〔研究組織の人材の現状と流動性に関する調査（研究者調査）〕を前回調査と表記し、〔アカデミックキャリアパスの実態把握のための調査〕を本調査と表記する。

調査方法として前回調査の調査項目であったメールアドレス（任意記入）に対して本調査の【参考資料3：調査票】を送付する形をとった。調査票は Microsoft Excel 形式とし、あらかじめ回答者毎に前回調査の回答を科学技術政策研究所にて記入することで、回答負担を軽減した。回答者には調査票への追記をした後に調査用メールアドレスへの返送を依頼した。

図表 2-1 本調査〔アカデミックキャリアパスの実態把握のための調査〕の流れ



## 2.2 前回調査の概要

本調査：「アカデミックキャリアパスの実態把握のための調査」は、前回調査：「研究組織の人材の現状と流動性に関する調査（研究者調査）」に記載されたメールアドレスに対して調査票を送付する形で実施している。このため、本節では、土台となった前回調査の概要を示す。なお、前回調査の詳細に関しては「科学技術人材に関する調査（NISTEP Report No.123）」を参照されたい。

前回調査では、全国試験研究機関名鑑（丸善〔出版〕、文部科学省 科学技術・学術政策局〔監修〕）等の公表資料をもとに日本国内における自然科学部門の研究組織（融合分野含む）を選出し、研究組織に所属する研究本務者に対して調査票を配布した。国内の自然科学系の研究を行う研究機関として、下記４種類の機関種を対象とした。

- (1) 自然科学部門の国公立大学（237 機関）および大学共同利用機関（11 機関）の 674 研究組織（博士課程を有する研究科、附置研究所）
- (2) 独立行政法人・国立試験研究機関 50 機関の 186 組織（領域、センターなど）
- (3) 公設試験場 355 組織
- (4) 財団法人・社団法人 169 組織

前回調査において、各組織に所属するポストドクター以上の研究本務者の 12%を目処として配布数を決定し、研究組織の事務局に無作為抽出での配布を依頼した。前回調査の回収率は下記の通りとなっている。

図表 2-2 前回調査「研究組織の人材の現状と流動性に関する調査」の回収率

	配布研究組織数	研究者調査の 配布数	有効回答数	回収率
<b>全機関種</b>	<b>1,384</b>	<b>15,250</b>	<b>9,369</b>	<b>61.4%</b>
<b>大学</b>	<b>674</b>	<b>11,163</b>	<b>7,179</b>	<b>64.3%</b>
国立大学	292	5,420	3,604	66.5%
公立大学	63	736	493	67.0%
私立大学	308	4,854	2,980	61.4%
大学共同利用機関	11	153	102	66.7%
<b>独法・国研</b>	<b>186</b>	<b>1,687</b>	<b>1,091</b>	<b>64.7%</b>
独立行政法人	160	1,331	922	69.3%
国立試験研究機関	26	356	169	47.5%
<b>公設試験場</b>	<b>355</b>	<b>1,540</b>	<b>882</b>	<b>57.3%</b>
<b>財団法人・社団法人</b>	<b>169</b>	<b>860</b>	<b>217</b>	<b>25.2%</b>

## 2.3 本調査の調査票、調査項目について

本調査では、【参考資料 3：調査票】を回答者に送付することで、同一機関内の内部昇格等を含めた職歴の変化を調査した。本調査における職歴の変化の定義は下記の(A)～(E)のいずれかに該当する場合である。

- (A) 常勤の研究者として所属機関を移動した場合（前回調査における機関の移動と同一）
- (B) 同一組織内で昇格、昇進などによって職名が変化した場合
- (C) 同じ職名であったとしても任期付きから任期なし、またはその逆に雇用形態が変化した場合
- (D) 任期の形態が変更された場合
- (E) 在籍機関は同一であっても、1年以上の出向や派遣として別機関に常勤した場合

前回調査では研究者の流動性に着目していたため、主として研究機関の移動を伴う(A)を調査した。本調査では(A)に関する回答確認および修正に加えて、(B)～(E)に関する追加回答を依頼した。なお、回答負担軽減のため、前回調査の回答から「研究キャリアの開始年」「研究キャリアの終了年」「所属機関名」「所属機関の種類」「職階クラス」「任期の有無」を可能な限り送信時の調査票 Excel ファイルに転記した。

また、本調査では研究キャリアの追加・細分化に加えて、各研究職歴における「任期のタイプ」「在籍機関からの派遣・出向またはサバティカル」「権限や自由度の範囲」「研究者としての「独立」の自覚」を尋ねた。「任期のタイプ」に関しては、下記の 5 つの選択肢を設定し、任期のある職歴における実態をより詳細に尋ねた。

- 更新・再任なしを前提
- 更新・再任の可能性（回数や年数に上限あり）
- 更新・再任の可能性（回数や年数に上限なし）
- テニユア職への移行・昇進が前提その他
- その他

「在籍機関からの派遣・出向またはサバティカル」に関しては、下記の 2 つの選択肢を設定し、本籍となる機関を離れた特殊な研究キャリアを識別できるようにした。

- 出向・派遣として勤務
- サバティカル

「権限や自由度の範囲」および「研究者としての「独立」の自覚」に関しては、下記 6 つの項目について調査票に【注記】を付けて尋ねた。

### 独立した研究室を持った

【注記】「独立した研究室」とは、ご自身の名前がついた研究室、またはその名称をご自身が命名した研究室を言います。独立行政法人等の場合、ご自身の名前がついていないケースもありますが、その場合は大学の研究室相当を指すとお考えください。



### 研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者であった

【注記】ここでは、研究室内の研究グループを指します。

### 担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者であった

【注記】担当課題は、科研費等を含め、大小問いません。

### 特定の部下（大学院生）の指導の責任者であった

### 発表論文の責任者であった

【注記】実態として、発表論文の主な連絡先となったか否かです。

### 研究者として「独立した」と自覚した

【注記】ご自身の主観でお答えください。主体的に研究を遂行することが可能な研究者であったか否かです。

これらの問いに対して[○該当する][×該当しない][?わからない]の選択肢を設定し、各職歴における研究環境の実態や研究者としての独立の自覚を尋ねた。

## 2.4 本報告書におけるデータ項目の出所

本調査の「アカデミックキャリアパスの実態把握のための調査」では、最終学歴後の就職を起点とし、同一組織内での昇格を含めた各職歴に対して調査を行っている。このため、生年や学歴といった就職以前の情報に関しては前回調査である「研究組織の人材の現状と流動性に関する調査（研究者調査）」の情報を用いている。よって、本報告書で用いるデータ項目の出所は下記のように分類される。

前回調査「研究組織の人材の現状と流動性に関する調査（研究者調査）」からの項目

- 生年（各時点における年齢を導出）
- 最終学歴の大学
- 最終学歴の研究分野（本報告書で用いる分野を導出）
- 性別
- 3年間の査読付き論文の本数（前回調査時における直近3年間）

本調査「アカデミックキャリアパスの実態把握のための調査」からの項目

- 各職歴における所属機関種・所属機関名
- 各職歴における職階
- 各職歴における任期の有無と任期の状態
- 各職歴における出向・サバティカル
- 各職歴における権限や自由度の範囲（5種類）
- 各職歴における研究者としての「独立」の自覚

## 2.5 分析用データの作成方法

### 本務職歴の順番と現在の本務職の特定

本調査の回答を下記の要領で整理して、職歴の順番と現職の本務職を特定した。第一に、[出向・派遣先]や[サバティカル]における研究権限は本務職における研究権限とは別種であると考えられるため、これらの職歴を取り除いて本務職を抽出した。第二に本務職に関して下記の(1)→(4)の順で優先順位をつけ、過去から現在に至るまでの職歴の順番をつけた。順番をつけた職歴のうち最も新しいものを現職の本務職としている。

- (1) 終了年の数値がより大きい職歴を優先
- (2) 開始年の数値がより小さい職歴を優先
- (3) 任期のない職歴を優先
- (4) 調査票の記入行が下側の職歴を優先

### 最終学歴による研究分野の導出

研究分野の特定には前回調査の回答を用いている。前回調査では各課程および各研職歴における研究分野を下記の6グループ内の詳細分野から複数選択を許容して尋ねている。

**理学（自然科学）** [数学] [計算機・情報科学] [物理学] [化学] [地球科学・環境科学] [生物学]  
[その他の自然科学]

**工学** [土木・建築学] [電気工学・情報工学] [機械工学] [化学工学] [材料工学] [医用工学] [環境工学] [環境生物学] [工業生物学] [ナノテクノロジー] [その他の工学]

**医学** [基礎医学] [臨床医学] [健康科学] [健康生物工学] [その他の医科学]

**農学** [農学・林学・漁業学] [動物学・酪農学] [獣医学] [農芸化学] [その他の農業科学]

**社会科学** [心理学] [経済学] [教育学・社会学] [法学] [政治学] [社会・経済地理学・その他の社会科学]

**人文科学** [メディア・コミュニケーション科学] [歴史学・考古学] [言語学・文学] [哲学・倫理学] [芸術(芸術、芸術史、演劇、音楽)] [その他の人文科学]

本報告書で用いる研究分野を特定するために、博士課程、修士課程、学士課程の順に遡って、研究分野の記入がある最も高い学歴を特定する。特定した学歴において、**理学（自然科学）** **工学** **医学** **農学**、**社会科学** **人文科学**の6つのグループ内で最も詳細分野の回答数が多かったグループを各回答者の大分野とする。特定した学歴において、詳細分

野の回答数が最も多い大分野が複数あった場合は**複合分野**とする。なお、本報告書においては、特に断らない限り「分野」は、理学、工学等の大分野を指している。

なお、本報告書の【参考資料 2：参考図表・詳細分野】では理学、工学等の大分野に加えて、[化学] [生物学]といった詳細分野を事例として紹介している。詳細分野の決定の手順は下記の通りである。特定した学歴において、研究分野として回答した項目が 1 つであった場合は当該分野をその回答者の詳細分野とする。なお特定した学歴において、研究分野として 2 つ以上を回答していた場合は、詳細分野は未決となる。

#### 回答のエラー修正と有効回答の分類

本調査において下記のエラーチェックを行い、下記のケースは回答者に修正を依頼した。

- [A] 開始年もしくは終了年が空白になっているケース
- [B] 任期ありの研究キャリアで任期のタイプが未記入となっているケース
- [C] 研究における権限や自由度の範囲、独立の自覚に記入漏れがあるケース
- [D] 研究キャリアの全てが[部長、室長、教授クラス]のケース

回答者によるエラー修正を経た後、当方にて回答者の意図が明らかなエラーを修正した。また、全ての職階が出向・派遣である者、研究補助職のみである回答を有効回答から除外した。

本報告書においては、第 4 章の「現在の研究職における研究環境・権限の状況」、第 5 章に「研究職歴を遡った研究環境・権限の分析」、第 6 章に「PI 経験年齢別グループによる比較分析」を示している。現職に関する回答項目のみを用いた「現在の研究職における研究環境・権限の状況」には有効回答であるものの、研究職歴を遡る分析である「過去の研究職歴を遡った研究環境・権限の分析」および「PI 経験年齢別グループによる比較分析」には無効回答となる場合があり、下記の区分で整理をした

- (a) 職名に「教授・助教授」といった形式で複数のクラスの書いてある場合  
⇒現在の分析には高位の職階を採用し、研究職歴を遡る分析からは除外した。
- (b) 権限や自由度の範囲が無記入となっている職歴が 5 割を超える場合  
⇒現在の分析にのみ使用し、研究職歴を遡る分析からは除外した。
- (c) 研究キャリアの全てが[部長、室長、教授クラス]の場合  
⇒現在の分析にのみ使用し、研究職歴を遡る分析からは除外した。

## 2.6 配布数と回収数の状況

本調査ではEメールにて6,718名の研究者に対して調査票を発送し、4,456名の回答者から有効回答を得ることができ、回収率は66.3%であった。図表2-3が示すように、前回調査の所属先別の回収率では独立行政法人の研究者の回収率が74.2%と最も高く、私立大学の研究者の回収率が61.5%と最も低かった。

図表 2-3 配布数と回答数（前回調査における機関種別）

配布・回答の指標 前回調査時の機関種	前回調査の 回答数	前回調査で送付可能な E-mailの記入がある回答数 (本調査の配布数)	本調査の有効回答数 (現在の本務キャリアが 分析可能な回答数)	本調査の 有効回答率	有効回答のうち 過去のキャリアを遡る 分析が可能な回答数
国立大学	3,604	2,604	1,756	67.4%	1,716
公立大学	493	369	247	66.9%	240
私立大学	2,980	2,174	1,336	61.5%	1,270
大学共同利用機関	102	85	56	65.9%	53
独立行政法人	922	632	469	74.2%	453
国立試験研究機関	169	113	81	71.7%	77
地方公設試験場	882	582	402	69.1%	393
財団法人・社団法人	217	159	109	68.6%	103
機関種合計	9,369	6,718	4,456	66.3%	4,305

図表2-4では、最終学歴の研究分野別に回収状況を表している。理学、工学、農学においては、70%以上の有効回答率が得られているものの医学分野は59%であり、やや低くなっている。

図表 2-4 配布数と回答数（最終学歴の分野別）

配布・回答の指標 最終学歴の 主な研究分野	前回調査の 回答数	前回調査で送付可能な E-mailの記入がある回答数 (本調査の配布数)	本調査の有効回答数 (現在の本務キャリアが 分析可能な回答数)	本調査の 有効回答率	有効回答のうち 過去のキャリアを遡る 分析が可能な回答数
理学	2,120	1,602	1,126	70.3%	1,101
工学	2,378	1,787	1,259	70.5%	1,204
医学	2,572	1,835	1,085	59.1%	1,055
農学	1,239	863	615	71.3%	595
人文・社会科学	227	161	96	59.6%	87
複合分野(大分野間で同数選択)	259	189	136	72.0%	133
課程学位の分野情報欠測	574	281	139	49.5%	130
分野合計	9,369	6,718	4,456	66.3%	4,305

## 第3章 回答者の属性と公的統計との比較

### 3.1 現在の本務における機関種別の所属割合

本調査は、2008年に自然科学部門の研究組織に属していた回答者のうちメールアドレスを記載している者に対して調査票を配布している。本章では、本調査の回答者の属性を記述するとともに、他の公的統計と比較することで本調査の回答の妥当性を確認する。

図表 3-1 は本調査の有効回答を現在の本務の機関種および最終学歴の分野別に整理している。前章にて示したように、前回調査では自然科学部門の研究組織を選出して調査票の配布依頼を行った。自然科学部門の研究組織内においても、最終学歴の分野が人文・社会科学である回答者が小数ながら存在する。本報告書において、分野横断で結果を示す場合は、人文・社会科学および分野情報が欠測している者も含め、前回調査時に自然科学部門の研究組織に属していた者を集計対象としている。

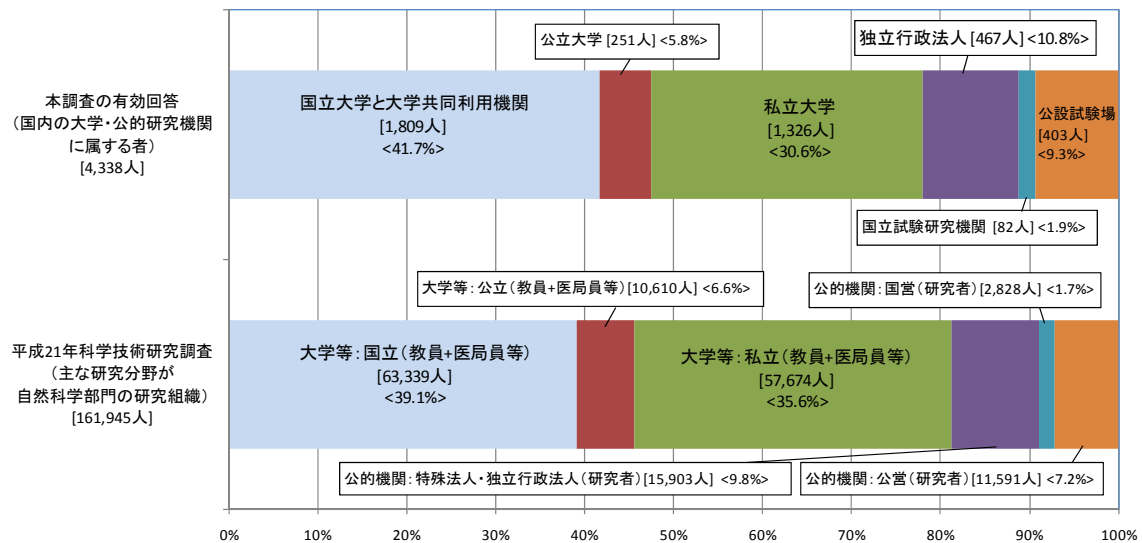
図表 3-1 現在の本務の機関種と最終学歴の分野

		自然科学部門の研究者										
最終学歴の分野		理学	工学	医学	農学	人文・社会科学	複合分野 (大分野間で同数選択)	分野情報欠測	自然科学部門の合計	分野合計	機関種の所属割合	
国内大学	現在の本務の機関種											
	国立大学	512	515	429	173	39	49	38	1,629	1,755	39.4%	
	公立大学	48	72	83	16	14	10	8	219	251	5.6%	
	私立大学	255	336	509	107	30	40	49	1,207	1,326	29.8%	
	大学共同利用機関	32	10	6	1	1	2	2	49	54	1.2%	
公的研究機関	海外大学	1							1	1	0.0%	
	大学以外の国内教育機関	1	2	1					4	4	0.1%	
	独立行政法人	166	152	14	110	3	11	11	442	467	10.5%	
	国立試験研究機関	18	36	19	3	1	3	2	76	82	1.8%	
	公設試験場	66	96	14	184	4	14	25	360	403	9.0%	
	財団法人・社団法人	25	37	10	18	4	7	4	90	105	2.4%	
	民間企業	1	2		1				4	4	0.1%	
	官庁・公的機関	1	1		2				4	4	0.1%	
	国内大学・公的研究機関の合計	1,097	1,217	1,074	594	92	129	135	3,982	4,338	97.4%	
	機関種合計	1,128	1,259	1,085	615	96	136	139	4,085	4,456	100.0%	
大学に所属する回答者の割合		75.2%	74.1%	94.7%	48.3%	87.5%	74.3%	69.8%	76.0%	76.0%		

本調査の自然科学部門の研究組織と比較可能な公表統計として、科学技術研究調査（総務省）が挙げられる。科学技術研究調査では、主な研究分野を研究組織単位で特定し、研究本務者の人数等を調査している。大学においては、研究本務者は教員、博士課程在籍者、医局員等と区別される。本調査において博士課程在籍者は調査対象外であるため、科学技術研究調査における自然科学部門の研究組織に在籍する博士課程在籍者を除いた研究本務者と比較したグラフが図表 3-2 である。

図表 3-2 によると、本調査の機関種別の回答割合は科学技術研究調査と概ね同じ割合となっている。厳密には、本調査の有効回答は科学技術研究調査に比べ、公立大学、私立大学に属する研究者の割合が低く、他の機関種に属する者が高くなっている。これは前回調査において、配布対象となった大学の研究組織は「博士課程を有する研究科および附置研究所」としたことにより起因していると考えられる。公立大学、私立大学では、博士課程を有しない研究科の割合が高く、本調査における回答割合が減少していると推察される。

図表 3-2 自然科学部門の研究組織に属する研究者数の比較



## 3.2 機関種別の職階割合

本報告書では自然科学部門内の各分野のキャリアパスや研究環境の相違に焦点を当てるため、自然科学部門の研究者は個人単位で理学、工学、医学、農学と区分して分析を行う。科学技術研究調査においては、研究本務者全体から博士課程在籍者を区分できる形で研究分野を調査していないため、国内大学に属する教員と比較可能な学校教員統計（文部科学省）を用いる。<sup>13</sup> 図表 3-3 は、本調査の回答者の現職（本務）では機関種とクラスを表している。本調査においてはポストドクター等以上の職階を調査対象としているため、ポストドクター・研究員クラスを除外して国内大学における教員を学校教員統計と比較する。

図表 3-3 現在の本務の機関種と職階

		国内大学における教員				クラス計	教員の割合
現在の本務の職階		教授・部長クラス	准教授・グループリーダークラス	助教、講師・主任研究員クラス	ポストドクター・研究員クラス		
国内大学	現在の本務の機関種						
	国立大学	489	478	661	127	1,755	92.8%
	公立大学	79	68	99	5	251	98.0%
	私立大学	501	326	478	21	1,326	98.4%
	大学共同利用機関	20	17	17	0	54	100.0%
公的研究機関	海外大学	0	0	0	1	1	
	大学以外の国内教育機関	1	0	2	1	4	
	独立行政法人	43	83	161	180	467	
	国立試験研究機関	34	0	17	31	82	
	公設試験場	38	52	160	153	403	
	財団法人・社団法人	11	9	47	38	105	
	民間企業	1	0	1	2	4	
	官庁・公的研究機関	0	1	3	0	4	
	国内大学・公的研究機関の合計	1,204	1,024	1,593	517	4,338	
	機関種合計	1,217	1,034	1,646	559	4,456	

<sup>13</sup> 学校教員統計調査では平成 16 年度以降、大学共同利用機関に対する調査を実施していない。このため、本章において学校教員統計と比較する場合は、大学共同利用機関は除外されている。一方、次章以降における「国内大学」は大学共同利用機関が含まれている。

### 3.3 大学教員の大学種別分野割合

図表 3-4 は、国内の大学に属する教員の大学種・分野の割合を平成 19 年度学校教員統計と比較する形で示している。大学種から見ると、本調査結果の方が国立大学の割合が高く、私立大学の割合が低くなっている。一方、分野から見ると、本調査の方が医学（保健）分野において割合が低く他の分野で高くなっている。学校教員統計においては理学、工学、農学の教員数の和よりも保健分野の教員数が多くなっており、看護系など実務者養成を重視している組織の教員が多数計上されていると考えられる。本調査は「博士課程を有する研究科および附置研究所」を対象とした前回調査を基にしているため、学校教員統計とは機関種や分野の割合が異なっている。

図表 3-4 教員の大学種・分野割合の比較（左：本調査結果 右：学校教員統計）

分野 大学種	理学	工学	医学	農学	自然科学 部門計	自然科学 部門計の 大学種割合
国立大学	451 (15.5%)	491 (16.9%)	413 (14.2%)	155 (5.3%)	1,510	51.9%
公立大学	46 (1.6%)	72 (2.5%)	80 (2.7%)	16 (0.5%)	214	7.4%
私立大学	249 (8.6%)	332 (11.4%)	505 (17.3%)	101 (3.5%)	1,187	40.8%
大学種合計	746	895	998	272	2,911	
大学種合計の分野割合	25.6%	30.7%	34.3%	9.3%		

分野 大学種	理学	工学	保健	農学	自然科学 部門計	自然科学 部門計の 大学種割合
国立大学	8,315 (8.1%)	14,119 (13.8%)	18,162 (17.8%)	4,231 (4.1%)	44,827	43.9%
公立大学	924 (0.9%)	1,579 (1.5%)	5,003 (4.9%)	485 (0.5%)	7,991	7.8%
私立大学	5,461 (5.4%)	10,738 (10.5%)	31,282 (30.7%)	1,753 (1.7%)	49,234	48.2%
大学種合計	14,700	26,436	54,447	6,469	102,052	
大学種合計の分野割合	14.4%	25.9%	53.4%	6.3%		

（括弧内は、分野・大学種が自然科学部門計・大学種計に占める割合）

### 3.4 大学教員の大学種・分野別の男女比率

図表 3-5 は、国内の大学に属する自然科学部門の教員の男女比率を平成 19 年度学校教員統計と比較する形で示している。<sup>14</sup> 本調査結果の女性割合を学校教員統計と比較すると、医学（保健）において低く、理学、農学において高い。医学（保健）部門を大学種別に見ると、公立大学、私立大学において、女性割合に大きな開きがある。看護系など実務者養成を重視している組織の教員が多数計上されていることが伺える。

図表 3-5 教員の男女比率の比較（左：本調査結果 右：学校教員統計）

分野 大学種	理学	工学	医学	農学	自然科学 部門計
国立大学	409:41 (9.1%)	470:20 (4.1%)	344:67 (16.3%)	137:17 (11.0%)	1360:145 (9.6%)
公立大学	40:4 (9.1%)	69:2 (2.8%)	64:16 (20.0%)	15:1 (6.3%)	188:23 (10.9%)
私立大学	204:45 (18.1%)	324:7 (2.1%)	416:85 (17.0%)	81:20 (19.8%)	1025:157 (13.3%)
国公私合計	653:90 (12.1%)	863:29 (3.3%)	824:168 (16.9%)	233:38 (14.0%)	2573:325 (11.2%)

分野 大学種	理学	工学	保健	農学	自然科学 部門計
国立大学	7835:480 (5.8%)	13643:476 (3.4%)	15165:2997 (16.5%)	3986:245 (5.8%)	40629:4198 (9.4%)
公立大学	854:70 (7.6%)	1533:46 (2.9%)	3067:1936 (38.7%)	448:37 (7.6%)	5902:2089 (26.1%)
私立大学	4901:560 (10.3%)	10246:492 (4.6%)	23248:8034 (25.7%)	1572:181 (10.3%)	39967:9267 (18.8%)
国公私合計	13590:1110 (7.6%)	25422:1014 (3.8%)	41480:12967 (23.8%)	6006:463 (7.2%)	86498:15554 (15.2%)

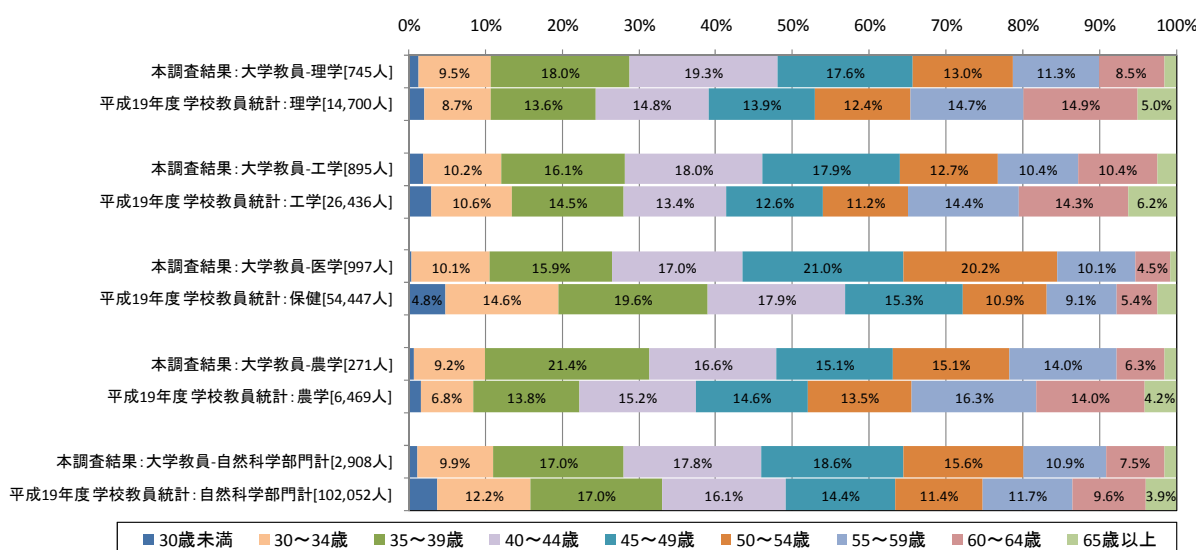
（括弧内は、女性が占める割合）

<sup>14</sup> 本調査結果において、大学に属する自然科学部門の研究者で性別不明の者が 13 名いるため、性別が判明している者の合計は 2,893 名となっている。

### 3.5 大学教員の年齢層割合

図表 3-6 は、国内の大学に属する自然科学部門の教員の年齢層割合を平成 19 年度学校教員統計と比較する形で示している。<sup>15</sup> 本調査結果の年齢層割合を学校教員統計と比較すると、理学、工学、医学（保健）、農学の全ての分野で、30 歳未満の若年層および 60 歳以上の高齢層の教員のシェアが学校教員統計で高くなっていることが分かる。30 歳代から 50 歳代の研究グループの中核となる傾向の強い年齢層において、本調査結果の方の割合が高くなっている。

図表 3-6 自然科学部門の教員の年齢層割合



### 3.6 本調査の有効回答について

本調査：「アカデミックキャリアパスの実態把握のための調査」は「博士課程を有する研究科および附置研究所」を調査対象の大学組織とした前回調査を基にして調査票を配布している。このため、本調査結果において、大学教員に関しては実務者養成の教育を主目的とする組織を含めた日本国内の平均像・全体像と厳密には一致していない可能性がある。本調査結果は、国内の自然科学部門の研究者の全体像・平均像に比べて極端な乖離はない。しかし、やや研究重視の組織、研究者のウェイトの強いサンプリングとなっていることには留意が必要である。

<sup>15</sup> 本調査結果において、大学に属する自然科学部門の研究者で年齢不明の者が 3 名いるため、年齢が判明している者の合計は 2,908 名となっている。



## 第4章 現在の研究職における研究環境・権限の状況

### 4.1 研究環境および権限の定義と概観

本章では2009年11月～12月の調査時点で回答者が記入した現職の研究本務職における研究環境・権限や任期の状況を整理し、研究者や研究機関の属性から比較分析を行う。第2章で示したように本調査では研究環境・権限として下記の5種の項目を尋ねた。

- [a] 独立した研究室を持った
- [b] 研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者
- [c] 担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者
- [d] 特定の部下（大学院生）の指導の責任者
- [e] 発表論文の責任者

上記5つの研究環境・権限の調査項目は、平成22年1月に総合科学技術会議 基本政策専門調査会によって作成された「基礎研究強化に向けて講ずべき長期的方策について―基礎研究を支えるシステムの改革―」の報告書を参考にしている。当該報告書では、PI（Principal investigator）の定義には、議論の余地があるとしつつ下記のように記載している。*"PIの定義については、引き続き議論し明確にする必要があるが、例えば、①独立した研究課題と研究スペースを持つこと、②研究グループを組織して研究を行っている場合は、そのグループの責任者であること、③大学院生の指導に責任を持つこと、④論文発表の責任者であること、などが考えられる。"*

基本政策専門調査会の報告書が論じるように、PI（Principal Investigator）の定義は必ずしも共通認識があるわけではない。しかしながら、本報告書においては暫定的に調査項目とした[a]～[e]の5項目全てに「該当する」と回答した場合、当該職歴をPIに相当する職歴と見なして集計を行った。よって本報告書におけるPIは回答者によって直接申告された項目ではなく、[a]～[e]の全てが「該当する」ことを条件に、集計の結果として得られた指標である。

なお、PIの条件となった各研究環境・権限に関する項目では、客観的な判断や厳密な定義が難しい項目もある。比較的、客観性の高い項目は、「発表論文の責任者」である。「発表論文の責任者」に関しては〈実態として、発表論文の主な連絡先となったか否かです。〉と注記を入れて、Corresponding Authorに相当する経験を抽出した。特定の学術論文を指定すれば、「発表論文の責任者」となるCorresponding Authorは客観的に判別することが可能である。

「担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者」「研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者」に関しては、〈実質的〉という文言を入れることで形式的な決裁ではなく、実質的な意思決定を行っていたというニュアンスを入れている。しかしながら、形式的な決裁であれば、明文化された規則や手続きがあるため、客観的となる一方で実質的な意思決定に関しては、主観の入る余地がある。また、「特定の部下（大学院生）の指導の責任者」に関しても、後輩に相当する大学院生に対して実質的な指導を行っていた場合など、主観

が入る余地がある。

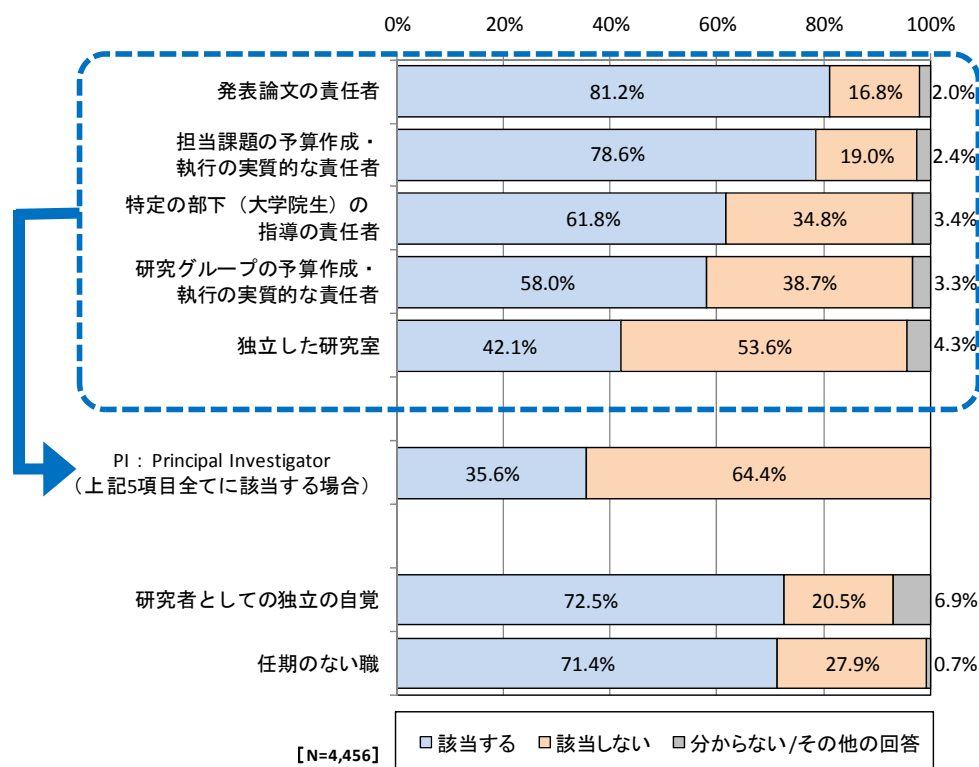
特に客観的な定義が困難であった調査項目が「独立した研究室」であり、回答者に判断を迷わせてしまうととも、問い合わせ対応においても明確な返答が困難であった。「独立した研究室」の注記としては〈ご自身の名前がついた研究室、またはその名称をご自身が命名した研究室を言います。独立行政法人等の場合、ご自身の名前がついていないケースもありえますが、その場合は大学の研究室相当を指すとお考えください。〉と記載した。しかし、大学と公的研究機関、研究分野、理論系と実験系の違いによって、研究室・研究グループの仕組みが異なり、客観的・統一的な基準での判断は困難であったと考えられる。

また、本調査では、研究環境・権限に合わせて主観的な「研究者としての独立の自覚」も尋ねている。注記として〈ご自身の主観でお答えください。主体的に研究を遂行することが可能な研究者であったか否かです。〉と記載した。研究環境・権限においては、可能な限り客観的な判断を志向した一方で、研究者が主観的に「独立の自覚」を持つ年齢や研究環境を確認するため、「研究者としての独立の自覚」を調査項目に追加した。

加えて、本調査においては任期の有無および状況を尋ねている。任期の有無は「任期のない職」と「任期のある職」に大別されるが、「任期のある職」に関しては「更新・再任なしを前提」「更新・再任の可能性（回数や年数に上限あり）」「更新・再任の可能性（回数や年数に上限なし）」「テニユア職への移行・昇進が前提」「その他」という分類で任期の状態を尋ねている。

図表 4-1 は有効回答 4,456 名全体に関して、調査時点の現職に関する内訳を表している。有効回答となった 4,456 名の現職に関して「該当する」と回答した割合が最も多かったの

図表 4-1 現職における研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳



は「発表論文の責任者（81%）」である。続いて「担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者（79%）」「特定の部下（大学院生）の指導の責任者（62%）」「研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者（58%）」となり、最後に「独立した研究室（42%）」となっている。全体としては、発表論文の連絡先、個人課題を含む予算管理、指導の責任、グループの予算管理、独立した研究室の順に該当者のシェアが大きいことが確認された。本報告書における研究環境・権限に関する以後の図表は図表 4-1 の該当者のシェアが大きい順に記載する。

現在の本務職において、調査項目となった 5 種の研究環境・権限の全てに「該当する」と回答し、本報告書における PI に分類されたのは 4,456 名のうち 1,588 名の 36%であった。なお、個別の研究環境・権限において「該当する」のシェアが最も小さい「独立した研究室」が PI になるための最後の関門となる。この「独立した研究室」を除いて 4 種を全て満たした回答者は 4,456 名のうち 2,059 名の 46%であった。

次に主観的な意識である「研究者としての独立の自覚」を見ると、73%の回答者が現職の本務において「研究者としての独立の自覚」を持っていると回答した。また、主体的に研究を遂行することが可能な研究者であったかを尋ねた「研究者としての独立の自覚」は、研究環境・権限よりも判断が困難であったようであり、7%が「分からない」やその他の記入での回答となっている。

最後に任期の有無を見ると、71%の回答者が調査時点の本務職として「任期のない職」に就いていると回答している。一方、28%の回答者は調査時点の本務職として何らかの形態の「任期のある職」に就いていると回答している。「任期のある職」を細分化すると、「更新・再任の可能性(上限あり)」が 13%、「更新・再任の可能性(上限なし)」が 10%、「更新・再任なしを前提」が 4%、「テニユア職への移行・昇進が前提」が 1%であった。

## 4.2 年齢層別の状況

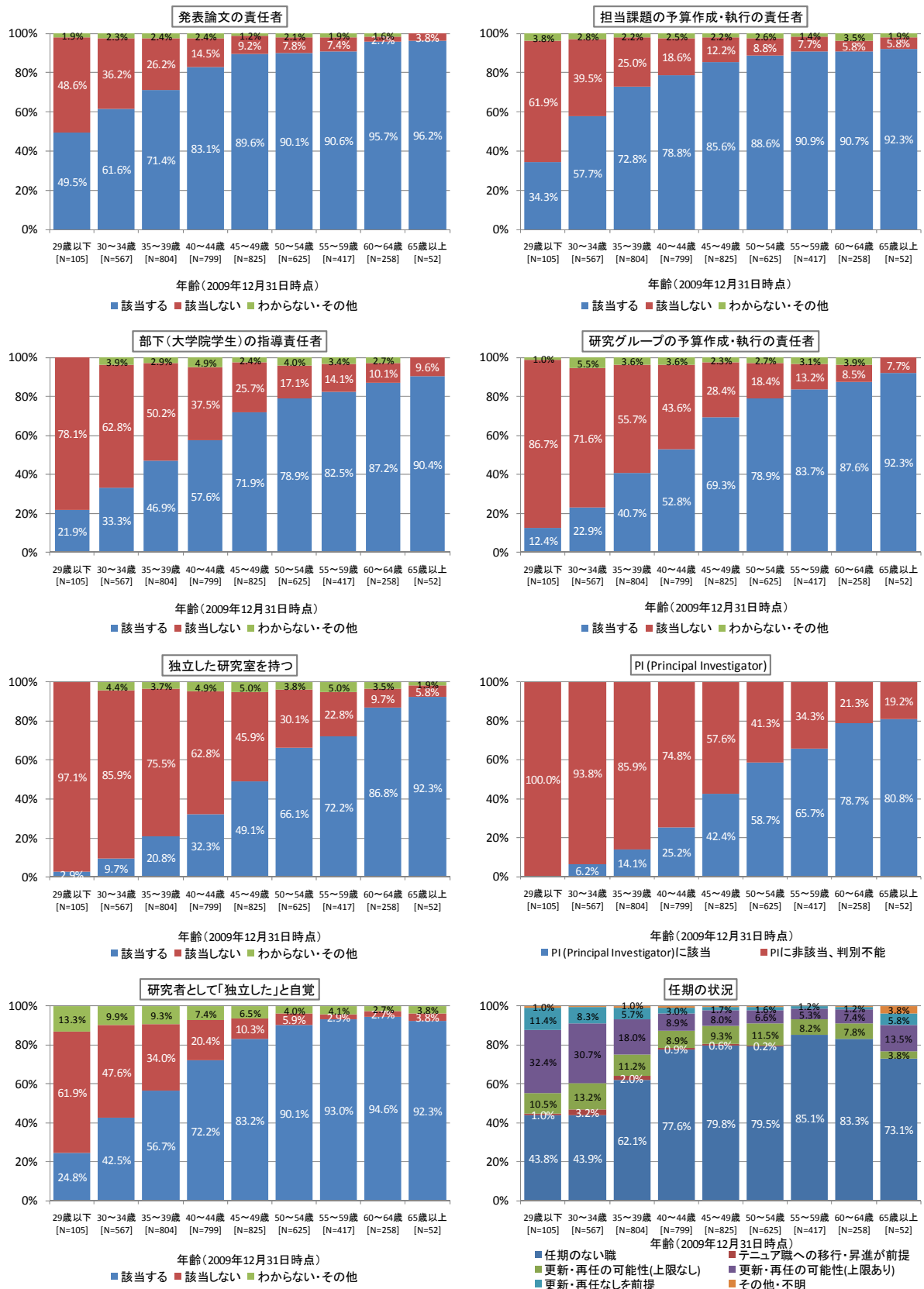
年齢が判明している回答者 4,452 名に関して、年齢層別に現在の本務の状況を示す。図表 4-2 では、2009 年 12 月 31 日時点の年齢で集計を行い、5 歳区分で現在の本務に関する内訳を示している。

各項目において「該当する」と回答したシェアが過半数となった年齢層に着目すると、「発表論文の責任者」は 30 歳代前半で 62%となっている。続いて、「担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者」も 30 歳代前半で 58%が「該当する」と回答している。発表論文の主たる連絡先や、個人課題も含んだ予算管理に関しては 30 歳代前半から権限を与えられることが一般的となっている。

「特定の部下（大学院生）の指導の責任者」は 40 歳代前半で「該当する」の割合が 58%となり過半数となっている。また、「研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者」に関しても 40 歳代前半で 53%と過半数に達している。指導やグループの予算管理に関しては、40 歳代前半から権限を与えられることが一般的となっている。

「独立した研究室を持つ」割合は、50 歳代前半で 66%となり過半数となる。同じく、50 歳代前半で、「PI (Principal Investigator)」が 59%となる。独立した研究室を持つと

図表 4-2 年齢層別：研究環境・権限、独立の自覚、任期の状況の内訳



同時に本報告書で設定した PI の条件が満たされるケースが多い。なお、50 歳代前半において、「独立した研究室を持つ」を除く 4 種の項目を全て満たす割合を算出すると、625 名中 432 名の 69%であった。

「研究者としての独立の自覚」を持つ割合は、30 歳代後半にて過半数の 57%となる。年齢層としては「発表論文の責任者」「担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者」と「特定の部下(大学院生)の指導の責任者」「研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者」の間となっており、個人に関する責任・権限を得た後、グループに関する責任・権限を得る過程で「研究者としての独立の自覚」を持つと推察される。

[任期のない職]は30歳代後半で過半数となり62%となっている。一方、[任期のある職]の内容は多様であり、30歳代後半において[更新・再任の可能性(上限あり)]が18%、[更新・再任の可能性(上限なし)]が11%、[更新・再任なしを前提]が6%、[テニユア職への移行・昇進が前提]が2%となっている。また、[更新・再任の可能性(上限あり)]は20歳代の32%から40歳代の8%へシェアが減る傾向がある一方で、[更新・再任の可能性(上限なし)]は20歳代から50歳代にかけて10%前後の割合を占め続けている。

### 4.3 分野別の状況

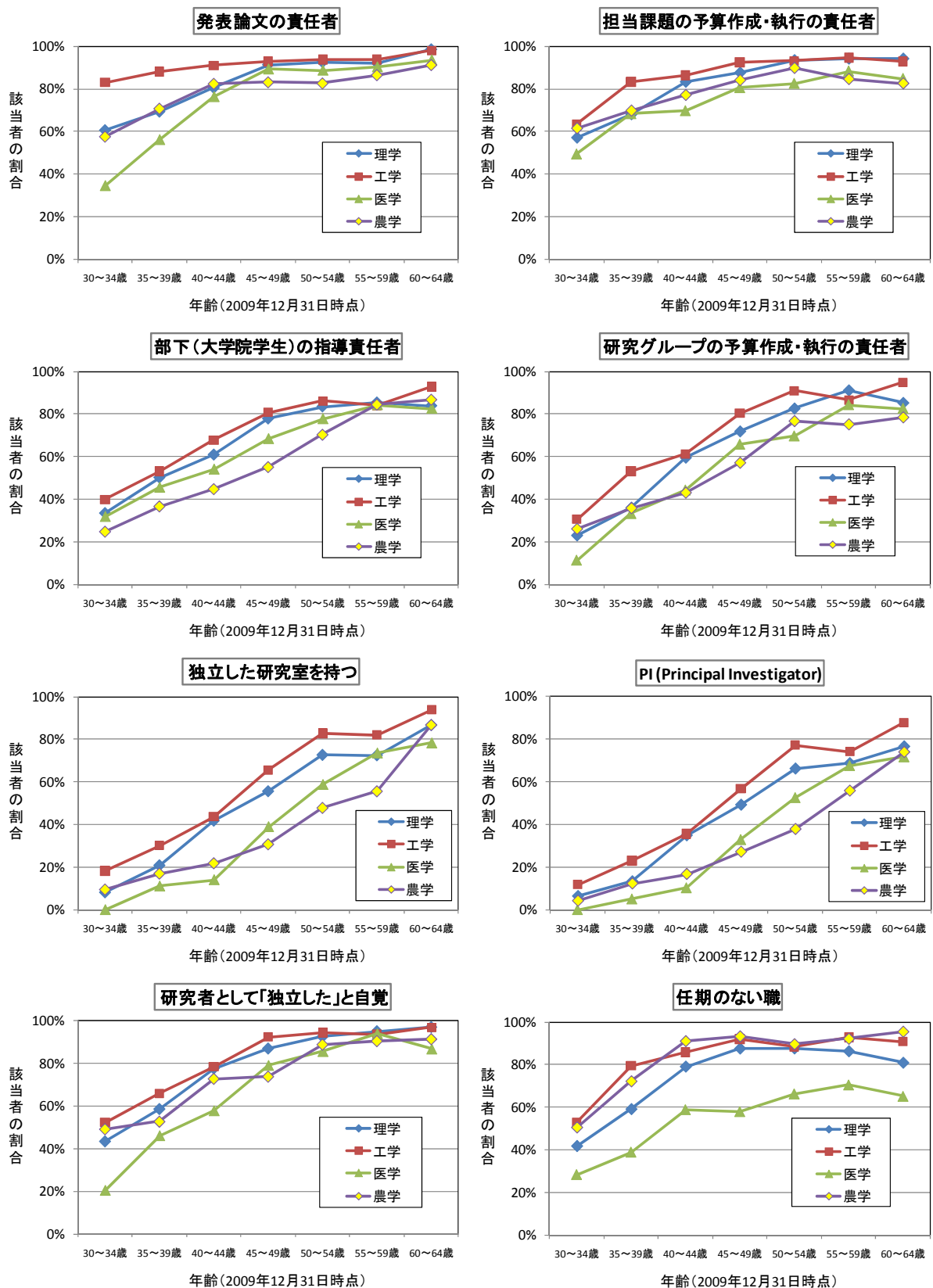
本調査の回答者の研究分野を「2.5 分析データの作成方法『最終学歴による研究分野の導出』」に従って特定し、理学、工学、医学、農学分野に分けて、その研究環境・権限の状況を帯グラフで表したのが図表 4-3 である。

「発表論文の責任者」に該当する割合を分野別に見ると、違いが顕著なのは、30 歳代前半である。最も割合が高い工学で 83%である一方、最も割合が低い医学では 35%となっている。調査項目の 5 つの研究環境・権限を全て満たして「PI」となっている割合は、50 歳代前半において工学で 77%、理学で 66%、医学で 53%、農学で 38%となっている。同年齢層で比較すると、総じて工学で研究環境・権限の割合が大きく、医学で低くなっている。医学の 30 歳代においては、「特定の部下（大学院生）の指導の責任者」で農学を上回っていることを除けば、全ての項目で「該当する」と回答した割合が他の分野に比べ、最も低くなっている。また医学は、研究環境・権限の割合だけではなく、30 歳代における「研究者としての独立の自覚」も他の分野から大幅に低く、[任期のない職]の割合は全年齢層で他の分野に比べて低くなっている。

農学は「特定の部下（大学院生）の指導の責任者」において他の分野よりも大幅に低い一方で[任期のない職]の割合は工学と並ぶほどに高くなっている。これは図表 3-1 に示したように、農学において大学に所属する回答者割合が他の分野より低いことに起因している。大学に所属する回答者の割合は理学で 75%、工学で 74%、医学で 95%であるが、農学では 48%である。農学においては独立行政法人や公設試験場に所属する研究者が多いため、「特定の部下（大学院生）の指導の責任者」の割合が低く、[任期のない職]が高くなっていると推察される。

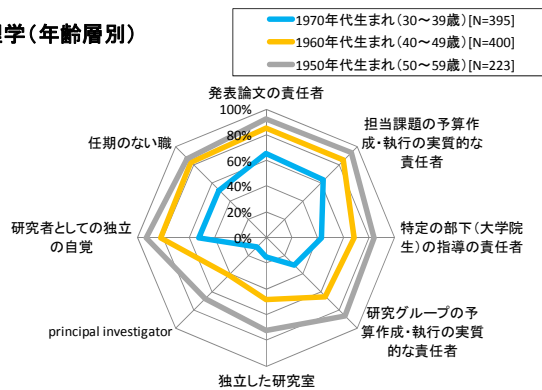
図表 4-4 は分野別に研究環境・権限、独立の自覚、任期のない職の割合をレーダーチャートに表している。左側に 10 歳区分の年齢層別、右側に職階別に表している。右側の職階別の教授・部長クラスに着目すると、理学、工学、医学では、ほとんど全ての項目で 90%

図表 4-3 研究環境・権限、独立の自覚、任期のない職の割合（分野別）

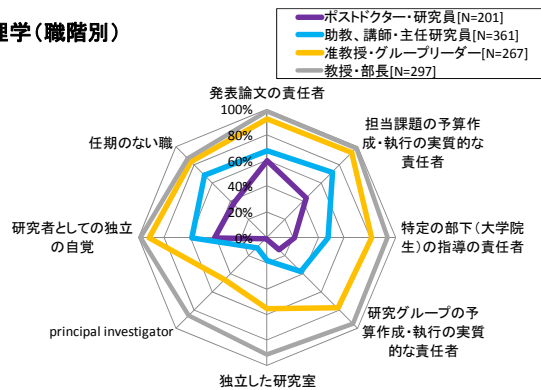


図表 4-4 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート（分野別）

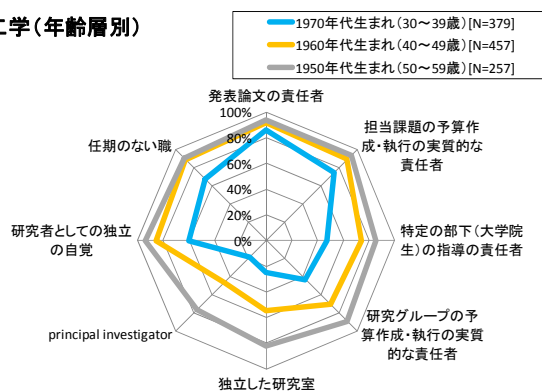
理学（年齢層別）



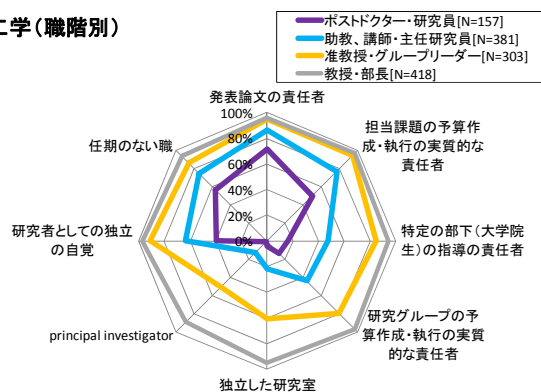
理学（職階別）



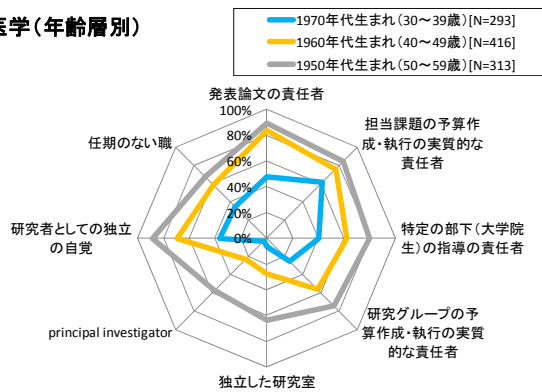
工学（年齢層別）



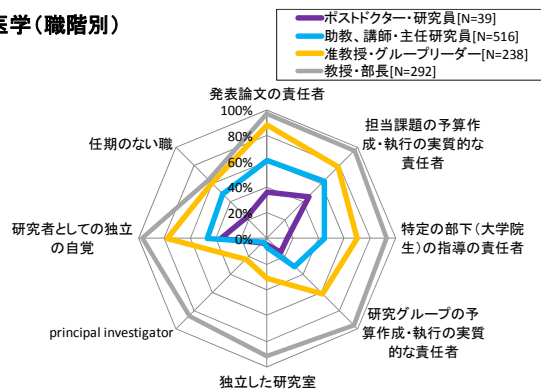
工学（職階別）



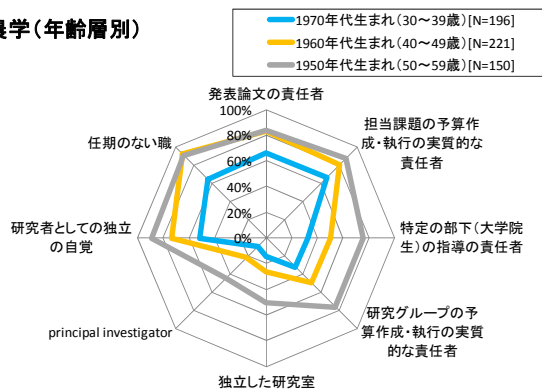
医学（年齢層別）



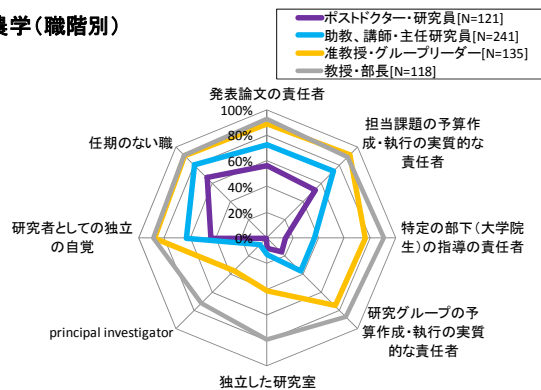
医学（職階別）



農学（年齢層別）



農学（職階別）



以上の値を示しているのに対し、農学においては教授・部長クラスでも「独立した研究室」を持つ割合が 79%である。農学の所属機関種として割合が高い公的研究機関においては、部長クラスでも独立した研究室を持つとは限らないことを示していると考えられる。

また、理学、工学、医学を比較すると、教授・部長クラスの各研究環境・権限に関する項目は 90%を超えており、分野間の差異は小さい。一方、准教授・グループリーダークラスの各研究環境・権限に着目すると医学は、理学や工学に比べ割合が小さくなっている。また、准教授・グループリーダークラスの「研究者としての独立の自覚」は、理学では 92%、工学では 91%となっているのに対し、医学では 78%となっている。医学における教授・部長クラスと准教授・グループリーダークラス間の研究環境・権限および独立の意識に関する差異は理学や工学に比べて大きい。

なお、本調査結果では最終学歴の研究分野として、理学、工学、医学、農学と回答した 4,085 人のうち 3,029 名は化学や生物学といった詳細分野レベルで特定できる。サンプルサイズが 100 以上の詳細分野は【参考資料 2：参考図表-詳細分野】にてレーダーチャートと内訳表で、詳細分野の研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の割合を表している。

【参考図表-詳細分野 1】にて年齢層と詳細分野のクロス表、【参考図表-詳細分野 2】にて職階と詳細分野のクロス表を表している。また、【参考図表-詳細分野 3】で理学内の化学、生物学、物理学、地球科学・環境科学、【参考図表-詳細分野 4】で工学内の電気工学・情報工学、機械工学、土木・建築学、材料工学、【参考図表-詳細分野 5】で医学内の基礎医学、臨床医学を比較し、【参考図表-詳細分野 6】で農学内の農学・林学・漁業学、農芸化学を比較している。理学、工学、医学、農学の大分野のレベルで研究分野が同一であっても、詳細分野によって研究環境・権限の特徴が異なるケースも現れている。

## 4.4 任期の有無別の状況

図表 4-5 では、任期の有無別に各職階での研究環境・権限、独立の自覚の割合を表している。<sup>16</sup>ポストドクター・研究員クラスや助教、講師・主任研究員クラスでは、「発表論文の責任者」や「担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者」にて、任期付きの者が任期のない者に比べて該当者の割合が低い傾向が現れている。この理由一つとしては、助教、講師・主任研究員クラス以下の職階では、任期のない職に就いている者の方がやや高齢となっていることが挙げられる。<sup>17</sup>このため、准教授・グループリーダークラスと教授・部長クラス、任期の有無による研究環境・権限、独立の自覚の違いを確認する。

まず、准教授・グループリーダークラスにおいて「任期のない職」と「任期のある職」で「研究者としての独立の自覚」を比較すると、理学では 94%と 79%、農学では 90%と 62%となっており、「任期のある職」の回答者において割合が低くなっている。一方、工学においては 92%と 88%、医学においては、77%と 79%とほぼ同水準となっている。

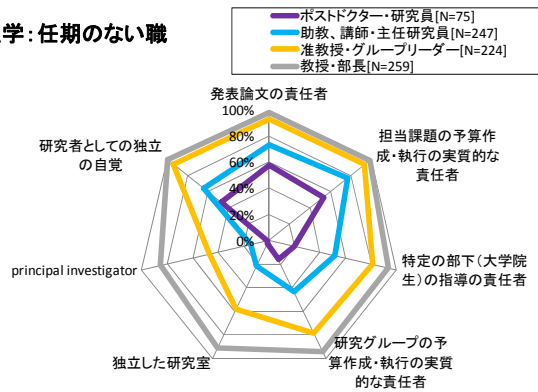
<sup>16</sup> 図表 4-5 では職階別にレーダーチャートを表しているが、図表 4-5 別版として年齢層別のレーダーチャートを【参考資料 2：参考図表-属性 1】に示している。以降、本文で職階別または年齢層別のレーダーチャートを示す場合、本文で示していない方のレーダーチャートを【参考資料 2：参考図表】に記載している。

<sup>17</sup> ポストドクター・研究員クラスにおいて任期がない者の平均年齢は 37.1 歳だが、任期がある者の平均年齢は 34.4 歳である。また、助教、講師・主任研究員クラスでは、任期がない者の平均年齢は 41.5 歳だが、任期がある者では 37.7 歳である。一方、准教授・グループリーダークラスと教授・部長クラスでは任期の有無による年齢差が 1 歳未満である。

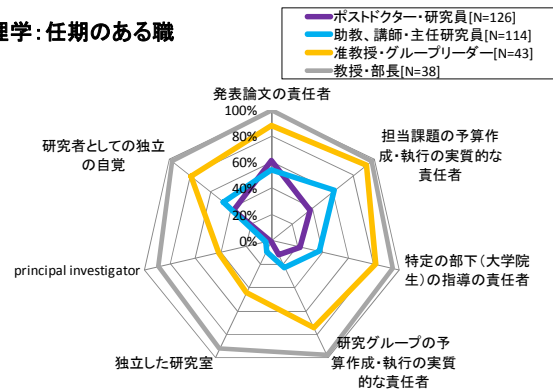


図表 4-5 研究環境・権限、独立の自覚の有無のレーダーチャート（任期の有無：職階別）

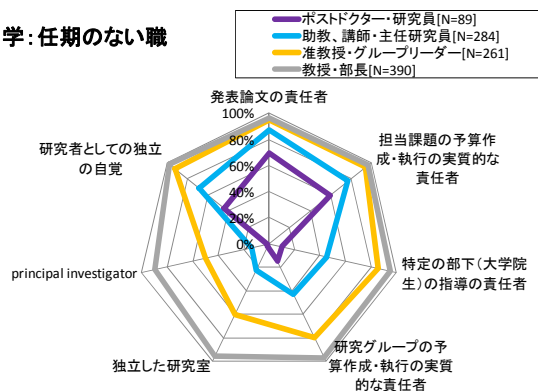
理学：任期のない職



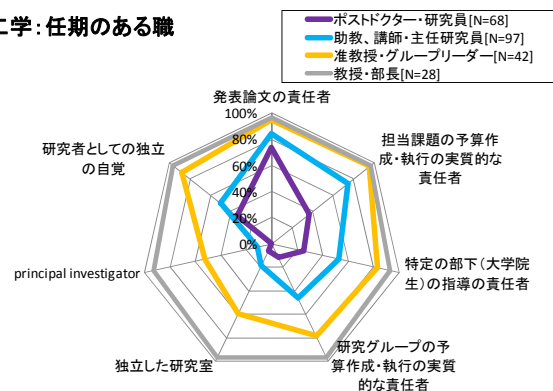
理学：任期のある職



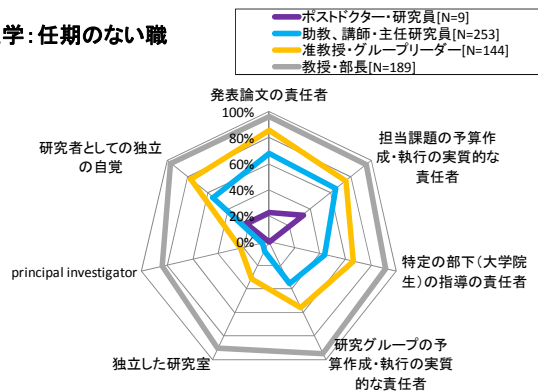
工学：任期のない職



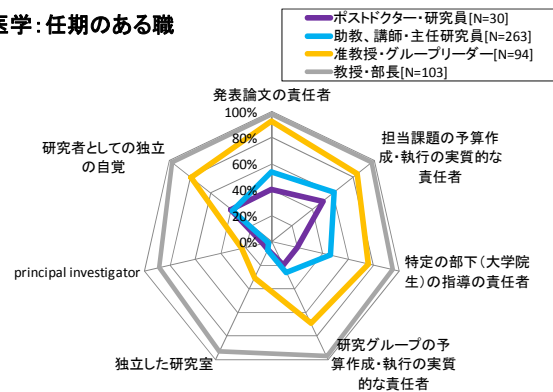
工学：任期のある職



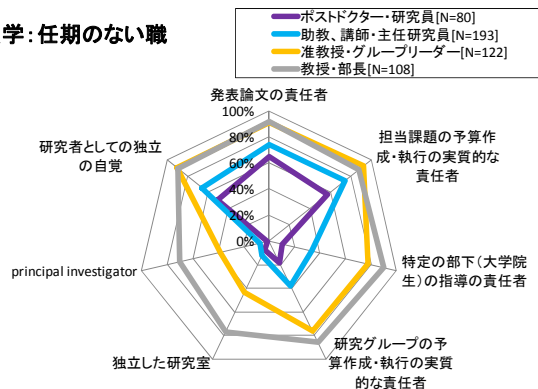
医学：任期のない職



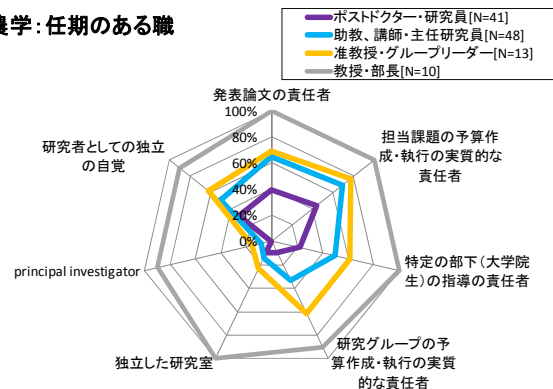
医学：任期のある職



農学：任期のない職



農学：任期のある職

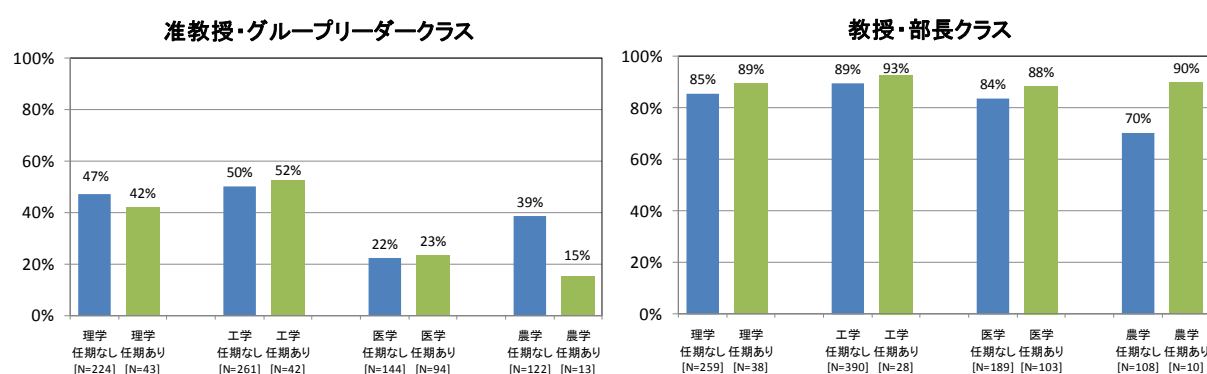


教授・部長クラスにおける「研究者としての独立の自覚」を持つ割合は、理学、医学、工学では任期の有無にかかわらず 95%を超えており、農学においても任期の有無にかかわらず 90%を超えている。工学と医学に関しては、准教授・グループリーダークラス以上で任期の有無と「研究者としての独立の自覚」は無関係となっている。理学と農学に関しては、准教授・グループリーダークラスにおいて、[任期のある職]の方が「研究者としての独立の自覚」が低い傾向が出ているが、教授・部長クラスにおいては解消している。

図表 4-6 においては、研究環境・権限を比較するために、任期の有無別に准教授・グループリーダークラス以上の PI の該当者割合を表している。左側の准教授・グループリーダークラスにおいては理学と農学で[任期のある職]の方が PI の該当者割合は低くなっている。一方、工学と理学においては、[任期のある職]の方がわずかに PI の該当者割合が高くなっている。

また、図表 4-6 の右側の教授・部長クラスに着目すると、理学、工学、医学、農学の全ての分野において[任期のある職]の方が PI の該当者割合がわずかに高くなっている。教授・部長クラスにおいては「研究者としての独立の自覚」と同様に PI の該当者割合も任期の有無から影響を受けなくなっている。

図表 4-6 任期の有無別の PI 割合



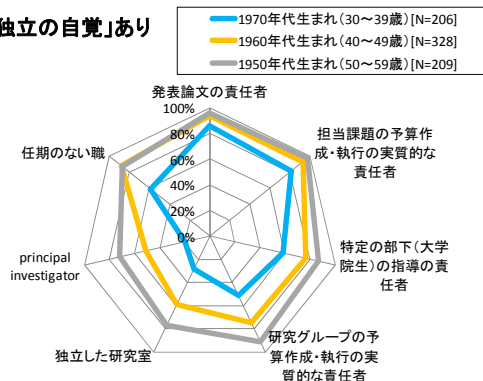
## 4.5 「研究者としての独立の自覚」の有無別の状況

図表 4-7 では「研究者としての独立の自覚」の有無別に年齢階層ごとの研究環境・権限、任期の有無をレーダーチャートに表している。各研究環境・権限に関しては、「研究者としての独立の自覚」がある者が示す範囲が、「研究者としての独立の自覚」がない者の範囲を上回っている。「研究者としての独立の自覚」と研究環境・権限の間には正の関係がある。

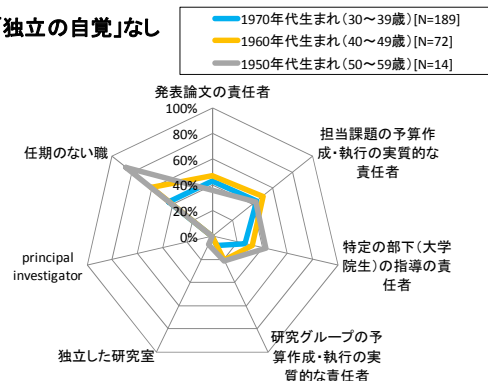
一方で図表 4-7 の右側となる「研究者としての独立の自覚」がない者に着目すると 1950 年代生まれにおいて、「任期のない職」の回答割合は研究環境・権限に比べて突出して大きくなっている。突出した「任期のない職」の割合に関しては「研究者としての独立の自覚」の有無にかかわらずほぼ同じになっている。1960 年代以降に生まれた者では、「研究者としての独立の自覚」がある者ほど「任期のない職」を得ている傾向にあるが、その差異は「担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者」等の研究環境・権限に比べて小さい。「任期のない職」であることが「研究者としての独立の自覚」をもたらす主因になっていないと推察される。

図表 4-7 研究環境・権限、任期の有無のレーダーチャート（「独立の自覚」の有無：年齢層別）

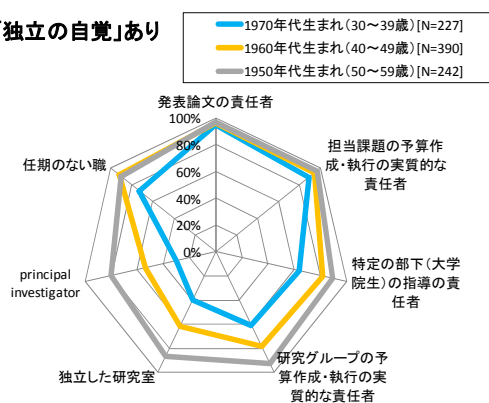
理学：「独立の自覚」あり



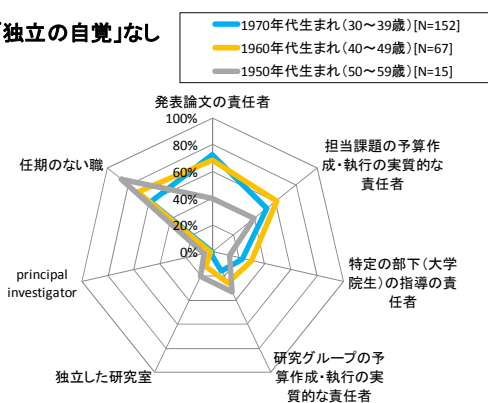
理学：「独立の自覚」なし



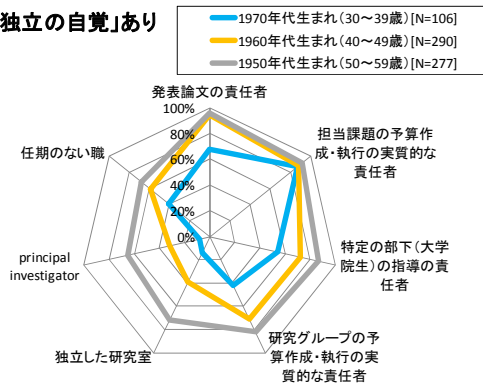
工学：「独立の自覚」あり



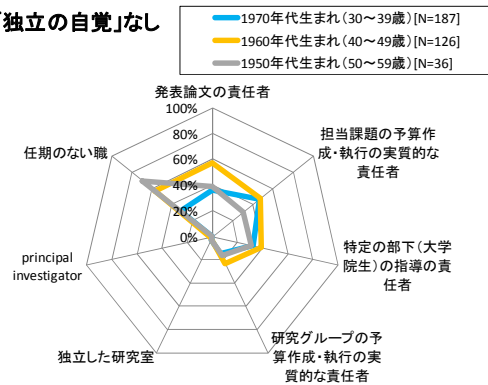
工学：「独立の自覚」なし



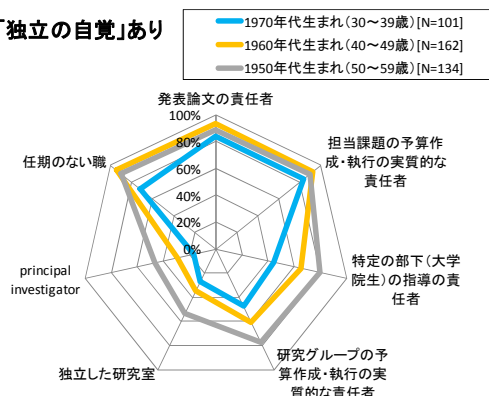
医学：「独立の自覚」あり



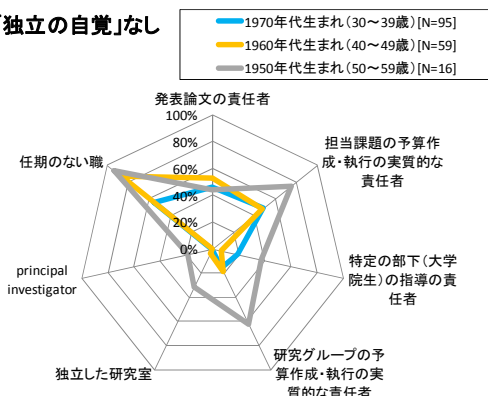
医学：「独立の自覚」なし



農学：「独立の自覚」あり



農学：「独立の自覚」なし



図表 4-5 と図表 4-7 から、「研究環境・権限」「研究者としての独立の自覚」「任期の有無」の関係を合わせて考えると、次のように整理できる。「研究環境・権限」と「研究者としての独立の自覚」には強い正の相関関係がある。一方で「任期のある職」であることは必ずしも「研究環境・権限」「研究者としての独立の自覚」を持たないことにつながっていない。

図表 4-8 では、各種の「研究環境・権限」「研究者としての独立の自覚」「任期の有無」の関係を「該当する」「自覚を持つ」「任期のない職」である場合に 1 として、それ以外の場合に 0 と置いて現職の本務に関する状況の相関係数を導出している。また相関係数の値が高い場合が濃い赤に近づくように配色している。最も濃い赤となっているのが「独立した研究室」と「PI」の交差するセルであり、「独立した研究室」の条件を満たせば、「PI」となるケースが多いことを示している。

各種の「研究環境・権限」および「研究者としての独立の自覚」の間で色が濃い反面、「任期のない職」の行では色が薄くなっており、相関が弱いことが分かる。中でも、医学においては、「任期のない職」と「研究環境・権限」および「研究者としての独立の自覚」の間にほとんど相関が見られない。

図表 4-8 現職の本務に関する研究環境・権限、任期の有無の相関係数表

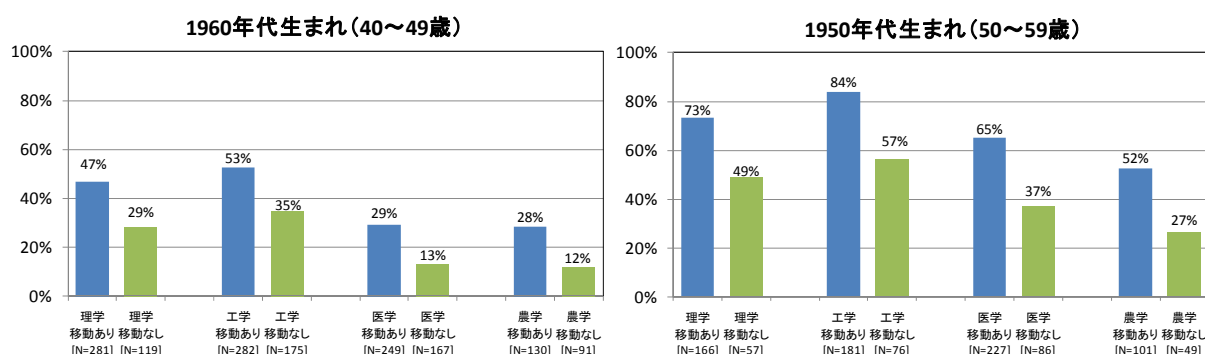
		発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	PI: principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職
全体 [N=4,456]	発表論文の責任者	1							
	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	0.4087	1						
	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	0.335	0.4545	1					
	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	0.3925	0.5686	0.5283	1				
	独立した研究室	0.3533	0.3932	0.4798	0.6381	1			
	PI: principal investigator	0.3579	0.3884	0.585	0.6336	0.8722	1		
	研究者としての独立の自覚	0.4983	0.4902	0.4424	0.5139	0.4771	0.4453	1	
	任期のない職	0.1596	0.1635	0.1165	0.1902	0.1952	0.1849	0.2245	1
理学 [N=1,126]	発表論文の責任者	1							
	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	0.3995	1						
	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	0.3113	0.4814	1					
	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	0.4051	0.562	0.5589	1				
	独立した研究室	0.3967	0.4089	0.5074	0.6636	1			
	PI: principal investigator	0.3862	0.4001	0.5926	0.6601	0.8836	1		
	研究者としての独立の自覚	0.5474	0.5044	0.4318	0.5485	0.5036	0.4552	1	
	任期のない職	0.2059	0.285	0.2449	0.3011	0.2903	0.2522	0.292	1
工学 [N=1,259]	発表論文の責任者	1							
	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	0.3667	1						
	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	0.3047	0.4652	1					
	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	0.3194	0.5547	0.5513	1				
	独立した研究室	0.2827	0.3974	0.4995	0.6948	1			
	PI: principal investigator	0.3091	0.401	0.6285	0.6575	0.8666	1		
	研究者としての独立の自覚	0.3905	0.4876	0.5009	0.5326	0.4943	0.4744	1	
	任期のない職	0.0832	0.1878	0.1381	0.1849	0.2078	0.2007	0.2414	1
医学 [N=1,085]	発表論文の責任者	1							
	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	0.4219	1						
	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	0.3808	0.447	1					
	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	0.4498	0.5951	0.481	1				
	独立した研究室	0.3542	0.3787	0.4272	0.5859	1			
	PI: principal investigator	0.3708	0.3801	0.5107	0.6001	0.8889	1		
	研究者としての独立の自覚	0.5175	0.4781	0.4006	0.506	0.4684	0.4466	1	
	任期のない職	0.1242	0.048	0.032	0.1004	0.105	0.1002	0.1455	1
農学 [N=615]	発表論文の責任者	1							
	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	0.3954	1						
	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	0.3438	0.3806	1					
	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	0.3212	0.5108	0.4926	1				
	独立した研究室	0.2949	0.3317	0.4624	0.5555	1			
	PI: principal investigator	0.3182	0.3211	0.5616	0.569	0.8607	1		
	研究者としての独立の自覚	0.4833	0.4593	0.4469	0.417	0.3673	0.3492	1	
	任期のない職	0.1968	0.1427	0.0537	0.1655	0.0967	0.1254	0.2173	1

なお、追加的な属性別の研究環境・権限として「性別」「最終学歴の大学種」「海外経験」別のレーダーチャートおよび内訳表を【参考資料 2：参考図表・属性】として示している。関心がある読者は参照されたい。

## 4.6 研究機関の移動経験別の状況

本節では、回答の所属機関名から研究機関の移動の有無を識別し、研究機関の移動経験別に研究環境・権限、独立の自覚、任期の状況を表す。まず、全ての研究環境・権限を満たしたケースに相当する「PI」の割合を移動経験別に示す。図表 4-9 では、2009 年 12 月 31 日時点において、40～49 歳であった 1960 年代生まれの世代および 50～59 歳であった 1950 年代生まれの世代において、研究機関の移動経験別に「PI」に該当した者の割合を表している。図表 4-9 は同じ年齢層で比較しても、研究機関を移動した者の方が「PI」となる傾向があることを示している。

図表 4-9 移動経験別の PI の該当者割合（1960 年代、1950 年代生まれ）



図表 4-10 では、研究機関を移動した経験のある者となない者で区別して、研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無レーダーチャートを表している。左側が研究機関の移動経験のある者を表し、右側が研究機関の移動経験がない者を表している。理学、工学、農学においては、全ての年齢層において移動経験のある者の方が研究環境・権限および独立の自覚を持つ割合が高まっている。

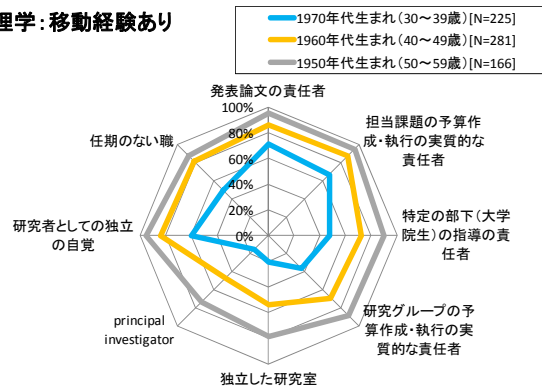
医学においても 40 歳代と 50 歳代の年齢層において移動経験のある者の方が研究環境・権限および独立の自覚が高まる傾向にあるのは他分野と同じである。しかし、医学の 30 歳代においては移動経験によって研究環境・権限は変わらず、同水準である一方で、「研究者としての独立の自覚」を持つ者の割合のみが、29%から 49%へ大幅に高まっている。「研究者としての独立の自覚」を持つ割合に関しては理学、工学、医学、農学の全ての分野で、年齢層を問わず、研究機関の移動を経験した者の方が高い。

一方、任期の有無に関しては、工学、農学においては研究機関の移動を経験した者の方が、[任期のない職]に就いている割合は低い。特に農学では差異が大きく、30 歳代では移動を経験していない者が任期のない職に就いている割合は 78%であるのに対して、移動を経験した者では 51%となっている。理学、医学に関しても、移動を経験した者の方が任期のない職に就いている割合が低いという傾向は同じだが、理学の 50 歳代と医学の 30 歳

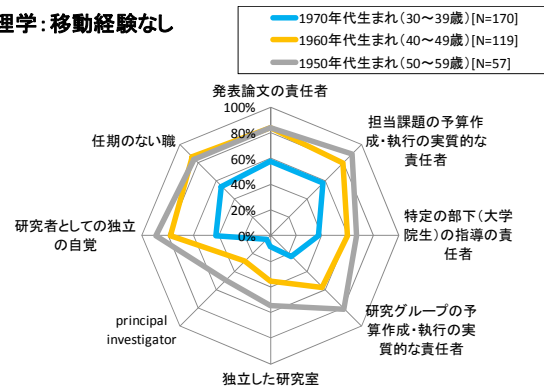


図表 4-10 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート（移動経験：年齢層別）

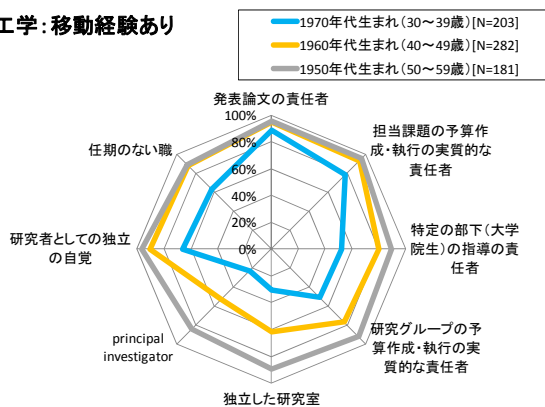
理学：移動経験あり



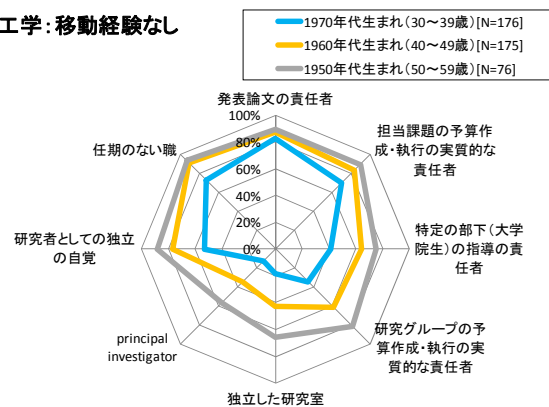
理学：移動経験なし



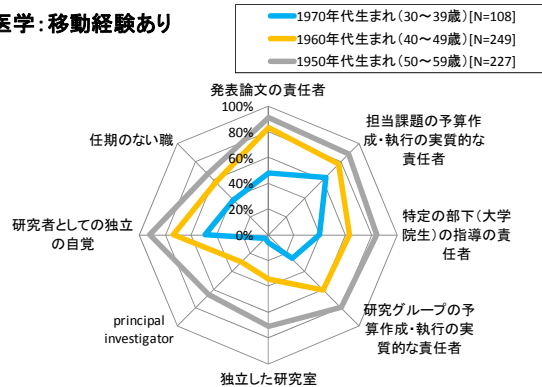
工学：移動経験あり



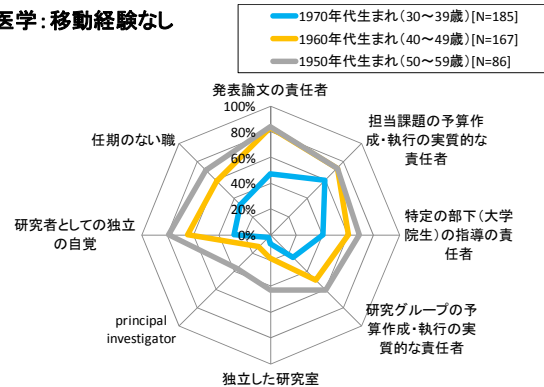
工学：移動経験なし



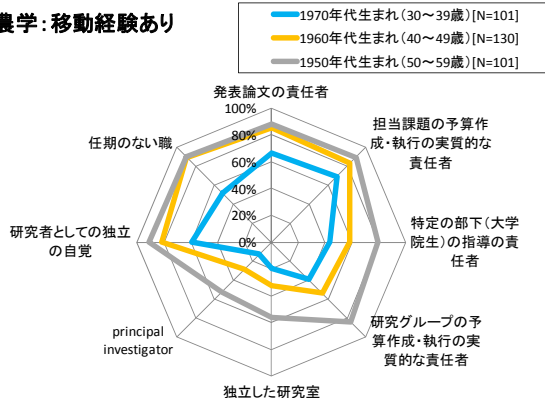
医学：移動経験あり



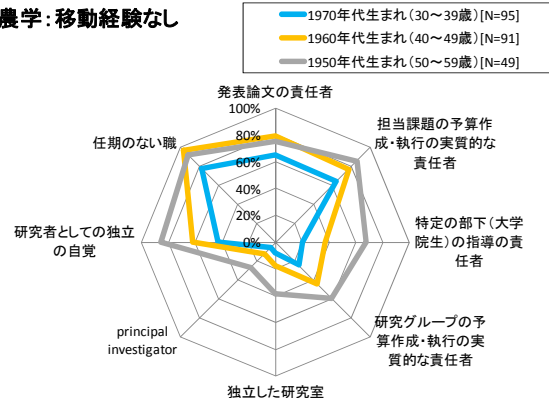
医学：移動経験なし



農学：移動経験あり



農学：移動経験なし

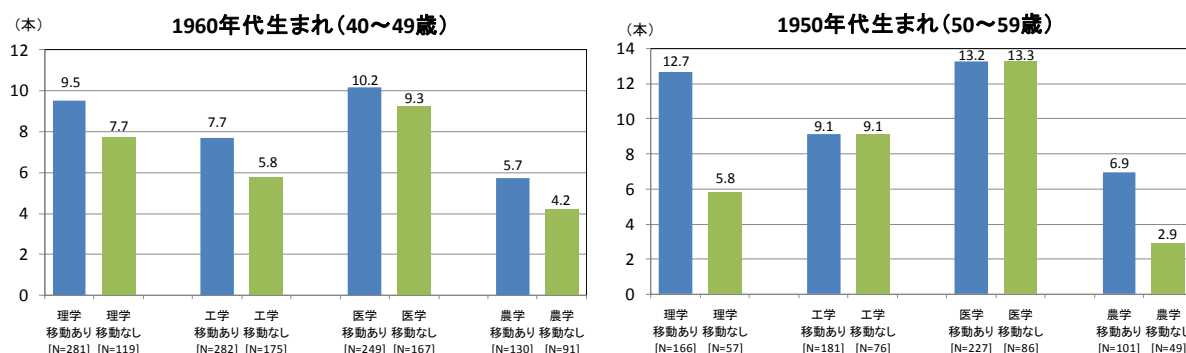


代には移動経験と任期の有無の関係が逆転している。

総じて、研究機関の移動を経験した者の方が、研究における権限を持つ割合が増加し、PI となる割合が高まっている。また、研究における権限を持つ割合が増加すると同時に「研究者としての独立の自覚」を持つ割合が増えている。しかし、少なくとも一度以上の研究機関の移動をした後の現職においても、移動を経験した者が任期のない職を得ている割合は研究機関の移動を経験していない者に比べて低い傾向がある。

図表 4-11 では、前回調査「研究組織の人材の現状と流動性に関する調査（研究者調査）」の回答を用いて、移動経験の有無別に 2008 年度の調査時点の過去 3 年間の査読付き英語論文数を表している。左側の 40 歳代では、各分野で移動経験のある者の方が、平均論文数が多くなる傾向が見られる。一方、右側の 50 歳代では理学と農学においては、移動経験のある者はない者に比べて 2 倍以上となっている一方で、工学と医学では同水準の平均論文数となっている。

図表 4-11 移動経験別 3 年間の平均英語論文数（1960 年代、1950 年代生まれ）



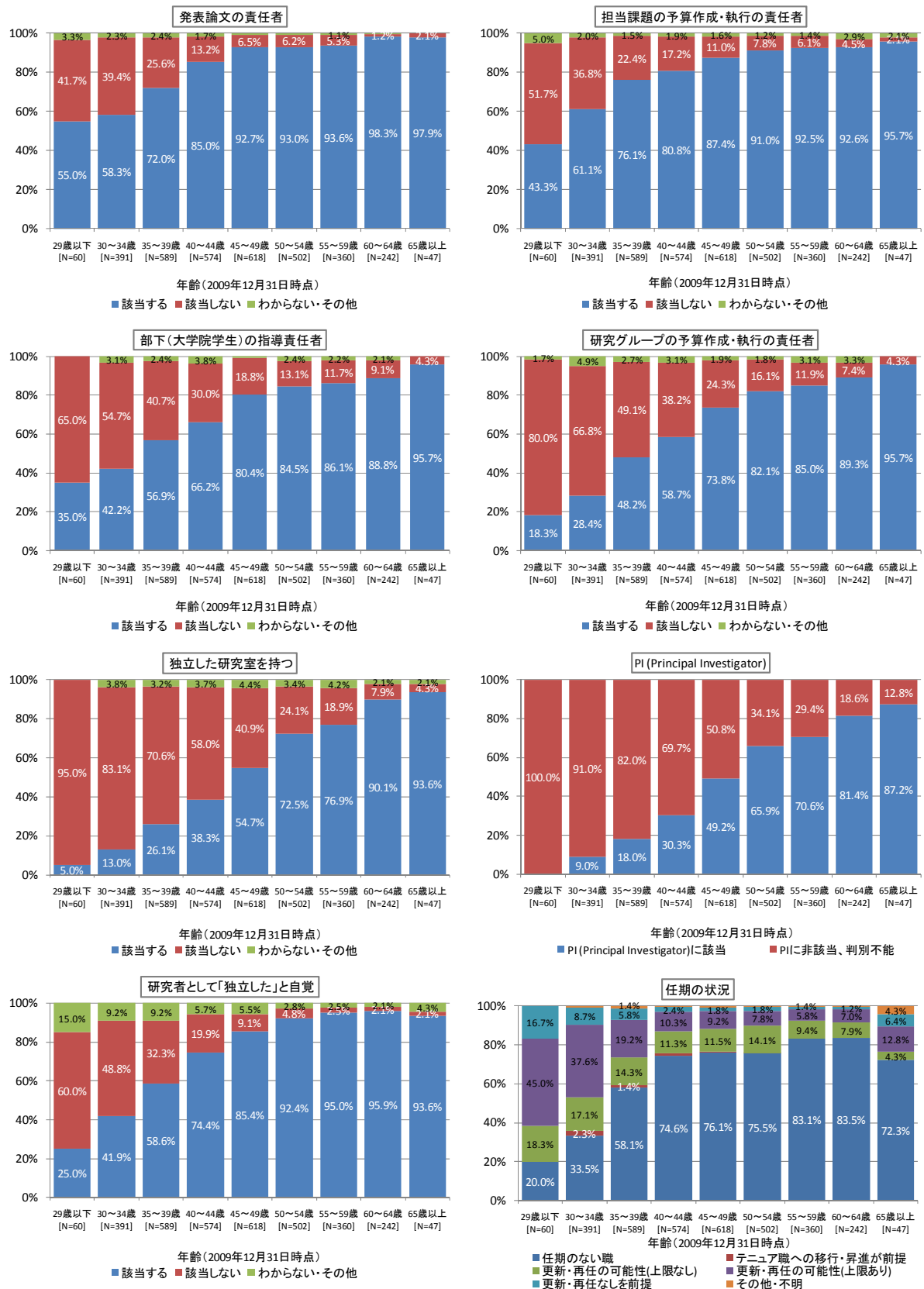
## 4.7 大学と公的研究機関の比較

図表 3-1 に示したように、本調査結果において大学に所属する回答者の割合は理学で 75%、工学で 74%、医学で 95%であるが、農学では 48%となっている。大学に所属する割合は、医学で高率である一方、農学で低率となっている。このため、所属機関種の違いが、研究分野の違いのように見えている可能性がある。よって本節では、現職の本務としての所属先を大学と公的研究機関（独立行政法人、国立試験研究機関、公設試験場）で区分して研究環境・権限、独立の自覚、任期の状況を示す。

図表 4-12 では、国内大学に所属する者、図表 4-13 では公的研究機関に所属する者で研究環境・権限、独立の自覚、任期の状況の内訳を示している。図表 4-12 を見ると、大学ではいずれの権限も年齢層の上昇とともに割合が単調に増加していることが分かる。一方、公的研究機関の図表 4-13 を見ると、「発表論文の責任者」「担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者」は 40 歳代後半をピークとして減少に転じることが分かる。公的研究機関の研究職における一般的な役割の変化に対応していると推察される。

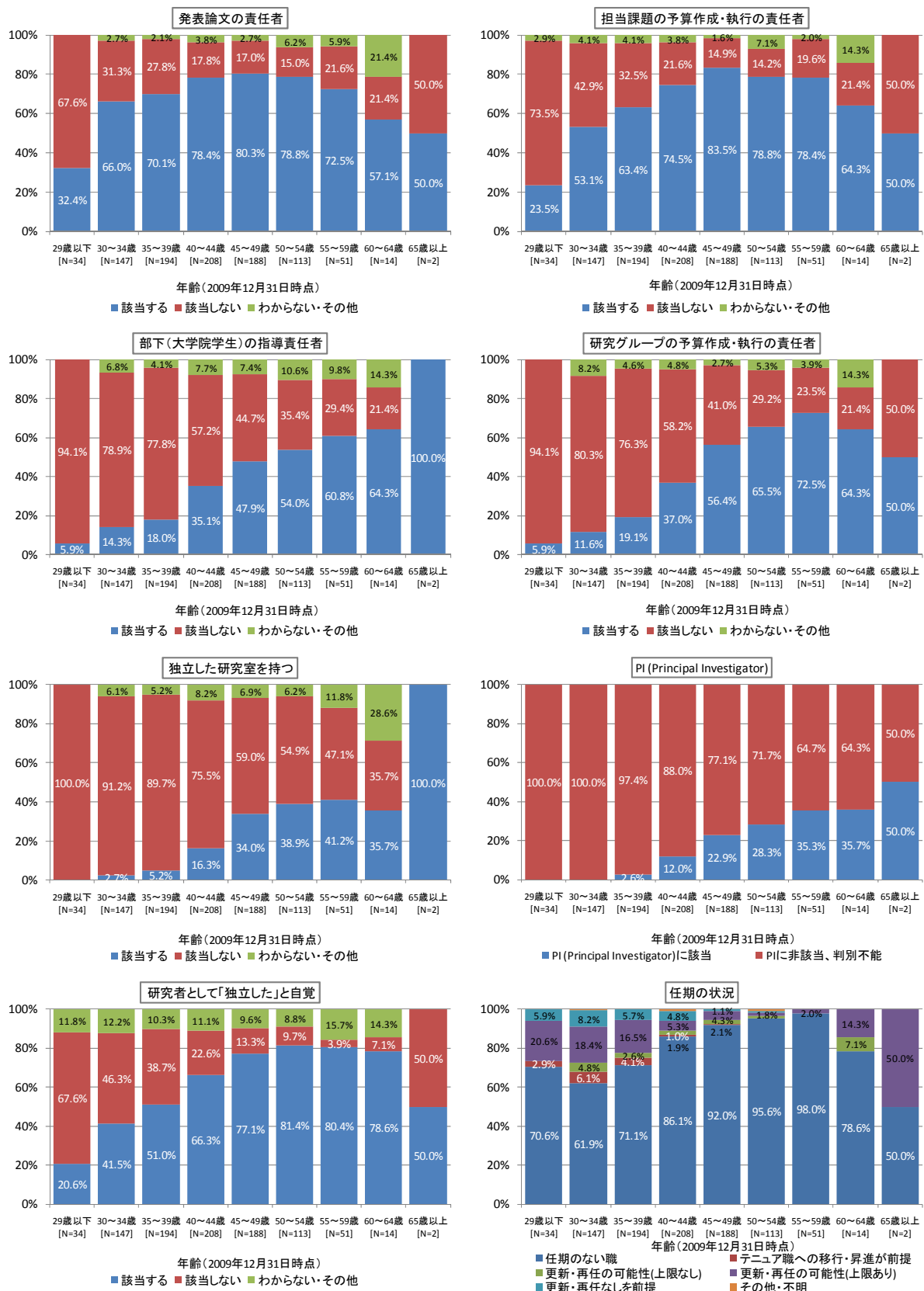
また、大学においては、50 歳代で「独立した研究室を持つ」と回答した者は 74%となっているが、公的研究機関では 40%となっている。「独立した研究室」は調査票において、〈大学の研究室相当〉を指すと注記したが、明確な判断が困難であった可能性がある。

図表 4-12 研究環境・権限、独立の自覚、任期の状況の内訳（国内大学：年齢層別）





図表 4-13 研究環境・権限、独立の自覚、任期の状況の内訳（公的研究機関：年齢層別）



公的研究機関に所属する者では「該当する」と回答した割合が大学に比べ大幅に低い。また、公的研究機関に所属する者では「わからない・その他」の回答も比較的多く、50歳代においても「わからない・その他」の回答が8%となっている。本報告書において設定したPIは、5種の研究環境・権限を満たす必要があるため「独立した研究室を持つ」割合を必ず下回る。このため、公的研究機関に所属するPIの割合は大学に比べて低い。50歳代を見ると、大学に所属する者のPI割合は68%であるのに対し、公的研究機関に所属する者のPI割合は30%となっている。

「研究者としての独立の自覚」の内訳を見ると、図表4-12の大学に所属する者では50歳代で90%以上となるまで年齢層の上昇と共に「研究者としての独立の自覚」を持つ割合が直線的に増加している。一方、図表4-13の公的研究機関に所属する者では、50歳代で80%を超えるものの大学に比べて低い水準で頭打ちになる。公的研究機関に所属する者では、全ての年齢層で「研究者としての独立の自覚」に「わからない・その他」と回答した者が10%前後の割合を占め、主観的な判断であっても、〈主体的に研究を遂行することが可能な研究者であったか否か〉の判別が困難であったと推察される。

「任期の状態」の内訳を図表4-12と図表4-13で比較すると、国内大学に所属する者では「任期のない職」が30歳代前半で34%、40歳代前半で75%となっている一方で、公的研究機関に所属する者では、「任期のない職」が30歳代前半で62%、40歳代前半で86%となっている。60歳以上を除けば、公的研究機関に所属する者は大学に所属する者に比べて「任期のない職」の割合が高い。また、大学に所属する者では40歳代、50歳代においても20%以上が任期付き雇用であるが、そのうちの半数以上は「更新・再任の可能性（上限なし）」の形態となっている。

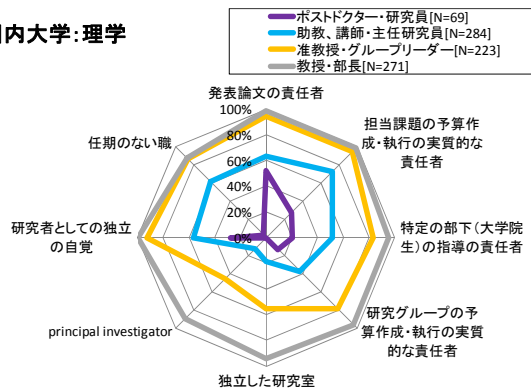
図表4-14では、研究環境・権限、独立の自覚、任期に関するレーダーチャートを職階別に描いている。左側の列に国内大学に所属する者を示し、右側の列に公的研究機関に所属する者を示している。左側の大学に所属する者の列では、職階の上昇とともに研究環境・権限の範囲が外側に広がる。大学における教授クラスでは、医学における「任期のない職」を除く全ての項目で85%を超えている。一方、公的研究機関に所属する部長クラスは、80%未満となっている項目も多く、図表4-13で年齢階層別に見た役割の変化が職階においても見られる。

また、職階別で見た場合に、国内大学に所属する者と公的研究機関に所属する者でとりわけ差異が大きいのは、ポストドクター・研究員クラスである。図表4-14の左列に示されている国内大学に所属するポストドクター・研究員クラスにおいて、「担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者」の該当者割合は、理学で28%、工学で11%、医学で39%、農学で33%となっている。一方、図表4-14の右列に示されている公的研究機関に所属するポストドクター・研究員クラスにおいて、「担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者」の該当者割合は、理学で54%、工学で60%、医学で64%、農学で58%となっている。

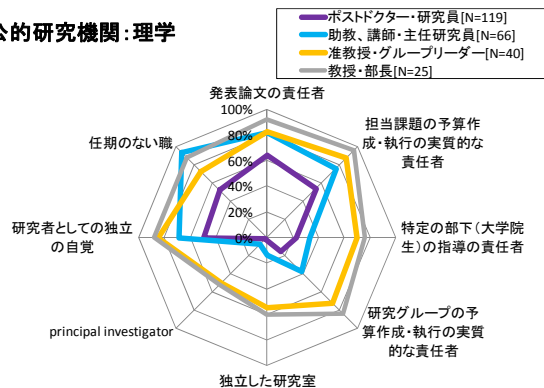
また、国内大学に所属するポストドクター・研究員クラスにおいて、「研究者としての独立の自覚」を持つ者の割合は理学で28%、工学で25%、医学で22%、農学で17%となっている。一方、国内の公的研究機関に所属するポストドクター・研究員クラスにおいて、「研究者としての独立の自覚」を持つ者の割合は、理学で50%、工学で42%、医学で64%、農学で50%となっている。ポストドクター・研究員クラスにおいて、公的研究機関に所属

図表 4-14 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート（機関種別：職階別）

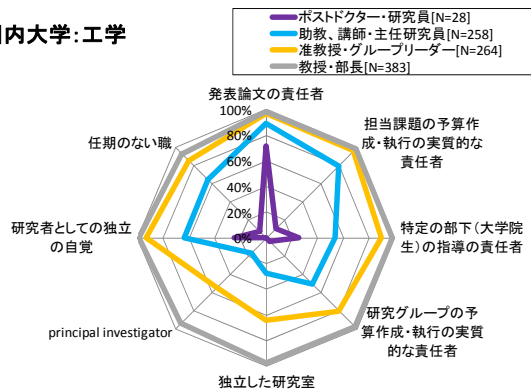
国内大学：理学



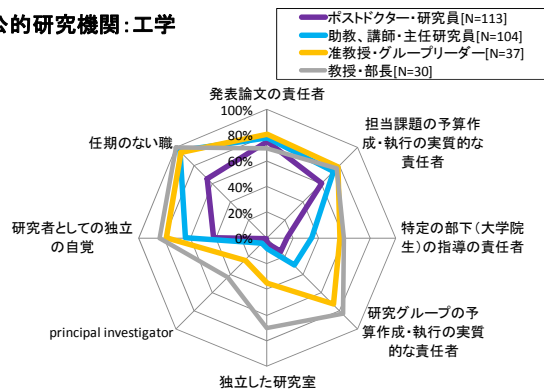
公的研究機関：理学



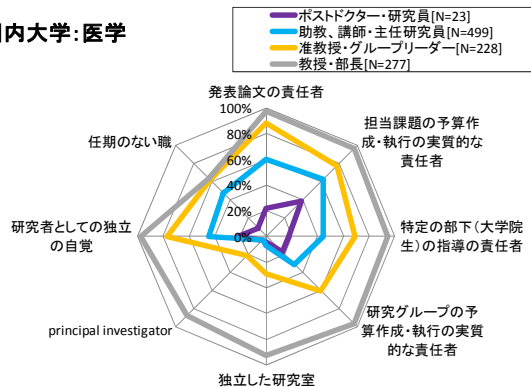
国内大学：工学



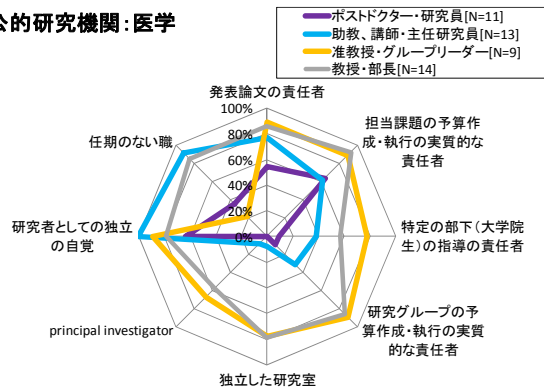
公的研究機関：工学



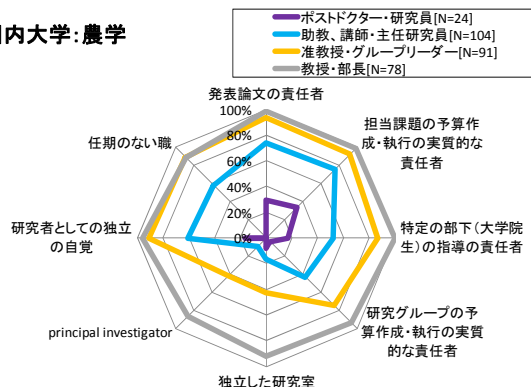
国内大学：医学



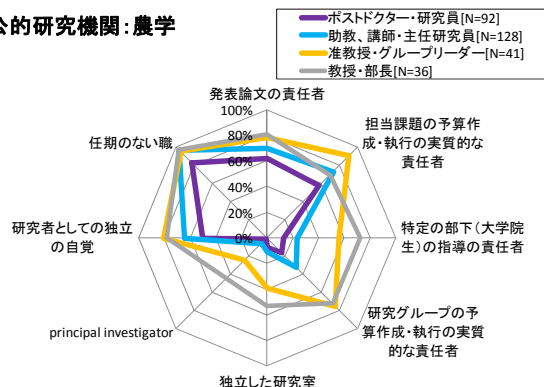
公的研究機関：医学



国内大学：農学



公的研究機関：農学



する者は、研究における権限および研究者としての独立の自覚を持つ割合が国内大学に所属する者に比べて高い。<sup>18</sup>

国内大学と公的研究機関の間で研究環境・権限、独立の自覚、任期に差異がある一方で国内大学に限定すれば、研究分野間の違いは縮小している。図表 4-14 の左列において、理学と農学のレーダーチャートは似た形状となっており、機関種横断の職階別を示した図表 4-4 の右列に比べて研究分野間の差異は縮小している。

## 4.8 国立大学と私立大学の比較

図表 4-15 では、国内大学の中でも、国立大学と私立大学の差異を年齢層別に示している。総じて、国立大学に比べて私立大学の方が 40 歳代と 50 歳代の研究環境・権限の差異が小さくなっている。また、[任期のない職] に関しては、国立大学より私立大学で割合が高い傾向があり、医学においてその差が顕著に現れている。

研究分野として差異が大きいのは工学であり、国立大学に所属する 30 歳代では「PI」が 19%であるのに対して、私立大学に所属する 30 歳代では 48%となっている。また、私立大学は 40 歳代であっても 50 歳代に近い研究環境・権限が与えられている一方で、国立大学の 40 歳代では「研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者」「独立した研究室」で 50 歳代と開きがある。

なお、国立大学を更に大規模大学と大規模大学以外に細分化し、「国立大学の中での規模別」を【参考資料 2：参考図表・現職機関】にて表している。<sup>19</sup> 関心がある読者は【参考資料 2：参考図表・現職機関】を参照されたい。

---

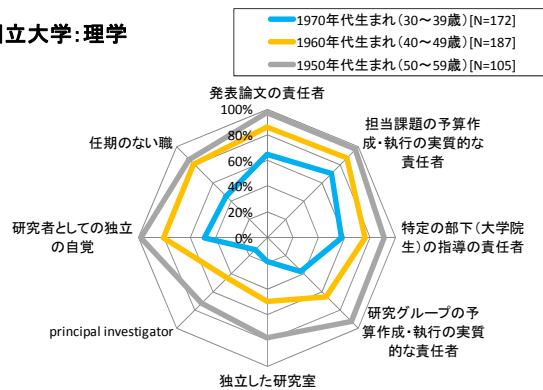
<sup>18</sup> 国内大学に所属と公的研究機関の間のポストドクター・研究員クラスの差異は、機関種だけではなく年齢や任期の有無からも影響を受けていると考えられる。国内大学におけるポストドクター・研究員クラスは平均年齢は 33.5 歳であったのに対して、公的研究機関におけるポストドクター・研究員クラスは平均年齢は 36.5 歳であった。また全分野におけるポストドクター・研究員クラスの [任期のある職] の割合は、国内大学で 96%であったのに対して、公的研究機関では 36%であった。

<sup>19</sup> 本報告書における [大規模大学] は「国立大学法人の類型化について（案）」

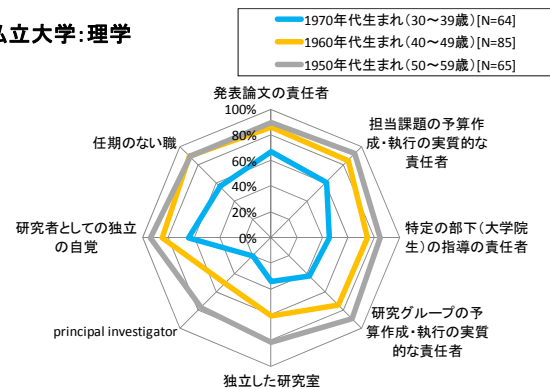
<[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/kokuritu/002/gijiroku/05072001/003\\_2.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/kokuritu/002/gijiroku/05072001/003_2.htm)> に従い、「北海道大学」「東北大学」「筑波大学」「千葉大学」「東京大学」「新潟大学」「名古屋大学」「京都大学」「大阪大学」「神戸大学」「岡山大学」「広島大学」「九州大学」を指している。

図表 4-15 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート（大学種別：年齢層別）

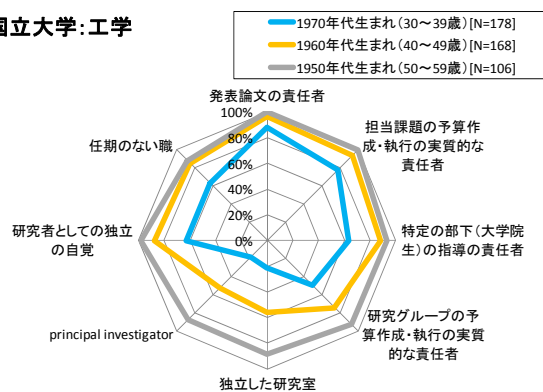
国立大学:理学



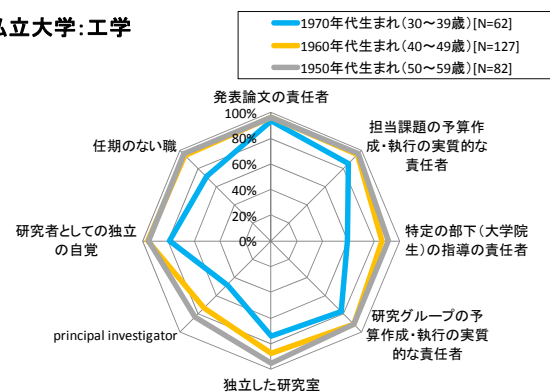
私立大学:理学



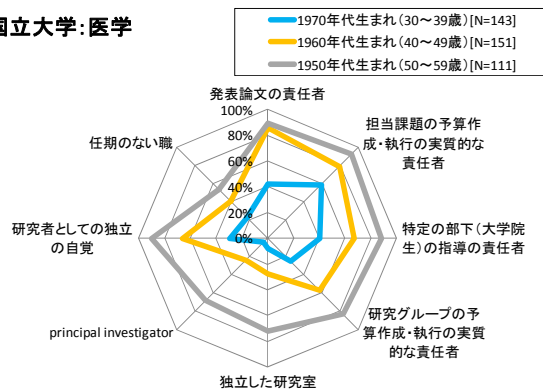
国立大学:工学



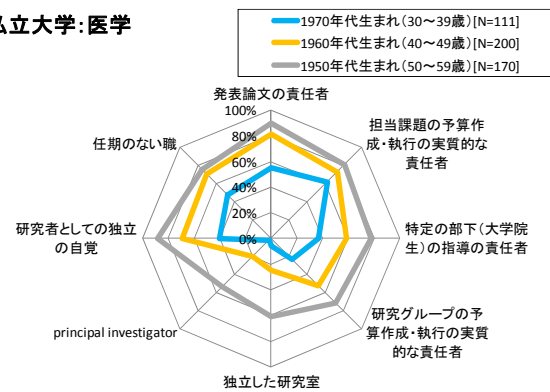
私立大学:工学



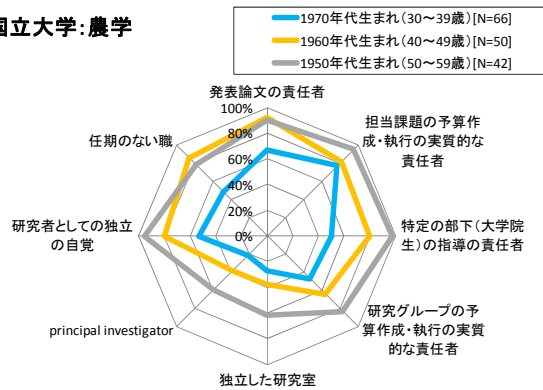
国立大学:医学



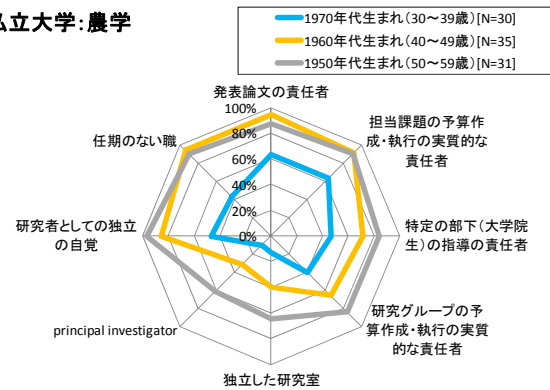
私立大学:医学



国立大学:農学



私立大学:農学



## 第5章 研究職歴を遡った研究環境・権限の分析

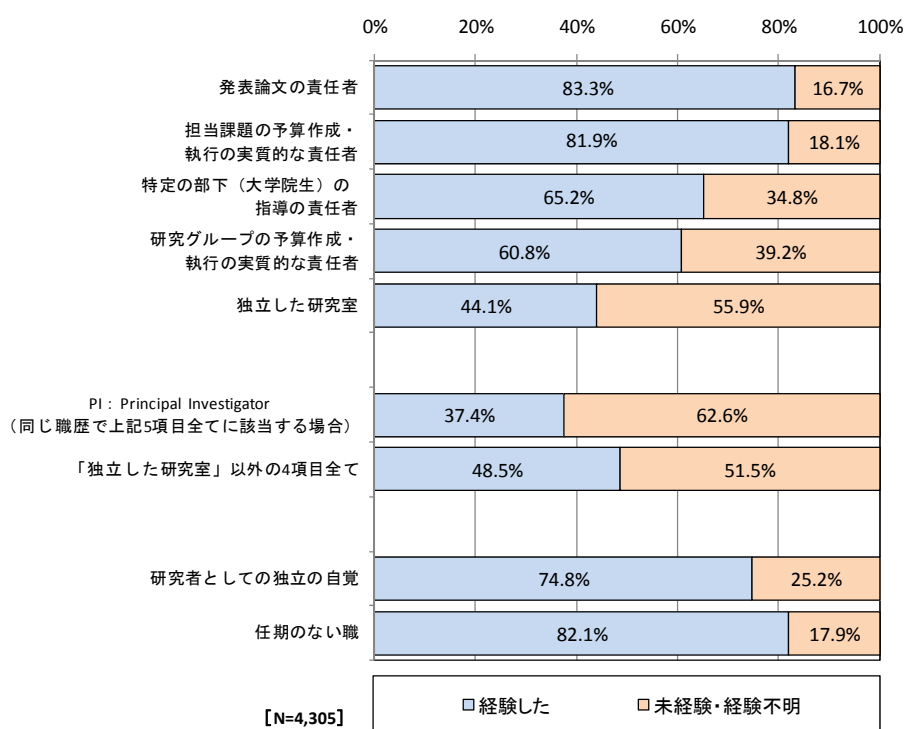
### 5.1 研究職歴を遡った分析と研究環境の経験の概観

第4章では、〔アカデミックキャリアパスの実態把握のための調査〕の回答から最も新しい研究本務職を抽出して、現職に関する分析を行った。一方で、本調査では現職のみならず、回答者の過去の研究職歴における研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無や状態についても尋ねている。本章では過去の研究職歴を遡った分析を行う。

図表5-1では、研究環境・権限、独立の自覚を持った、任期のない研究本務職を得た経験を表している。図表5-1で「経験した」の割合は、現職に関して同様の内訳を示した図表4-1の「該当する」の割合が高くなっている。この理由は、いったん研究権限のある職や任期のない職を得た後に、研究権限のない職や任期のある職に移った場合でも、経験をした者として集計されるためである。なお、サンプルサイズが図表4-1の4,456名から、図表5-1の4,305名に減少しているのは「2.5 分析データの作成方法『回答のエラー修正と有効回答の分類』」に示したように第4章における現職の分析には有効回答であっても、本章以降の研究職歴を遡る分析では、無効回答となる151名を除外したためである。

また第4章に示したように、「独立した研究室」は、他の4種の研究環境・権限とは異質であり、本報告書で設定した「PI」となる条件の最後の制約となるケースが多い。このため図表5-1では〈「独立した研究室」を除いた以外の4項目全て〉を含めている。図表5-1では「PI」は37.4%であるが、〈「独立した研究室」を除いた以外の4項目全て〉は49%であり、経験割合から見ても両者の差異は大きい。

図表 5-1 研究環境・権限、独立の自覚、任期のない職の経験割合





図表 4-1 の「該当する」の割合と図表 5-1 の「経験した」の割合の差を見ると、研究環境・権限および研究者としての独立の自覚は数%である。一方、「任期のない職」に関しては、図表 4-1 の「該当する」の割合が 71%である一方で、図表 5-1 の「経験した」の割合が 82%となっており、両者の差異は 11%となっている。いったん、任期のない職に就いた後でも、研究機関の移動等で任期のある職に就くことが例外的ではないことを示している。

図表 5-2 では、研究環境・権限、独立の自覚、任期のない職を経験した人数と初めて経験した年齢を平均値と四分位数で示している。図表 5-2 を見ると、総じて工学は研究環境・権限を得るのが他分野より早く、医学において遅くなっている。分野による傾向は異なる個人の現職について年齢層別に表した図表 4-3 と同じである。<sup>20</sup>

図表 5-2 研究環境・権限、独立の自覚、任期のない職の経験者数と経験した年齢

		経験した人数	初めて経験した年齢			
			平均値	四分位数		
				第1四分位	第2四分位 (中央値)	第3四分位
全体 [N=4,305]	発表論文の責任者	3,587	30.9	27	29	34
	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	3,526	33.0	28	32	36
	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	2,805	33.9	29	33	38
	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	2,616	35.9	30	35	40
	独立した研究室	1,897	38.3	33	38	44
	PI: principal investigator	1,611	39.8	34	39	45
	「独立した研究室」を除いた以外の4項目全て	2,089	37.4	32	37	42
	研究者としての独立の自覚	3,222	32.9	28	32	36
	任期のない職	3,534	29.1	26	28	31
理学 [N=1,101]	発表論文の責任者	896	30.4	28	29	32
	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	901	32.3	28	31	35
	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	722	33.5	29	32	37
	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	663	35.5	30	35	39
	独立した研究室	503	37.5	32	36	42
	PI: principal investigator	431	39.0	34	38	44
	「独立した研究室」を除いた以外の4項目全て	530	37.1	32	36	41
	研究者としての独立の自覚	839	31.6	28	30	34
	任期のない職	884	29.4	27	29	32
工学 [N=1,204]	発表論文の責任者	1,107	29.2	26	28	30
	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	1,052	31.6	28	30	35
	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	864	32.7	28	31	36
	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	835	34.7	29	34	39
	独立した研究室	668	37.2	32	36	42
	PI: principal investigator	583	38.6	33	38	44
	「独立した研究室」を除いた以外の4項目全て	710	36.1	31	35	41
	研究者としての独立の自覚	971	31.7	28	30	35
	任期のない職	1,056	27.8	25	27.5	30
医学 [N=1,055]	発表論文の責任者	825	33.9	30	33	37
	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	821	35.4	31	35	39
	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	705	35.4	31	35	39
	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	599	37.9	33	37	42
	独立した研究室	386	41.2	36	42	47
	PI: principal investigator	333	42.5	38	43	47
	「独立した研究室」を除いた以外の4項目全て	481	39.5	35	39	44
	研究者としての独立の自覚	727	35.9	31	35	40
	任期のない職	794	30.8	26	30	34
農学 [N=595]	発表論文の責任者	477	30.1	26	29	32
	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	480	32.6	28	31	36
	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	324	34.4	29	33	39
	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	326	36.2	30	35	42
	独立した研究室	197	38.6	33	39	45
	PI: principal investigator	162	40.0	34	40	46
	「独立した研究室」を除いた以外の4項目全て	233	37.8	33	37	43
	研究者としての独立の自覚	431	32.8	28	32	36
	任期のない職	516	28.5	25	27.5	30

<sup>20</sup>一般的に理学、工学、農学における学部の標準修業年限は 4 年、大学院（博士課程まで）の標準修業年限が 5 年であり、計 9 年である。一方、医学では一般的に学部の標準修業年限は 6 年、大学院（博士課程まで）の標準修業年限が 4 年であり、計 10 年である。標準修業年限で修了した場合においても、医学は他の分野より年齢が 1 歳上になり、割合を下げる要因となることには留意が必要である。

また、図表 5-2 において、初めて経験した年齢を見ると、各分野で平均値・中央値ともに「発表論文の責任者」「担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者」「特定の部下（大学院生）の指導の責任者」「研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者」「独立した研究室」の順になっている。この順番は図表 4-1 で示した現職における研究環境・権限の割合の多い順と同じである。図表 4-1 は、異なる個人に関して、一時点における研究環境・権限の割合を表したものにすぎず、権限がこの順番で拡大しているかは不明であった。しかし、図表 5-2 では、同一の個人の職歴を追って導出しているため、一般的に上記の順番で、研究環境・権限が拡大していくことが確認できる。

図表 5-2 の平均年齢等によって、研究分野による違いや権限を取得する順番を概観することはできる。しかし、図表 5-2 の平均値や四分位数は、調査時点までに研究環境・権限を取得できなかった者が捨象されている上、全ての世代を統合しての集計となっている。このため、グラフを用いて世代別の経験割合を表す。

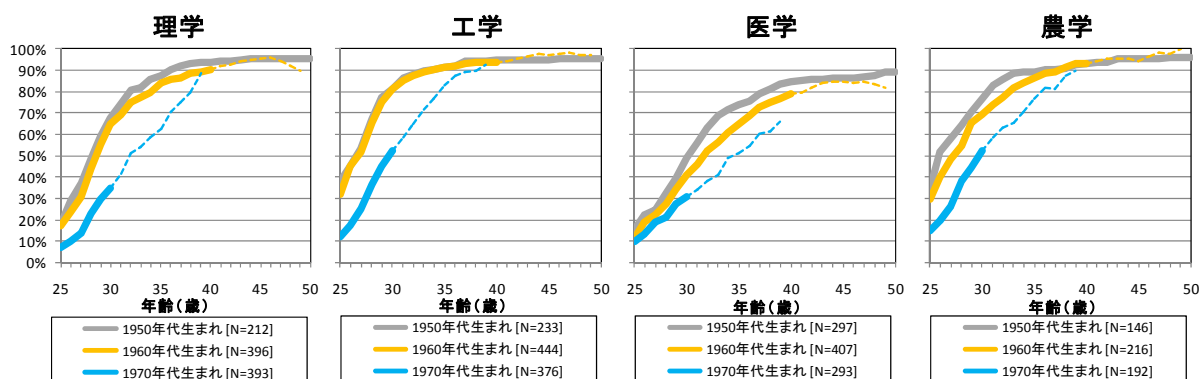
## 5.2 任期のない研究本務職に就いた年齢の世代間比較

図表 5-2 によれば、任期のない職を初めて取得した年齢は、理学で 29.4 歳、工学で 27.8 歳、医学で 30.8 歳、農学で 28.5 歳となっている。しかし、図表 4-4 の左列に表している 1970 年代生まれ（30～39 歳）で任期のない職を得ている者は、理学で 52%、工学で 68%、医学で 35%、農学で 64%となっている。図表 5-2 では、1960 年代以前に生まれた世代が若い時期に「任期のない職」に就いていることで「任期のない職」を得た平均年齢が下がっていると考えられる。

図表 5-3 では、「任期のない職」を経験したことがない者を包含して世代による違いを表すために「任期のない職」の経験割合を世代別に示している。図表 5-3 によれば、1970 年代生まれの世代は 1960 年代生まれの世代に比べて、「任期のない職」を得るのが遅れていることが分かる。30 歳時点における「任期のない職」の経験割合を 1960 年代生まれの世代と 1970 年代生まれの世代で比較すると、理学では 65%から 35%へ、工学では 82%から 52%へ、医学では 41%から 31%へ、農学では 69%から 53%へ低下している。

また、図表 5-3 においては 25 歳時点においても「任期のない職」の経験割合はゼロとなっていない。一般的な標準修業年限で博士課程を修了した場合は 27 歳が最年少となる

図表 5-3 任期のない研究本務職を経験した割合の世代間比較（全研究者）



※凡例にあるサンプルサイズは実線部分に対応している。点線部分は2009年12月31日時点で横軸の年齢に達していた回答者のみから算出しているため、サンプルサイズが減少する。



ため、25歳で職を得ているのは、修士号以前の学位で研究職に就いたことを示している。図表 5-3 において、1950 年代生まれ、1960 年代生まれ、1970 年代生まれの順に切片が低下しているのは、研究職に占める任期のない職の割合が減少したのみならず、修士号以前の学位で研究職に就く割合が低下したことが要因になっていると考えられる。

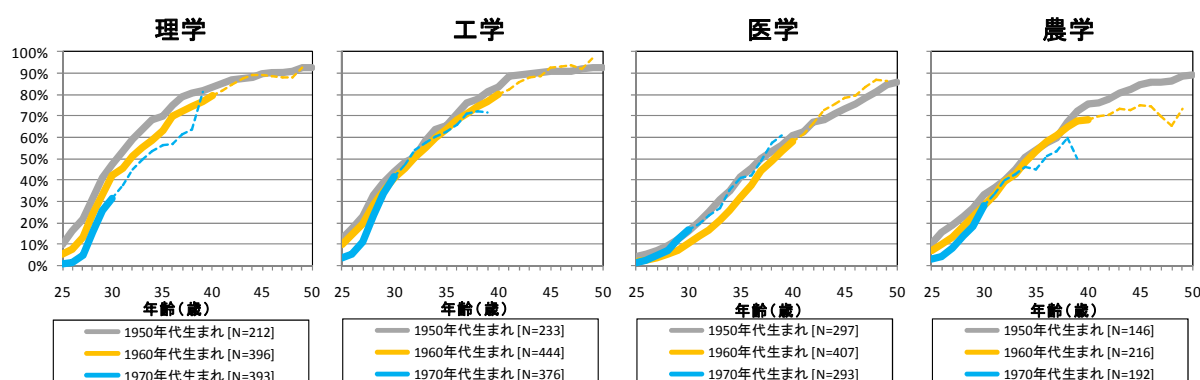
なお、図表 5-3 において、調査時期の 2009 年 12 月 31 日に  $x$  歳であった者は、 $x+1$  歳における研究環境の変化を知ることができない。このため、横軸の年齢が調査時期の年齢を超えてしまった場合には、そのサンプルを経験割合の分子と分母から減らして集計をしている。世代の全てのサンプルを利用できる箇所は実線にてグラフを描き、一部のサンプルしか利用できない箇所は点線にてグラフを描いている。<sup>21</sup> 点線の右端は 2009 年 12 月 31 日時点で年齢の下一桁が 9 であった者のみから算出しており、グラフは不安定となる。点線の右側ほどサンプルサイズが小さくなっていることには留意が必要である。

### 5.3 「研究者としての独立の自覚」を持った年齢の世代間比較

図表 5-4 では、「研究者としての独立の自覚」を持つ職を経験した割合を世代間で比較している。「研究者としての独立の自覚」を持つ職の経験割合は、1960 年代生まれから 1970 年代生まれの間で、分野によって異なる動きが現れている。30 歳時点における「研究者としての独立の自覚」の経験割合は理学で 42%から 31%へ減少したのに対し、工学は 41%、農学は 28%でそれぞれ横ばい、医学では 10%から 16%へ上昇している。

図表 5-3 で示したように、1960 年代生まれから 1970 年代生まれの間で 30 歳時点における「任期のない職」の経験割合がいずれの分野でも低下している。一方で図表 5-4 では、「研究者としての独立の自覚」の経験割合は分野によって異なる動きをしている。これらの経験割合の世代間比較から、任期の有無と「研究者としての独立の自覚」は無関係であることが示唆される。

図表 5-4 「研究者としての独立の自覚」を経験した割合の世代間比較（全研究者）



※凡例にあるサンプルサイズは実線部分に対応している。点線部分は2009年12月31日時点で横軸の年齢に達していた回答者のみから算出しているため、サンプルサイズが減少する。

<sup>21</sup> 経験は累積するため、各世代の全てがサンプルを利用可能な実線部分は原理的に右下がりになることはない。一方、点線部分は、集計対象外となった年齢で経験した者の割合が多かった場合は右下がりになり得る。(分子と分母から同じ数を引けば、分数は減少する。)

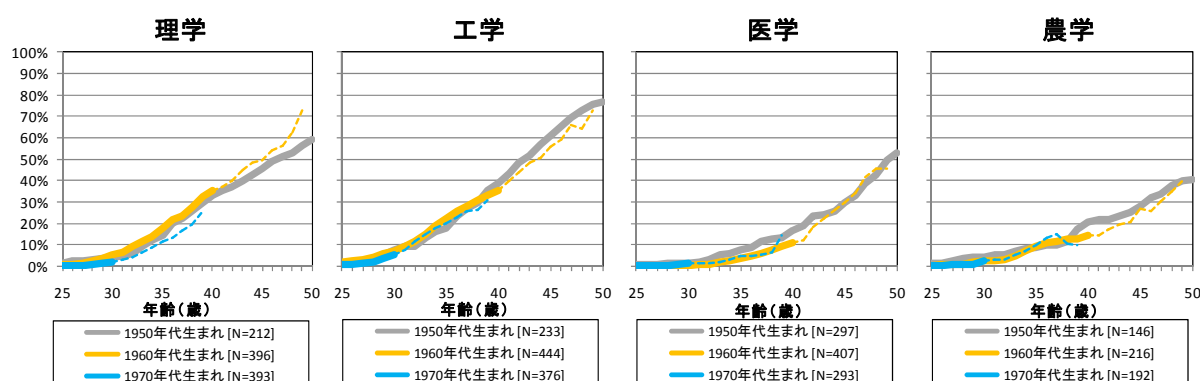
## 5.4 PI となった年齢の世代間比較

本報告書の調査した 5 つの研究環境・権限を満たした PI の割合を世代間で比較する。図表 5-5 では、PI の経験割合を世代別に表している。1970 年代生まれの世代と比較可能な 30 歳代においては PI の割合は高くないため、図表 5-5 では、大きな差異は見られないものの 1970 年代生まれの世代を表す青い線は、それ以前の世代を表す線よりも下側となっている傾向がある。

1970 年代生まれの世代において、凡例に記載しているサンプルサイズのおおよそ半分が利用できる 35 歳時点で PI の経験割合を見る。35 歳時点で PI となる割合は 1950 年代生まれ、1960 年代生まれ、1970 年代生まれの間で、理学においては 14%、18%、12%、工学においては 18%、22%、20%、医学においては 8%、3%、5%、農学においては 8%、9%、10%へと変化している。

理学、工学、医学においては、1960 年代生まれの世代の経験割合が、1950 年代生まれと 1970 年代生まれの間の経験割合となっていない。また、理学と工学においては 1960 年代生まれの世代が 35 歳時点で PI となる割合が最も高い一方で、医学においては最も低くなっている。1960 年代生まれの PI 経験割合は前後の世代の推移から外れ、研究分野間で異なる動きがあるなど複雑な動きが見られる。<sup>22</sup>

図表 5-5 PI を経験した割合の世代間比較（全研究者）



※凡例にあるサンプルサイズは実線部分に対応している。点線部分は2009年12月31日時点で横軸の年齢に達していた回答者のみから算出しているため、サンプルサイズが減少する。

<sup>22</sup> 1960 年代の生まれの研究者が 30 歳代となる 1990 年代は大学院重点化の時期と重なる。このため、大学院重点化が研究分野によって異なる影響を研究環境に与えた可能性がある。

## 5.5 研究環境・権限の経験状況の世代間比較

本節では、本務経験が大学（海外含む）のみの回答を用いて、研究分野ごとに研究環境・権限、独立の自覚、任期の状態の世代間比較を行う。「4.7 大学と公的研究機関の比較」で示したように大学と公的研究機関では、研究環境が大きく異なっている。研究職歴において、大学以外の機関を経験した者では、大学に所属する者よりも各種の研究環境・権限の獲得が遅れる傾向にある一方で「任期のない職」は大学に所属する者よりも獲得が早まる傾向にある。機関種による経験の時期の違いを取り除くため、本節以降は本務として大学のみを経験した者を抽出して分析を行う。

図表 5-6 では、研究分野ごとに本務経験が大学（海外を含む）のみの割合を示している。全体としては 4,305 名中 2,256 名（52%）の回答を利用することができる。本務経験が大学のみ者の割合は理学で 53%、工学で 46%、医学で 70%、農学で 32%となっている。農学においては利用可能なサンプルサイズが 188 名となっており、さらに世代で区分すると各世代で 100 名に満たないサンプルから考察をせざるを得ない。このため、農学における分析結果の解釈には注意が必要である。

図表 5-6 本務経験が大学（海外の大学を含む）のみの回答者割合

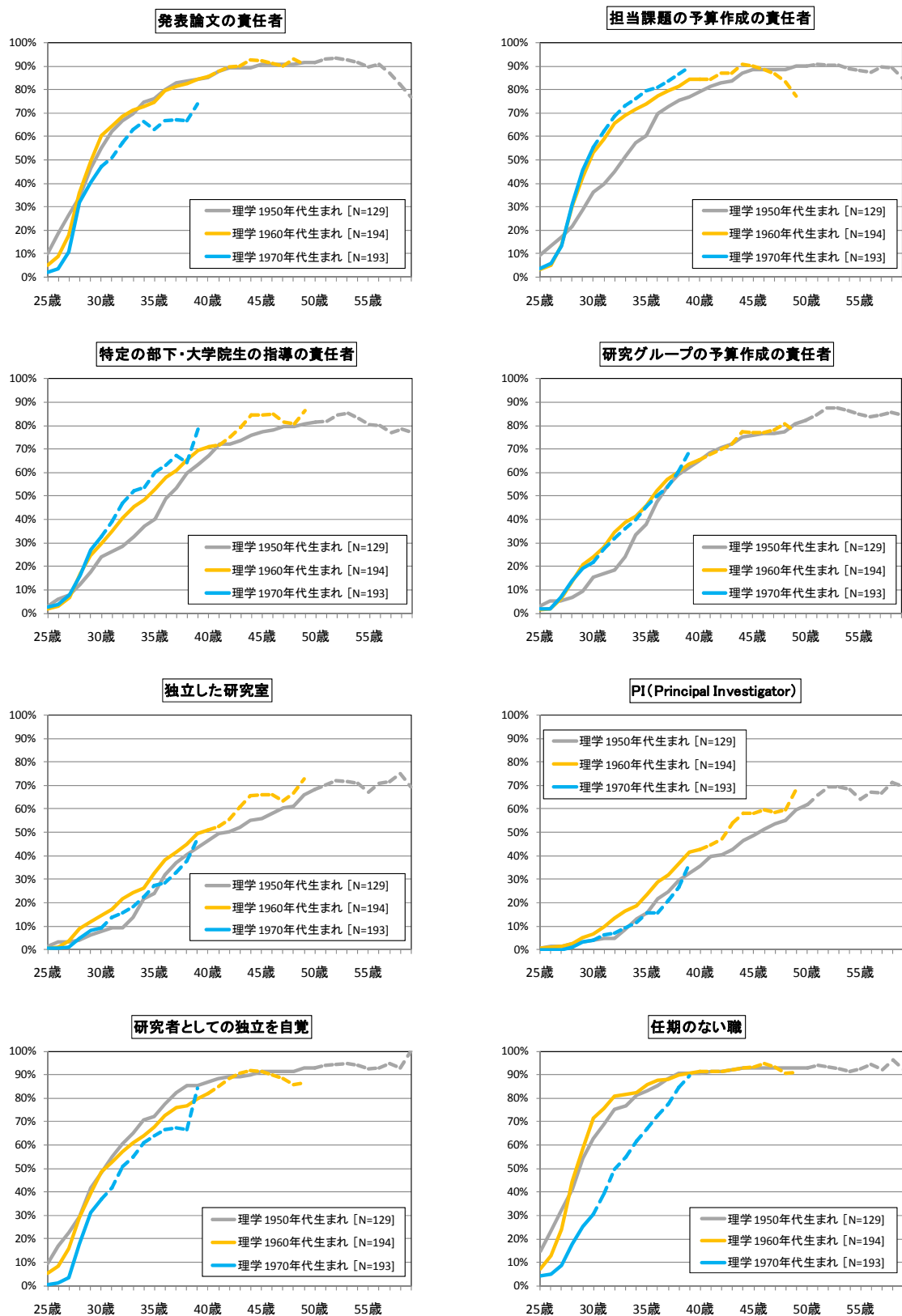
	経歴を遡る分析が可能な回答数	現職の本務が国内大学の回答	本務経験が大学（海外を含む）のみの回答数	経歴を遡る分析が可能な回答数に占める本務経験が大学（海外を含む）のみの割合
理学	1,101	826	583	53.0%
工学	1,204	891	559	46.4%
医学	1,055	999	742	70.3%
農学	595	289	188	31.6%
人社	87	75	57	65.5%
複合（詳細分野の選択回数）	133	98	64	48.1%
課程学位の分野情報欠測	130	93	63	48.5%
合計	4,305	3,271	2,256	52.4%

以下では過去の本務経験が大学のみ者を抽出し、研究分野ごとに経験割合の世代間比較を行う。図表 5-7 は理学、図表 5-8 は工学、図表 5-9 は医学、図表 5-10 は農学の世代間比較の結果を表している。

図表 5-7 から図表 5-10 の左側の一段目の図は「発表論文の責任者」の経験割合に関する世代間比較を示している。理学において 30 歳時点の経験割合が 1960 年代生まれの世代で 60%であったが 1970 年代生まれの世代では 47%と権限の獲得が遅れている。一方、工学においては 30 歳時点の経験割合は 1960 年代生まれの世代で 76%であったが、1970 年代生まれは 78%と微増となっている。医学においては 30 歳時点の経験割合は 1960 年代生まれの世代で 25%であったが、1970 年代生まれは 24%と微減となっている。農学においては 30 歳時点の経験割合は 1960 年代生まれの世代で 66%であったが、1970 年代生まれは 50%に低下している。30 歳時点における「発表論文の責任者」の経験割合を 1960 年代生まれの世代と 1970 年代生まれの世代で比較すると、工学において微増しているが、医学で微減、理学と農学では大きく低下している。

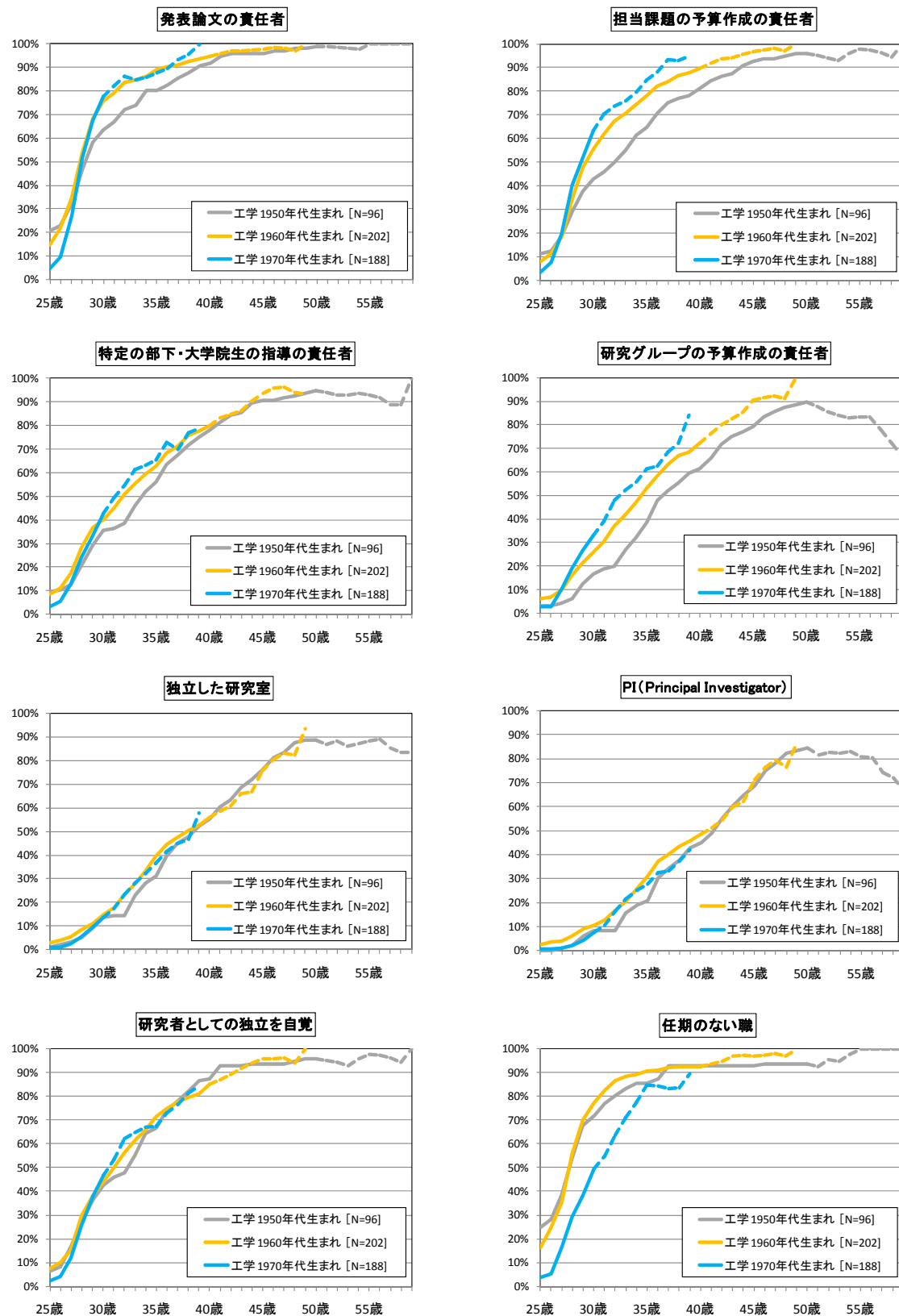
図表 5-7 から図表 5-10 の右側の一段目の図は「担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者」の経験割合に関する世代間比較を示している。30 歳時点において 1960 年代生まれ

図表 5-7 理学分野における研究に関する経験割合の世代間比較（本務経験が大学のみの者）



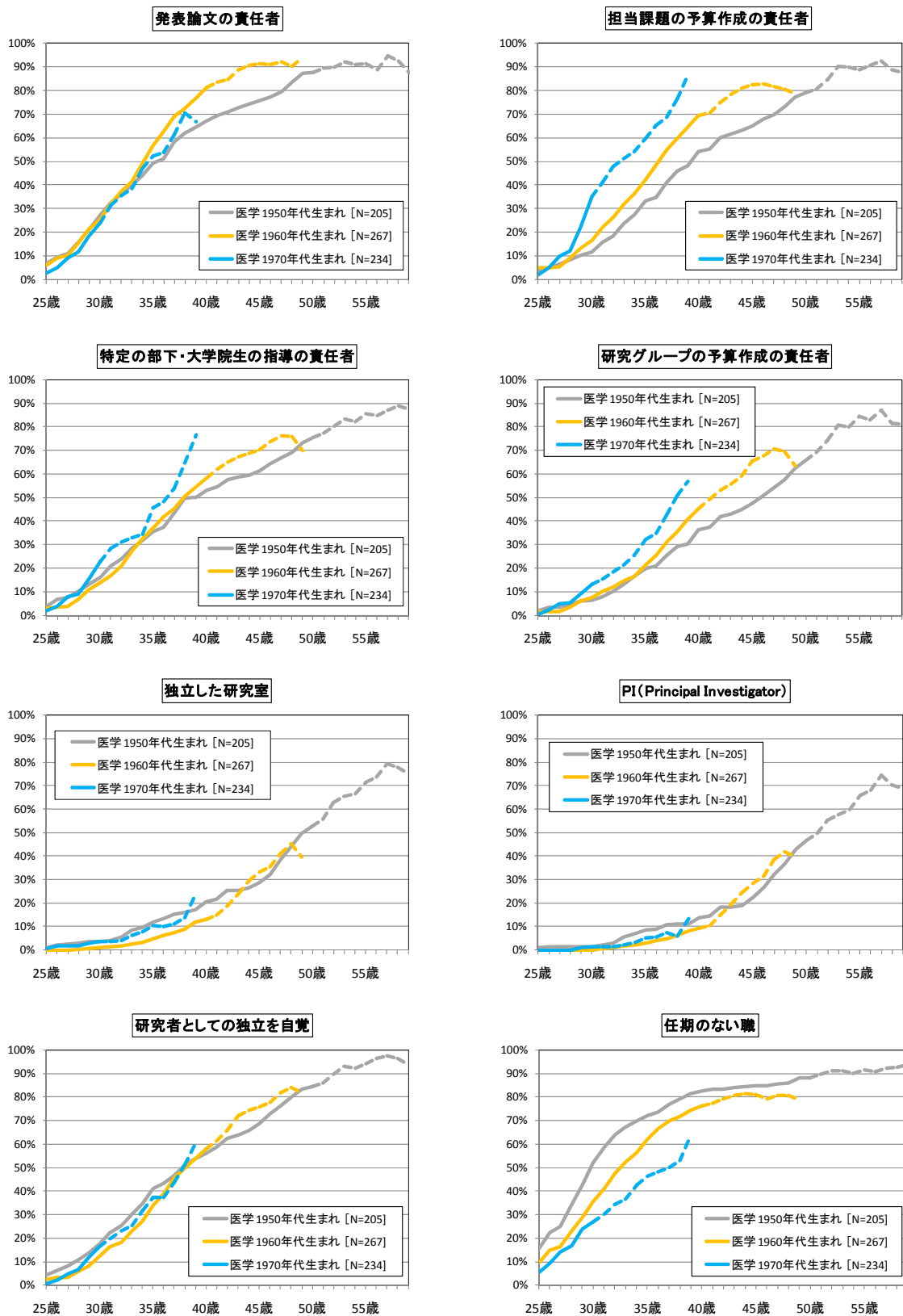
※凡例にあるサンプルサイズは実線部分に対応している。点線部分は2009年12月31日時点で横軸の年齢に達していた回答者のみから算出しているため、サンプルサイズが減少する。

図表 5-8 工学分野における研究に関する経験割合の世代間比較（本務経験が大学のみの者）



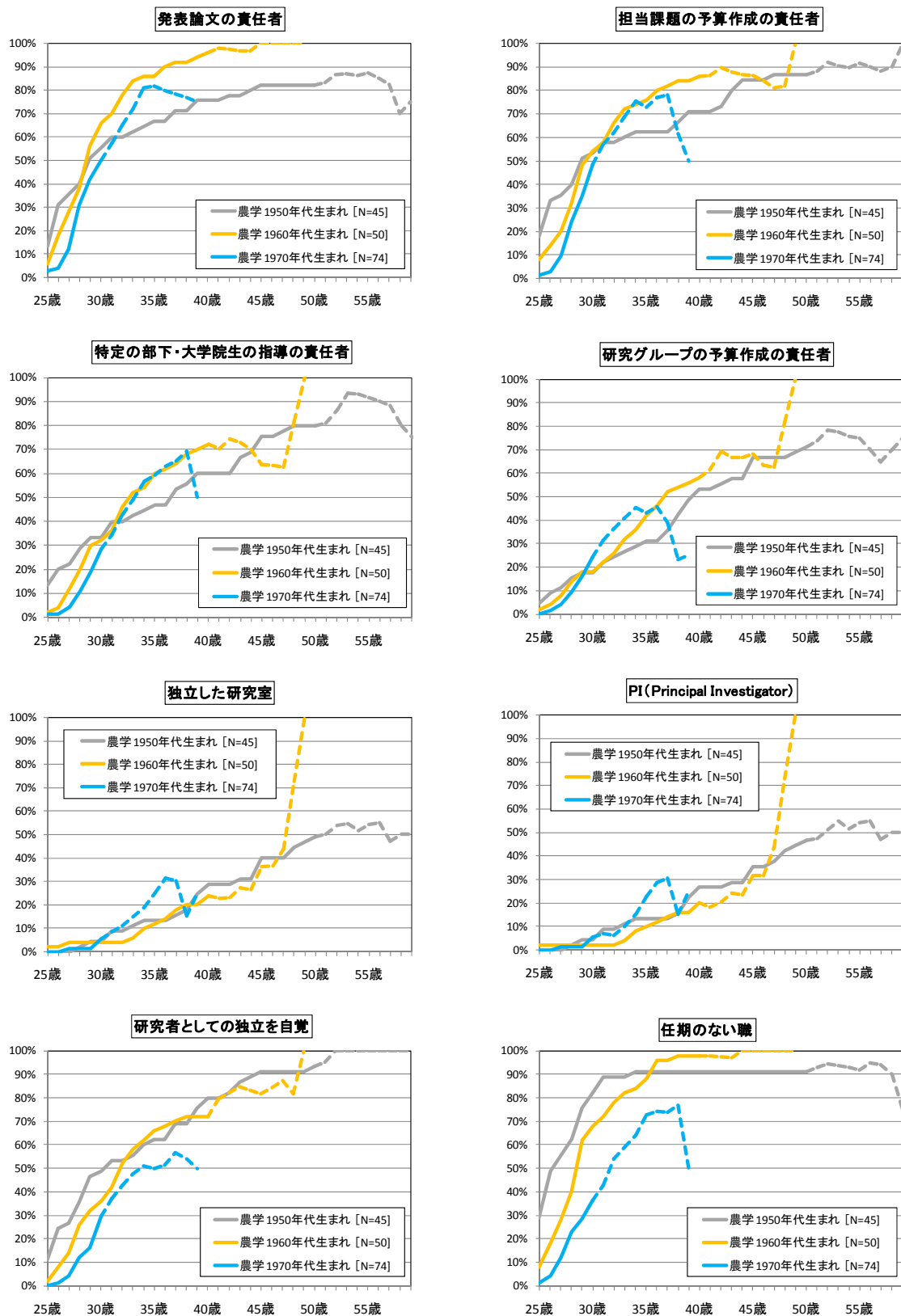
※凡例にあるサンプルサイズは実線部分に対応している。点線部分は2009年12月31日時点で横軸の年齢に達していた回答者のみから算出しているため、サンプルサイズが減少する。

図表 5-9 医学分野における研究に関する経験割合の世代間比較（本務経験が大学のみの者）



※凡例にあるサンプルサイズは実線部分に対応している。点線部分は2009年12月31日時点で横軸の年齢に達していた回答者のみから算出しているため、サンプルサイズが減少する。

図表 5-10 農学分野における研究に関する経験割合の世代間比較（本務経験が大学のみの方）



※凡例にあるサンプルサイズは実線部分に対応している。点線部分は2009年12月31日時点で横軸の年齢に達していた回答者のみから算出しているため、サンプルサイズが減少する。

と1970年代生まれの世代を比較すると、理学で53%から55%へ、工学で55%から63%へ、医学で16%から35%へ上昇している。一方、農学では54%から49%へ低下している。「担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者」は農学を除いて、若い世代で権限が拡大している。

図表5-7から図表5-10の左側の二段目の図は「特定の部下(大学院生)の指導の責任者」の経験割合に関する世代間比較を示している。1960年代生まれにおいて凡例に記載している約半数のサンプルサイズが確保できる35歳時点において1960年代生まれと1970年代生まれを比較すると、理学において53%から60%、工学において63%から65%、医学において37%から46%へと上昇している。一方、農学では60%から59%へ微減となっている。「特定の部下(大学院生)の指導の責任者」に関して、総じて若い世代で権限が拡大している。

図表5-7から図表5-10の右側の二段目の図は「研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者」の経験割合に関する世代間比較を示している。35歳時点において1960年代生まれと1970年代生まれを比較すると、理学において46%では横ばいとなっている一方で、工学において53%から61%、医学において21%から32%へ、農学において42%から43%へと上昇している。「研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者」に関しても、総じて若い世代で権限が拡大している。

図表5-7から図表5-10の左側の三段目の図は「独立した研究室」を持ったことのある割合に関する世代間比較を示している。35歳時点において1950年代生まれ、1960年代生まれ、1970年代生まれの世代を比較すると、理学において24%、32%、27%へ、工学において31%、40%、37%へ、医学において12%、5%、10%へ、農学において13%、12%、25%と変化している。どの分野においても、1960年代生まれの世代が1950年代生まれの世代と1970年代生まれの世代の間の値になっておらず、理学と工学においては高率に偏り、医学と農学においては低率に偏っている。

図表5-7から図表5-10の右側の三段目の図は「PI (Principal Investigator)」の経験割合に関する世代間比較を示している。35歳時点において、1950年代生まれ、1960年代生まれ、1970年代生まれの世代を比較すると、理学において16%、24%、16%へ、工学において21%、31%、28%へ、医学において8%、3%、5%へ、農学において13%、10%、23%と変化している。1950年代生まれと1970年代生まれを比較すると理学で横ばい、工学と農学で上昇、医学で低下となっている。また、1960年代生まれの世代が1950年代生まれの世代と1970年代生まれの世代の間の値になっていない。理学と工学においては高率に偏り、医学と農学においては低率に偏っている点は、「独立した研究室」と同じである。

図表5-7から図表5-10の左側の四段目の図は「研究者としての独立の自覚」を持ったことのある割合に関する世代間比較を示している。30歳時点において、1950年代生まれ、1960年代生まれ、1970年代生まれの世代を比較すると、理学において48%、48%、37%へ、工学において43%、44%、47%へ、医学において18%、12%、16%へ、農学において49%、36%、30%と変化している。1950年代生まれと1970年代生まれを比較すると、工学では若い世代ほど「研究者としての独立の自覚」を持った経験がある一方で、農学においては若い世代ほど「研究者としての独立の自覚」を持った経験がなくなっている。また、理学においては1960年代生まれで横ばいの後に1970年代生まれで低下した一方で、医学



においては1960年代生まれでいったん低下した後に1970年代生まれで上昇している。「研究者としての独立の自覚」の世代による変化は、分野ごとに異なる変遷がある。

図表 5-7 から図表 5-10 の右側の四段目の図は「任期のない職」の経験割合に関する世代間比較を示している。1960 年代生まれと 1970 年代生まれの世代の間に大きな差異があるのは図表 5-3 で見た通りである。30 歳時点において 1960 年代生まれと 1970 年代生まれの世代を比較すると、理学において 72%から 31%へ、工学において 77%から 49%へ、医学において 36%から 27%へ、農学において 68%から 36%へ低下している。また 35 歳時点において 1960 年代生まれと 1970 年代生まれの世代を比較すると、理学において 86%から 67%、工学において 91%から 85%へ、医学において 62%から 46%へ、農学において 88%から 73%へ低下している。1960 年代生まれと 1970 年代生まれの世代の間に低下している傾向は 30 歳時点と 35 歳時点で同じであるものの、医学を除いて世代間の差異は 35 歳時点で縮まっている。理学、工学、農学に関しては、1970 年代に生まれた世代でも 30 歳代前半に「任期のない職」を得る傾向が現れている。

研究環境・権限毎に見ると「発表論文の責任者」は工学を除き、権限の取得が若い世代で遅れている。その一方で、「担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者」「特定の部下（大学院生）の指導の責任者」「研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者」は総じて若い世代で権限が拡大している傾向が見られる。しかしながら、一般に PI となるための最後の条件となる「独立した研究室」を持った経験は、1960 年代生まれの世代が 1950 年代生まれの世代と 1970 年代生まれの世代の間の値になっていない。PI の経験割合に対しても「独立した研究室」を持った経験割合に対応する形で変化し、世代による推移は単調ではない。

なお、本節では本務経験が大学のみを抽出して分析したが、全研究者での分析結果を【参考資料 2：参考図表-世代】に示している。関心がある読者は参照されたい。

## 5.6 PI（Principal Investigator）の条件に関する考察

図表 5-7 から図表 5-10 における右側の三段目の図で見たように、本務経験が大学のみ者に限っても、35 歳時点における PI の経験割合を 1950 年代生まれ、1960 年代生まれ、1970 年代生まれの世代を比較すると、各分野で世代による推移は単調ではない。さらには、1960 年代生まれの世代が 1950 年代生まれの世代と 1970 年代生まれの世代の間の値になっておらず、理学と工学においては高率に偏り、医学と農学においては低率に偏っている点は、「独立した研究室」と同じである。

図表 4-8 に示しているように、各分野で「独立した研究室」と「PI」相関係数は 0.86 を超えている。「独立した研究室」を持つ以前の状態で、PI の要件とした他の 4 条件は満たしていることが一般的であり、「独立した研究室」を持つことが即ち PI を意味するケースが多い。本報告書において設定した PI の条件において、「独立した研究室」を持つことが PI となることを大きく左右する。

PI となることを左右する「独立した研究室」ではあるが、その定義には不明瞭であった可能性がある。「独立した研究室」は、調査票に“大学の研究室相当”と注記し、必ずしも部屋を意味するわけではない。しかし、その判別には主観が入る余地があるため、図表 4-13

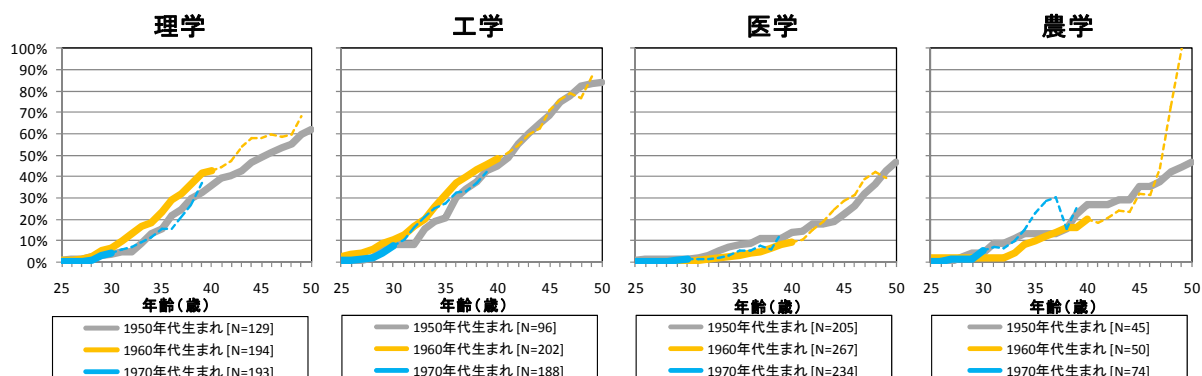
に示されているように公的研究機関においては「わからない・その他」の割合が高くなってしまっている。

このため、本節では調査項目となった研究環境・権限の5条件でのPIと5条件から「独立した研究室」を除いた4条件すなわち「発表論文の責任者」「担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者」「特定の部下（大学院生）の指導の責任者」「研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者」の4項目を満たす場合を比較する。

図表 5-11 は、本報告書において設定したPIであり、図表 5-7 から図表 5-10 における右側の三段目と同じデータを用いている。前節において見たように35歳時点において、1950年代生まれ、1960年代生まれ、1970年代生まれの世代を比較すると、理学において16%、24%、16%へ、工学において21%、31%、28%へ、医学において8%、3%、5%へ、農学において13%、10%、23%と変化している。一方、図表 5-12 ではPIの条件から「独立した研究室」を外して、4条件を全て満たした経験割合を示している。同じく35歳時点において1950年代生まれ、1960年代生まれ、1970年代生まれの世代を比較すると、理学において26%、31%、27%へ、工学において31%、44%、46%へ、医学において15%、12%、20%へ、農学において22%、40%、32%と変化している。

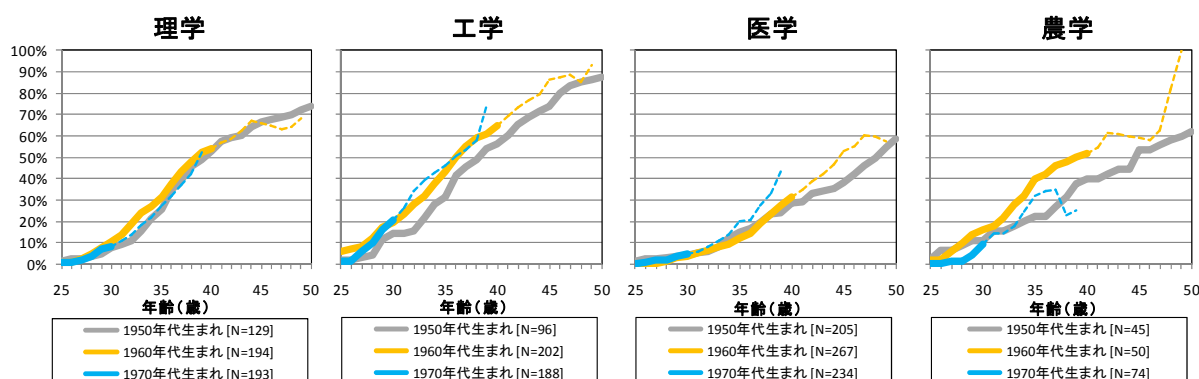
4条件にした場合でも、理学、医学、工学においては「独立した研究室」と同じく1960年代生まれの世代における経験割合が、1950年代生まれの世代と1970年代生まれの世代

図表 5-11 PI の経験割合の世代間比較（本務経験が大学のみの者）



※凡例にあるサンプルサイズは実線部分に対応している。点線部分は2009年12月31日時点で横軸の年齢に達していた回答者のみから算出しているため、サンプルサイズが減少する。

図表 5-12 「独立した研究室」を除く4条件の経験割合の世代間比較（本務経験が大学のみの者）



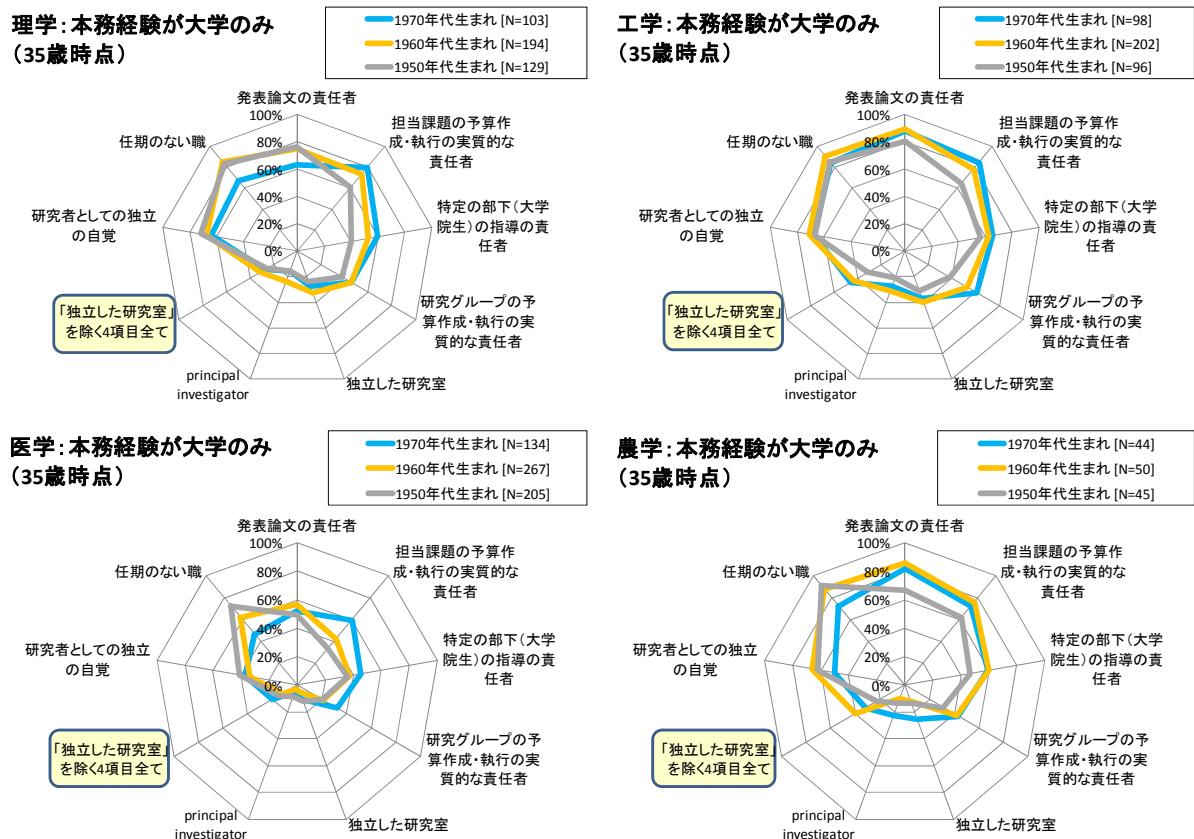
※凡例にあるサンプルサイズは実線部分に対応している。点線部分は2009年12月31日時点で横軸の年齢に達していた回答者のみから算出しているため、サンプルサイズが減少する。

の経験割合の間に入っておらず、世代による推移は単調ではない。しかしながら、1950年代生まれの世代から1970年代生まれの変化を見ると、理学で26%から27%へ、工学で31%から46%へ、医学で15%から20%へ、農学で22%から32%と各分野で増加している。「独立した研究室を持つ」という条件を除けば、総じて研究環境・権限はより若い世代で改善の傾向が見られる。

図表 5-13 では35歳時点における「独立した研究室」を除いた4条件を加えた研究環境・権限、独立の自覚、任期のない職の割合をレーダーチャートで表している。<sup>23</sup> 1970年代生まれの世代と1950年代生まれの世代の研究環境・権限の割合を比較すると、1970年代生まれの世代の方が該当者の割合が低いのは、4分野・5項目の20種の権限のうち、低いのは理学の「発表論文の責任者」、医学の「独立した研究室」の20種中2種のみである。一方、1970年代生まれの世代と1960年代生まれの世代の研究環境・権限の割合を比較すると、1970年代生まれの世代の方が該当者の割合が低いのは20種中9種類でおよそ半分となっている。

1970年代生まれの世代の研究環境・権限は、1950年代生まれの世代と比較すると総じて改善している。一方、1970年代生まれの世代の研究環境・権限を1960年代生まれの世代と比較すると、割合が高い項目と低い項目がおおよそ半分かちとなり、明瞭な変化は見られない。

図表 5-13 35歳時点の世代間比較レーダーチャート（本務経験が大学のみの方）



<sup>23</sup> 図表 5-13 における1970年代生まれの世代は2009年12月31日で35歳に達していた1970年～1974年生まれのみとなっている。このため図表 5-13 の凡例にある1970年代生まれのサンプルサイズは、図表 5-7～図表 5-12 に比べて減少している。

## 第6章 PI 経験年齢別グループによる比較分析

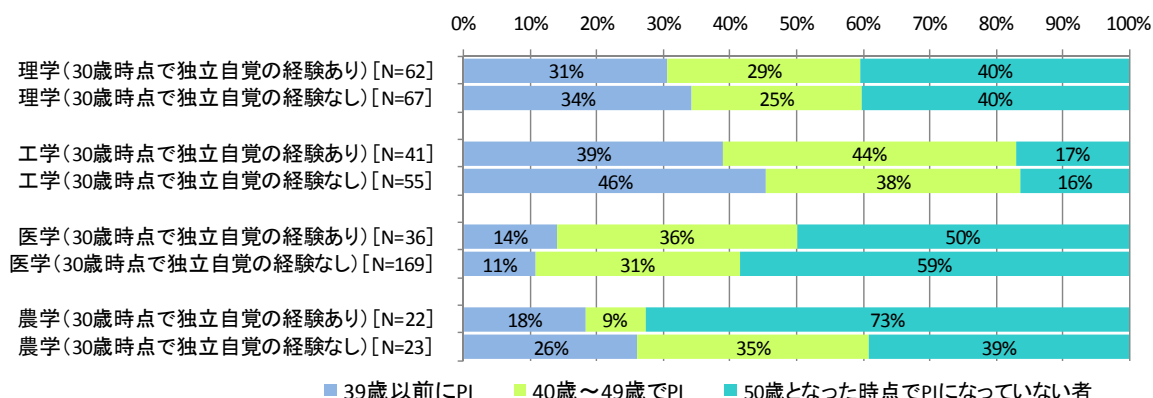
### 6.1 PI 経験年齢によるグルーピング

本章では、PI 経験年齢層別にグループを作り、PI になる年齢層と他の属性の関係を考察する。なお PI 所得年齢のグループとして「39 歳以前に PI」「40～49 歳で PI」「50 歳となった時点で PI になっていない者」の 3 種のグループを設定する。このため、調査時点で 50 歳時点を超えているサンプルのみが分析対象となり得る。本章では、本務経験が大学のための者を抽出し、2009 年 12 月 31 日時点で 50 歳～59 歳であった 1950 年代生まれの者に限定をして分析を行う。このため、本章で行う分析はサンプルサイズが小さく、試行的な考察となっている。

### 6.2 「独立の自覚」を持った年齢と PI 経験年齢

図表 6-1 では、本務経験が大学のための研究者を抽出し、30 歳までに「研究者としての独立の自覚」を持った経験別に PI 経験年齢層の割合を描いている。図表 6-1 によれば、理学、工学、農学においては 30 歳までに「研究者としての独立の自覚」を持ったことのないの方が若くして PI となる傾向があることを示している。一方、医学に関しては 30 歳までに「研究者としての独立の自覚」を持ったことのあるの方が若くして PI になる傾向を示している。必ずしも、早期に「研究者としての独立の自覚」を持った者の方が早期に PI になるとは限らず、その関係は分野によって異なっている。

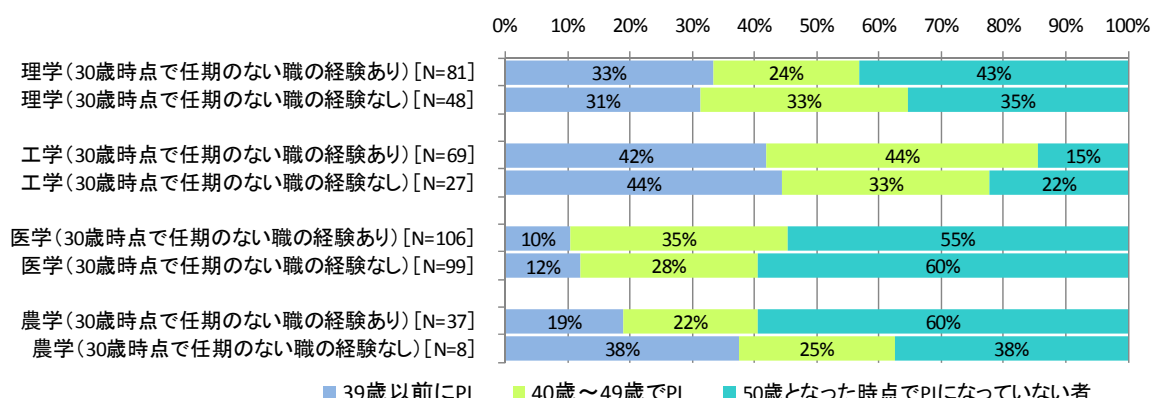
図表 6-1 30 歳までの「独立の自覚」と PI 経験年齢（本務経験が大学のための 1950 年代生まれの者）



### 6.3 「任期のない職」を得た年齢と PI 経験年齢

図表 6-2 では、本務経験が大学のみを抽出し、30 歳までの「任期のない職」の経験別に PI 経験年齢層の割合を描いている。図表 6-2 によれば、理学、工学、医学においては 30 歳までの「任期のない職」の経験の有無によって、PI の経験年齢は影響を受けていないようである。一方、農学においてはサンプルサイズに留意が必要ではあるが、30 歳までの「任期のない職」を経験していない者の方が若くして PI となる傾向が見られる。

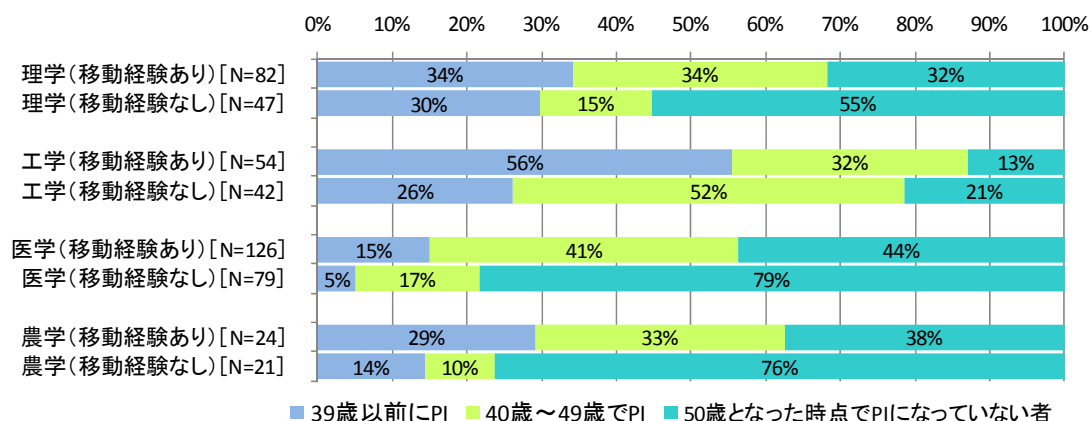
図表 6-2 30 歳までの「任期のない職」と PI 経験年齢（本務経験が大学のみ 1950 年代生まれの者）



### 6.4 研究機関の移動経験と PI 経験年齢

図表 6-3 は、本務経験が大学のみを抽出し、研究機関の移動経験別すなわち大学間の移動経験別に PI 経験年齢を示している。図表 6-3 によれば、全ての分野において、移動経験のある者の方がより早く PI になっている傾向にある。工学、医学、農学においてその差異が大きく、移動を経験した者が 39 歳以前に PI となる割合は移動を経験しない者に比べて 2 倍以上となっている。逆に言えば、同一大学内の内部昇格のみの場合は PI になる年齢が遅れる、あるいは PI となりにくい傾向が見られる。

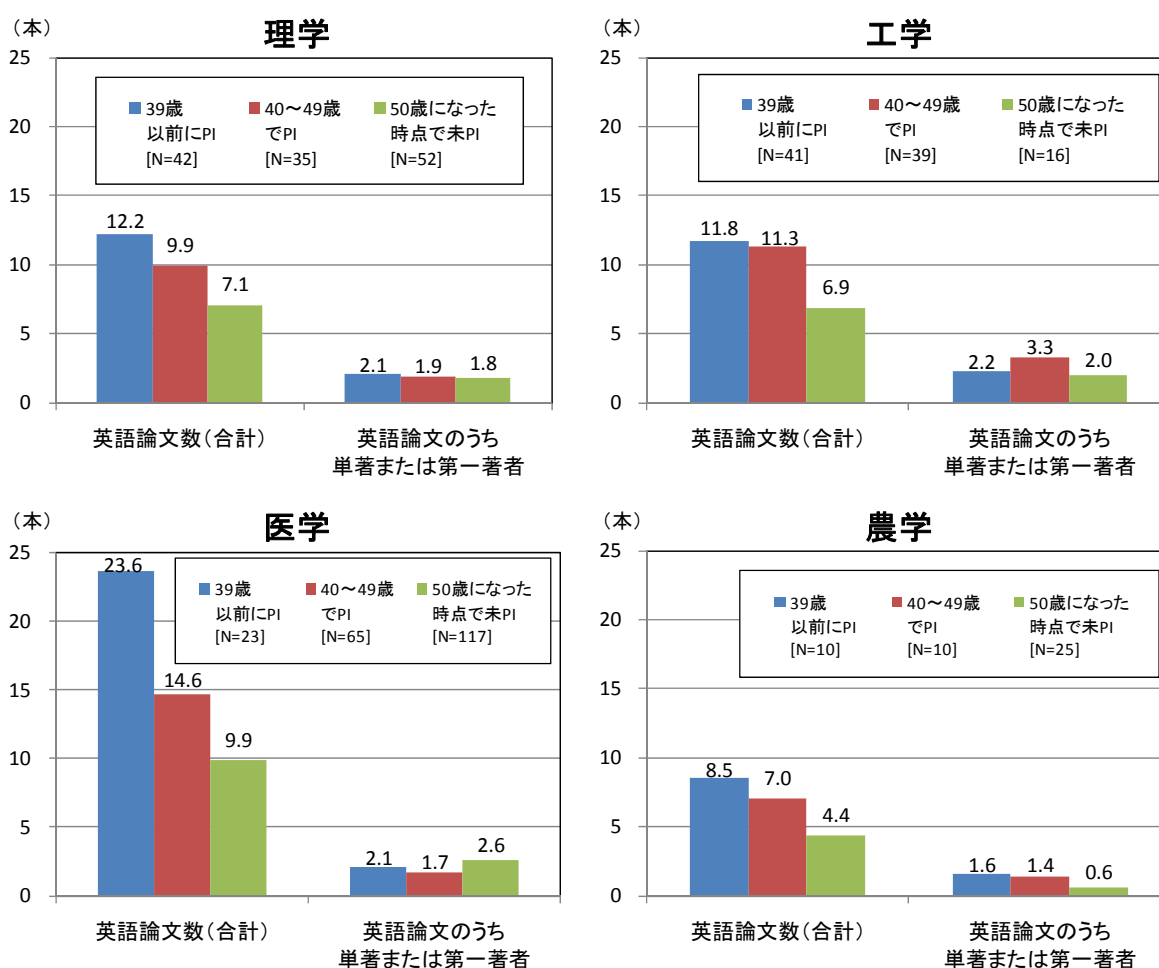
図表 6-3 大学間の移動経験別の PI 経験年齢（本務経験が大学のみ 1950 年代生まれの者）



## 6.5 PI 経験年齢と論文生産性

図表 6-4 では、PI となった年齢層別に過去 3 年間の英語論文数を比較している。若い時期に PI となった者の方が英語論文の本数が多い。特に医学ではその傾向が顕著で、40 歳代に PI になった者の平均論文数が 14.6 本であるのに対し、39 歳以前に PI になった者の平均論文数は 23.6 本となっている。なお、英語論文数（合計）の内数となっている単著・第一著者数には PI 経験年齢によって顕著な違いが見られないことから、PI となった者が研究チームを組織して論文を作成しているものと推察される。

図表 6-4 PI となった年齢別 過去 3 年間の英語論文数(本務経験が大学のための 1950 年代生まれの者)



## 第7章 終わりに

本報告書では、大学や公的研究機関に属する研究者の職歴や研究環境のデータを用いて、研究者の独立の過程および独立した研究者(PI: Principal Investigator)の条件を考察した。その結果、発表論文に関する責任、個人課題を含む予算管理、指導の責任、グループの予算管理、独立した研究室を持つという順序で研究環境・権限が拡大していく様子が定量的に確認された。

また、本調査における「独立した研究室」は、調査票に"大学の研究室相当"と注記し、必ずしも部屋を意味するわけではない。しかし、回答者にとっては明確な判別が困難であった可能性がある。「独立した研究室」を PI の要件とすべきかの判断や「独立した研究室」の定義は今後の検討対象となり得る。

研究職歴から本務経験が大学のみを抽出し、「独立した研究室」を除いた 4 項目を全て満たした経験割合に着目すると、1950 年代生まれの世代から 1970 年代生まれの世代間で、理学で 26%から 27%へ、工学で 31%から 46%へ、医学で 15%から 20%へ、農学で 22%から 32%と各分野で増加している。同一年齢時点で評価すると、より若い世代において研究における権限は総じて拡大していることが確認された。しかしながら、1960 年代生まれの世代の研究環境・権限の経験割合は 1950 年代生まれの世代と 1970 年代生まれの世代の間の割合とはなっていないケースが多く、世代による推移は単調ではない。この原因の究明は今後の課題となっている。

また、若い世代において任期付きの研究者の割合が増加しているが、同等の職階であれば任期付き研究者であっても研究における権限は任期のない研究者とほぼ同等となっている。加えて、任期の有無と「研究者としての独立の自覚」にも明瞭な関係は見られない。総じて、任期の有無は研究環境や研究者の独立の自覚と無関係であることが示唆される。

## 参考文献

- 有本章・江原武一編（1996）『大学教授職の国際比較』，玉川大学出版部。
- ウィリアム K. カミングス著，岩内亮一・友田泰正訳（1972）『日本の大学教授』，至誠堂。
- OECD 編著，門田清訳（2009）『科学技術人材の国際流動性 - グローバル人材競争と知識の創造・普及』，明石書店。
- 科学技術政策研究所（2009a）「第3期科学技術基本計画のフォローアップに係る調査研究 - 科学技術人材に関する調査 報告書」，『NISTEP Report』，123，文部科学省 科学技術政策研究所。
- 科学技術政策研究所（2009b）「第3期科学技術基本計画のフォローアップに係る調査研究 - 我が国の博士課程修了者の進路動向調査 報告書」，『NISTEP Report』，126，文部科学省 科学技術政策研究所。
- 科学技術政策研究所・三菱総合研究所（2005）「基本計画の達成効果の評価のための調査 - 主要な科学技術関係人材育成関連プログラムの達成効果及び問題点」，『NISTEP Report』，86，文部科学省 科学技術政策研究所。
- 小林信一・塚原修一・山田圭一（1986）「研究者の流動性と研究能力の向上に関する研究」，『大学研究ノート』，65，広島大学 大学教育研究センター。
- 治部眞里・近藤隆（2007）「JST ReaD における科学技術人材の流動性に関する考察」，『情報管理』，50(7)，pp.437-445. 科学技術振興機構
- 新堀通也（1965）『日本の大学教授市場 学閥の研究』，東洋館出版社。
- 中務貴之・治部眞里・角田英之（2009）「我が国の科学技術人材の流動性調査」，『調査資料』，163，文部科学省 科学技術政策研究所。
- 細坪護孝（2010）「国立大学教授へのキャリアパス - 国立大学間異動と昇格の実態に関する分析」，『Discussion Paper』，60，文部科学省 科学技術政策研究所。
- 襲岩晶・三須敏幸・角田英之（2008）「ポストドクター等の研究活動及び生活実態に関する分析」，『調査資料』，159，文部科学省 科学技術政策研究所。
- 三須敏幸・襲岩晶・角田英之（2008）「ポストドクター等のキャリア選択に関する分析」，『調査資料』，162，文部科学省 科学技術政策研究所。
- 村上由紀子（2010）『頭脳はどこに向かうのか - 人「財」の国際移動』，日本経済新聞出版社。
- 文部科学省 科学技術・学術政策局（2005）『我が国の研究活動の実態に関する調査報告』，文部科学省。
- 山野井敦徳（1990）『大学教授の移動研究 学閥支配の選抜・配分のメカニズム』，東信堂。
- Auriol, Laudeline (2010) "Careers of Doctorate Holders: Employment and Mobility Patterns," STI WORKING PAPER 2010/4, OECD
- Bound, John, Sarah Turner, and Patrick Walsh (2009) "Internationalization of U.S. Doctorate Education," in Richard B. Freeman and Daniel L. Goroff (eds.), Science and Engineering Careers in the United States: An Analysis of Markets and Employment, University of Chicago Press/NBER, pp. 59-97.



## 謝辞

本報告書の完成に当たり、本調査〔アカデミックキャリアパスの実態把握のための調査〕にご回答を頂いた 4,456 名の研究者に感謝を申し上げます。2 名の担当で短期間の調査設計を行い、6,718 名に対する大規模調査を実施したため、調査設計、問い合わせ対応、回答のエラーチェック、督促に至らぬ点もあった。それにもかかわらず、丁寧にご回答頂いたことで 66.3% の高い有効回答率が達成でき、価値あるデータを得ることができた。ここに記して深謝の意を表する。

また、前回調査：〔研究組織の人材の現状と流動性に関する調査（研究者調査）〕の回答を Excel のシートに転記するプログラムを作成して頂いた近藤隆さん、回答のエラーチェックを行い、回答者リストを整理して頂いた坪谷伊希子さん、図表の作成を手伝って頂いた飯浜祐司さん、大谷紀子さんにも感謝を申し上げます。

## 調査分析業務の分担

### 科学技術政策研究所 第1調査研究グループ

調査設計	: 中務貴之、斎藤経史
調査の実施	: 中務貴之、斎藤経史
データ分析	: 斎藤経史、中務貴之
報告書執筆	: 斎藤経史、中務貴之
報告書確認	: 茶山秀一、中務貴之



## 参考資料目次

## 参考資料1: 本文内の図の元データ

図表4-3値	研究環境・権限、独立の自覚、任期のない職の割合表 (分野別)	[参考資料1-1]
図表4-4値	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表 (分野別)	[参考資料1-2]
図表4-5値	研究環境・権限、独立の自覚の有無の内訳表 (任期の有無: 職階別)	[参考資料1-3]
図表4-7値	研究環境・権限、任期の有無の内訳表 (「独立の自覚」の有無: 年齢層別)	[参考資料1-4]
図表4-10値	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表 (移動経験: 年齢層別)	[参考資料1-5]
図表4-14値	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表 (機関種別: 職階別)	[参考資料1-6]
図表4-15値	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表 (大学種別: 年齢層別)	[参考資料1-7]
図表5-7値	理学分野における研究に関する経験割合の世代間比較表 (本務経験が大学のみの者)	[参考資料1-8]
図表5-8値	工学分野における研究に関する経験割合の世代間比較表 (本務経験が大学のみの者)	[参考資料1-8]
図表5-9値	医学分野における研究に関する経験割合の世代間比較表 (本務経験が大学のみの者)	[参考資料1-9]
図表5-10値	農学分野における研究に関する経験割合の世代間比較表 (本務経験が大学のみの者)	[参考資料1-9]

## 参考資料2: 参考図表

### 参考図表-詳細分野

詳細分野1	詳細分野と年齢層のクロス表	[参考資料2-1]
詳細分野2	詳細分野と職階のクロス表	[参考資料2-2]
詳細分野3	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート (理学)	[参考資料2-3]
詳細分野3値	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表 (理学)	[参考資料2-4]
詳細分野4	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート (工学)	[参考資料2-5]
詳細分野4値	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表 (工学)	[参考資料2-6]
詳細分野5	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート (医学)	[参考資料2-7]
詳細分野5値	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表 (医学)	[参考資料2-7]
詳細分野6	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート (農学)	[参考資料2-8]
詳細分野6値	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表 (農学)	[参考資料2-8]

## 参考図表-属性

属性1	研究環境・権限、独立の自覚の有無のレーダーチャート (任期の有無:年齢層別)【図表4-5別版】	[参考資料2-9]
属性1値	研究環境・権限、独立の自覚の有無の内訳表 (任期の有無:年齢層別)【図表4-5別版】	[参考資料2-10]
属性2	研究環境・権限、任期の有無のレーダーチャート (「独立の自覚」の有無:職階別)【図表4-7別版】	[参考資料2-11]
属性2値	研究環境・権限、任期の有無の内訳表 (「独立の自覚」の有無:職階別)【図表4-7別版】	[参考資料2-12]
属性3	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート (移動経験:職階別)【図表4-10別版】	[参考資料2-13]
属性3値	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表 (移動経験:職階別)【図表4-10別版】	[参考資料2-14]
属性4	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート (性別:年齢層別)	[参考資料2-15]
属性4値	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表 (性別:年齢層別)	[参考資料2-16]
属性5	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート (性別:職階別)	[参考資料2-17]
属性5値	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表 (性別:職階別)	[参考資料2-18]
属性6	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート (最終学歴の大学種:年齢層別)	[参考資料2-19]
属性6値	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表 (最終学歴の大学種:年齢層別)	[参考資料2-20]
属性7	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート (最終学歴の大学種:職階別)	[参考資料2-21]
属性7値	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表 (最終学歴の大学種:職階別)	[参考資料2-22]
属性8	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート (海外経験:年齢層別)	[参考資料2-23]
属性8値	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表 (海外経験:年齢層別)	[参考資料2-24]
属性9	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート (海外経験:職階別)	[参考資料2-25]
属性9値	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表 (海外経験:職階別)	[参考資料2-26]

## 参考図表-現職機関

現職機関1	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート (機関種別:年齢層別)【図表4-14別版】	[参考資料2-27]
現職機関1値	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表 (機関種別:年齢層別)【図表4-14別版】	[参考資料2-28]
現職機関2	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート (大学種別:職階別)【図表4-15別版】	[参考資料2-29]
現職機関2値	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表 (大学種別:職階別)【図表4-15別版】	[参考資料2-30]
現職機関3	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート (国立大学の規模別:年齢層別)	[参考資料2-31]

現職機関3値	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表 (国立大学の規模別:年齢層別)	[参考資料2-32]
現職機関4	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート (国立大学の規模別:職階別)	[参考資料2-33]
現職機関4値	研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表 (国立大学の規模別:職階別)	[参考資料2-34]

## 参考図表-世代

世代1	理学分野における研究に関する経験割合の世代間比較 (全研究者)	[参考資料2-35]
世代2	工学分野における研究に関する経験割合の世代間比較 (全研究者)	[参考資料2-36]
世代3	医学分野における研究に関する経験割合の世代間比較 (全研究者)	[参考資料2-37]
世代4	農学分野における研究に関する経験割合の世代間比較 (全研究者)	[参考資料2-38]
世代1値	理学分野における研究に関する経験割合の世代間比較表 (全研究者)	[参考資料2-39]
世代2値	工学分野における研究に関する経験割合の世代間比較表 (全研究者)	[参考資料2-39]
世代3値	医学分野における研究に関する経験割合の世代間比較表 (全研究者)	[参考資料2-40]
世代4値	農学分野における研究に関する経験割合の世代間比較表 (全研究者)	[参考資料2-40]

## 参考資料3:調査票

調査票1	調査依頼メール	[参考資料3-1]
調査票2	調査票(READMEシート)	[参考資料3-2]
調査票3	調査票(回答例・注釈シート)	[参考資料3-3]

## 参考資料1: 本文内の図の元データ

図表4-3値 研究環境・権限、独立の自覚、任期のない職の割合表(分野別)

最終学歴分野別の人数[総数]

	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳
理学	170	225	215	185	121	102	68
工学	170	209	233	224	145	112	98
医学	113	180	185	231	211	102	46
農学	73	123	114	107	98	52	23

発表論文の責任者[該当者数]

	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳
理学	103 (60.6%)	156 (69.3%)	173 (80.5%)	169 (91.4%)	112 (92.6%)	94 (92.2%)	67 (98.5%)
工学	141 (82.9%)	184 (88.0%)	212 (91.0%)	208 (92.9%)	136 (93.8%)	105 (93.8%)	96 (98.0%)
医学	39 (34.5%)	101 (56.1%)	141 (76.2%)	206 (89.2%)	187 (88.6%)	92 (90.2%)	43 (93.5%)
農学	42 (57.5%)	87 (70.7%)	94 (82.5%)	89 (83.2%)	81 (82.7%)	45 (86.5%)	21 (91.3%)

担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者[該当者数]

	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳
理学	97 (57.1%)	153 (68.0%)	179 (83.3%)	162 (87.6%)	113 (93.4%)	96 (94.1%)	64 (94.1%)
工学	108 (63.5%)	174 (83.3%)	201 (86.3%)	207 (92.4%)	135 (93.1%)	106 (94.6%)	91 (92.9%)
医学	56 (49.6%)	123 (68.3%)	129 (69.7%)	186 (80.5%)	174 (82.5%)	90 (88.2%)	39 (84.8%)
農学	45 (61.6%)	86 (69.9%)	88 (77.2%)	90 (84.1%)	88 (89.8%)	44 (84.6%)	19 (82.6%)

特定の部下(大学院学生)の指導の責任者[該当者数]

	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳
理学	57 (33.5%)	113 (50.2%)	131 (60.9%)	144 (77.8%)	101 (83.5%)	87 (85.3%)	57 (83.8%)
工学	68 (40.0%)	111 (53.1%)	158 (67.8%)	181 (80.8%)	125 (86.2%)	94 (83.9%)	91 (92.9%)
医学	36 (31.9%)	82 (45.6%)	100 (54.1%)	158 (68.4%)	164 (77.7%)	86 (84.3%)	38 (82.6%)
農学	18 (24.7%)	45 (36.6%)	51 (44.7%)	59 (55.1%)	69 (70.4%)	44 (84.6%)	20 (87.0%)

研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者[該当者数]

	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳
理学	39 (22.9%)	81 (36.0%)	128 (59.5%)	133 (71.9%)	100 (82.6%)	93 (91.2%)	58 (85.3%)
工学	52 (30.6%)	111 (53.1%)	143 (61.4%)	180 (80.4%)	132 (91.0%)	97 (86.6%)	93 (94.9%)
医学	13 (11.5%)	60 (33.3%)	82 (44.3%)	152 (65.8%)	147 (69.7%)	86 (84.3%)	38 (82.6%)
農学	19 (26.0%)	44 (35.8%)	49 (43.0%)	61 (57.0%)	75 (76.5%)	39 (75.0%)	18 (78.3%)

独立した研究室を持つ[該当者数]

	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳
理学	14 (8.2%)	47 (20.9%)	90 (41.9%)	103 (55.7%)	88 (72.7%)	74 (72.5%)	59 (86.8%)
工学	31 (18.2%)	63 (30.1%)	102 (43.8%)	147 (65.6%)	120 (82.8%)	92 (82.1%)	92 (93.9%)
医学	0 (0.0%)	20 (11.1%)	26 (14.1%)	90 (39.0%)	124 (58.8%)	75 (73.5%)	36 (78.3%)
農学	7 (9.6%)	21 (17.1%)	25 (21.9%)	33 (30.8%)	47 (48.0%)	29 (55.8%)	20 (87.0%)

PI(Principal Investigator)[該当者数]

	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳
理学	11 (6.5%)	30 (13.3%)	75 (34.9%)	91 (49.2%)	80 (66.1%)	70 (68.6%)	52 (76.5%)
工学	20 (11.8%)	48 (23.0%)	83 (35.6%)	127 (56.7%)	112 (77.2%)	83 (74.1%)	86 (87.8%)
医学	0 (0.0%)	9 (5.0%)	19 (10.3%)	76 (32.9%)	111 (52.6%)	69 (67.6%)	33 (71.7%)
農学	3 (4.1%)	15 (12.2%)	19 (16.7%)	29 (27.1%)	37 (37.8%)	29 (55.8%)	17 (73.9%)

研究者として「独立した」と自覚[該当者数]

	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳
理学	74 (43.5%)	132 (58.7%)	167 (77.7%)	161 (87.0%)	112 (92.6%)	97 (95.1%)	66 (97.1%)
工学	89 (52.4%)	138 (66.0%)	183 (78.5%)	207 (92.4%)	137 (94.5%)	105 (93.8%)	95 (96.9%)
医学	23 (20.4%)	83 (46.1%)	107 (57.8%)	183 (79.2%)	181 (85.8%)	96 (94.1%)	40 (87.0%)
農学	36 (49.3%)	65 (52.8%)	83 (72.8%)	79 (73.8%)	87 (88.8%)	47 (90.4%)	21 (91.3%)

任期のない職[該当者数]

	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳
理学	71 (41.8%)	133 (59.1%)	170 (79.1%)	162 (87.6%)	106 (87.6%)	88 (86.3%)	55 (80.9%)
工学	90 (52.9%)	166 (79.4%)	200 (85.8%)	206 (92.0%)	128 (88.3%)	104 (92.9%)	89 (90.8%)
医学	32 (28.3%)	70 (38.9%)	109 (58.9%)	134 (58.0%)	140 (66.4%)	72 (70.6%)	30 (65.2%)
農学	37 (50.7%)	89 (72.4%)	104 (91.2%)	100 (93.5%)	88 (89.8%)	48 (92.3%)	22 (95.7%)



図表4-4値 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表(分分野)

理学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	173 (65.3%)	183 (69.1%)	144 (54.3%)	104 (39.2%)	58 (21.9%)	39 (14.7%)	146 (55.1%)	128 (48.3%)	265
1960年代生まれ(40～49歳)	256 (86.5%)	257 (86.8%)	224 (75.7%)	204 (68.9%)	160 (54.1%)	139 (47.0%)	246 (83.1%)	247 (83.4%)	296
1950年代生まれ(50～59歳)	178 (94.7%)	179 (95.2%)	164 (87.2%)	169 (89.9%)	146 (77.7%)	137 (72.9%)	181 (96.3%)	160 (85.1%)	188

工学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	231 (90.2%)	205 (80.1%)	158 (61.7%)	145 (56.6%)	90 (35.2%)	67 (26.2%)	171 (66.8%)	165 (64.5%)	256
1960年代生まれ(40～49歳)	314 (96.0%)	308 (94.2%)	284 (86.9%)	264 (80.7%)	220 (67.3%)	195 (59.6%)	300 (91.7%)	288 (88.1%)	327
1950年代生まれ(50～59歳)	207 (98.6%)	207 (98.6%)	195 (92.9%)	195 (92.9%)	192 (91.4%)	180 (85.7%)	204 (97.1%)	186 (88.6%)	210

医学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	132 (47.1%)	168 (60.0%)	113 (40.4%)	70 (25.6%)	18 (6.4%)	8 (2.9%)	95 (33.9%)	95 (33.5%)	280
1960年代生まれ(40～49歳)	322 (84.1%)	291 (76.0%)	241 (62.9%)	214 (55.9%)	101 (26.4%)	83 (21.7%)	263 (68.7%)	222 (58.0%)	383
1950年代生まれ(50～59歳)	272 (89.5%)	258 (84.9%)	245 (80.6%)	228 (75.0%)	194 (63.8%)	176 (57.9%)	270 (88.8%)	204 (67.1%)	304

農学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	69 (67.0%)	76 (73.8%)	52 (50.5%)	45 (43.7%)	22 (21.4%)	17 (16.5%)	54 (52.4%)	46 (44.7%)	103
1960年代生まれ(40～49歳)	81 (93.1%)	75 (86.2%)	66 (75.9%)	56 (64.4%)	34 (39.1%)	31 (35.6%)	72 (82.8%)	77 (88.5%)	87
1950年代生まれ(50～59歳)	71 (89.9%)	74 (93.7%)	72 (91.1%)	66 (83.5%)	50 (63.3%)	48 (60.8%)	76 (96.2%)	67 (84.8%)	79

理学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	120 (59.7%)	87 (43.3%)	43 (21.4%)	27 (13.4%)	3 (1.5%)	2 (1.0%)	82 (40.8%)	75 (37.3%)	201
助教・講師・主任研究員	243 (67.3%)	260 (72.0%)	171 (47.4%)	134 (37.1%)	65 (18.0%)	40 (11.1%)	212 (58.7%)	247 (68.4%)	361
准教授・グループリーダー	247 (92.5%)	249 (93.3%)	217 (81.3%)	208 (77.9%)	149 (55.8%)	124 (46.4%)	245 (91.8%)	224 (83.9%)	267
教授・部長	291 (98.0%)	292 (98.3%)	278 (93.6%)	282 (94.9%)	271 (91.2%)	255 (85.9%)	293 (98.7%)	259 (87.2%)	297

工学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	112 (71.3%)	78 (49.7%)	26 (16.6%)	21 (13.4%)	6 (3.8%)	1 (0.6%)	62 (39.5%)	89 (56.7%)	157
助教・講師・主任研究員	330 (86.6%)	292 (76.6%)	180 (47.2%)	168 (44.1%)	82 (21.5%)	50 (13.1%)	243 (63.8%)	284 (74.5%)	381
准教授・グループリーダー	288 (95.0%)	285 (94.1%)	258 (85.1%)	241 (79.5%)	183 (60.4%)	153 (50.5%)	277 (91.4%)	261 (86.1%)	303
教授・部長	402 (96.2%)	404 (96.7%)	396 (94.7%)	405 (96.9%)	398 (95.2%)	375 (89.7%)	407 (97.4%)	390 (93.3%)	418

医学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	14 (35.9%)	18 (46.2%)	6 (15.4%)	6 (15.4%)	2 (5.1%)	2 (5.1%)	14 (35.9%)	9 (23.1%)	39
助教・講師・主任研究員	314 (60.9%)	325 (63.0%)	231 (44.8%)	158 (30.6%)	38 (7.4%)	20 (3.9%)	240 (46.5%)	253 (49.0%)	516
准教授・グループリーダー	210 (88.2%)	187 (78.6%)	166 (69.7%)	145 (60.9%)	74 (31.1%)	54 (22.7%)	185 (77.7%)	144 (60.5%)	238
教授・部長	283 (96.9%)	281 (96.2%)	271 (92.8%)	280 (95.9%)	267 (91.4%)	249 (85.3%)	283 (96.9%)	189 (64.7%)	292

農学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	68 (56.2%)	64 (52.9%)	17 (14.0%)	19 (15.7%)	10 (8.3%)	1 (0.8%)	53 (43.8%)	80 (66.1%)	121
助教・講師・主任研究員	174 (72.2%)	177 (73.4%)	88 (36.5%)	89 (36.9%)	31 (12.9%)	18 (7.5%)	151 (62.7%)	193 (80.1%)	241
准教授・グループリーダー	120 (88.9%)	123 (91.1%)	103 (76.3%)	101 (74.8%)	56 (41.5%)	49 (36.3%)	118 (87.4%)	122 (90.4%)	135
教授・部長	109 (92.4%)	105 (89.0%)	107 (90.7%)	102 (86.4%)	93 (78.8%)	85 (72.0%)	105 (89.0%)	108 (91.5%)	118

図表4-5値 研究環境・権限、独立の自覚の有無の内訳表(任期の有無:職階別)

理学:任期なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	43 (57.3%)	40 (53.3%)	15 (20.0%)	12 (16.0%)	2 (2.7%)	1 (1.3%)	35 (46.7%)	75 (100.0%)	75
助教・講師・主任研究員	181 (73.3%)	190 (76.9%)	128 (51.8%)	108 (43.7%)	54 (21.9%)	35 (14.2%)	158 (64.0%)	247 (100.0%)	247
准教授・グループリーダー	209 (93.3%)	209 (93.3%)	182 (81.3%)	176 (78.6%)	130 (58.0%)	106 (47.3%)	211 (94.2%)	224 (100.0%)	224
教授・部長	253 (97.7%)	255 (98.5%)	242 (93.4%)	245 (94.6%)	236 (91.1%)	221 (85.3%)	256 (98.8%)	259 (100.0%)	259
工学:任期なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	62 (69.7%)	53 (59.6%)	9 (10.1%)	13 (14.6%)	2 (2.2%)	1 (1.1%)	39 (43.8%)	89 (100.0%)	89
助教・講師・主任研究員	248 (87.3%)	220 (77.5%)	129 (45.4%)	123 (43.3%)	64 (22.5%)	39 (13.7%)	194 (68.3%)	284 (100.0%)	284
准教授・グループリーダー	248 (93.9%)	245 (93.9%)	223 (85.4%)	208 (79.7%)	158 (60.5%)	131 (50.2%)	240 (92.0%)	261 (100.0%)	261
教授・部長	375 (96.2%)	377 (96.7%)	370 (94.9%)	378 (96.9%)	371 (95.1%)	349 (89.5%)	380 (97.4%)	390 (100.0%)	390
医学:任期なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	2 (22.2%)	3 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (22.2%)	9 (100.0%)	9
助教・講師・主任研究員	172 (68.0%)	165 (65.2%)	110 (43.5%)	90 (35.6%)	20 (7.9%)	13 (5.1%)	138 (54.5%)	253 (100.0%)	253
准教授・グループリーダー	123 (85.4%)	108 (75.0%)	95 (66.0%)	80 (55.6%)	45 (31.3%)	32 (22.2%)	111 (77.1%)	144 (100.0%)	144
教授・部長	182 (96.3%)	180 (95.2%)	173 (91.5%)	180 (95.2%)	171 (90.5%)	158 (83.6%)	182 (96.3%)	189 (100.0%)	189
農学:任期なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	52 (65.0%)	46 (57.5%)	8 (10.0%)	15 (18.8%)	6 (7.5%)	1 (1.3%)	40 (50.0%)	80 (100.0%)	80
助教・講師・主任研究員	143 (74.1%)	144 (74.6%)	64 (33.2%)	73 (37.8%)	24 (12.4%)	14 (7.3%)	127 (65.8%)	193 (100.0%)	193
准教授・グループリーダー	111 (91.0%)	113 (92.6%)	95 (77.9%)	93 (76.2%)	53 (43.4%)	47 (38.5%)	110 (90.2%)	122 (100.0%)	122
教授・部長	99 (91.7%)	95 (88.0%)	97 (89.8%)	93 (86.1%)	83 (76.9%)	76 (70.4%)	96 (88.9%)	108 (100.0%)	108
理学:任期あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	77 (61.1%)	47 (37.3%)	28 (22.2%)	15 (11.9%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	47 (37.3%)	0 (0.0%)	126
助教・講師・主任研究員	62 (54.4%)	70 (61.4%)	43 (37.7%)	26 (22.8%)	11 (9.6%)	5 (4.4%)	54 (47.4%)	0 (0.0%)	114
准教授・グループリーダー	38 (88.4%)	40 (93.0%)	35 (81.4%)	32 (74.4%)	19 (44.2%)	18 (41.9%)	34 (79.1%)	0 (0.0%)	43
教授・部長	38 (100.0%)	37 (97.4%)	36 (94.7%)	37 (97.4%)	35 (92.1%)	34 (89.5%)	37 (97.4%)	0 (0.0%)	38
工学:任期あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	50 (73.5%)	25 (36.8%)	17 (25.0%)	8 (11.8%)	4 (5.9%)	0 (0.0%)	23 (33.8%)	0 (0.0%)	68
助教・講師・主任研究員	82 (84.5%)	72 (74.2%)	51 (52.6%)	45 (46.4%)	18 (18.6%)	11 (11.3%)	49 (50.5%)	0 (0.0%)	97
准教授・グループリーダー	40 (95.2%)	40 (95.2%)	35 (83.3%)	33 (78.6%)	25 (59.5%)	22 (52.4%)	37 (88.1%)	0 (0.0%)	42
教授・部長	27 (96.4%)	27 (96.4%)	26 (92.9%)	27 (96.4%)	27 (96.4%)	26 (92.9%)	27 (96.4%)	0 (0.0%)	28
医学:任期あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	12 (40.0%)	15 (50.0%)	6 (20.0%)	6 (20.0%)	2 (6.7%)	2 (6.7%)	12 (40.0%)	0 (0.0%)	30
助教・講師・主任研究員	142 (54.0%)	160 (60.8%)	121 (46.0%)	68 (25.9%)	18 (6.8%)	7 (2.7%)	102 (38.8%)	0 (0.0%)	263
准教授・グループリーダー	87 (92.6%)	79 (84.0%)	71 (75.5%)	65 (69.1%)	29 (30.9%)	22 (23.4%)	74 (78.7%)	0 (0.0%)	94
教授・部長	101 (98.1%)	101 (98.1%)	98 (95.1%)	100 (97.1%)	96 (93.2%)	91 (88.3%)	101 (98.1%)	0 (0.0%)	103
農学:任期あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	16 (39.0%)	18 (43.9%)	9 (22.0%)	4 (9.8%)	4 (9.8%)	0 (0.0%)	13 (31.7%)	0 (0.0%)	41
助教・講師・主任研究員	31 (64.6%)	33 (68.8%)	24 (50.0%)	16 (33.3%)	7 (14.6%)	4 (8.3%)	24 (50.0%)	0 (0.0%)	48
准教授・グループリーダー	9 (69.2%)	10 (76.9%)	8 (61.5%)	8 (61.5%)	3 (23.1%)	2 (15.4%)	8 (61.5%)	0 (0.0%)	13
教授・部長	10 (100.0%)	10 (100.0%)	10 (100.0%)	9 (90.0%)	10 (100.0%)	9 (90.0%)	9 (90.0%)	0 (0.0%)	10

図表4-7値 研究環境・権限、任期の有無の内訳表(「独立の自覚」の有無:年齢層別)

理学:「独立の自覚」あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	178 (86.4%)	167 (81.1%)	121 (58.7%)	105 (51.0%)	59 (28.6%)	41 (19.9%)	206 (100.0%)	122 (59.2%)	206
1960年代生まれ(40～49歳)	308 (93.9%)	305 (93.0%)	252 (76.8%)	246 (75.0%)	193 (58.8%)	166 (50.6%)	328 (100.0%)	288 (87.8%)	328
1950年代生まれ(50～59歳)	201 (96.2%)	203 (97.1%)	182 (87.1%)	190 (90.9%)	161 (77.0%)	150 (71.8%)	209 (100.0%)	182 (87.1%)	209
工学:「独立の自覚」あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	215 (94.7%)	203 (89.4%)	144 (63.4%)	139 (61.2%)	90 (39.6%)	68 (30.0%)	227 (100.0%)	166 (73.1%)	227
1960年代生まれ(40～49歳)	374 (95.9%)	367 (94.1%)	319 (81.8%)	306 (78.5%)	241 (61.8%)	209 (53.6%)	390 (100.0%)	358 (91.8%)	390
1950年代生まれ(50～59歳)	235 (97.1%)	235 (97.1%)	217 (89.7%)	224 (92.6%)	209 (86.4%)	194 (80.2%)	242 (100.0%)	219 (90.5%)	242
医学:「独立の自覚」あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	72 (64.9%)	92 (86.8%)	57 (53.8%)	45 (42.5%)	15 (14.2%)	9 (8.5%)	106 (100.0%)	43 (40.6%)	106
1960年代生まれ(40～49歳)	275 (94.8%)	255 (87.9%)	209 (72.1%)	205 (70.7%)	113 (39.0%)	93 (32.1%)	290 (100.0%)	171 (59.0%)	290
1950年代生まれ(50～59歳)	265 (95.7%)	253 (91.3%)	239 (86.3%)	227 (81.9%)	198 (71.5%)	180 (65.0%)	277 (100.0%)	187 (67.5%)	277
農学:「独立の自覚」あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	85 (84.2%)	85 (84.2%)	45 (44.6%)	48 (47.5%)	27 (26.7%)	17 (16.8%)	101 (100.0%)	73 (72.3%)	101
1960年代生まれ(40～49歳)	152 (93.8%)	150 (92.6%)	106 (65.4%)	99 (61.1%)	56 (34.6%)	48 (29.6%)	162 (100.0%)	153 (94.4%)	162
1950年代生まれ(50～59歳)	119 (88.8%)	120 (89.6%)	107 (79.9%)	104 (77.6%)	71 (53.0%)	63 (47.0%)	134 (100.0%)	121 (90.3%)	134
理学:「独立の自覚」なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	81 (42.9%)	83 (43.9%)	49 (25.9%)	15 (7.9%)	2 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	82 (43.4%)	189
1960年代生まれ(40～49歳)	34 (47.2%)	36 (50.0%)	23 (31.9%)	15 (20.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	44 (61.1%)	72
1950年代生まれ(50～59歳)	5 (35.7%)	6 (42.9%)	6 (42.9%)	3 (21.4%)	1 (7.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	12 (85.7%)	14
工学:「独立の自覚」なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	110 (72.4%)	79 (52.0%)	35 (23.0%)	24 (15.8%)	4 (2.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	90 (59.2%)	152
1960年代生まれ(40～49歳)	46 (68.7%)	41 (61.2%)	20 (29.9%)	17 (25.4%)	8 (11.9%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	48 (71.6%)	67
1950年代生まれ(50～59歳)	6 (40.0%)	6 (40.0%)	2 (13.3%)	5 (33.3%)	3 (20.0%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	13 (86.7%)	15
医学:「独立の自覚」なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	68 (36.4%)	87 (46.5%)	61 (32.6%)	28 (15.0%)	5 (2.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	59 (31.6%)	187
1960年代生まれ(40～49歳)	72 (57.1%)	60 (47.6%)	49 (38.9%)	29 (23.0%)	3 (2.4%)	2 (1.6%)	0 (0.0%)	72 (57.1%)	126
1950年代生まれ(50～59歳)	14 (38.9%)	11 (30.6%)	11 (30.6%)	6 (16.7%)	1 (2.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	25 (69.4%)	36
農学:「独立の自覚」なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	44 (46.3%)	46 (48.4%)	18 (18.9%)	15 (15.8%)	1 (1.1%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)	53 (55.8%)	95
1960年代生まれ(40～49歳)	31 (52.5%)	28 (47.5%)	4 (6.8%)	11 (18.6%)	2 (3.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	51 (86.4%)	59
1950年代生まれ(50～59歳)	7 (43.8%)	12 (75.0%)	6 (37.5%)	10 (62.5%)	5 (31.3%)	3 (18.8%)	0 (0.0%)	15 (93.8%)	16

図表4-10値 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表(移動経験:年齢層別)

理学:機関の移動経験あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	161 (71.6%)	151 (67.1%)	107 (47.6%)	81 (36.0%)	46 (20.4%)	34 (15.1%)	134 (59.6%)	112 (49.8%)	225
1960年代生まれ(40～49歳)	242 (86.1%)	246 (87.5%)	204 (72.6%)	193 (68.7%)	151 (53.7%)	132 (47.0%)	235 (83.6%)	229 (81.5%)	281
1950年代生まれ(50～59歳)	158 (95.2%)	158 (95.2%)	150 (90.4%)	147 (88.6%)	131 (78.9%)	122 (73.5%)	158 (95.2%)	146 (88.0%)	166
工学:機関の移動経験あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	180 (88.7%)	159 (78.3%)	106 (52.2%)	103 (50.7%)	62 (30.5%)	46 (22.7%)	134 (66.0%)	128 (63.1%)	203
1960年代生まれ(40～49歳)	267 (94.7%)	262 (92.9%)	227 (80.5%)	216 (76.6%)	174 (61.7%)	149 (52.8%)	256 (90.8%)	247 (87.6%)	282
1950年代生まれ(50～59歳)	173 (95.6%)	173 (95.6%)	162 (89.5%)	167 (92.3%)	162 (89.5%)	152 (84.0%)	175 (96.7%)	161 (89.0%)	181
医学:機関の移動経験あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	52 (48.1%)	68 (63.0%)	43 (39.8%)	28 (25.9%)	7 (6.5%)	4 (3.7%)	53 (49.1%)	41 (38.0%)	108
1960年代生まれ(40～49歳)	208 (83.5%)	193 (77.5%)	157 (63.1%)	151 (60.6%)	86 (34.5%)	73 (29.3%)	183 (73.5%)	144 (57.8%)	249
1950年代生まれ(50～59歳)	207 (91.2%)	201 (88.5%)	191 (84.1%)	181 (79.7%)	162 (71.4%)	148 (65.2%)	209 (92.1%)	151 (66.5%)	227
農学:機関の移動経験あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	67 (66.3%)	70 (69.3%)	44 (43.6%)	40 (39.6%)	20 (19.8%)	13 (12.9%)	60 (59.4%)	52 (51.5%)	101
1960年代生まれ(40～49歳)	111 (85.4%)	108 (83.1%)	76 (58.5%)	70 (53.8%)	42 (32.3%)	37 (28.5%)	106 (81.5%)	116 (89.2%)	130
1950年代生まれ(50～59歳)	89 (88.1%)	90 (89.1%)	80 (79.2%)	85 (84.2%)	57 (56.4%)	53 (52.5%)	92 (91.1%)	91 (90.1%)	101
理学:機関の移動経験なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	98 (57.6%)	99 (58.2%)	63 (37.1%)	39 (22.9%)	15 (8.8%)	7 (4.1%)	72 (42.4%)	92 (54.1%)	170
1960年代生まれ(40～49歳)	100 (84.0%)	95 (79.8%)	71 (59.7%)	68 (57.1%)	42 (35.3%)	34 (28.6%)	93 (78.2%)	103 (86.6%)	119
1950年代生まれ(50～59歳)	48 (84.2%)	51 (89.5%)	38 (66.7%)	46 (80.7%)	31 (54.4%)	28 (49.1%)	51 (89.5%)	48 (84.2%)	57
工学:機関の移動経験なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	145 (82.4%)	123 (69.9%)	73 (41.5%)	60 (34.1%)	32 (18.2%)	22 (12.5%)	93 (52.8%)	128 (72.7%)	176
1960年代生まれ(40～49歳)	153 (87.4%)	146 (83.4%)	112 (64.0%)	107 (61.1%)	75 (42.9%)	61 (34.9%)	134 (76.6%)	159 (90.9%)	175
1950年代生まれ(50～59歳)	68 (89.5%)	68 (89.5%)	57 (75.0%)	62 (81.6%)	50 (65.8%)	43 (56.6%)	67 (88.2%)	71 (93.4%)	76
医学:機関の移動経験なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	88 (47.6%)	111 (60.0%)	75 (40.5%)	45 (24.3%)	13 (7.0%)	5 (2.7%)	53 (28.6%)	61 (33.0%)	185
1960年代生まれ(40～49歳)	139 (83.2%)	122 (73.1%)	101 (60.5%)	83 (49.7%)	30 (18.0%)	22 (13.2%)	107 (64.1%)	99 (59.3%)	167
1950年代生まれ(50～59歳)	72 (83.7%)	63 (73.3%)	59 (68.6%)	52 (60.5%)	37 (43.0%)	32 (37.2%)	68 (79.1%)	61 (70.9%)	86
農学:機関の移動経験なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	62 (65.3%)	61 (64.2%)	19 (20.0%)	23 (24.2%)	8 (8.4%)	5 (5.3%)	41 (43.2%)	74 (77.9%)	95
1960年代生まれ(40～49歳)	72 (79.1%)	70 (76.9%)	34 (37.4%)	40 (44.0%)	16 (17.6%)	11 (12.1%)	56 (61.5%)	88 (96.7%)	91
1950年代生まれ(50～59歳)	37 (75.5%)	42 (85.7%)	33 (67.3%)	29 (59.2%)	19 (38.8%)	13 (26.5%)	42 (85.7%)	45 (91.8%)	49

図表4-14値 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表(機関種別:職階別)

理学:国内大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	36 (52.2%)	19 (27.5%)	14 (20.3%)	9 (13.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19 (27.5%)	2 (2.9%)	69
助教・講師・主任研究員	180 (63.4%)	206 (72.5%)	147 (51.8%)	106 (37.3%)	54 (19.0%)	34 (12.0%)	160 (56.3%)	175 (61.6%)	284
准教授・グループリーダー	210 (94.2%)	211 (94.6%)	185 (83.0%)	175 (78.5%)	124 (55.6%)	101 (45.3%)	207 (92.8%)	192 (86.1%)	223
教授・部長	268 (98.9%)	267 (98.5%)	259 (95.6%)	261 (96.3%)	256 (94.5%)	242 (89.3%)	270 (99.6%)	236 (87.1%)	271
工学:国内大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	20 (71.4%)	3 (10.7%)	7 (25.0%)	1 (3.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (25.0%)	2 (7.1%)	28
助教・講師・主任研究員	230 (89.1%)	205 (79.5%)	138 (53.5%)	131 (50.8%)	70 (27.1%)	42 (16.3%)	164 (63.6%)	166 (64.3%)	258
准教授・グループリーダー	257 (97.3%)	254 (96.2%)	236 (89.4%)	212 (80.3%)	169 (64.0%)	144 (54.5%)	246 (93.2%)	224 (84.8%)	264
医学:任期なし	378 (98.7%)	377 (98.4%)	376 (98.2%)	376 (98.2%)	374 (97.7%)	360 (94.0%)	379 (99.0%)	355 (92.7%)	383
医学:国内大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	5 (21.7%)	9 (39.1%)	4 (17.4%)	4 (17.4%)	1 (4.3%)	1 (4.3%)	5 (21.7%)	2 (8.7%)	23
助教・講師・主任研究員	301 (60.3%)	313 (62.7%)	222 (44.5%)	153 (30.7%)	36 (7.2%)	18 (3.6%)	223 (44.7%)	237 (47.5%)	499
准教授・グループリーダー	202 (88.6%)	178 (78.1%)	158 (69.3%)	136 (59.6%)	66 (28.9%)	48 (21.1%)	176 (77.2%)	142 (62.3%)	228
教授・部長	271 (97.8%)	268 (96.8%)	263 (94.9%)	267 (96.4%)	256 (92.4%)	241 (87.0%)	271 (97.8%)	176 (63.5%)	277
農学:国内大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	7 (29.2%)	8 (33.3%)	4 (16.7%)	1 (4.2%)	2 (8.3%)	0 (0.0%)	4 (16.7%)	0 (0.0%)	24
助教・講師・主任研究員	77 (74.0%)	79 (76.0%)	54 (51.9%)	45 (43.3%)	17 (16.3%)	10 (9.6%)	63 (60.6%)	60 (57.7%)	104
准教授・グループリーダー	85 (93.4%)	84 (92.3%)	79 (86.8%)	68 (74.7%)	39 (42.9%)	38 (41.8%)	83 (91.2%)	81 (89.0%)	91
教授・部長	77 (98.7%)	77 (98.7%)	78 (100.0%)	73 (93.6%)	72 (92.3%)	67 (85.9%)	75 (96.2%)	69 (88.5%)	78
理学:公的研究機関	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	76 (63.9%)	64 (53.8%)	27 (22.7%)	18 (15.1%)	3 (2.5%)	2 (1.7%)	59 (49.6%)	62 (52.1%)	119
助教・講師・主任研究員	54 (81.8%)	50 (75.8%)	22 (33.3%)	25 (37.9%)	9 (13.6%)	5 (7.6%)	45 (68.2%)	62 (93.9%)	66
准教授・グループリーダー	33 (82.5%)	35 (87.5%)	28 (70.0%)	29 (72.5%)	22 (55.0%)	20 (50.0%)	34 (85.0%)	29 (72.5%)	40
教授・部長	23 (92.0%)	24 (96.0%)	19 (76.0%)	21 (84.0%)	15 (60.0%)	13 (52.0%)	22 (88.0%)	22 (88.0%)	25
工学:公的研究機関	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	85 (75.2%)	68 (60.2%)	18 (15.9%)	17 (15.0%)	5 (4.4%)	1 (0.9%)	47 (41.6%)	74 (65.5%)	113
助教・講師・主任研究員	81 (77.9%)	76 (73.1%)	36 (34.6%)	31 (29.8%)	9 (8.7%)	6 (5.8%)	66 (63.5%)	100 (96.2%)	104
准教授・グループリーダー	30 (81.1%)	29 (78.4%)	21 (56.8%)	27 (73.0%)	13 (35.1%)	9 (24.3%)	29 (78.4%)	35 (94.6%)	37
教授・部長	21 (70.0%)	23 (76.7%)	18 (60.0%)	25 (83.3%)	21 (70.0%)	13 (43.3%)	25 (83.3%)	30 (100.0%)	30
医学:公的研究機関	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	6 (54.5%)	7 (63.6%)	1 (9.1%)	1 (9.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (63.6%)	4 (36.4%)	11
助教・講師・主任研究員	10 (76.9%)	8 (61.5%)	5 (38.5%)	4 (30.8%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	13 (100.0%)	12 (92.3%)	13
准教授・グループリーダー	8 (88.9%)	8 (88.9%)	7 (77.8%)	8 (88.9%)	7 (77.8%)	6 (66.7%)	8 (88.9%)	2 (22.2%)	9
教授・部長	12 (85.7%)	13 (92.9%)	8 (57.1%)	12 (85.7%)	11 (78.6%)	8 (57.1%)	11 (78.6%)	12 (85.7%)	14
農学:公的研究機関	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	57 (62.0%)	53 (57.6%)	12 (13.0%)	15 (16.3%)	7 (7.6%)	1 (1.1%)	46 (50.0%)	76 (82.6%)	92
助教・講師・主任研究員	89 (69.5%)	93 (72.7%)	30 (23.4%)	41 (32.0%)	14 (10.9%)	8 (6.3%)	82 (64.1%)	124 (96.9%)	128
准教授・グループリーダー	32 (78.0%)	37 (90.2%)	23 (56.1%)	31 (75.6%)	16 (39.0%)	10 (24.4%)	33 (80.5%)	39 (95.1%)	41
教授・部長	29 (80.6%)	25 (69.4%)	26 (72.2%)	26 (72.2%)	19 (52.8%)	16 (44.4%)	28 (77.8%)	35 (97.2%)	36

図表4-15値 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表(大学種別:年齢層別)

理学:国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	111 (64.5%)	121 (70.3%)	99 (57.6%)	64 (37.2%)	32 (18.6%)	23 (13.4%)	84 (48.8%)	78 (45.3%)	172
1960年代生まれ(40～49歳)	161 (86.1%)	164 (87.7%)	142 (75.9%)	122 (65.2%)	93 (49.7%)	83 (44.4%)	151 (80.7%)	151 (80.7%)	187
1950年代生まれ(50～59歳)	102 (97.1%)	102 (97.1%)	96 (91.4%)	97 (92.4%)	82 (78.1%)	76 (72.4%)	103 (98.1%)	90 (85.7%)	105
工学:国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	157 (88.2%)	138 (77.5%)	113 (63.5%)	88 (49.4%)	38 (21.3%)	33 (18.5%)	112 (62.9%)	112 (62.9%)	178
1960年代生まれ(40～49歳)	162 (96.4%)	157 (93.5%)	148 (88.1%)	124 (73.8%)	94 (56.0%)	87 (51.8%)	148 (88.1%)	143 (85.1%)	168
1950年代生まれ(50～59歳)	106 (100.0%)	106 (100.0%)	99 (93.4%)	98 (92.5%)	94 (88.7%)	92 (86.8%)	104 (98.1%)	93 (87.7%)	106
医学:国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	60 (42.0%)	84 (58.7%)	58 (40.6%)	36 (25.2%)	11 (7.7%)	6 (4.2%)	42 (29.4%)	32 (22.4%)	143
1960年代生まれ(40～49歳)	129 (85.4%)	119 (78.8%)	101 (66.9%)	87 (57.6%)	42 (27.8%)	36 (23.8%)	100 (66.2%)	61 (40.4%)	151
1950年代生まれ(50～59歳)	99 (89.2%)	102 (91.9%)	98 (88.3%)	92 (82.9%)	80 (72.1%)	76 (68.5%)	100 (90.1%)	59 (53.2%)	111
農学:国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	44 (66.7%)	51 (77.3%)	33 (50.0%)	31 (47.0%)	18 (27.3%)	14 (21.2%)	35 (53.0%)	32 (48.5%)	66
1960年代生まれ(40～49歳)	46 (92.0%)	41 (82.0%)	40 (80.0%)	32 (64.0%)	19 (38.0%)	19 (38.0%)	40 (80.0%)	43 (86.0%)	50
1950年代生まれ(50～59歳)	38 (90.5%)	40 (95.2%)	41 (97.6%)	35 (83.3%)	26 (61.9%)	25 (59.5%)	40 (95.2%)	33 (78.6%)	42
理学:私立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	43 (67.2%)	39 (60.9%)	29 (45.3%)	27 (42.2%)	22 (34.4%)	13 (20.3%)	41 (64.1%)	36 (56.3%)	64
1960年代生まれ(40～49歳)	73 (85.9%)	72 (84.7%)	64 (75.3%)	63 (74.1%)	52 (61.2%)	43 (50.6%)	72 (84.7%)	76 (89.4%)	85
1950年代生まれ(50～59歳)	58 (89.2%)	60 (92.3%)	55 (84.6%)	58 (89.2%)	53 (81.5%)	50 (76.9%)	61 (93.8%)	58 (89.2%)	65
工学:私立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	58 (93.5%)	53 (85.5%)	37 (59.7%)	48 (77.4%)	46 (74.2%)	30 (48.4%)	49 (79.0%)	44 (71.0%)	62
1960年代生まれ(40～49歳)	122 (96.1%)	121 (95.3%)	110 (86.6%)	116 (91.3%)	111 (87.4%)	94 (74.0%)	122 (96.1%)	120 (94.5%)	127
1950年代生まれ(50～59歳)	79 (96.3%)	79 (96.3%)	75 (91.5%)	75 (91.5%)	78 (95.1%)	69 (84.1%)	78 (95.1%)	79 (96.3%)	82
医学:私立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	61 (55.0%)	69 (62.2%)	41 (36.9%)	26 (23.4%)	6 (5.4%)	2 (1.8%)	45 (40.5%)	53 (47.7%)	111
1960年代生まれ(40～49歳)	163 (81.5%)	146 (73.0%)	117 (58.5%)	104 (52.0%)	50 (25.0%)	40 (20.0%)	139 (69.5%)	142 (71.0%)	200
1950年代生まれ(50～59歳)	153 (90.0%)	137 (80.6%)	132 (77.6%)	120 (70.6%)	103 (60.6%)	91 (53.5%)	150 (88.2%)	129 (75.9%)	170
農学:私立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	19 (63.3%)	19 (63.3%)	14 (46.7%)	12 (40.0%)	4 (13.3%)	3 (10.0%)	14 (46.7%)	13 (43.3%)	30
1960年代生まれ(40～49歳)	33 (94.3%)	32 (91.4%)	25 (71.4%)	23 (65.7%)	14 (40.0%)	11 (31.4%)	30 (85.7%)	33 (94.3%)	35
1950年代生まれ(50～59歳)	27 (87.1%)	28 (90.3%)	26 (83.9%)	26 (83.9%)	20 (64.5%)	19 (61.3%)	30 (96.8%)	28 (90.3%)	31

図表5-7値 理学分野における研究に関する経験割合の世代間比較表(本務経験が大学のみの方)

		25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳	31歳	32歳	33歳	34歳	35歳	36歳	37歳	38歳	39歳	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳	51歳	52歳	53歳	54歳	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳	
有効IDカウント	1950年代生(50～59歳)	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	117	104	95	82	67	55	39	28	13
	1960年代生(40～49歳)	194	194	194	194	194	194	194	194	194	194	194	194	194	194	194	194	194	173	153	130	110	91	79	60	42	22										
	1970年代生(30～39歳)	193	193	193	193	193	193	179	159	149	130	103	84	67	45	19																					
発表論文の責任者	1950年代生(50～59歳)	13	24	34	44	60	71	80	86	90	96	98	103	107	108	109	110	113	115	115	115	117	117	117	117	118	118	109	97	88	75	60	50	34	23	10	
	1960年代生(40～49歳)	10	17	35	70	96	117	125	133	138	141	145	154	158	160	164	166	152	137	117	102	84	72	54	39	20											
	1970年代生(30～39歳)	4	7	21	61	78	91	91	91	94	86	65	56	45	30	14																					
担当課題の予算作成の責任者	1950年代生(50～59歳)	12	17	22	28	37	47	51	58	66	74	78	90	94	97	99	102	105	107	108	112	114	114	114	114	116	116	106	94	86	73	59	48	35	25	11	
	1960年代生(40～49歳)	6	10	27	59	83	103	114	127	134	139	143	150	154	158	164	164	146	133	113	100	82	70	52	35	17											
	1970年代生(30～39歳)	7	11	26	60	88	107	111	109	109	99	82	68	56	39	17																					
特定の部下(大学院生)の指導の責任者	1950年代生(50～59歳)	4	8	10	16	23	31	34	37	42	48	52	63	69	77	82	87	93	93	95	98	100	101	103	103	104	105	96	88	81	68	54	44	30	22	10	
	1960年代生(40～49歳)	4	6	13	33	48	58	68	79	88	94	103	112	118	127	135	138	124	115	103	93	77	67	49	34	19											
	1970年代生(30～39歳)	5	7	15	31	52	63	70	75	78	70	62	53	45	29	15																					
研究グループの予算作成の責任者	1950年代生(50～59歳)	4	7	7	9	12	20	22	24	31	43	49	61	70	76	80	84	88	91	93	97	98	99	99	100	104	106	99	91	83	71	57	46	33	24	11	
	1960年代生(40～49歳)	3	4	12	26	40	47	55	67	75	80	89	101	111	117	123	127	117	107	94	85	70	61	47	34	17											
	1970年代生(30～39歳)	4	4	13	27	37	42	49	51	54	52	47	42	36	27	13																					
独立した研究室	1950年代生(50～59歳)	2	4	4	5	8	10	12	12	18	28	31	41	48	52	56	60	64	65	67	71	72	75	78	79	85	88	82	75	68	58	45	39	28	21	9	
	1960年代生(40～49歳)	1	2	7	17	23	28	33	42	47	51	63	74	81	87	96	99	91	85	79	72	60	52	38	28	16											
	1970年代生(30～39歳)	1	1	2	9	16	18	25	25	27	29	28	24	22	17	9																					
PIの本務職に就いた	1950年代生(50～59歳)	1	2	2	3	4	5	6	6	11	17	20	28	32	38	42	46	51	52	55	60	63	66	69	71	77	80	77	72	66	56	43	37	26	20	9	
	1960年代生(40～49歳)	1	2	3	5	10	13	19	26	32	36	46	56	62	71	81	83	77	72	70	64	53	47	35	25	15											
	1970年代生(30～39歳)	0	0	0	2	6	8	11	11	14	15	16	13	14	12	7																					
「独立した研究室」を除く4項目全て	1950年代生(50～59歳)	2	4	4	6	6	9	11	14	20	27	32	43	49	56	63	69	74	76	79	84	88	90	93	95	98	101	95	88	80	68	54	44	30	22	10	
	1960年代生(40～49歳)	1	1	3	7	11	15	21	29	37	44	54	65	73	82	92	98	94	88	80	72	60	52	40	29	16											
	1970年代生(30～39歳)	1	1	3	5	10	13	16	19	23	25	25	24	24	18	9																					
研究者として「独立した」と自覚した	1950年代生(50～59歳)	12	22	29	38	54	62	71	78	84	91	93	100	106	110	110	112	114	115	115	116	118	118	118	118	120	120	110	98	90	77	62	51	37	26	13	
	1960年代生(40～49歳)	10	16	31	56	77	94	102	111	118	124	131	141	147	149	155	159	147	135	118	101	83	71	53	36	19											
	1970年代生(30～39歳)	1	2	7	34	60	71	75	81	82	79	66	56	45	30	16																					
任期のない職	1950年代生(50～59歳)	19	30	42	53	70	81	89	97	99	105	107	110	114	117	117	117	118	118	119	120	120	120	120	120	120	120	110	97	88	75	62	52	36	27	12	
	1960年代生(40～49歳)	14	25	47	86	113	139	147	157	158	160	166	170	171	174	176	177	158	140	120	102	85	75	56	38	20											
	1970年代生(30～39歳)	8	10	17	34	49	59	70	79	82	80	69	61	52	38	17																					

図表5-8値 工学分野における研究に関する経験割合の世代間比較表(本務経験が大学のみの方)

		25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳	31歳	32歳	33歳	34歳	35歳	36歳	37歳	38歳	39歳	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳	51歳	52歳	53歳	54歳	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳	
有効IDカウント	1950年代生(50～59歳)	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	82	69	57	47	42	36	27	18	6
	1960年代生(40～49歳)	202	202	202	202	202	202	202	202	202	202	202	202	202	202	202	202	174	156	132	114	94	96	72	53	34	15										
	1970年代生(30～39歳)	188	188	188	188	188	188	172	159	145	127	98	77	60	43	19																					
発表論文の責任者	1950年代生(50～59歳)	20	22	31	45	56	61	64	69	71	77	77	79	82	84	87	88	91	92	92	92	92	93	93	94	94	95	81	68	56	46	42	36	27	18	6	
	1960年代生(40～49歳)	30	44	70	109	138	153	160	169	171	174	180	182	184	187	189	191	167	151	128	111	92	71	52	33	15											
	1970年代生(30～39歳)	9	18	51	97	127	146	141	137	123	109	86	69	56	41	19																					
担当課題の予算作成の責任者	1950年代生(50～59歳)	11	12	18	28	36	41	44	48	53	59	62	68	72	74	75	78	81	83	84	87	89	90	90	91	92	92	78	65	53	45	41	35	26	17	6	
	1960年代生(40～49歳)	16	23	37	69	96	112	125	136	143	150	158	166	170	175	177	181	160	146	124	109	91	70	52	33	15											
	1970年代生(30～39歳)	7	14	37	76	97	119	121	117	110	101	83	68	56	40	18																					
特定の部下(大学院生)の指導の責任者	1950年代生(50～59歳)	9	10	12	20	28	34	35	37	44	50	54	61	65	69	72	75	78	81	82	86	87	87	88	89	90	91	77	64	53	44	39	33	24	16	6	
	1960年代生(40～49歳)	17	22	35	57	74	81	91	103	112	120	127	138	144	153	157	161	145	132	114	103	88	69	51	32	14											
	1970年代生(30～39歳)	6	10	24	45	63	80	85	87	89	80	64	56	42	33	15																					
研究グループの予算作成の責任者	1950年代生(50～59歳)	3	3	4	6	12	16	18	19	26	31	37	46	50	53	57	59	63	69	72	74	76	80	82	84	85	86	72	59	48	39	35	30	21	13	4	
	1960年代生(40～49歳)	12	14	20	33	43	52	61	75	85	95	107	118	128	135	138	146	133	125	109	97	85	66	49	31	15											
	1970年代生(30～39歳)	5	5	19	36	50	62	67	76	76	71	60	48	41	31	16																					
独立した研究室	1950年代生(50～59歳)	1	2	3	5	9	13	14	14	22	27	30	38	43	46	50	53	58	61	66	69	73	78	80	84	85	85	71	61	49	41	37	32	23	15	5	
	1960年代生(40～49歳)	6	8	11	17	22	30	36	47	56	67	80	90	96	102	106	113	102	95	87	76	71	58	44	28	14											
	1970年代生(30～39歳)	2	2	5	10	18	26	30	37	41	41	36	32	27	20	11																					
PIの本務職に就いた	1950年代生(50～59歳)	0	0	1	2	6	8	8	15	18	20	29	33	36	41	43	47	53	58	62	66	72	75	79	80	81	67	57	47	39	34	29	20	13	4		
	1960年代生(40～49歳)	5	7	8	12	18	21	26	34	41	52	63	75	81	88	92	98	89	85	79	71	67	55	42	26	13											
	1970年代生(30～39歳)	1	1	2	4	8	14	18	26	31	32	27	25	20	16	8																					
「独立した研究室」を除く4項目全て	1950年代生(50～59歳)	3	4	5	6	11	15	16	18	22	27	30	37	41	44	51	54	60	65	67	71	74	78	81	83	84	85	73	61	51	41	36	31	22	15	5	
	1960年代生(40～49歳)	11	13	16	23	29	34	43	51	63	75	85	98	106	114	120	127	118	112	100	88	77	60	45	28	13											
	1970年代生(30～39歳)	3	3	10	17	27	36	41	52	57	55	47	42	35	25	12																					
研究者として「独立した」と自覚した	1950年代生(50～59歳)	6	8	16	26	35	41	44	46	53	62	64	71	75	79	83	84	89	89	89	90	90	90	90	91	92	78	65	53	45	41	35	26	17	6		
	1960年代生(40～49歳)	15	20	31	60	77	89	101	114	124	133	144	151	157	161	164	172	151	139	121	107	90	69	51	32	15											
	1970年代生(30～39歳)	4	8	22	48	71	88	92	99	94	85	66	56	46	35	16																					
任期のない職	1950年代生(50～59歳)	24	27	37	52	65	69	74	77	80	82	82	84	89	89	89	89	89	89	89	89	89	90	90	90	90	90	76	66	54	46	42	36	27	18	6	
	1960年代生(40～49歳)	33	50	71	113	141	156	167	175	179	180	183	184	186	187	187	187	163	148	128	111	91	70	52	33	15											
	1970年代生(30～39歳)	7	10	31	55	72	93	94	101	103	98	83	65	50	36	17																					

図表5-9値 医学分野における研究に関する経験割合の世代間比較表(本務経験が大学のみの方)

		25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳	31歳	32歳	33歳	34歳	35歳	36歳	37歳	38歳	39歳	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳	51歳	52歳	53歳	54歳	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳
有効IDカウント	1950年代生(50～59歳)	205	205	205	205	205	205	205	205	205	205	205	205	205	205	205	205	205	205	205	205	205	205	205	205	205	205	171	137	113	90	70	53	39	27	16
	1960年代生(40～49歳)	267	267	267	267	267	267	267	267	267	267	267	267	267	267	267	267	242	224	198	183	148	121	88	62	33										
	1970年代生(30～39歳)	234	234	234	234	234	234	221	203	192	157	134	112	80	51	30																				
発表論文の責任者	1950年代生(50～59歳)	14	19	22	32	43	56	67	74	82	90	101	105	119	127	132	138	142	145	149	152	155	158	163	171	179	180	153	123	104	82	64	47	37	25	14
	1960年代生(40～49歳)	16	24	27	41	57	68	86	100	111	132	151	167	184	193	205	217	202	190	176	166	135	110	81	56	31										
	1970年代生(30～39歳)	6	12	21	27	43	56	69	72	74	74	70	60	49	36	20																				
担当課題の予算作成の責任者	1950年代生(50～59歳)	7	10	13	17	21	24	32	38	48	56	68	71	84	94	99	111	113	123	126	129	133	139	143	150	158	162	138	116	102	81	62	48	36	24	14
	1960年代生(40～49歳)	13	13	14	24	35	44	59	70	85	97	113	130	146	159	172	185	171	168	155	148	122	100	72	50	26										
	1970年代生(30～39歳)	5	12	23	28	52	82	91	97	98	85	80	73	55	39	26																				
特定の部下(大学院生)の指導の責任者	1950年代生(50～59歳)	8	14	15	21	27	33	43	49	58	65	73	77	89	102	103	109	112	118	120	122	126	132	137	142	150	155	132	110	94	74	60	45	34	24	14
	1960年代生(40～49歳)	8	9	10	18	29	37	45	56	73	87	99	112	121	135	146	156	150	146	133	126	104	89	67	47	23										
	1970年代生(30～39歳)	4	9	18	21	36	53	63	63	63	54	61	54	43	33	23																				
研究グループの予算作成の責任者	1950年代生(50～59歳)	4	7	7	9	12	13	16	21	27	34	41	43	52	60	62	74	77	86	88	92	97	104	111	118	128	135	118	102	91	72	59	44	34	22	13
	1960年代生(40～49歳)	4	4	4	9	16	20	27	32	39	44	57	68	83	95	109	121	119	119	110	108	97	82	62	43	21										
	1970年代生(30～39歳)	1	5	11	12	21	31	34	37	41	40	43	39	34	26	17																				
独立した研究室	1950年代生(50～59歳)	2	4	5	6	7	7	8	11	17	20	24	27	31	33	35	42	44	52	52	54	59	66	79	90	102	108	95	86	74	60	50	39	31	21	12
	1960年代生(40～49歳)	0	0	0	1	2	3	4	5	7	9	13	17	20	24	32	35	36	42	47	54	49	43	36	28	13										
	1970年代生(30～39歳)	1	4	4	4	7	8	8	8	12	12	14	11	9	7	7																				
PIの本務職に就いた	1950年代生(50～59歳)	2	3	3	3	3	3	4	6	11	14	17	18	22	23	23	28	30	37	37	39	46	54	66	75	88	96	85	76	65	54	46	36	29	19	11
	1960年代生(40～49歳)	0	0	0	0	0	0	2	3	5	6	8	11	13	17	22	25	25	33	38	45	42	38	34	26	13										
	1970年代生(30～39歳)	0	0	0	0	2	3	3	3	4	5	7	6	6	3	4																				
「独立した研究室」を除く4項目全て	1950年代生(50～59歳)	2	4	4	5	6	7	10	13	18	23	30	34	43	50	53	63	68	76	79	83	89	96	106	112	123	130	116	95	83	65	53	41	32	21	12
	1960年代生(40～49歳)	1	1	1	2	6	8	11	13	19	23	31	38	50	60	71	81	83	88	87	86	77	66	53	39	20										
	1970年代生(30～39歳)	0	3	4	4	8	11	12	16	20	22	27	23	19	16	12																				
研究者として「独立した」と自覚した	1950年代生(50～59歳)	9	13	17	22	28	36	46	52	62	71	84	89	96	105	110	115	120	128	131	135	141	149	156	164	171	173	147	123	105	83	66	51	38	26	15
	1960年代生(40～49歳)	7	9	9	16	22	33	44	49	62	73	91	104	122	133	144	155	148	147	143	136	112	94	72	52	27										
	1970年代生(30～39歳)	2	5	11	16	28	38	44	47	49	50	50	42	35	26	18																				
任期のない職	1950年代生(50～59歳)	32	46	51	70	87	106	120	131	138	143	148	151	158	162	167	169	171	171	172	173	174	174	175	176	181	181	153	125	103	81	64	48	36	25	15
	1960年代生(40～49歳)	26	40	44	62	77	95	110	127	140	151	165	177	186	191	198	203	187	177	160	149	120	96	71	50	26										
	1970年代生(30～39歳)	13	22	33	39	56	63	67	70	70	67	62	54	40	27	19																				

図表5-10値 農学分野における研究に関する経験割合の世代間比較表(本務経験が大学のみの方)

		25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳	31歳	32歳	33歳	34歳	35歳	36歳	37歳	38歳	39歳	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳	51歳	52歳	53歳	54歳	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳	
有効IDカウント	1950年代生(50～59歳)	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	42	37	31	29	24	20	17	10	4
	1960年代生(40～49歳)	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	44	39	33	30	22	19	16	11	3										
	1970年代生(30～39歳)	74	74	74	74	74	74	70	63	61	53	44	35	23	13	4																					
発表論文の責任者	1950年代生(50～59歳)	6	14	16	18	23	25	27	27	28	29	30	30	32	32	34	34	34	35	35	36	37	37	37	37	37	37	35	32	27	25	21	17	14	7	3	
	1960年代生(40～49歳)	3	9	14	19	28	33	35	39	42	43	43	45	46	46	47	48	43	38	32	29	22	19	16	11	3											
	1970年代生(30～39歳)	2	3	9	23	31	37	40	41	44	43	36	28	18	10	3																					
担当課題の予算作成の責任者	1950年代生(50～59歳)	8	15	16	18	23	24	26	26	27	28	28	28	30	32	32	32	32	33	36	38	38	38	39	39	39	39	39	37	34	28	26	22	18	15	9	4
	1960年代生(40～49歳)	4	7	10	16	24	27	29	33	36	37	38	40	41	42	42	43	38	35	29	26	19	16	13	9	3											
	1970年代生(30～39歳)	1	2	7	18	26	36	40	39	42	40	32	27	18	8	2																					
特定の部下(大学院生)の指導の責任者	1950年代生(50～59歳)	6	9	10	13	15	15	18	18	19	20	21	21	24	25	27	27	27	30	31	34	34	34	35	36	36	36	36	34	32	29	27	22	18	15	8	3
	1960年代生(40～49歳)	1	2	6	10	15	16	18	23	26	27	30	31	32	34	35	36	31	29	24	21	14	12	10	9	3											
	1970年代生(30～39歳)	1	1	3	8	14	21	24	27	30	30	26	22	15	9	2																					
研究グループの予算作成の責任者	1950年代生(50～59歳)	2	4	5	7	8	8	10	11	12	13	14	14	16	19	22	24	24	25	26	26	30	30	30	30	31	32	31	29	24	22	18	14	11	7	3	
	1960年代生(40～49歳)	1	2	4	7	9	9	11	13	16	18	21	23	26	27	28	29	27	27	22	20	15	12	10	9	3											
	1970年代生(30～39歳)	0	1	3	7	12	18	22	23	25	24	19	16	9	3	1																					
独立した研究室	1950年代生(50～59歳)	0	0	0	1	2	2	4	4	5	6	6	6	7	8	11	13	13	13	14	14	18	18	18	20	21	22	21	20	17	15	13	11	8	5	2	
	1960年代生(40～49歳)	1	1	2	2	2	2	2	3	5	6	7	9	10	10	12	10	9	9	8	8	7	7	8	3												
	1970年代生(30～39歳)	0	0	1	1	1	4	6	7	9	10	11	11	7	2	1																					
PIの本務職に就いた	1950年代生(50～59歳)	0	0	0	1	2	2	4	4	5	6	6	6	6	7	10	12	12	12	13	13	16	16	17	19	20	21	20	19	17	15	13	11	8	5	2	
	1960年代生(40～49歳)	1	1	1	1	1	1	1	1	2	4	5	6	7	8	8	10	8	8	8	7	7	6	7	8	3											
	1970年代生(30～39歳)	0	0	1	1	1	4	5	4	6	8	10	10	7	2	1																					
「独立した研究室」を除く4項目全て	1950年代生(50～59歳)	2	3	4	5	5	6	7	8	9	10	11	11	12	15	18	19	19	20	21	22	25	26	27	28	29	30	30	28	24	21	18	13	10	6	3	
	1960年代生(40～49歳)	1	1	2	4	5	6	8	9	13	15	18	20	21	22	23	25	24	23	19	18	14	11	11	8	2											
	1970年代生(30～39歳)	0	0	1	1	3	7	9	8	9	11	11	11	8	4	1																					
研究者として「独立した」と自覚した	1950年代生(50～59歳)	5	11	12	16	21	22	24	24	25	27	28	28	31	31	34	36	36	36	37	39	40	41	41	41	41	41	42	40	37	31	29	24	20	17	10	4
	1960年代生(40～49歳)	1	4	7	13	16	18	21	26	29	31	33	34	35	36	36	36	35	32	28	25	18	16	14	9	3											
	1970年代生(30～39歳)	0	1	3	9	12	22	26	27	29	27	22	18	13	7	2																					
任期のない職	1950年代生(50～59歳)	13	22	25	28	34	37	40	40	40	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	39	35	29	27	22	19	16	9	3
	1960年代生(40～49歳)	4	9	14	20	31	34	36	39	41	42	44	48	48	49	49	49	43	38	32	30	22	19	16	11	3											
	1970年代生(30～39歳)	1	3	9	17	21	27	30	34	36	34	36	34	32	26	17	10	2																			



## 参考資料2: 参考図表

参考図表-詳細分野1 詳細分野と年齢層のクロス表

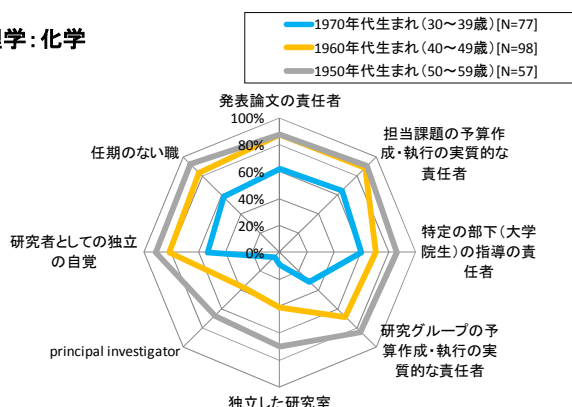
		1980年以降 生まれ (29歳以下)	1970年代 生まれ (30～39歳)	1960年代 生まれ (40～49歳)	1950年代 生まれ (50～59歳)	1949年以前 生まれ (60歳以上)	年齢不明	分野合計人数
理学 (自然科学)	理学:数学	3	20	24	17	12	0	76
	理学:計算機・情報科学	0	23	17	2	1	0	43
	理学:物理学	1	49	68	44	22	0	184
	理学:化学	6	77	98	57	22	1	261
	理学:地球科学・環境科学	2	57	48	26	4	0	137
	理学:生物学	5	80	78	48	13	0	224
	理学:その他の理学	3	46	34	20	3	0	106
	理学:理学内の複数分野	6	43	33	9	4	0	95
工学	工学:土木・建築学	2	42	55	29	22	0	150
	工学:電気工学・情報工学	7	93	117	75	39	0	331
	工学:機械工学	13	65	70	43	23	0	214
	工学:化学工学	4	17	22	19	5	0	67
	工学:材料工学	5	37	52	17	6	0	117
	工学:医用工学	1	3	6	1	0	0	11
	工学:環境工学	0	7	12	4	1	0	24
	工学:環境生物学	0	2	0	0	0	0	2
	工学:工業生物学	1	2	8	1	1	0	13
	工学:ナノテクノロジー	0	4	0	1	0	0	5
	工学:その他の工学	0	74	86	50	21	0	231
	工学:工学内の複数分野	12	33	29	17	3	0	94
医学	医学:基礎医学	1	93	123	87	13	0	317
	医学:臨床医学	0	61	125	92	11	1	290
	医学:健康科学	1	10	16	9	2	0	38
	医学:その他の医学	4	98	98	81	16	0	297
	医学:医学内の複数分野	2	31	54	44	12	0	143
農学	農学:農学・林学・漁業学	12	82	102	62	16	0	274
	農学:動物学・酪農学	1	13	8	13	0	0	35
	農学:獣医学	0	20	33	27	3	0	83
	農学:農芸化学	3	41	50	32	6	1	133
	農学:その他の農学	0	28	18	12	4	1	63
	農学:農学内の複数分野	0	12	10	4	1	0	27
人文社会		1	28	28	31	8	0	96
複合(大分野間で同数選択)		4	62	37	24	9	0	136
課程学位情報の欠測		5	18	65	44	7	0	139
世代合計人数		105	1,371	1,624	1,042	310	4	4,456

参考図表-詳細分野2 詳細分野と職階のクロス表

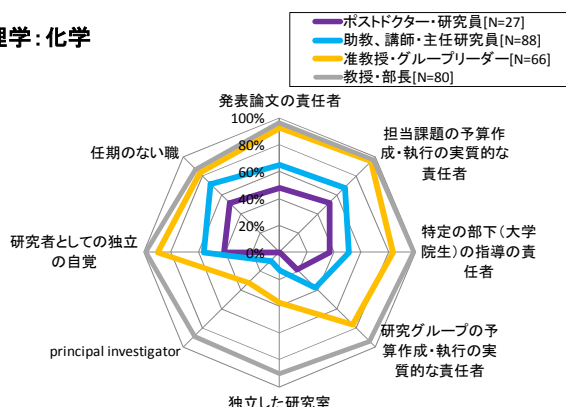
		ポストドクター・ 研究員クラス	助教、講師・主任 研究員クラス	准教授・グループ リーダークラス	教授・部長クラス	分野合計人数
理学 (自然科学)	理学:数学	5	19	16	36	76
	理学:計算機・情報科学	6	16	18	3	43
	理学:物理学	27	41	52	64	184
	理学:化学	27	88	66	80	261
	理学:地球科学・環境科学	46	28	31	32	137
	理学:生物学	53	83	42	46	224
	理学:その他の理学	16	40	22	28	106
	理学:理学内の複数分野	21	46	20	8	95
工学	工学:土木・建築学	15	34	36	65	150
	工学:電気工学・情報工学	19	96	87	129	331
	工学:機械工学	28	63	54	69	214
	工学:化学工学	7	27	11	22	67
	工学:材料工学	17	43	33	24	117
	工学:医用工学	2	4	3	2	11
	工学:環境工学	5	7	6	6	24
	工学:環境生物学	1	1	0	0	2
	工学:工業生物学	3	4	4	2	13
	工学:ナノテクノロジー	2	2	0	1	5
	工学:その他の工学	41	64	47	79	231
	工学:工学内の複数分野	17	36	22	19	94
医学	医学:基礎医学	17	150	66	84	317
	医学:臨床医学	5	136	69	80	290
	医学:健康科学	1	17	7	13	38
	医学:その他の医学	12	152	62	71	297
	医学:医学内の複数分野	4	61	34	44	143
農学	農学:農学・林学・漁業学	67	102	56	49	274
	農学:動物学・酪農学	5	18	4	8	35
	農学:獣医学	10	28	23	22	83
	農学:農芸化学	25	50	33	25	133
	農学:その他の農学	7	32	12	12	63
	農学:農学内の複数分野	7	11	7	2	27
人文社会		7	32	27	30	96
複合(大分野間で同数選択)		22	50	35	29	136
課程学位情報の欠測		12	65	29	33	139
クラス合計人数		559	1,646	1,034	1,217	4,456

## 参考図表-詳細分野3 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート(理学)

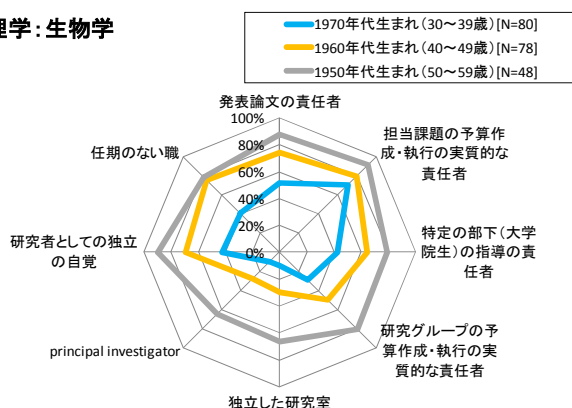
### 理学:化学



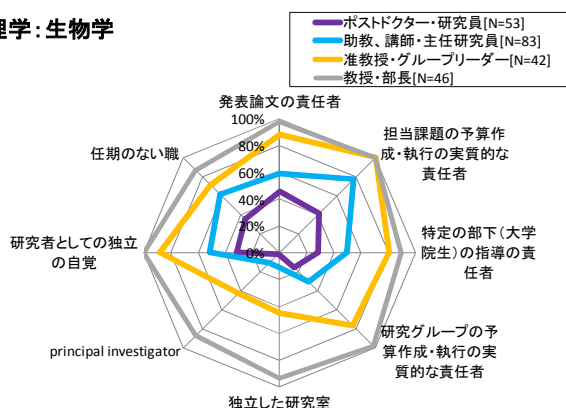
### 理学:化学



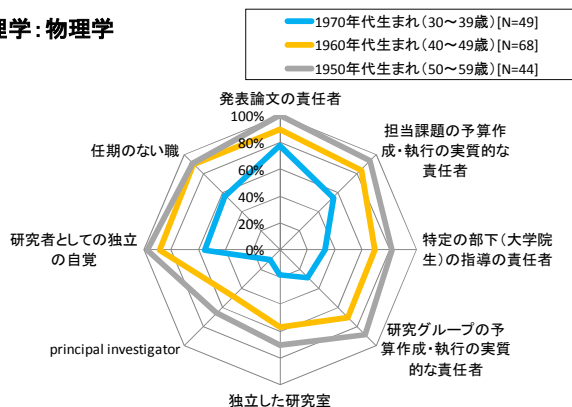
### 理学:生物学



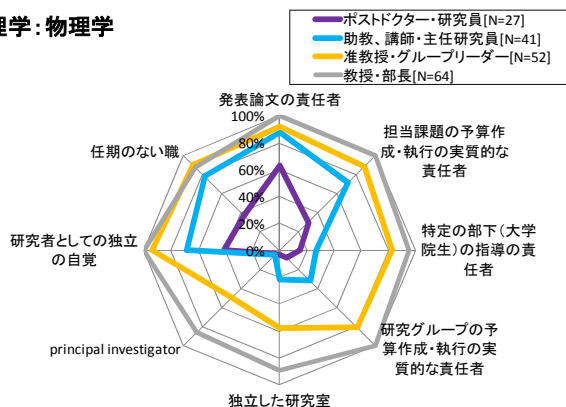
### 理学:生物学



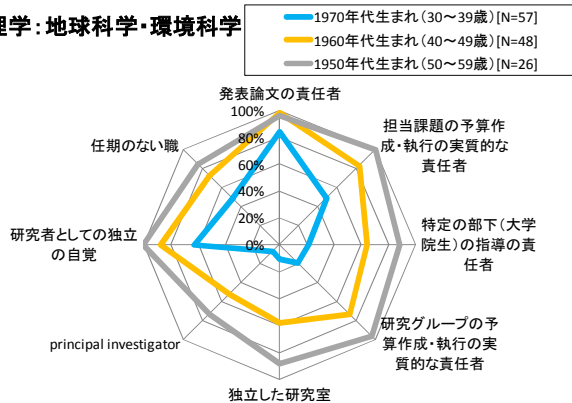
### 理学:物理学



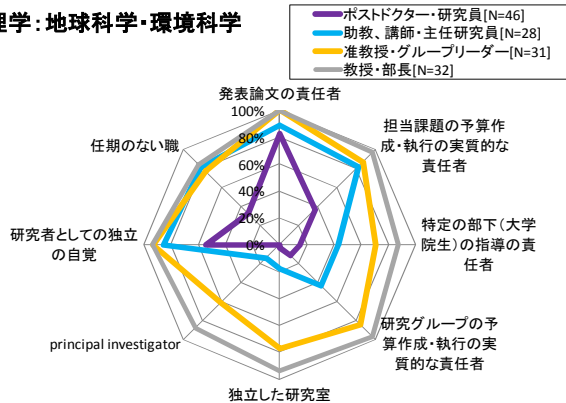
### 理学:物理学



### 理学:地球科学・環境科学



### 理学:地球科学・環境科学



参考図表-詳細分野3値 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表(理学)

理学:化学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	48 (62.3%)	50 (64.9%)	46 (59.7%)	24 (31.2%)	7 (9.1%)	4 (5.2%)	41 (53.2%)	45 (58.4%)	77
1960年代生まれ(40～49歳)	86 (87.8%)	87 (88.8%)	69 (70.4%)	67 (68.4%)	40 (40.8%)	36 (36.7%)	80 (81.6%)	82 (83.7%)	98
1950年代生まれ(50～59歳)	50 (87.7%)	52 (91.2%)	49 (86.0%)	48 (84.2%)	40 (70.2%)	38 (66.7%)	52 (91.2%)	53 (93.0%)	57

理学:生物学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	41 (51.3%)	57 (71.3%)	34 (42.5%)	23 (28.8%)	8 (10.0%)	8 (10.0%)	34 (42.5%)	33 (41.3%)	80
1960年代生まれ(40～49歳)	58 (74.4%)	62 (79.5%)	50 (64.1%)	39 (50.0%)	23 (29.5%)	22 (28.2%)	54 (69.2%)	59 (75.6%)	78
1950年代生まれ(50～59歳)	42 (87.5%)	44 (91.7%)	38 (79.2%)	39 (81.3%)	32 (66.7%)	31 (64.6%)	43 (89.6%)	38 (79.2%)	48

理学:物理学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	38 (77.6%)	27 (55.1%)	16 (32.7%)	14 (28.6%)	9 (18.4%)	5 (10.2%)	27 (55.1%)	28 (57.1%)	49
1960年代生まれ(40～49歳)	61 (89.7%)	57 (83.8%)	47 (69.1%)	48 (70.6%)	39 (57.4%)	33 (48.5%)	60 (88.2%)	61 (89.7%)	68
1950年代生まれ(50～59歳)	44 (100.0%)	41 (93.2%)	36 (81.8%)	39 (88.6%)	31 (70.5%)	29 (65.9%)	43 (97.7%)	40 (90.9%)	44

理学:地球科学・環境化学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	48 (84.2%)	28 (49.1%)	12 (21.1%)	11 (19.3%)	6 (10.5%)	4 (7.0%)	36 (63.2%)	28 (49.1%)	57
1960年代生まれ(40～49歳)	47 (97.9%)	40 (83.3%)	31 (64.6%)	35 (72.9%)	28 (58.3%)	25 (52.1%)	42 (87.5%)	35 (72.9%)	48
1950年代生まれ(50～59歳)	25 (96.2%)	26 (100.0%)	23 (88.5%)	25 (96.2%)	23 (88.5%)	19 (73.1%)	26 (100.0%)	22 (84.6%)	26

理学:化学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
ポストドクター・研究員	13 (48.1%)	14 (51.9%)	10 (37.0%)	5 (18.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	11 (40.7%)	14 (51.9%)	27
助教、講師・主任研究員	57 (64.8%)	60 (68.2%)	45 (51.1%)	33 (37.5%)	12 (13.6%)	8 (9.1%)	49 (55.7%)	63 (71.6%)	88
准教授・グループリーダー	61 (92.4%)	63 (95.5%)	55 (83.3%)	50 (75.8%)	25 (37.9%)	21 (31.8%)	59 (89.4%)	55 (83.3%)	66
教授・部長	77 (96.3%)	78 (97.5%)	79 (98.8%)	75 (93.8%)	72 (90.0%)	71 (88.8%)	79 (98.8%)	70 (87.5%)	80

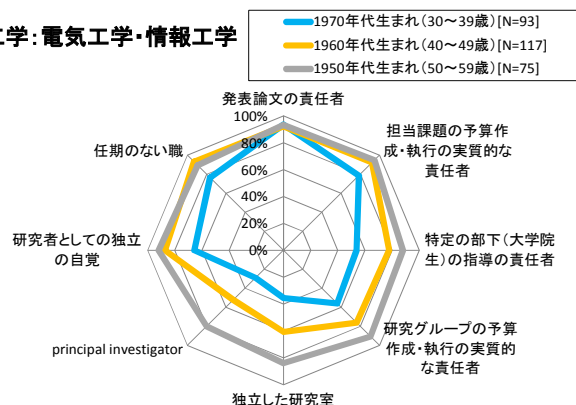
理学:生物学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
ポストドクター・研究員	24 (45.3%)	22 (41.5%)	15 (28.3%)	8 (15.1%)	1 (1.9%)	1 (1.9%)	17 (32.1%)	19 (35.8%)	53
助教、講師・主任研究員	49 (59.0%)	64 (77.1%)	41 (49.4%)	25 (30.1%)	9 (10.8%)	9 (10.8%)	43 (51.8%)	51 (61.4%)	83
准教授・グループリーダー	37 (88.1%)	42 (100.0%)	34 (81.0%)	32 (76.2%)	19 (45.2%)	18 (42.9%)	37 (88.1%)	30 (71.4%)	42
教授・部長	45 (97.8%)	46 (100.0%)	41 (89.1%)	45 (97.8%)	43 (93.5%)	40 (87.0%)	46 (100.0%)	40 (87.0%)	46

理学:物理学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
ポストドクター・研究員	17 (63.0%)	8 (29.6%)	4 (14.8%)	2 (7.4%)	1 (3.7%)	1 (3.7%)	11 (40.7%)	10 (37.0%)	27
助教、講師・主任研究員	36 (87.8%)	29 (70.7%)	11 (26.8%)	13 (31.7%)	9 (22.0%)	2 (4.9%)	28 (68.3%)	32 (78.0%)	41
准教授・グループリーダー	48 (92.3%)	46 (88.5%)	43 (82.7%)	42 (80.8%)	30 (57.7%)	26 (50.0%)	49 (94.2%)	47 (90.4%)	52
教授・部長	64 (100.0%)	64 (100.0%)	61 (95.3%)	64 (100.0%)	57 (89.1%)	55 (85.9%)	64 (100.0%)	56 (87.5%)	64

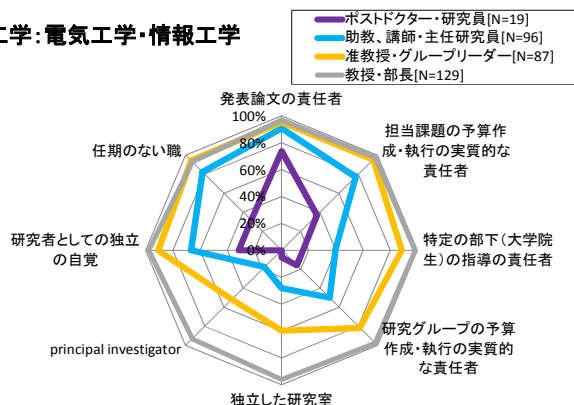
理学:地球科学・環境化学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
ポストドクター・研究員	38 (82.6%)	17 (37.0%)	7 (15.2%)	5 (10.9%)	1 (2.2%)	0 (0.0%)	25 (54.3%)	15 (32.6%)	46
助教、講師・主任研究員	25 (89.3%)	23 (82.1%)	12 (42.9%)	12 (42.9%)	5 (17.9%)	4 (14.3%)	24 (85.7%)	23 (82.1%)	28
准教授・グループリーダー	31 (100.0%)	27 (87.1%)	22 (71.0%)	26 (83.9%)	24 (77.4%)	19 (61.3%)	29 (93.5%)	24 (77.4%)	31
教授・部長	32 (100.0%)	31 (96.9%)	28 (87.5%)	31 (96.9%)	30 (93.8%)	28 (87.5%)	30 (93.8%)	27 (84.4%)	32

## 参考図表-詳細分野4 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート(工学)

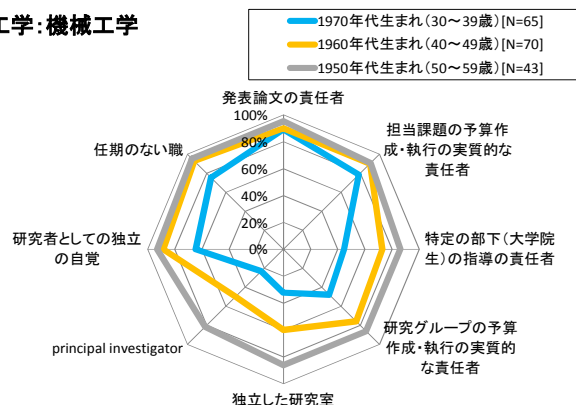
### 工学:電気工学・情報工学



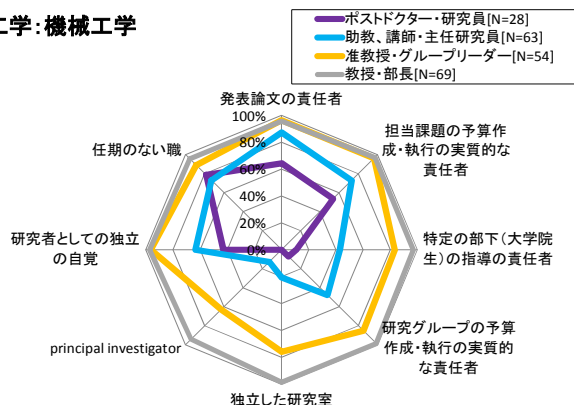
### 工学:電気工学・情報工学



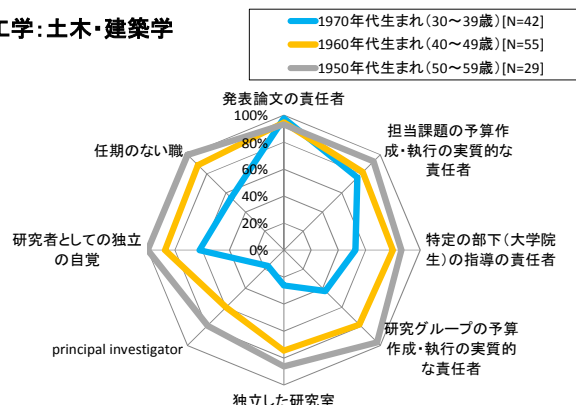
### 工学:機械工学



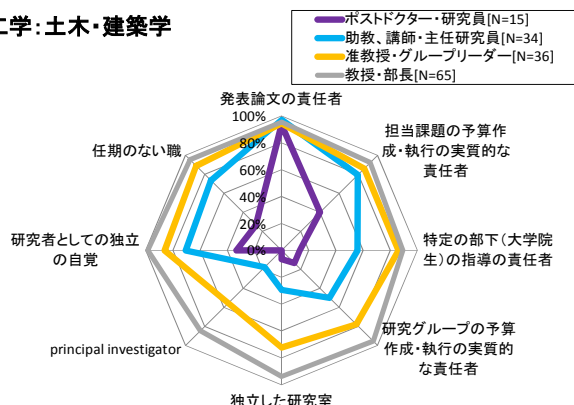
### 工学:機械工学



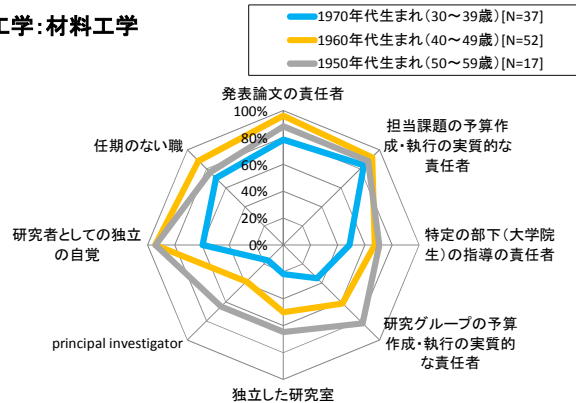
### 工学:土木・建築学



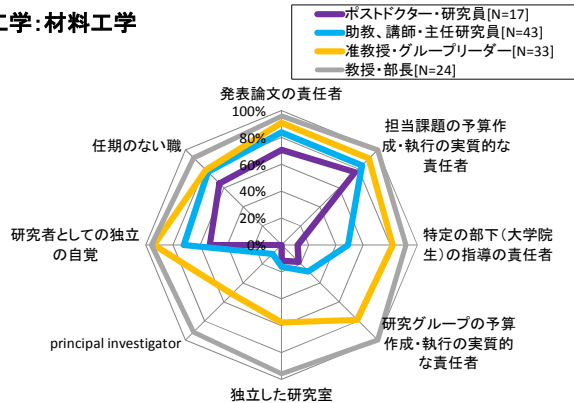
### 工学:土木・建築学



### 工学:材料工学



### 工学:材料工学

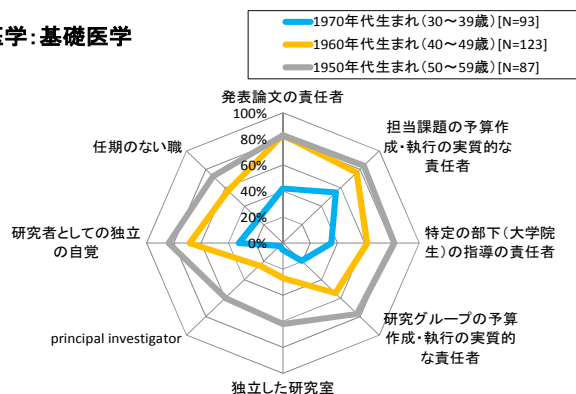


参考図表-詳細分野4値 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表(工学)

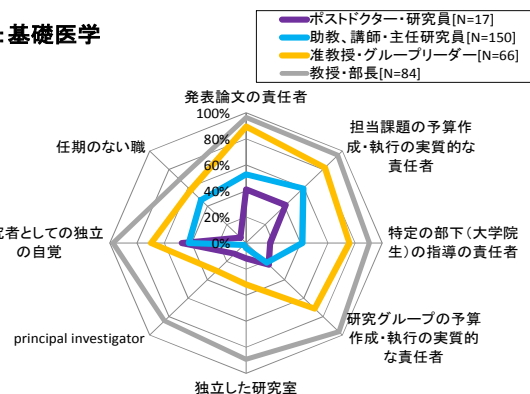
工学:電気工学・情報工学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	87 (93.5%)	73 (78.5%)	50 (53.8%)	52 (55.9%)	33 (35.5%)	27 (29.0%)	61 (65.6%)	71 (76.3%)	93
1960年代生まれ(40～49歳)	108 (92.3%)	108 (92.3%)	91 (77.8%)	89 (76.1%)	71 (60.7%)	61 (52.1%)	102 (87.2%)	109 (93.2%)	117
1950年代生まれ(50～59歳)	70 (93.3%)	71 (94.7%)	66 (88.0%)	68 (90.7%)	63 (84.0%)	60 (80.0%)	69 (92.0%)	67 (89.3%)	75
工学:機械工学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	58 (89.2%)	51 (78.5%)	29 (44.6%)	31 (47.7%)	21 (32.3%)	15 (23.1%)	42 (64.6%)	49 (75.4%)	65
1960年代生まれ(40～49歳)	63 (90.0%)	63 (90.0%)	51 (72.9%)	53 (75.7%)	42 (60.0%)	35 (50.0%)	62 (88.6%)	65 (92.9%)	70
1950年代生まれ(50～59歳)	41 (95.3%)	39 (90.7%)	37 (86.0%)	37 (86.0%)	37 (86.0%)	35 (81.4%)	40 (93.0%)	41 (95.3%)	43
工学:土木・建築学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	41 (97.6%)	32 (76.2%)	22 (52.4%)	18 (42.9%)	11 (26.2%)	7 (16.7%)	26 (61.9%)	23 (54.8%)	42
1960年代生まれ(40～49歳)	52 (94.5%)	45 (81.8%)	44 (80.0%)	43 (78.2%)	41 (74.5%)	33 (60.0%)	48 (87.3%)	49 (89.1%)	55
1950年代生まれ(50～59歳)	27 (93.1%)	27 (93.1%)	25 (86.2%)	28 (96.6%)	25 (86.2%)	23 (79.3%)	29 (100.0%)	29 (100.0%)	29
工学:材料工学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	29 (78.4%)	31 (83.8%)	18 (48.6%)	13 (35.1%)	8 (21.6%)	6 (16.2%)	22 (59.5%)	26 (70.3%)	37
1960年代生まれ(40～49歳)	50 (96.2%)	48 (92.3%)	35 (67.3%)	32 (61.5%)	26 (50.0%)	20 (38.5%)	49 (94.2%)	46 (88.5%)	52
1950年代生まれ(50～59歳)	15 (88.2%)	15 (88.2%)	12 (70.6%)	14 (82.4%)	11 (64.7%)	11 (64.7%)	16 (94.1%)	13 (76.5%)	17
工学:電気工学・情報工学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
ポストドクター・研究員	14 (73.7%)	7 (36.8%)	3 (15.8%)	3 (15.8%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	6 (31.6%)	6 (31.6%)	19
助教・講師・主任研究員	87 (90.6%)	74 (77.1%)	38 (39.6%)	48 (50.0%)	27 (28.1%)	17 (17.7%)	64 (66.7%)	79 (82.3%)	96
准教授・グループリーダー	83 (95.4%)	83 (95.4%)	77 (88.5%)	71 (81.6%)	52 (59.8%)	45 (51.7%)	79 (90.8%)	82 (94.3%)	87
教授・部長	125 (96.9%)	126 (97.7%)	127 (98.4%)	126 (97.7%)	124 (96.1%)	120 (93.0%)	126 (97.7%)	120 (93.0%)	129
工学:機械工学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
ポストドクター・研究員	18 (64.3%)	15 (53.6%)	3 (10.7%)	2 (7.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	12 (42.9%)	22 (78.6%)	28
助教・講師・主任研究員	55 (87.3%)	46 (73.0%)	27 (42.9%)	30 (47.6%)	13 (20.6%)	8 (12.7%)	40 (63.5%)	46 (73.0%)	63
准教授・グループリーダー	52 (96.3%)	52 (96.3%)	45 (83.3%)	46 (85.2%)	41 (75.9%)	34 (63.0%)	52 (96.3%)	48 (88.9%)	54
教授・部長	66 (95.7%)	67 (97.1%)	67 (97.1%)	68 (98.6%)	68 (98.6%)	65 (94.2%)	67 (97.1%)	66 (95.7%)	69
工学:土木・建築学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
ポストドクター・研究員	14 (93.3%)	6 (40.0%)	2 (13.3%)	2 (13.3%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	5 (33.3%)	4 (26.7%)	15
助教・講師・主任研究員	33 (97.1%)	27 (79.4%)	19 (55.9%)	17 (50.0%)	10 (29.4%)	6 (17.6%)	24 (70.6%)	25 (73.5%)	34
准教授・グループリーダー	34 (94.4%)	31 (86.1%)	31 (86.1%)	28 (77.8%)	26 (72.2%)	20 (55.6%)	31 (86.1%)	32 (88.9%)	36
教授・部長	62 (95.4%)	60 (92.3%)	58 (89.2%)	62 (95.4%)	61 (93.8%)	55 (84.6%)	64 (98.5%)	62 (95.4%)	65
工学:材料工学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
ポストドクター・研究員	12 (70.6%)	13 (76.5%)	2 (11.8%)	3 (17.6%)	2 (11.8%)	0 (0.0%)	9 (52.9%)	11 (64.7%)	17
助教・講師・主任研究員	36 (83.7%)	36 (83.7%)	21 (48.8%)	12 (27.9%)	7 (16.3%)	4 (9.3%)	31 (72.1%)	33 (76.7%)	43
准教授・グループリーダー	30 (90.9%)	30 (90.9%)	27 (81.8%)	26 (78.8%)	19 (57.6%)	17 (51.5%)	31 (93.9%)	26 (78.8%)	33
教授・部長	23 (95.8%)	24 (100.0%)	22 (91.7%)	24 (100.0%)	23 (95.8%)	22 (91.7%)	23 (95.8%)	22 (91.7%)	24

参考図表-詳細分野5 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート(医学)

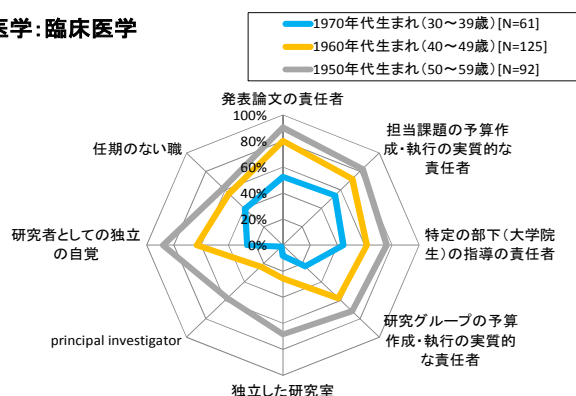
医学:基礎医学



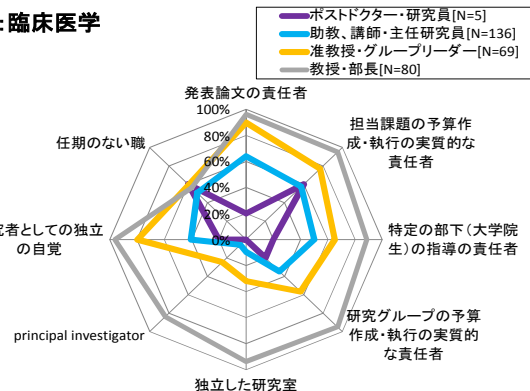
医学:基礎医学



医学:臨床医学



医学:臨床医学



参考図表-詳細分野5値 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表(医学)

医学:基礎医学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	39 (41.9%)	51 (54.8%)	33 (35.5%)	18 (19.4%)	5 (5.4%)	3 (3.2%)	30 (32.3%)	24 (25.8%)	93
1960年代生まれ(40～49歳)	102 (82.9%)	94 (76.4%)	76 (61.8%)	67 (54.5%)	33 (26.8%)	30 (24.4%)	84 (68.3%)	70 (56.9%)	123
1950年代生まれ(50～59歳)	72 (82.8%)	73 (83.9%)	71 (81.6%)	67 (77.0%)	54 (62.1%)	52 (59.8%)	73 (83.9%)	63 (72.4%)	87

医学:臨床医学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	32 (52.5%)	33 (54.1%)	27 (44.3%)	14 (23.0%)	5 (8.2%)	1 (1.6%)	16 (26.2%)	24 (39.3%)	61
1960年代生まれ(40～49歳)	100 (80.0%)	90 (72.0%)	77 (61.6%)	72 (57.6%)	32 (25.6%)	29 (23.2%)	79 (63.2%)	70 (56.0%)	125
1950年代生まれ(50～59歳)	83 (90.2%)	76 (82.6%)	70 (76.1%)	66 (71.7%)	63 (68.5%)	53 (57.6%)	81 (88.0%)	57 (62.0%)	92

医学:基礎医学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	7 (41.2%)	7 (41.2%)	3 (17.6%)	4 (23.5%)	2 (11.8%)	2 (11.8%)	8 (47.1%)	1 (5.9%)	17
助教・講師・主任研究員	79 (52.7%)	89 (59.3%)	62 (41.3%)	32 (21.3%)	6 (4.0%)	3 (2.0%)	63 (42.0%)	70 (46.7%)	150
准教授・グループリーダー	59 (89.4%)	54 (81.8%)	50 (75.8%)	47 (71.2%)	21 (31.8%)	20 (30.3%)	46 (69.7%)	38 (57.6%)	66
教授・部長	81 (96.4%)	80 (95.2%)	76 (90.5%)	81 (96.4%)	75 (89.3%)	71 (84.5%)	82 (97.6%)	58 (69.0%)	84

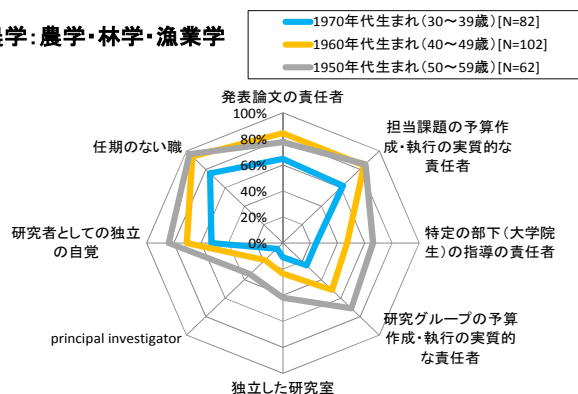
  

医学:臨床医学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	1 (20.0%)	3 (60.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	3 (60.0%)	5
助教・講師・主任研究員	87 (64.0%)	78 (57.4%)	68 (50.0%)	47 (34.6%)	13 (9.6%)	8 (5.9%)	55 (40.4%)	69 (50.7%)	136
准教授・グループリーダー	62 (89.9%)	53 (76.8%)	45 (65.2%)	39 (56.5%)	22 (31.9%)	17 (24.6%)	55 (79.7%)	41 (59.4%)	69
教授・部長	77 (96.3%)	76 (95.0%)	71 (88.8%)	76 (95.0%)	75 (93.8%)	67 (83.8%)	77 (96.3%)	45 (56.3%)	80

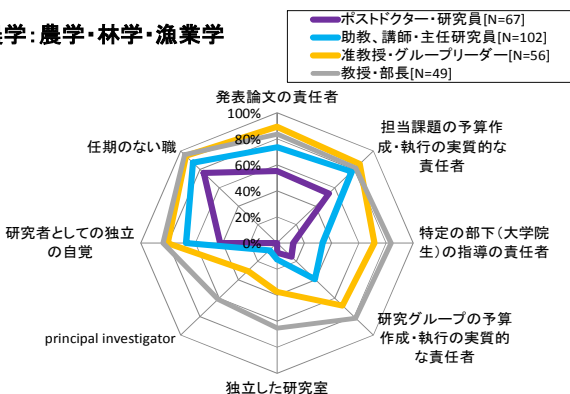


## 参考図表-詳細分野6 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート(農学)

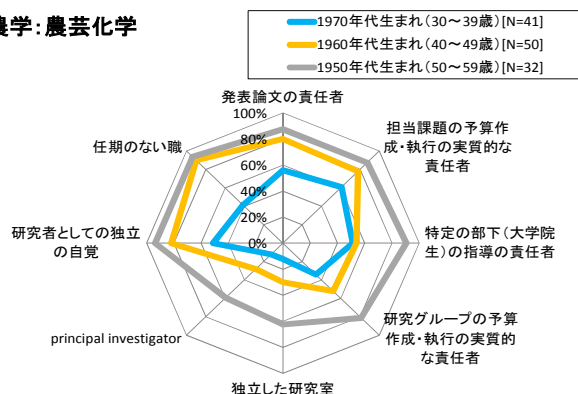
### 農学:農学・林学・漁業学



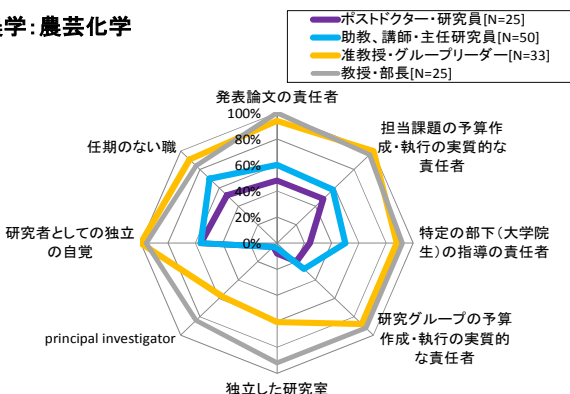
### 農学:農学・林学・漁業学



### 農学:農芸化学



### 農学:農芸化学



## 参考図表-詳細分野6値 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表(農学)

農学:農学・林学・漁業学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30~39歳)	53 (64.6%)	51 (62.2%)	20 (24.4%)	20 (24.4%)	9 (11.0%)	5 (6.1%)	43 (52.4%)	62 (75.6%)	82
1960年代生まれ(40~49歳)	86 (84.3%)	86 (84.3%)	48 (47.1%)	52 (51.0%)	24 (23.5%)	19 (18.6%)	72 (70.6%)	96 (94.1%)	102
1950年代生まれ(50~59歳)	48 (77.4%)	53 (85.5%)	41 (66.1%)	44 (71.0%)	26 (41.9%)	21 (33.9%)	52 (83.9%)	60 (96.8%)	62

農学:農芸化学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30~39歳)	23 (56.1%)	25 (61.0%)	21 (51.2%)	14 (34.1%)	5 (12.2%)	5 (12.2%)	21 (51.2%)	17 (41.5%)	41
1960年代生まれ(40~49歳)	40 (80.0%)	39 (78.0%)	27 (54.0%)	26 (52.0%)	15 (30.0%)	14 (28.0%)	41 (82.0%)	45 (90.0%)	50
1950年代生まれ(50~59歳)	28 (87.5%)	28 (87.5%)	29 (90.6%)	26 (81.3%)	20 (62.5%)	19 (59.4%)	30 (93.8%)	30 (93.8%)	32

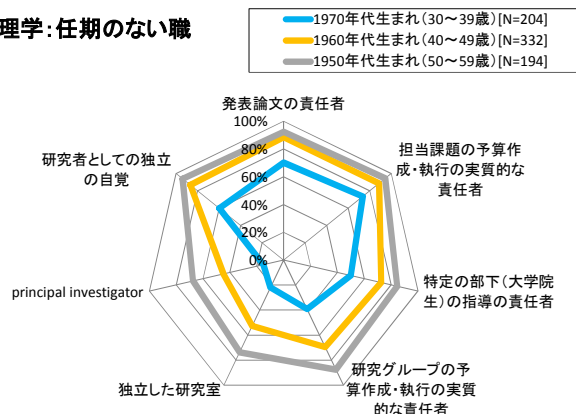
農学:農学・林学・漁業学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	37 (55.2%)	36 (53.7%)	8 (11.9%)	10 (14.9%)	5 (7.5%)	0 (0.0%)	28 (41.8%)	51 (76.1%)	67
助教、講師・主任研究員	75 (73.5%)	79 (77.5%)	34 (33.3%)	40 (39.2%)	13 (12.7%)	8 (7.8%)	68 (66.7%)	89 (87.3%)	102
准教授・グループリーダー	50 (89.3%)	48 (85.7%)	40 (71.4%)	38 (67.9%)	21 (37.5%)	17 (30.4%)	45 (80.4%)	53 (94.6%)	56
教授・部長	41 (83.7%)	40 (81.6%)	41 (83.7%)	40 (81.6%)	32 (65.3%)	30 (61.2%)	41 (83.7%)	47 (95.9%)	49

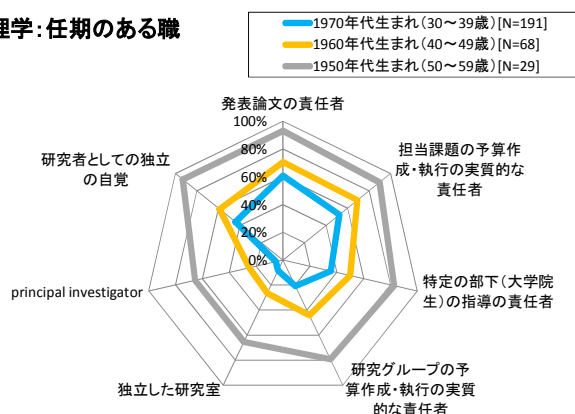
農学:農芸化学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	12 (48.0%)	12 (48.0%)	6 (24.0%)	5 (20.0%)	2 (8.0%)	1 (4.0%)	14 (56.0%)	13 (52.0%)	25
助教、講師・主任研究員	30 (60.0%)	29 (58.0%)	25 (50.0%)	14 (28.0%)	2 (4.0%)	2 (4.0%)	28 (56.0%)	35 (70.0%)	50
准教授・グループリーダー	31 (93.9%)	33 (100.0%)	29 (87.9%)	29 (87.9%)	20 (60.6%)	19 (57.6%)	33 (100.0%)	30 (90.9%)	33
教授・部長	25 (100.0%)	24 (96.0%)	23 (92.0%)	23 (92.0%)	23 (92.0%)	21 (84.0%)	24 (96.0%)	21 (84.0%)	25

参考図表-属性1 研究環境・権限、独立の自覚の有無のレーダーチャート(任期の有無:年齢層別)【図表4-5別版】

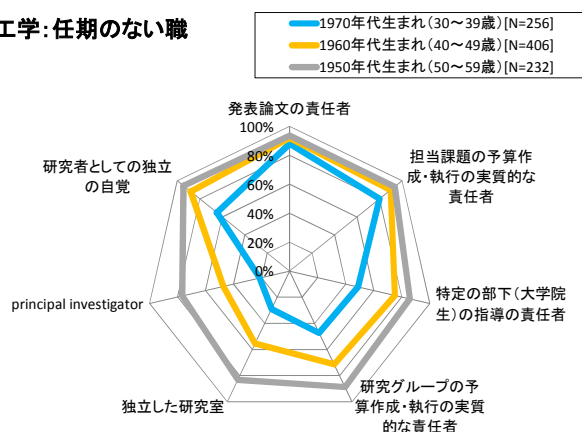
理学:任期のない職



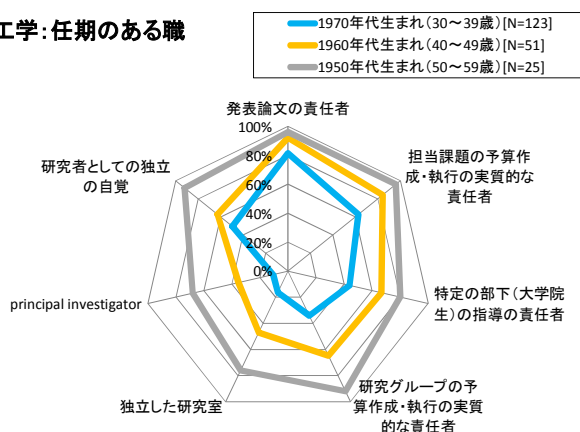
理学:任期のある職



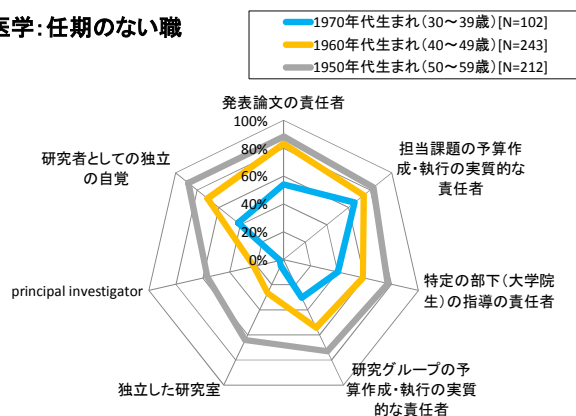
工学:任期のない職



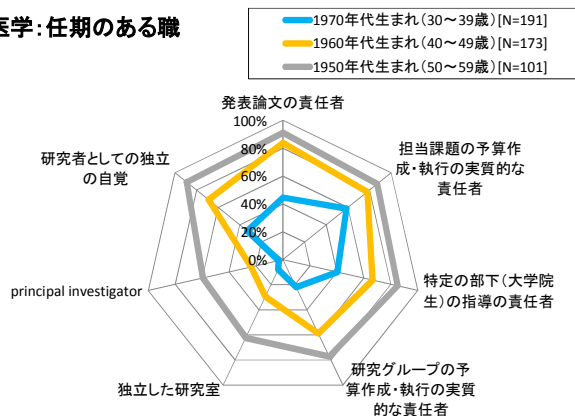
工学:任期のある職



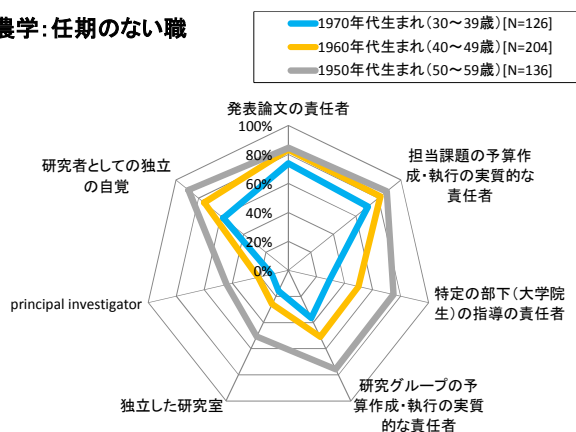
医学:任期のない職



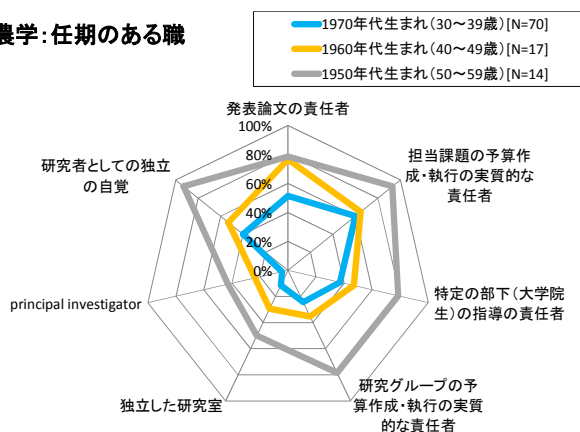
医学:任期のある職



農学:任期のない職



農学:任期のある職

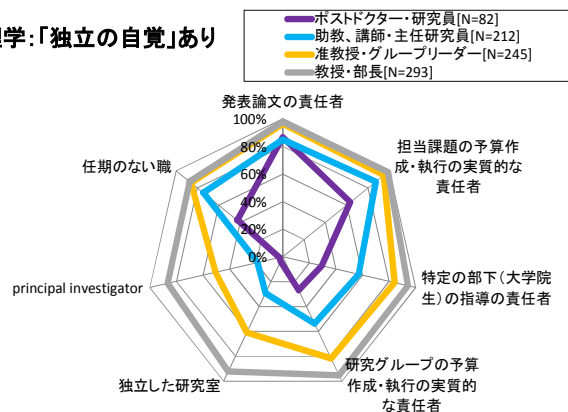


参考図表-属性1値 研究環境・権限、独立の自覚の有無の内訳表(任期の有無:年齢層別)【図表4-5別版】

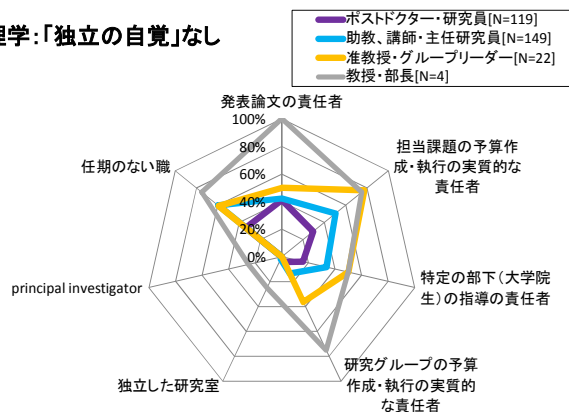
理学:任期なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	143 (70.1%)	150 (73.5%)	102 (50.0%)	80 (39.2%)	45 (22.1%)	31 (15.2%)	122 (59.8%)	204 (100.0%)	204
1960年代生まれ(40～49歳)	294 (88.6%)	294 (88.6%)	241 (72.6%)	231 (69.6%)	175 (52.7%)	149 (44.9%)	288 (86.7%)	332 (100.0%)	332
1950年代生まれ(50～59歳)	179 (92.3%)	183 (94.3%)	164 (84.5%)	170 (87.6%)	143 (73.7%)	131 (67.5%)	182 (93.8%)	194 (100.0%)	194
工学:任期なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	225 (87.9%)	205 (80.1%)	125 (48.8%)	121 (47.3%)	74 (28.9%)	55 (21.5%)	166 (64.8%)	256 (100.0%)	256
1960年代生まれ(40～49歳)	373 (91.9%)	365 (89.9%)	305 (75.1%)	290 (71.4%)	225 (55.4%)	192 (47.3%)	358 (88.2%)	406 (100.0%)	406
1950年代生まれ(50～59歳)	217 (93.5%)	217 (93.5%)	199 (85.8%)	206 (88.8%)	193 (83.2%)	178 (76.7%)	219 (94.4%)	232 (100.0%)	232
医学:任期なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	55 (53.9%)	67 (65.7%)	41 (40.2%)	31 (30.4%)	5 (4.9%)	3 (2.9%)	43 (42.2%)	102 (100.0%)	102
1960年代生まれ(40～49歳)	202 (83.1%)	180 (74.1%)	143 (58.8%)	132 (54.3%)	65 (26.7%)	54 (22.2%)	171 (70.4%)	243 (100.0%)	243
1950年代生まれ(50～59歳)	187 (88.2%)	176 (83.0%)	164 (77.4%)	155 (73.1%)	136 (64.2%)	120 (56.6%)	187 (88.2%)	212 (100.0%)	212
農学:任期なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	93 (73.8%)	89 (70.6%)	37 (29.4%)	46 (36.5%)	20 (15.9%)	15 (11.9%)	73 (57.9%)	126 (100.0%)	126
1960年代生まれ(40～49歳)	170 (83.3%)	167 (81.9%)	102 (50.0%)	104 (51.0%)	53 (26.0%)	44 (21.6%)	153 (75.0%)	204 (100.0%)	204
1950年代生まれ(50～59歳)	115 (84.6%)	119 (87.5%)	102 (75.0%)	103 (75.7%)	69 (50.7%)	60 (44.1%)	121 (89.0%)	136 (100.0%)	136
理学:任期あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	116 (60.7%)	100 (52.4%)	68 (35.6%)	40 (20.9%)	16 (8.4%)	10 (5.2%)	84 (44.0%)	0 (0.0%)	191
1960年代生まれ(40～49歳)	48 (70.6%)	47 (69.1%)	34 (50.0%)	30 (44.1%)	18 (26.5%)	17 (25.0%)	40 (58.8%)	0 (0.0%)	68
1950年代生まれ(50～59歳)	27 (93.1%)	26 (89.7%)	24 (82.8%)	23 (79.3%)	19 (65.5%)	19 (65.5%)	27 (93.1%)	0 (0.0%)	29
工学:任期あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	100 (81.3%)	77 (62.6%)	54 (43.9%)	42 (34.1%)	20 (16.3%)	13 (10.6%)	61 (49.6%)	0 (0.0%)	123
1960年代生まれ(40～49歳)	47 (92.2%)	43 (84.3%)	34 (66.7%)	33 (64.7%)	24 (47.1%)	18 (35.3%)	32 (62.7%)	0 (0.0%)	51
1950年代生まれ(50～59歳)	24 (96.0%)	24 (96.0%)	20 (80.0%)	23 (92.0%)	19 (76.0%)	17 (68.0%)	23 (92.0%)	0 (0.0%)	25
医学:任期あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	85 (44.5%)	112 (58.6%)	77 (40.3%)	42 (22.0%)	15 (7.9%)	6 (3.1%)	63 (33.0%)	0 (0.0%)	191
1960年代生まれ(40～49歳)	145 (83.8%)	135 (78.0%)	115 (66.5%)	102 (59.0%)	51 (29.5%)	41 (23.7%)	119 (68.8%)	0 (0.0%)	173
1950年代生まれ(50～59歳)	92 (91.1%)	88 (87.1%)	86 (85.1%)	78 (77.2%)	63 (62.4%)	60 (59.4%)	90 (89.1%)	0 (0.0%)	101
農学:任期あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	36 (51.4%)	42 (60.0%)	26 (37.1%)	17 (24.3%)	8 (11.4%)	3 (4.3%)	28 (40.0%)	0 (0.0%)	70
1960年代生まれ(40～49歳)	13 (76.5%)	11 (64.7%)	8 (47.1%)	6 (35.3%)	5 (29.4%)	4 (23.5%)	9 (52.9%)	0 (0.0%)	17
1950年代生まれ(50～59歳)	11 (78.6%)	13 (92.9%)	11 (78.6%)	11 (78.6%)	7 (50.0%)	6 (42.9%)	13 (92.9%)	0 (0.0%)	14

参考図表-属性2 研究環境・権限、任期の有無のレーダーチャート(「独立の自覚」の有無:職階別)【図表4-7別版】

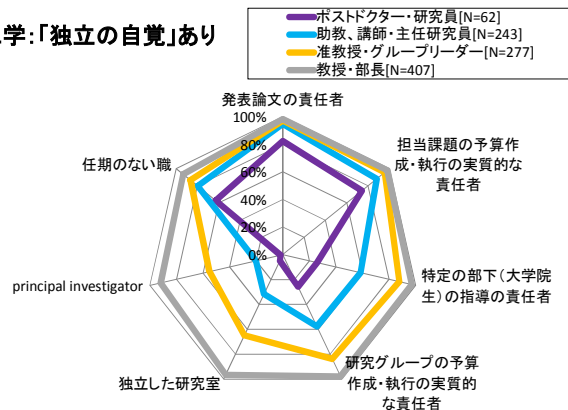
理学:「独立の自覚」あり



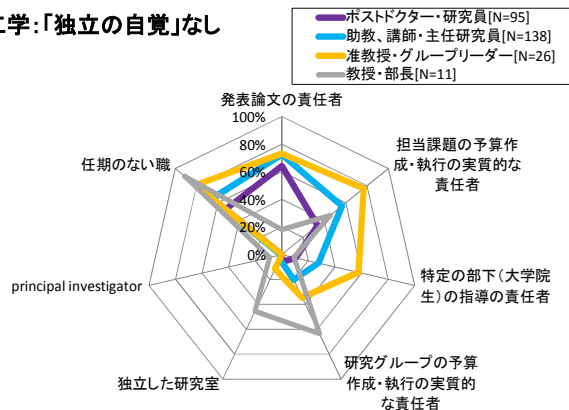
理学:「独立の自覚」なし



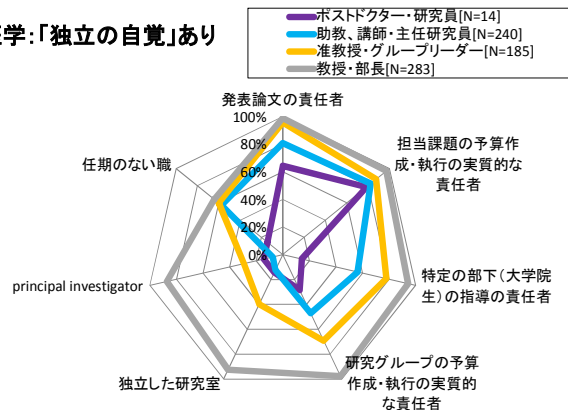
工学:「独立の自覚」あり



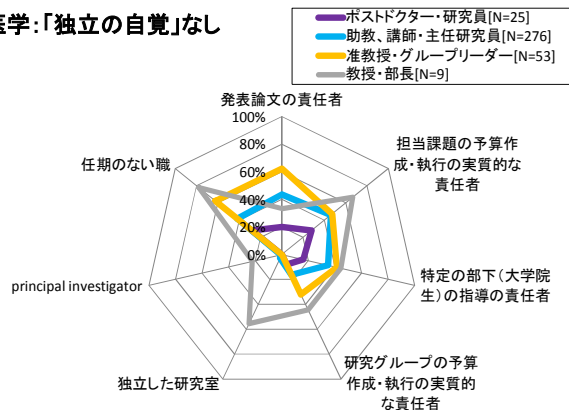
工学:「独立の自覚」なし



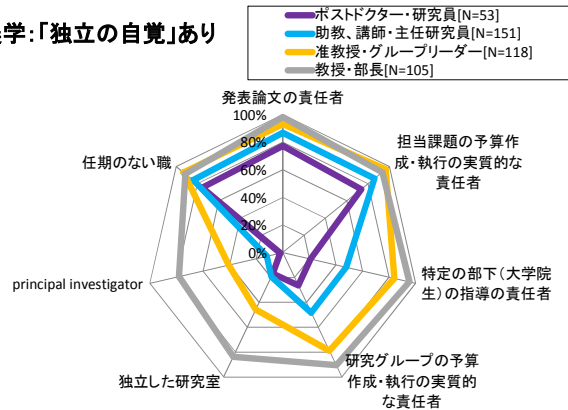
医学:「独立の自覚」あり



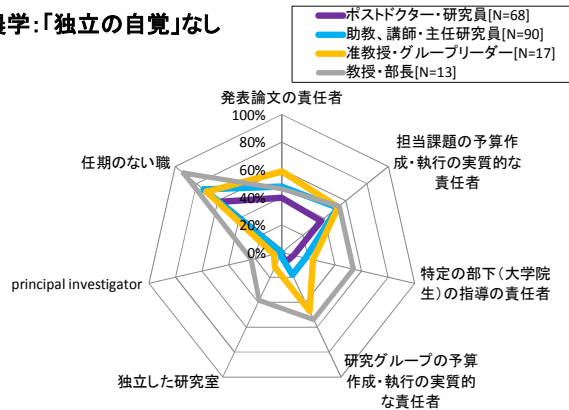
医学:「独立の自覚」なし



農学:「独立の自覚」あり



農学:「独立の自覚」なし

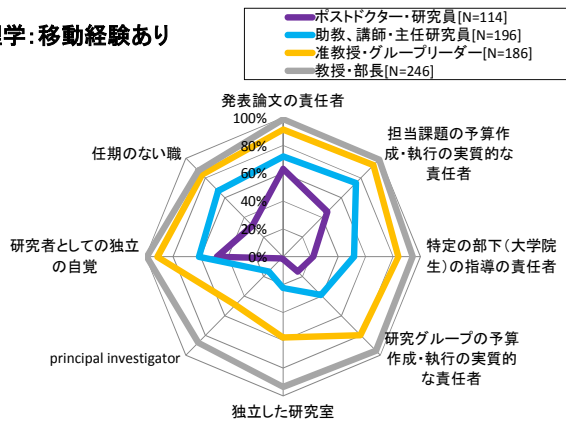


参考図表-属性2値 研究環境・権限、任期の有無の内訳表(「独立の自覚」の有無:職階別)【図表4-7別版】

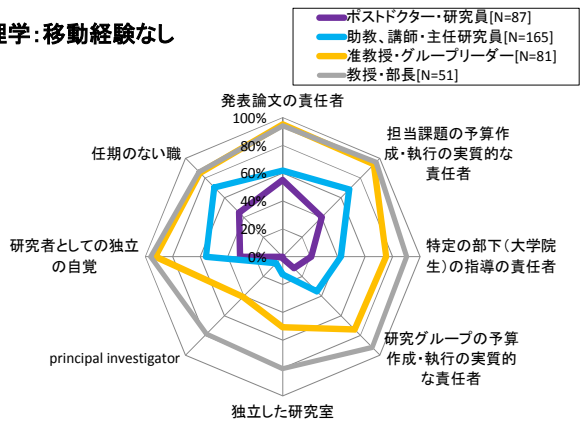
理学:「独立の自覚」あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	71 (86.6%)	52 (63.4%)	24 (29.3%)	22 (26.8%)	3 (3.7%)	2 (2.4%)	82 (100.0%)	35 (42.7%)	82
助教・講師・主任研究員	180 (84.9%)	185 (87.3%)	121 (57.1%)	114 (53.8%)	62 (29.2%)	40 (18.9%)	212 (100.0%)	158 (74.5%)	212
准教授・グループリーダー	236 (96.3%)	232 (94.7%)	206 (84.1%)	200 (81.6%)	149 (60.8%)	124 (50.6%)	245 (100.0%)	211 (86.1%)	245
教授・部長	287 (98.0%)	289 (98.6%)	276 (94.2%)	279 (95.2%)	270 (92.2%)	254 (86.7%)	293 (100.0%)	256 (87.4%)	293
工学:「独立の自覚」あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	51 (82.3%)	46 (74.2%)	16 (25.8%)	16 (25.8%)	3 (4.8%)	1 (1.6%)	62 (100.0%)	39 (62.9%)	62
助教・講師・主任研究員	230 (94.7%)	214 (88.1%)	142 (58.4%)	140 (57.6%)	77 (31.7%)	49 (20.2%)	243 (100.0%)	194 (79.8%)	243
准教授・グループリーダー	269 (97.1%)	265 (95.7%)	243 (87.7%)	232 (83.8%)	180 (65.0%)	153 (55.2%)	277 (100.0%)	240 (86.6%)	277
教授・部長	400 (98.3%)	399 (98.0%)	395 (97.1%)	398 (97.8%)	393 (96.6%)	374 (91.9%)	407 (100.0%)	380 (93.4%)	407
医学:「独立の自覚」あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	9 (64.3%)	11 (78.6%)	2 (14.3%)	4 (28.6%)	2 (14.3%)	2 (14.3%)	14 (100.0%)	2 (14.3%)	14
助教・講師・主任研究員	194 (80.8%)	198 (82.5%)	135 (56.3%)	113 (47.1%)	30 (12.5%)	18 (7.5%)	240 (100.0%)	138 (57.5%)	240
准教授・グループリーダー	177 (95.7%)	162 (87.6%)	144 (77.8%)	128 (69.2%)	74 (40.0%)	54 (29.2%)	185 (100.0%)	111 (60.0%)	185
教授・部長	280 (98.9%)	275 (97.2%)	267 (94.3%)	276 (97.5%)	262 (92.6%)	247 (87.3%)	283 (100.0%)	182 (64.3%)	283
農学:「独立の自覚」あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	41 (77.4%)	39 (73.6%)	11 (20.8%)	14 (26.4%)	9 (17.0%)	1 (1.9%)	53 (100.0%)	40 (75.5%)	53
助教・講師・主任研究員	131 (86.8%)	130 (86.1%)	72 (47.7%)	73 (48.3%)	29 (19.2%)	18 (11.9%)	151 (100.0%)	127 (84.1%)	151
准教授・グループリーダー	110 (93.2%)	114 (96.6%)	99 (83.9%)	93 (78.8%)	54 (45.8%)	48 (40.7%)	118 (100.0%)	110 (93.2%)	118
教授・部長	103 (98.1%)	98 (93.3%)	100 (95.2%)	95 (90.5%)	88 (83.8%)	82 (78.1%)	105 (100.0%)	96 (91.4%)	105
理学:「独立の自覚」なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	49 (41.2%)	35 (29.4%)	19 (16.0%)	5 (4.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	40 (33.6%)	119
助教・講師・主任研究員	63 (42.3%)	75 (50.3%)	50 (33.6%)	20 (13.4%)	3 (2.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	89 (59.7%)	149
准教授・グループリーダー	11 (50.0%)	17 (77.3%)	11 (50.0%)	8 (36.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	13 (59.1%)	22
教授・部長	4 (100.0%)	3 (75.0%)	2 (50.0%)	3 (75.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	3 (75.0%)	4
工学:「独立の自覚」なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	61 (64.2%)	32 (33.7%)	10 (10.5%)	5 (5.3%)	3 (3.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	50 (52.6%)	95
助教・講師・主任研究員	100 (72.5%)	78 (56.5%)	38 (27.5%)	28 (20.3%)	5 (3.6%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	90 (65.2%)	138
准教授・グループリーダー	19 (73.1%)	20 (76.9%)	15 (57.7%)	9 (34.6%)	3 (11.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	21 (80.8%)	26
教授・部長	2 (18.2%)	5 (45.5%)	1 (9.1%)	7 (63.6%)	5 (45.5%)	1 (9.1%)	0 (0.0%)	10 (90.9%)	11
医学:「独立の自覚」なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	5 (20.0%)	7 (28.0%)	4 (16.0%)	2 (8.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (28.0%)	25
助教・講師・主任研究員	120 (43.5%)	127 (46.0%)	96 (34.8%)	45 (16.3%)	8 (2.9%)	2 (0.7%)	0 (0.0%)	115 (41.7%)	276
准教授・グループリーダー	33 (62.3%)	25 (47.2%)	22 (41.5%)	17 (32.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (62.3%)	53
教授・部長	3 (33.3%)	6 (66.7%)	4 (44.4%)	4 (44.4%)	5 (55.6%)	2 (22.2%)	0 (0.0%)	7 (77.8%)	9
農学:「独立の自覚」なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	27 (39.7%)	25 (36.8%)	6 (8.8%)	5 (7.4%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	40 (58.8%)	68
助教・講師・主任研究員	43 (47.8%)	47 (52.2%)	16 (17.8%)	16 (17.8%)	2 (2.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	66 (73.3%)	90
准教授・グループリーダー	10 (58.8%)	9 (52.9%)	4 (23.5%)	8 (47.1%)	2 (11.8%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	12 (70.6%)	17
教授・部長	6 (46.2%)	7 (53.8%)	7 (53.8%)	7 (53.8%)	5 (38.5%)	3 (23.1%)	0 (0.0%)	12 (92.3%)	13

参考図表-属性3 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート(移動経験:職階別)【図表4-10別版】

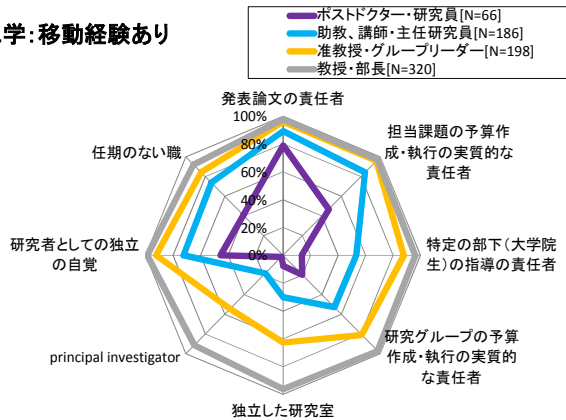
理学:移動経験あり



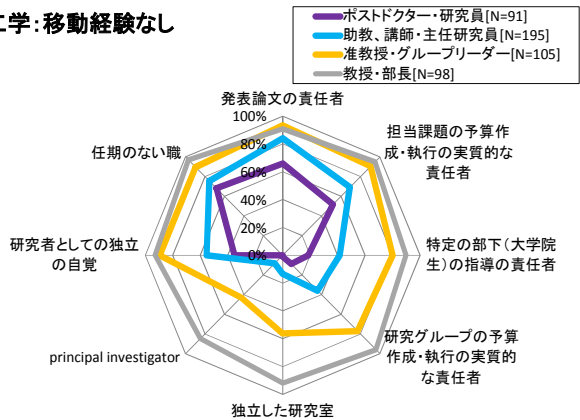
理学:移動経験なし



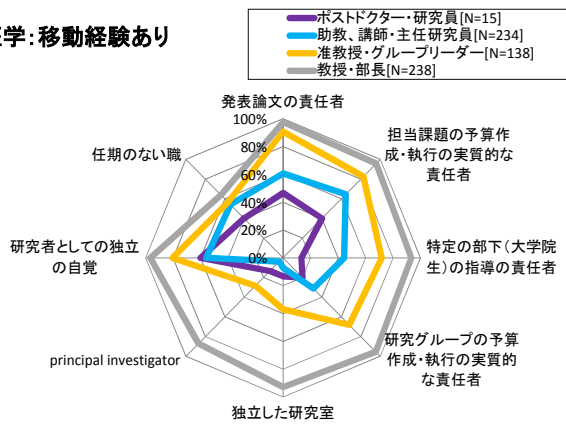
工学:移動経験あり



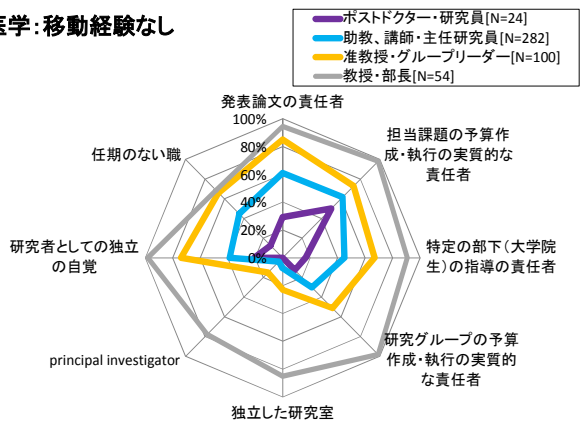
工学:移動経験なし



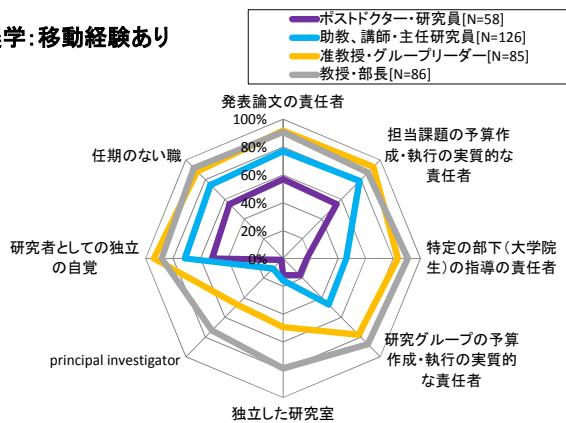
医学:移動経験あり



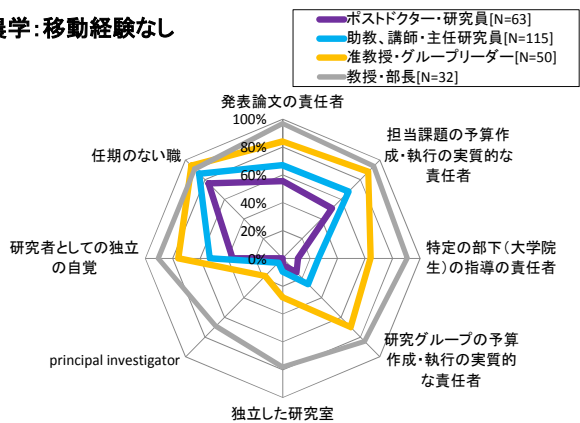
医学:移動経験なし



農学:移動経験あり



農学:移動経験なし



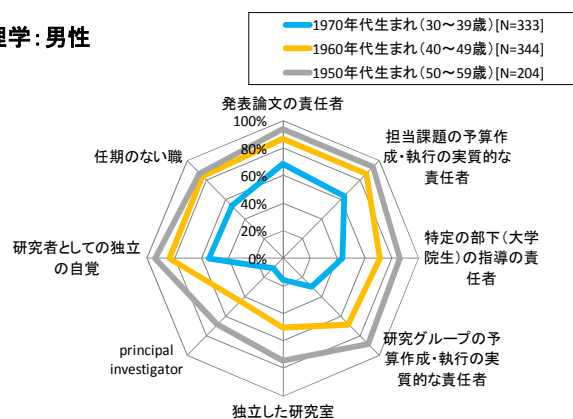


参考図表-属性3値 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表(移動経験:職階別)【図表4-10別版】

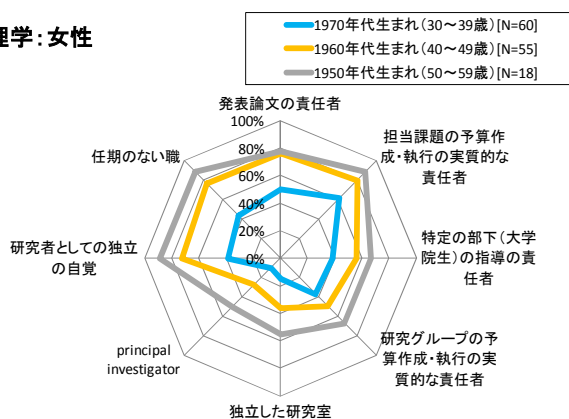
理学:機関の移動経験あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	72 (63.2%)	52 (45.6%)	25 (21.9%)	17 (14.9%)	2 (1.8%)	2 (1.8%)	55 (48.2%)	36 (31.6%)	114
助教・講師・主任研究員	141 (71.9%)	147 (75.0%)	101 (51.5%)	76 (38.8%)	44 (22.4%)	29 (14.8%)	120 (61.2%)	131 (66.8%)	196
准教授・グループリーダー	170 (91.4%)	173 (93.0%)	156 (83.9%)	148 (79.6%)	108 (58.1%)	91 (48.9%)	170 (91.4%)	155 (83.3%)	186
教授・部長	243 (98.8%)	243 (98.8%)	232 (94.3%)	235 (95.5%)	230 (93.5%)	215 (87.4%)	244 (99.2%)	215 (87.4%)	246
工学:機関の移動経験あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	52 (78.8%)	31 (47.0%)	9 (13.6%)	13 (19.7%)	5 (7.6%)	1 (1.5%)	30 (45.5%)	27 (40.9%)	66
助教・講師・主任研究員	166 (89.2%)	157 (84.4%)	99 (53.2%)	98 (52.7%)	56 (30.1%)	34 (18.3%)	135 (72.6%)	137 (73.7%)	186
准教授・グループリーダー	190 (96.0%)	190 (96.0%)	174 (87.9%)	160 (80.8%)	124 (62.6%)	108 (54.5%)	183 (92.4%)	167 (84.3%)	198
教授・部長	313 (97.8%)	311 (97.2%)	308 (96.3%)	311 (97.2%)	308 (96.3%)	292 (91.3%)	316 (98.8%)	295 (92.2%)	320
医学:機関の移動経験あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	7 (46.7%)	6 (40.0%)	2 (13.3%)	3 (20.0%)	2 (13.3%)	2 (13.3%)	9 (60.0%)	6 (40.0%)	15
助教・講師・主任研究員	142 (60.7%)	151 (64.5%)	104 (44.4%)	73 (31.2%)	17 (7.3%)	9 (3.8%)	131 (56.0%)	127 (54.3%)	234
准教授・グループリーダー	125 (90.6%)	114 (82.6%)	99 (71.7%)	94 (68.1%)	51 (37.0%)	39 (28.3%)	111 (80.4%)	78 (56.5%)	138
教授・部長	232 (97.5%)	228 (95.8%)	222 (93.3%)	227 (95.4%)	221 (92.9%)	207 (87.0%)	230 (96.6%)	152 (63.9%)	238
農学:機関の移動経験あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	33 (56.9%)	32 (55.2%)	10 (17.2%)	10 (17.2%)	7 (12.1%)	1 (1.7%)	30 (51.7%)	32 (55.2%)	58
助教・講師・主任研究員	97 (77.0%)	99 (78.6%)	58 (46.0%)	59 (46.8%)	20 (15.9%)	13 (10.3%)	90 (71.4%)	94 (74.6%)	126
准教授・グループリーダー	78 (91.8%)	79 (92.9%)	71 (83.5%)	66 (77.6%)	42 (49.4%)	40 (47.1%)	80 (94.1%)	75 (88.2%)	85
教授・部長	78 (90.7%)	75 (87.2%)	78 (90.7%)	75 (87.2%)	68 (79.1%)	63 (73.3%)	76 (88.4%)	79 (91.9%)	86
理学:機関の移動経験なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	48 (55.2%)	35 (40.2%)	18 (20.7%)	10 (11.5%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)	27 (31.0%)	39 (44.8%)	87
助教・講師・主任研究員	102 (61.8%)	113 (68.5%)	70 (42.4%)	58 (35.2%)	21 (12.7%)	11 (6.7%)	92 (55.8%)	116 (70.3%)	165
准教授・グループリーダー	77 (95.1%)	76 (93.8%)	61 (75.3%)	60 (74.1%)	41 (50.6%)	33 (40.7%)	75 (92.6%)	69 (85.2%)	81
教授・部長	48 (94.1%)	49 (96.1%)	46 (90.2%)	47 (92.2%)	41 (80.4%)	40 (78.4%)	49 (96.1%)	44 (86.3%)	51
工学:機関の移動経験なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	60 (65.9%)	47 (51.6%)	17 (18.7%)	8 (8.8%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)	32 (35.2%)	62 (68.1%)	91
助教・講師・主任研究員	164 (84.1%)	135 (69.2%)	81 (41.5%)	70 (35.9%)	26 (13.3%)	16 (8.2%)	108 (55.4%)	147 (75.4%)	195
准教授・グループリーダー	98 (93.3%)	95 (90.5%)	84 (80.0%)	81 (77.1%)	59 (56.2%)	45 (42.9%)	94 (89.5%)	94 (89.5%)	105
教授・部長	89 (90.8%)	93 (94.9%)	88 (89.8%)	94 (95.9%)	90 (91.8%)	83 (84.7%)	91 (92.9%)	95 (96.9%)	98
医学:機関の移動経験なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	7 (29.2%)	12 (50.0%)	4 (16.7%)	3 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (20.8%)	3 (12.5%)	24
助教・講師・主任研究員	172 (61.0%)	174 (61.7%)	127 (45.0%)	85 (30.1%)	21 (7.4%)	11 (3.9%)	109 (38.7%)	126 (44.7%)	282
准教授・グループリーダー	85 (85.0%)	73 (73.0%)	67 (67.0%)	51 (51.0%)	23 (23.0%)	15 (15.0%)	74 (74.0%)	66 (66.0%)	100
教授・部長	51 (94.4%)	53 (98.1%)	49 (90.7%)	53 (98.1%)	46 (85.2%)	42 (77.8%)	53 (98.1%)	37 (68.5%)	54
農学:機関の移動経験なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	35 (55.6%)	32 (50.8%)	7 (11.1%)	9 (14.3%)	3 (4.8%)	0 (0.0%)	23 (36.5%)	48 (76.2%)	63
助教・講師・主任研究員	77 (67.0%)	78 (67.8%)	30 (26.1%)	30 (26.1%)	11 (9.6%)	5 (4.3%)	61 (53.0%)	99 (86.1%)	115
准教授・グループリーダー	42 (84.0%)	44 (88.0%)	32 (64.0%)	35 (70.0%)	14 (28.0%)	9 (18.0%)	38 (76.0%)	47 (94.0%)	50
教授・部長	31 (96.9%)	30 (93.8%)	29 (90.6%)	27 (84.4%)	25 (78.1%)	22 (68.8%)	29 (90.6%)	29 (90.6%)	32

参考図表-属性4 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート(性別:年齢層別)

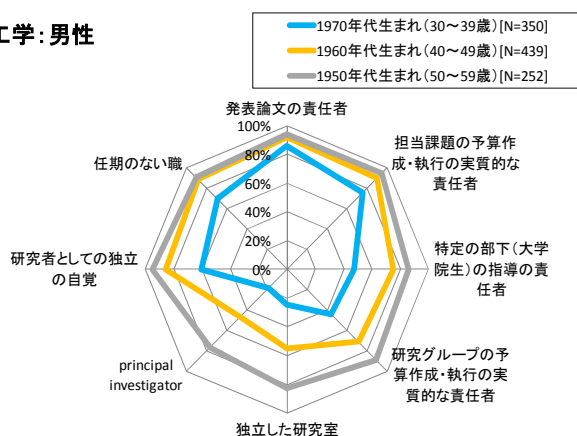
理学: 男性



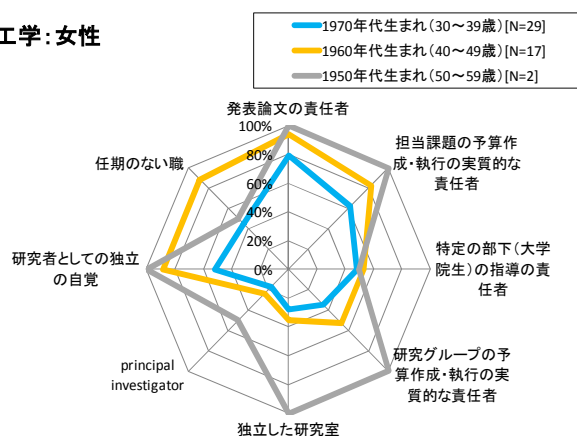
理学: 女性



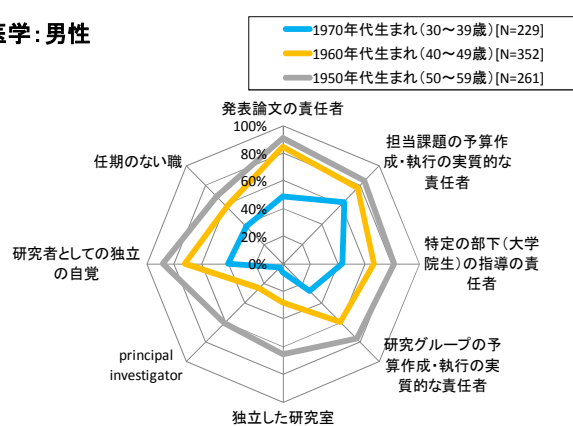
工学: 男性



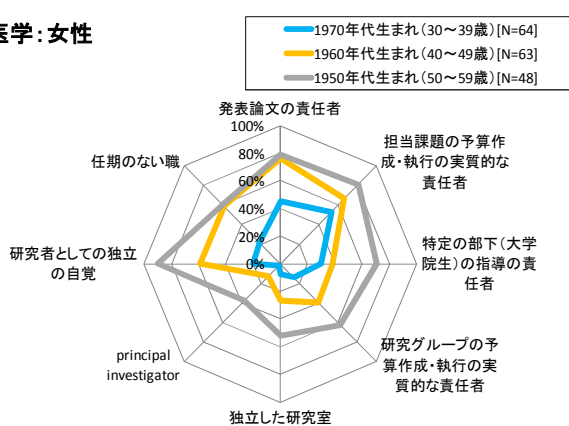
工学: 女性



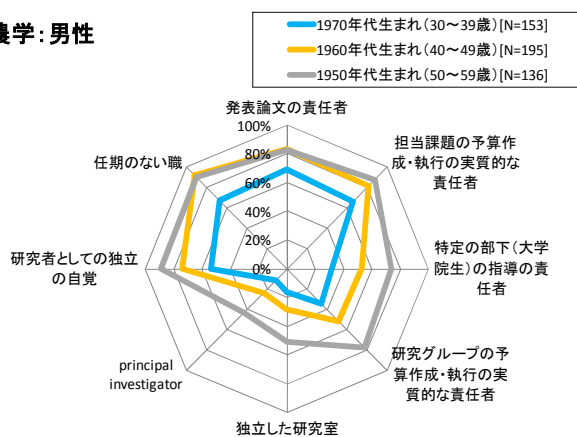
医学: 男性



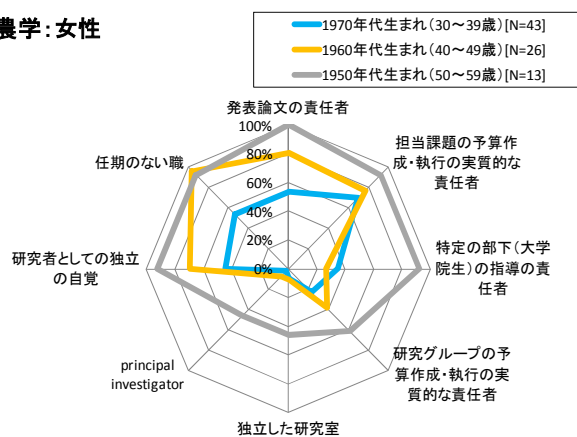
医学: 女性



農学: 男性



農学: 女性



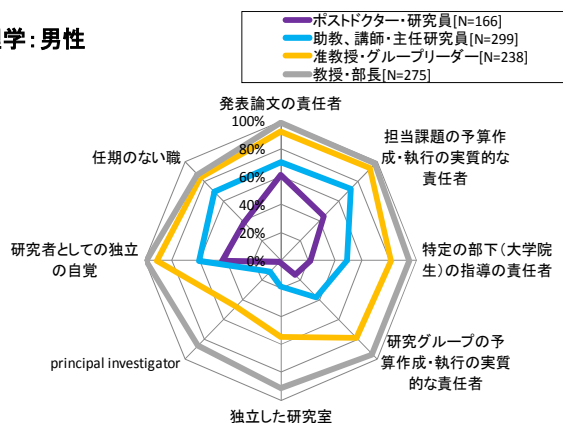


参考図表-属性4値 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表(性別:年齢層別)

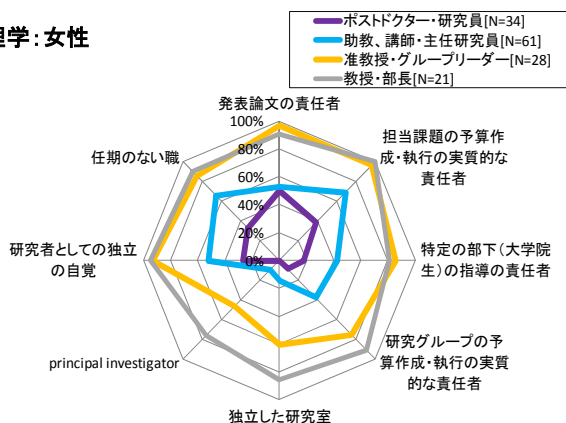
理学:男性	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	227 (68.2%)	212 (63.7%)	146 (43.8%)	98 (29.4%)	52 (15.6%)	35 (10.5%)	182 (54.7%)	178 (53.5%)	333
1960年代生まれ(40～49歳)	299 (86.9%)	297 (86.3%)	244 (70.9%)	234 (68.0%)	172 (50.0%)	151 (43.9%)	287 (83.4%)	289 (84.0%)	344
1950年代生まれ(50～59歳)	191 (93.6%)	192 (94.1%)	175 (85.8%)	180 (88.2%)	151 (74.0%)	140 (68.6%)	192 (94.1%)	177 (86.8%)	204
工学:男性	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	302 (86.3%)	264 (75.4%)	165 (47.1%)	153 (43.7%)	86 (24.6%)	63 (18.0%)	212 (60.6%)	243 (69.4%)	350
1960年代生まれ(40～49歳)	403 (91.8%)	393 (89.5%)	329 (74.9%)	313 (71.3%)	242 (55.1%)	205 (46.7%)	374 (85.2%)	390 (88.8%)	439
1950年代生まれ(50～59歳)	238 (94.4%)	238 (94.4%)	217 (86.1%)	225 (89.3%)	208 (82.5%)	193 (76.6%)	239 (94.8%)	228 (90.5%)	252
医学:男性	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	111 (48.5%)	145 (63.3%)	99 (43.2%)	64 (27.9%)	15 (6.6%)	8 (3.5%)	93 (40.6%)	88 (38.4%)	229
1960年代生まれ(40～49歳)	299 (84.9%)	273 (77.6%)	234 (66.5%)	209 (59.4%)	99 (28.1%)	87 (24.7%)	253 (71.9%)	206 (58.5%)	352
1950年代生まれ(50～59歳)	237 (90.8%)	221 (84.7%)	212 (81.2%)	199 (76.2%)	171 (65.5%)	159 (60.9%)	230 (88.1%)	181 (69.3%)	261
農学:男性	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	106 (69.3%)	101 (66.0%)	48 (31.4%)	53 (34.6%)	25 (16.3%)	17 (11.1%)	82 (53.6%)	103 (67.3%)	153
1960年代生まれ(40～49歳)	162 (83.1%)	158 (81.0%)	103 (52.8%)	100 (51.3%)	56 (28.7%)	46 (23.6%)	144 (73.8%)	179 (91.8%)	195
1950年代生まれ(50～59歳)	112 (82.4%)	119 (87.5%)	100 (73.5%)	105 (77.2%)	69 (50.7%)	59 (43.4%)	121 (89.0%)	123 (90.4%)	136
理学:女性	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	30 (50.0%)	37 (61.7%)	23 (38.3%)	22 (36.7%)	9 (15.0%)	6 (10.0%)	23 (38.3%)	26 (43.3%)	60
1960年代生まれ(40～49歳)	42 (76.4%)	44 (80.0%)	31 (56.4%)	27 (49.1%)	20 (36.4%)	15 (27.3%)	40 (72.7%)	42 (76.4%)	55
1950年代生まれ(50～59歳)	14 (77.8%)	16 (88.9%)	12 (66.7%)	12 (66.7%)	10 (55.6%)	9 (50.0%)	16 (88.9%)	16 (88.9%)	18
工学:女性	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	23 (79.3%)	18 (62.1%)	14 (48.3%)	10 (34.5%)	8 (27.6%)	5 (17.2%)	15 (51.7%)	13 (44.8%)	29
1960年代生まれ(40～49歳)	16 (94.1%)	14 (82.4%)	9 (52.9%)	9 (52.9%)	6 (35.3%)	4 (23.5%)	15 (88.2%)	15 (88.2%)	17
1950年代生まれ(50～59歳)	2 (100.0%)	2 (100.0%)	1 (50.0%)	2 (100.0%)	2 (100.0%)	1 (50.0%)	2 (100.0%)	1 (50.0%)	2
医学:女性	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	29 (45.3%)	34 (53.1%)	19 (29.7%)	9 (14.1%)	5 (7.8%)	1 (1.6%)	13 (20.3%)	14 (21.9%)	64
1960年代生まれ(40～49歳)	48 (76.2%)	42 (66.7%)	24 (38.1%)	25 (39.7%)	17 (27.0%)	8 (12.7%)	37 (58.7%)	37 (58.7%)	63
1950年代生まれ(50～59歳)	38 (79.2%)	39 (81.3%)	34 (70.8%)	30 (62.5%)	25 (52.1%)	18 (37.5%)	43 (89.6%)	29 (60.4%)	48
農学:女性	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	23 (53.5%)	30 (69.8%)	15 (34.9%)	10 (23.3%)	3 (7.0%)	1 (2.3%)	19 (44.2%)	23 (53.5%)	43
1960年代生まれ(40～49歳)	21 (80.8%)	20 (76.9%)	7 (26.9%)	10 (38.5%)	2 (7.7%)	2 (7.7%)	18 (69.2%)	25 (96.2%)	26
1950年代生まれ(50～59歳)	13 (100.0%)	12 (92.3%)	12 (92.3%)	8 (61.5%)	6 (46.2%)	6 (46.2%)	12 (92.3%)	12 (92.3%)	13

参考図表-属性5 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート(性別・職階別)

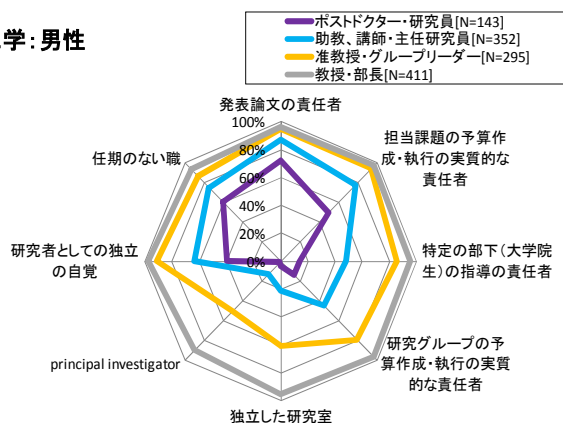
理学: 男性



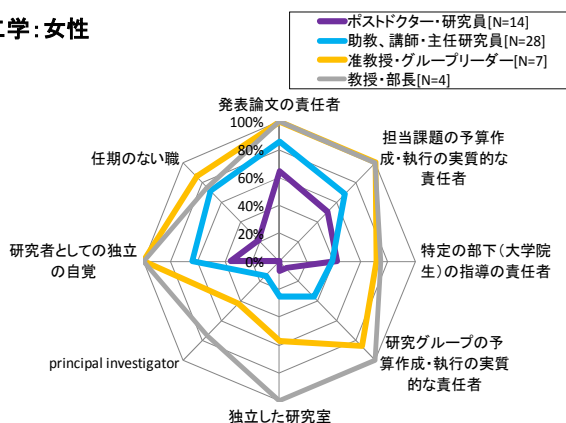
理学: 女性



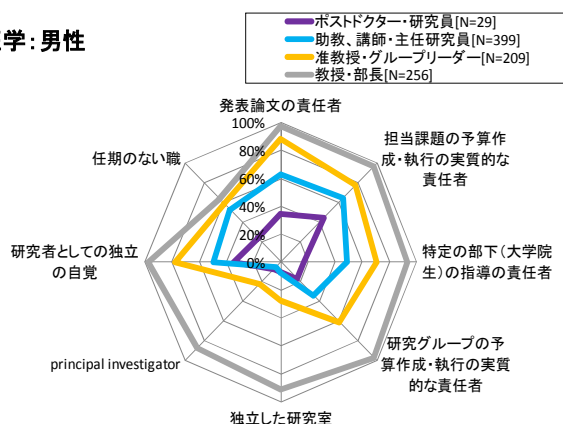
工学: 男性



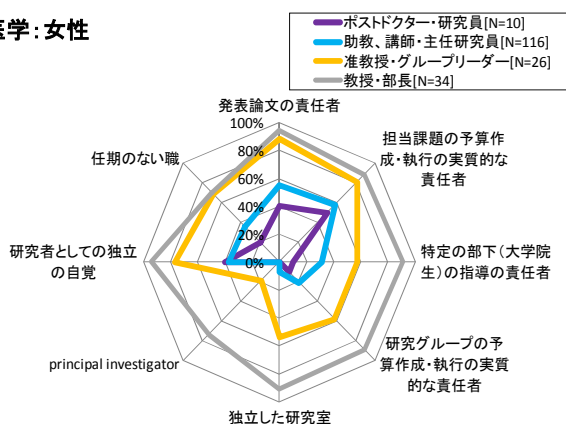
工学: 女性



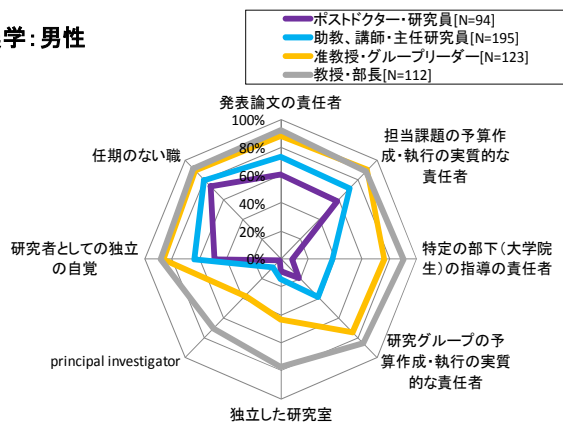
医学: 男性



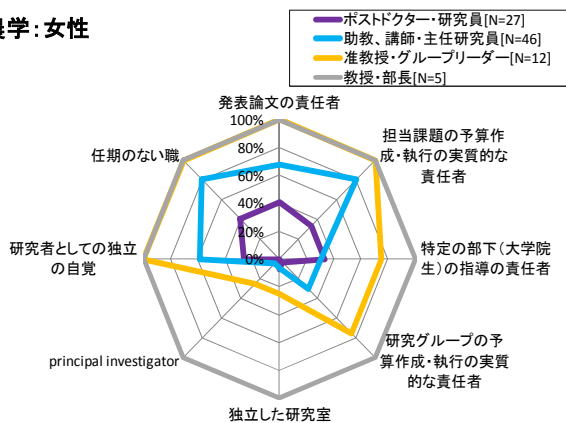
医学: 女性



農学: 男性



農学: 女性

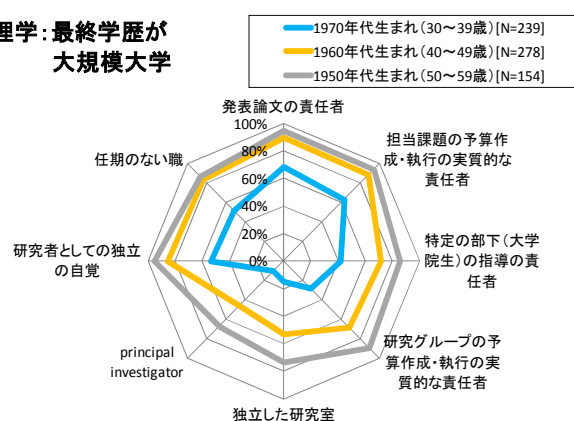


参考図表-属性5値 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表(性別・職階別)

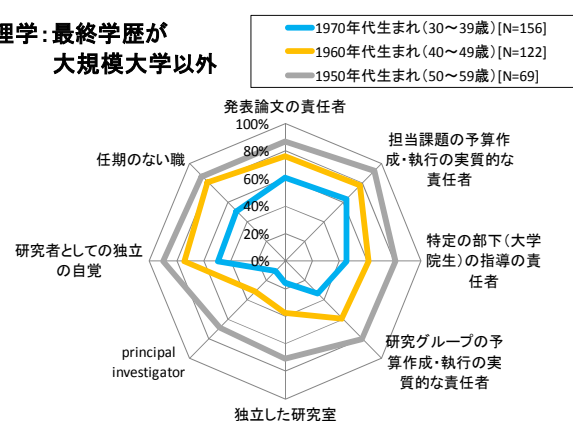
理学:男性	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	102 (61.4%)	74 (44.6%)	36 (21.7%)	24 (14.5%)	3 (1.8%)	2 (1.2%)	72 (43.4%)	64 (38.6%)	166
助教・講師・主任研究員	210 (70.2%)	217 (72.6%)	145 (48.5%)	111 (37.1%)	56 (18.7%)	34 (11.4%)	180 (60.2%)	207 (69.2%)	299
准教授・グループリーダー	219 (92.0%)	222 (93.3%)	193 (81.1%)	187 (78.8%)	131 (55.0%)	111 (46.6%)	218 (91.6%)	199 (83.6%)	238
教授・部長	271 (98.5%)	270 (98.2%)	260 (94.5%)	262 (95.3%)	252 (91.6%)	238 (86.5%)	272 (98.9%)	239 (86.9%)	275
工学:男性	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	103 (72.0%)	71 (49.7%)	20 (14.0%)	20 (14.0%)	5 (3.5%)	1 (0.7%)	57 (39.9%)	86 (60.1%)	143
助教・講師・主任研究員	306 (86.9%)	273 (77.6%)	169 (48.0%)	158 (44.9%)	75 (21.3%)	46 (13.1%)	225 (63.9%)	263 (74.7%)	352
准教授・グループリーダー	280 (94.4%)	277 (93.9%)	252 (85.4%)	234 (79.3%)	178 (60.3%)	149 (50.5%)	269 (91.2%)	254 (86.1%)	295
教授・部長	396 (96.4%)	398 (96.8%)	391 (95.1%)	398 (96.8%)	391 (95.1%)	370 (90.0%)	401 (97.6%)	384 (93.4%)	411
医学:男性	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	10 (34.5%)	13 (44.8%)	5 (17.2%)	5 (17.2%)	2 (6.9%)	2 (6.9%)	10 (34.5%)	7 (24.1%)	29
助教・講師・主任研究員	250 (62.7%)	258 (64.7%)	195 (48.9%)	134 (33.6%)	30 (7.5%)	20 (5.0%)	197 (49.4%)	211 (52.9%)	399
准教授・グループリーダー	184 (88.0%)	163 (78.0%)	148 (70.8%)	127 (60.8%)	58 (27.8%)	47 (22.5%)	162 (77.5%)	124 (59.3%)	209
教授・部長	249 (97.3%)	249 (97.3%)	238 (93.0%)	248 (96.9%)	234 (91.4%)	222 (86.7%)	249 (97.3%)	164 (64.1%)	256
農学:男性	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	57 (60.6%)	55 (58.5%)	8 (8.5%)	18 (19.1%)	8 (8.5%)	1 (1.1%)	46 (48.9%)	69 (73.4%)	94
助教・講師・主任研究員	143 (73.3%)	140 (71.8%)	74 (37.9%)	75 (38.5%)	28 (14.4%)	16 (8.2%)	124 (63.6%)	156 (80.0%)	195
准教授・グループリーダー	108 (87.8%)	111 (90.2%)	94 (76.4%)	92 (74.8%)	53 (43.1%)	46 (37.4%)	106 (86.2%)	110 (89.4%)	123
教授・部長	103 (92.0%)	99 (88.4%)	101 (90.2%)	96 (85.7%)	87 (77.7%)	79 (70.5%)	99 (88.4%)	102 (91.1%)	112
理学:女性	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	17 (50.0%)	13 (38.2%)	6 (17.6%)	3 (8.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (26.5%)	11 (32.4%)	34
助教・講師・主任研究員	32 (52.5%)	42 (68.9%)	26 (42.6%)	23 (37.7%)	9 (14.8%)	6 (9.8%)	32 (52.5%)	40 (65.6%)	61
准教授・グループリーダー	27 (96.4%)	27 (96.4%)	24 (85.7%)	21 (75.0%)	17 (60.7%)	13 (46.4%)	26 (92.9%)	24 (85.7%)	28
教授・部長	19 (90.5%)	21 (100.0%)	17 (81.0%)	19 (90.5%)	18 (85.7%)	16 (76.2%)	20 (95.2%)	19 (90.5%)	21
工学:女性	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	9 (64.3%)	7 (50.0%)	6 (42.9%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	0 (0.0%)	5 (35.7%)	3 (21.4%)	14
助教・講師・主任研究員	24 (85.7%)	19 (67.9%)	11 (39.3%)	10 (35.7%)	7 (25.0%)	4 (14.3%)	18 (64.3%)	20 (71.4%)	28
准教授・グループリーダー	7 (100.0%)	7 (100.0%)	5 (71.4%)	6 (85.7%)	4 (57.1%)	3 (42.9%)	7 (100.0%)	6 (85.7%)	7
教授・部長	4 (100.0%)	4 (100.0%)	3 (75.0%)	4 (100.0%)	4 (100.0%)	3 (75.0%)	4 (100.0%)	3 (75.0%)	4
医学:女性	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	4 (40.0%)	5 (50.0%)	1 (10.0%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (40.0%)	2 (20.0%)	10
助教・講師・主任研究員	64 (55.2%)	67 (57.8%)	36 (31.0%)	24 (20.7%)	8 (6.9%)	0 (0.0%)	43 (37.1%)	42 (36.2%)	116
准教授・グループリーダー	23 (88.5%)	21 (80.8%)	15 (57.7%)	15 (57.7%)	14 (53.8%)	5 (19.2%)	20 (76.9%)	18 (69.2%)	26
教授・部長	32 (94.1%)	30 (88.2%)	31 (91.2%)	30 (88.2%)	31 (91.2%)	25 (73.5%)	32 (94.1%)	24 (70.6%)	34
農学:女性	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	11 (40.7%)	9 (33.3%)	9 (33.3%)	1 (3.7%)	2 (7.4%)	0 (0.0%)	7 (25.9%)	11 (40.7%)	27
助教・講師・主任研究員	31 (67.4%)	37 (80.4%)	14 (30.4%)	14 (30.4%)	3 (6.5%)	2 (4.3%)	27 (58.7%)	37 (80.4%)	46
准教授・グループリーダー	12 (100.0%)	12 (100.0%)	9 (75.0%)	9 (75.0%)	3 (25.0%)	3 (25.0%)	12 (100.0%)	12 (100.0%)	12
教授・部長	5 (100.0%)	5 (100.0%)	5 (100.0%)	5 (100.0%)	5 (100.0%)	5 (100.0%)	5 (100.0%)	5 (100.0%)	5

参考図表-属性6 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート(最終学歴の大学種:年齢層別)

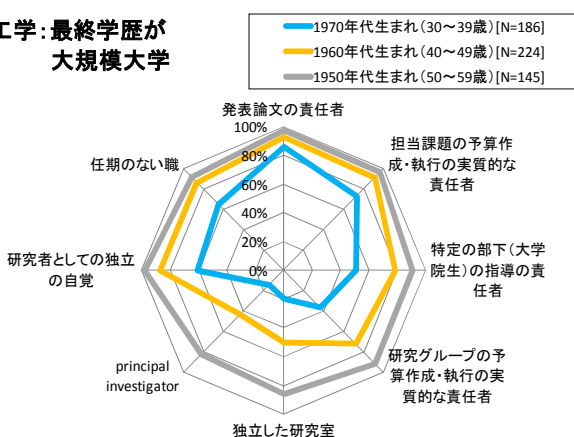
**理学:最終学歴が大規模大学**



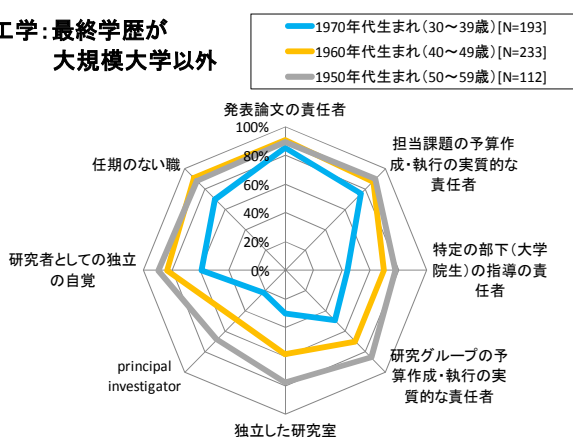
**理学:最終学歴が大規模大学以外**



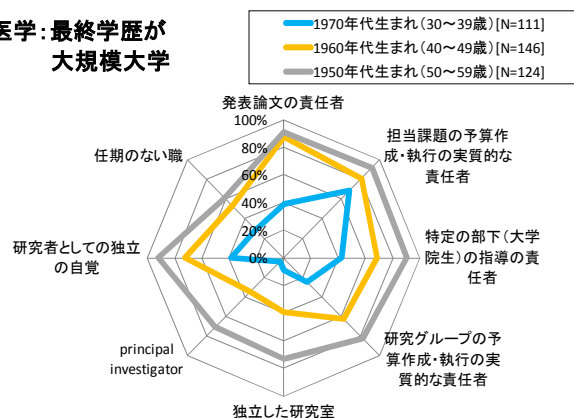
**工学:最終学歴が大規模大学**



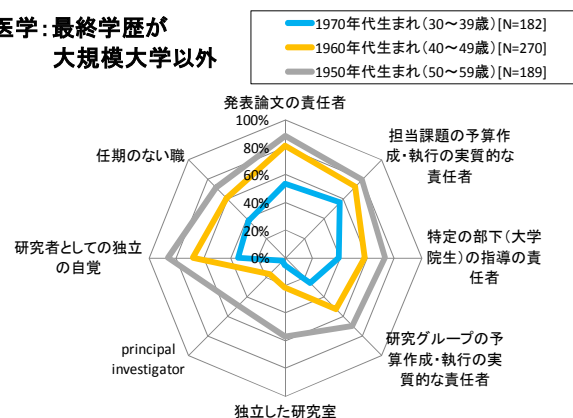
**工学:最終学歴が大規模大学以外**



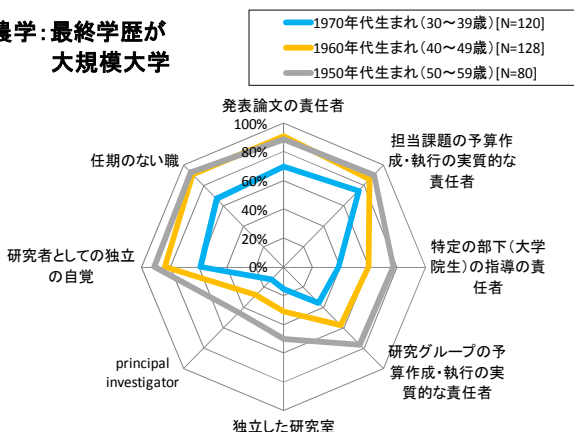
**医学:最終学歴が大規模大学**



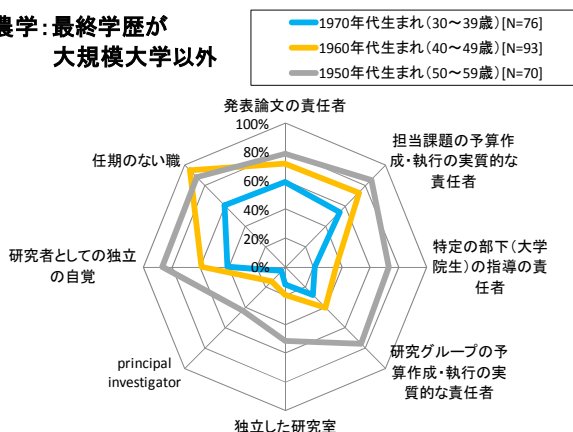
**医学:最終学歴が大規模大学以外**



**農学:最終学歴が大規模大学**



**農学:最終学歴が大規模大学以外**



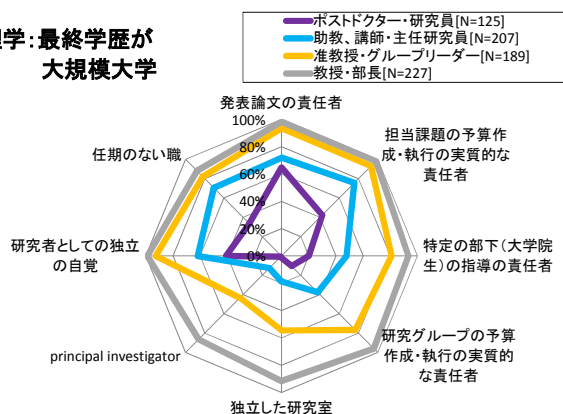
※本報告書が指す「大規模大学」は「国立大学法人の類型化について(案)」に従い、「北海道大学」「東北大学」「筑波大学」「千葉大学」「東京大学」「新潟大学」「名古屋大学」「京都大学」「大阪大学」「神戸大学」「岡山大学」「広島大学」「九州大学」としている。

参考図表-属性6値 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表（最終学歴の大学種：年齢層別）

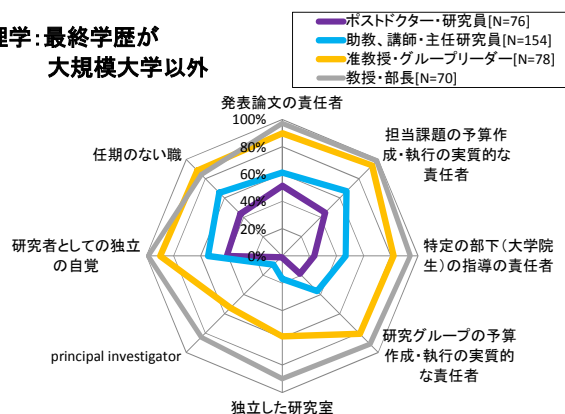
理学：最終学歴が大規模大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	164 (68.6%)	151 (63.2%)	100 (41.8%)	68 (28.5%)	36 (15.1%)	25 (10.5%)	128 (53.6%)	124 (51.9%)	239
1960年代生まれ(40～49歳)	249 (89.6%)	246 (88.5%)	200 (71.9%)	189 (68.0%)	147 (52.9%)	128 (46.0%)	237 (85.3%)	233 (83.8%)	278
1950年代生まれ(50～59歳)	146 (94.8%)	145 (94.2%)	132 (85.7%)	138 (89.6%)	113 (73.4%)	103 (66.9%)	147 (95.5%)	134 (87.0%)	154
工学：最終学歴が大規模大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	160 (86.0%)	136 (73.1%)	95 (51.1%)	68 (36.6%)	36 (19.4%)	26 (14.0%)	113 (60.8%)	121 (65.1%)	186
1960年代生まれ(40～49歳)	208 (92.9%)	204 (91.1%)	177 (79.0%)	161 (71.9%)	113 (50.4%)	97 (43.3%)	195 (87.1%)	194 (86.6%)	224
1950年代生まれ(50～59歳)	141 (97.2%)	140 (96.6%)	132 (91.0%)	133 (91.7%)	125 (86.2%)	119 (82.1%)	142 (97.9%)	133 (91.7%)	145
医学：最終学歴が大規模大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	43 (38.7%)	76 (68.5%)	47 (42.3%)	27 (24.3%)	10 (9.0%)	4 (3.6%)	43 (38.7%)	32 (28.8%)	111
1960年代生まれ(40～49歳)	128 (87.7%)	118 (80.8%)	100 (68.5%)	91 (62.3%)	57 (39.0%)	50 (34.2%)	106 (72.6%)	78 (53.4%)	146
1950年代生まれ(50～59歳)	113 (91.1%)	114 (91.9%)	112 (90.3%)	102 (82.3%)	91 (73.4%)	88 (71.0%)	114 (91.9%)	76 (61.3%)	124
農学：最終学歴が大規模大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	84 (70.0%)	90 (75.0%)	47 (39.2%)	42 (35.0%)	19 (15.8%)	15 (12.5%)	70 (58.3%)	80 (66.7%)	120
1960年代生まれ(40～49歳)	116 (90.6%)	110 (85.9%)	77 (60.2%)	73 (57.0%)	40 (31.3%)	35 (27.3%)	107 (83.6%)	116 (90.6%)	128
1950年代生まれ(50～59歳)	71 (88.8%)	72 (90.0%)	62 (77.5%)	61 (76.3%)	40 (50.0%)	36 (45.0%)	73 (91.3%)	74 (92.5%)	80
理学：最終学歴が大規模大学以外	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	95 (60.9%)	99 (63.5%)	70 (44.9%)	52 (33.3%)	25 (16.0%)	16 (10.3%)	78 (50.0%)	80 (51.3%)	156
1960年代生まれ(40～49歳)	93 (76.2%)	95 (77.9%)	75 (61.5%)	72 (59.0%)	46 (37.7%)	38 (31.1%)	91 (74.6%)	99 (81.1%)	122
1950年代生まれ(50～59歳)	60 (87.0%)	64 (92.8%)	56 (81.2%)	55 (79.7%)	49 (71.0%)	47 (68.1%)	62 (89.9%)	60 (87.0%)	69
工学：最終学歴が大規模大学以外	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	165 (85.5%)	146 (75.6%)	84 (43.5%)	95 (49.2%)	58 (30.1%)	42 (21.8%)	114 (59.1%)	135 (69.9%)	193
1960年代生まれ(40～49歳)	212 (91.0%)	204 (87.6%)	162 (69.5%)	162 (69.5%)	136 (58.4%)	113 (48.5%)	195 (83.7%)	212 (91.0%)	233
1950年代生まれ(50～59歳)	100 (89.3%)	101 (90.2%)	87 (77.7%)	96 (85.7%)	87 (77.7%)	76 (67.9%)	100 (89.3%)	99 (88.4%)	112
医学：最終学歴が大規模大学以外	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	97 (53.3%)	103 (56.6%)	71 (39.0%)	46 (25.3%)	10 (5.5%)	5 (2.7%)	63 (34.6%)	70 (38.5%)	182
1960年代生まれ(40～49歳)	219 (81.1%)	197 (73.0%)	158 (58.5%)	143 (53.0%)	59 (21.9%)	45 (16.7%)	184 (68.1%)	165 (61.1%)	270
1950年代生まれ(50～59歳)	166 (87.8%)	150 (79.4%)	138 (73.0%)	131 (69.3%)	108 (57.1%)	92 (48.7%)	163 (86.2%)	136 (72.0%)	189
農学：最終学歴が大規模大学以外	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	45 (59.2%)	41 (53.9%)	16 (21.1%)	21 (27.6%)	9 (11.8%)	3 (3.9%)	31 (40.8%)	46 (60.5%)	76
1960年代生まれ(40～49歳)	67 (72.0%)	68 (73.1%)	33 (35.5%)	37 (39.8%)	18 (19.4%)	13 (14.0%)	55 (59.1%)	88 (94.6%)	93
1950年代生まれ(50～59歳)	55 (78.6%)	60 (85.7%)	51 (72.9%)	53 (75.7%)	36 (51.4%)	30 (42.9%)	61 (87.1%)	62 (88.6%)	70

参考図表-属性7 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート(最終学歴の大学種:職階別)

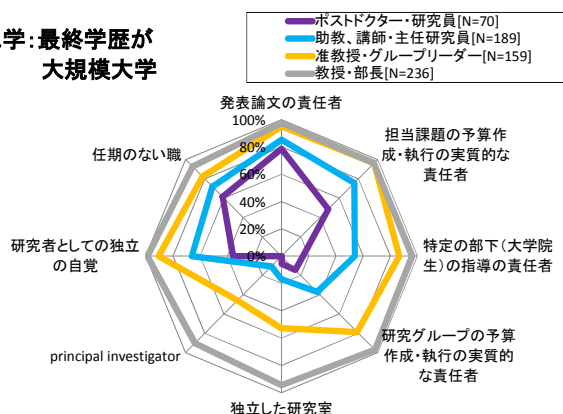
理学:最終学歴が  
大規模大学



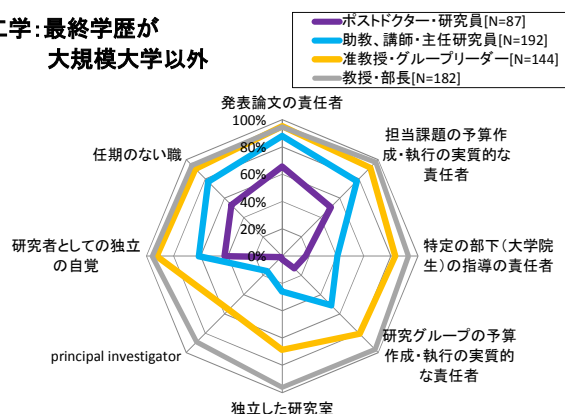
理学:最終学歴が  
大規模大学以外



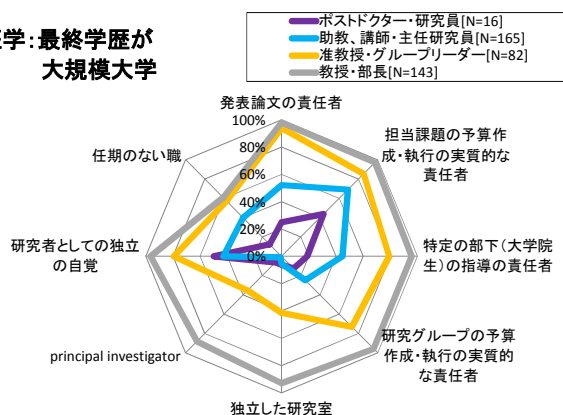
工学:最終学歴が  
大規模大学



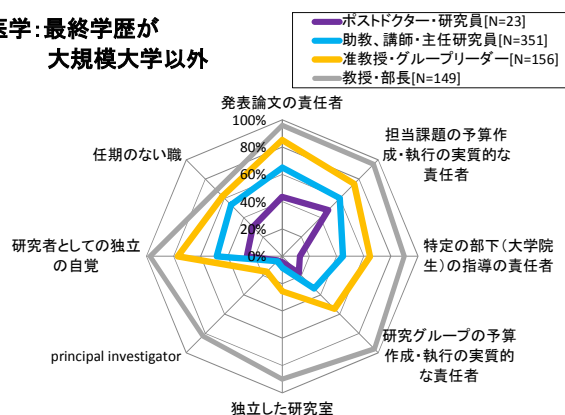
工学:最終学歴が  
大規模大学以外



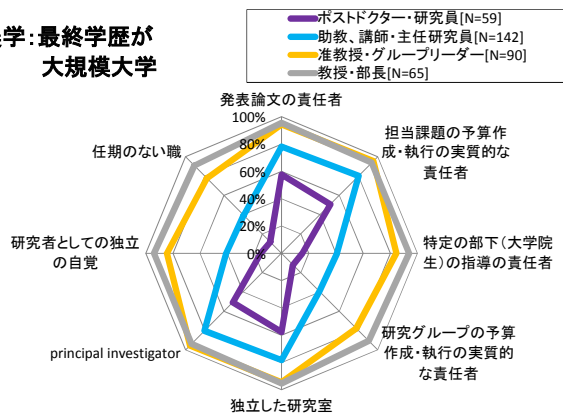
医学:最終学歴が  
大規模大学



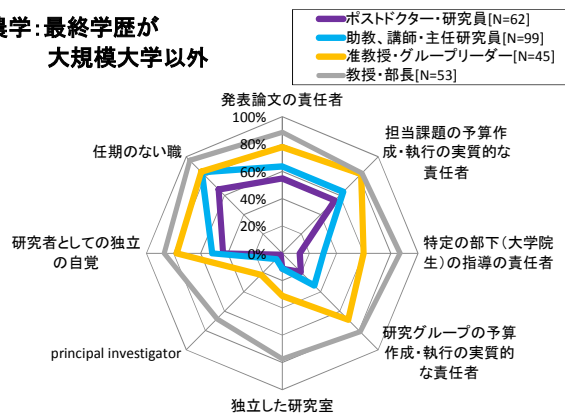
医学:最終学歴が  
大規模大学以外



農学:最終学歴が  
大規模大学



農学:最終学歴が  
大規模大学以外



※本報告書が指す「大規模大学」は「国立大学法人の類型化について(案)」に従い、「北海道大学」「東北大学」「筑波大学」「千葉大学」「東京大学」「新潟大学」「名古屋大学」「京都大学」「大阪大学」「神戸大学」「岡山大学」「広島大学」「九州大学」としている。

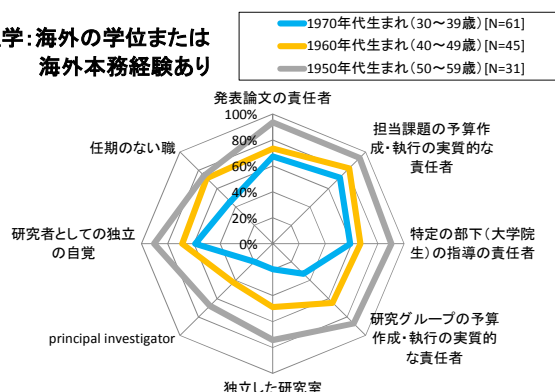
参考図表-属性7値 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表(最終学歴の大学種:職階別)

理学:最終学歴が大規模大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	81 (64.8%)	53 (42.4%)	25 (20.0%)	13 (10.4%)	2 (1.6%)	1 (0.8%)	51 (40.8%)	42 (33.6%)	125
助教・講師・主任研究員	149 (72.0%)	157 (75.8%)	99 (47.8%)	78 (37.7%)	39 (18.8%)	26 (12.6%)	128 (61.8%)	146 (70.5%)	207
准教授・グループリーダー	177 (93.7%)	176 (93.1%)	153 (81.0%)	145 (76.7%)	103 (54.5%)	82 (43.4%)	175 (92.6%)	155 (82.0%)	189
教授・部長	223 (98.2%)	223 (98.2%)	212 (93.4%)	218 (96.0%)	208 (91.6%)	196 (86.3%)	224 (98.7%)	200 (88.1%)	227
工学:最終学歴が大規模大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	55 (78.6%)	34 (48.6%)	11 (15.7%)	10 (14.3%)	4 (5.7%)	0 (0.0%)	25 (35.7%)	43 (61.4%)	70
助教・講師・主任研究員	161 (85.2%)	143 (75.7%)	102 (54.0%)	70 (37.0%)	32 (16.9%)	20 (10.6%)	125 (66.1%)	136 (72.0%)	189
准教授・グループリーダー	151 (95.0%)	153 (96.2%)	138 (86.6%)	125 (78.6%)	84 (52.8%)	73 (45.9%)	144 (90.6%)	131 (82.4%)	159
教授・部長	230 (97.5%)	227 (96.2%)	227 (96.2%)	229 (97.0%)	223 (94.5%)	213 (90.3%)	233 (98.7%)	219 (92.8%)	236
医学:最終学歴が大規模大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	4 (25.0%)	7 (43.8%)	3 (18.8%)	2 (12.5%)	1 (6.3%)	1 (6.3%)	8 (50.0%)	2 (12.5%)	16
助教・講師・主任研究員	86 (52.1%)	114 (69.1%)	74 (44.8%)	41 (24.8%)	9 (5.5%)	2 (1.2%)	71 (43.0%)	66 (40.0%)	165
准教授・グループリーダー	77 (93.9%)	70 (85.4%)	65 (79.3%)	60 (73.2%)	34 (41.5%)	29 (35.4%)	65 (79.3%)	47 (57.3%)	82
教授・部長	140 (97.9%)	139 (97.2%)	137 (95.5%)	137 (95.5%)	133 (93.0%)	126 (88.1%)	138 (96.5%)	87 (60.8%)	143
農学:最終学歴が大規模大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	34 (57.6%)	30 (50.8%)	9 (15.3%)	7 (11.9%)	34 (57.6%)	30 (50.8%)	9 (15.3%)	7 (11.9%)	59
助教・講師・主任研究員	111 (78.2%)	114 (80.3%)	58 (40.8%)	56 (39.4%)	111 (78.2%)	114 (80.3%)	58 (40.8%)	56 (39.4%)	142
准教授・グループリーダー	85 (94.4%)	86 (95.6%)	76 (84.4%)	70 (77.8%)	85 (94.4%)	86 (95.6%)	76 (84.4%)	70 (77.8%)	90
教授・部長	62 (95.4%)	61 (93.8%)	61 (93.8%)	59 (90.8%)	62 (95.4%)	61 (93.8%)	61 (93.8%)	59 (90.8%)	65
理学:最終学歴が大規模大学以外	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	39 (51.3%)	34 (44.7%)	18 (23.7%)	14 (18.4%)	1 (1.3%)	1 (1.3%)	31 (40.8%)	33 (43.4%)	76
助教・講師・主任研究員	94 (61.0%)	103 (66.9%)	72 (46.8%)	56 (36.4%)	26 (16.9%)	14 (9.1%)	84 (54.5%)	101 (65.6%)	154
准教授・グループリーダー	70 (89.7%)	73 (93.6%)	64 (82.1%)	63 (80.8%)	46 (59.0%)	42 (53.8%)	70 (89.7%)	69 (88.5%)	78
教授・部長	68 (97.1%)	69 (98.6%)	66 (94.3%)	64 (91.4%)	63 (90.0%)	59 (84.3%)	69 (98.6%)	59 (84.3%)	70
工学:最終学歴が大規模大学以外	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	57 (65.5%)	44 (50.6%)	15 (17.2%)	11 (12.6%)	2 (2.3%)	1 (1.1%)	37 (42.5%)	46 (52.9%)	87
助教・講師・主任研究員	169 (88.0%)	149 (77.6%)	78 (40.6%)	98 (51.0%)	50 (26.0%)	30 (15.6%)	118 (61.5%)	148 (77.1%)	192
准教授・グループリーダー	137 (95.1%)	132 (91.7%)	120 (83.3%)	116 (80.6%)	99 (68.8%)	80 (55.6%)	133 (92.4%)	130 (90.3%)	144
教授・部長	172 (94.5%)	177 (97.3%)	169 (92.9%)	176 (96.7%)	175 (96.2%)	162 (89.0%)	174 (95.6%)	171 (94.0%)	182
医学:最終学歴が大規模大学以外	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	10 (43.5%)	11 (47.8%)	3 (13.0%)	4 (17.4%)	1 (4.3%)	1 (4.3%)	6 (26.1%)	7 (30.4%)	23
助教・講師・主任研究員	228 (65.0%)	211 (60.1%)	157 (44.7%)	117 (33.3%)	29 (8.3%)	18 (5.1%)	169 (48.1%)	187 (53.3%)	351
准教授・グループリーダー	133 (85.3%)	117 (75.0%)	101 (64.7%)	85 (54.5%)	40 (25.6%)	25 (16.0%)	120 (76.9%)	97 (62.2%)	156
教授・部長	143 (96.0%)	142 (95.3%)	134 (89.9%)	143 (96.0%)	134 (89.9%)	123 (82.6%)	145 (97.3%)	102 (68.5%)	149
農学:最終学歴が大規模大学以外	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	34 (54.8%)	34 (54.8%)	8 (12.9%)	12 (19.4%)	7 (11.3%)	1 (1.6%)	27 (43.5%)	41 (66.1%)	62
助教・講師・主任研究員	63 (63.6%)	63 (63.6%)	30 (30.3%)	33 (33.3%)	11 (11.1%)	6 (6.1%)	51 (51.5%)	83 (83.8%)	99
准教授・グループリーダー	35 (77.8%)	37 (82.2%)	27 (60.0%)	31 (68.9%)	14 (31.1%)	10 (22.2%)	35 (77.8%)	38 (84.4%)	45
教授・部長	47 (88.7%)	44 (83.0%)	46 (86.8%)	43 (81.1%)	41 (77.4%)	36 (67.9%)	46 (86.8%)	51 (96.2%)	53

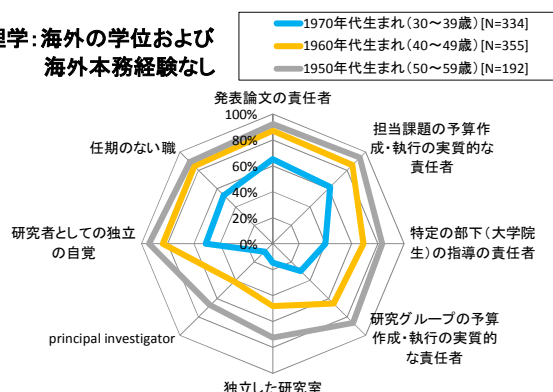


参考図表-属性8 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート(海外経験:年齢層別)

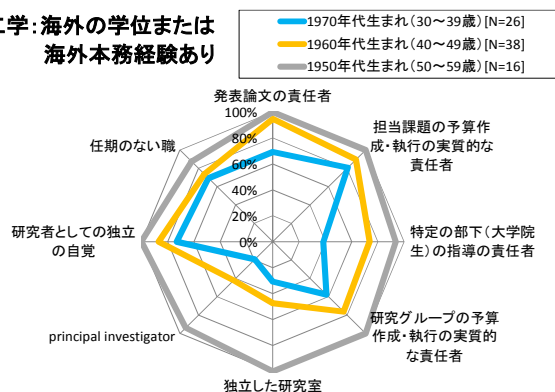
理学: 海外の学位または  
海外本務経験あり



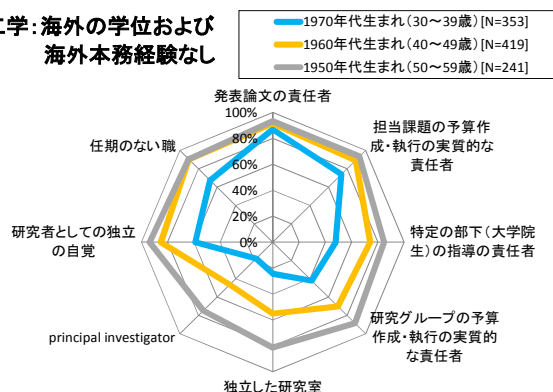
理学: 海外の学位および  
海外本務経験なし



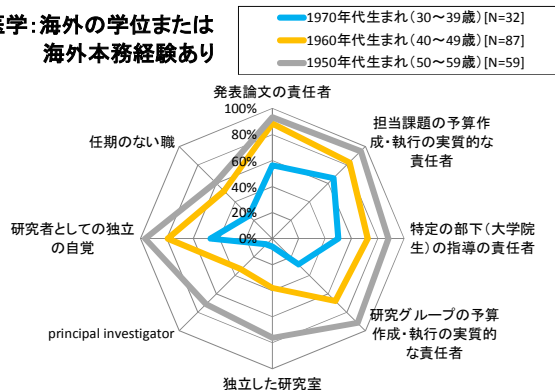
工学: 海外の学位または  
海外本務経験あり



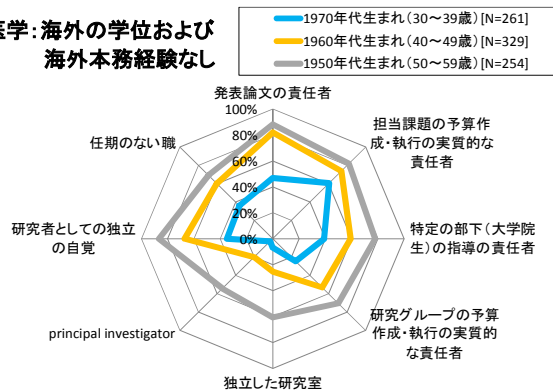
工学: 海外の学位および  
海外本務経験なし



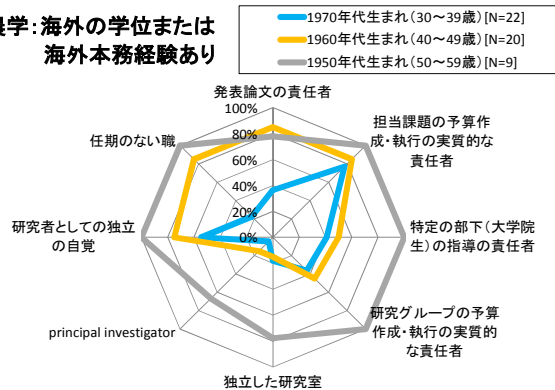
医学: 海外の学位または  
海外本務経験あり



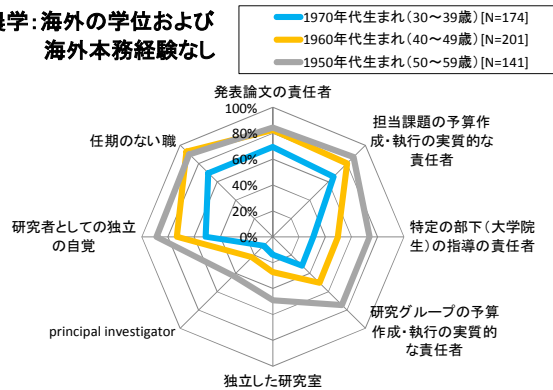
医学: 海外の学位および  
海外本務経験なし



農学: 海外の学位または  
海外本務経験あり



農学: 海外の学位および  
海外本務経験なし



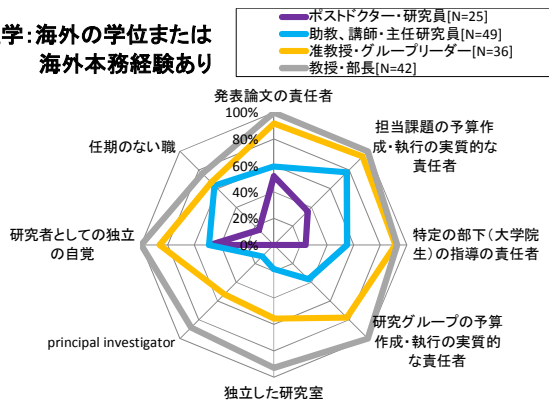


参考図表-属性8値 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表(海外経験:年齢層別)

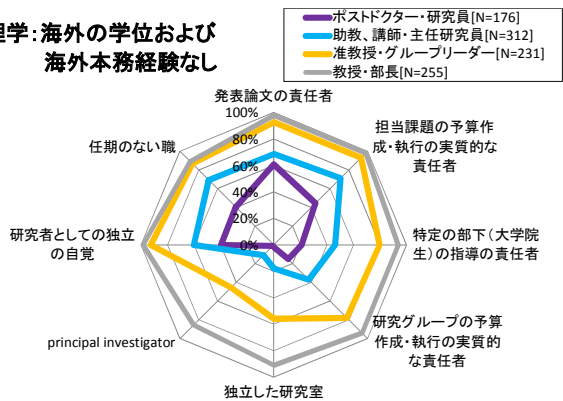
理学:海外の学位 または海外本務 経験あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作 成・執行の実質的 な責任者	特定の部下(大学 院生)の指導の責 任者	研究グループの予 算作成・執行の実 質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独 立の自覚	任期のない職	該当年齢層 総人数
1970年代生まれ (30～39歳)	41 (67.2%)	44 (72.1%)	36 (59.0%)	20 (32.8%)	12 (19.7%)	12 (19.7%)	36 (59.0%)	28 (45.9%)	61
1960年代生まれ (40～49歳)	33 (73.3%)	37 (82.2%)	30 (66.7%)	29 (64.4%)	22 (48.9%)	19 (42.2%)	31 (68.9%)	32 (71.1%)	45
1950年代生まれ (50～59歳)	29 (93.5%)	29 (93.5%)	28 (90.3%)	27 (87.1%)	23 (74.2%)	21 (67.7%)	28 (90.3%)	23 (74.2%)	31
工学:海外の学位 または海外本務 経験あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作 成・執行の実質的 な責任者	特定の部下(大学 院生)の指導の責 任者	研究グループの予 算作成・執行の実 質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独 立の自覚	任期のない職	該当年齢層 総人数
1970年代生まれ (30～39歳)	18 (69.2%)	21 (80.8%)	10 (38.5%)	15 (57.7%)	8 (30.8%)	5 (19.2%)	19 (73.1%)	18 (69.2%)	26
1960年代生まれ (40～49歳)	36 (94.7%)	34 (89.5%)	28 (73.7%)	29 (76.3%)	18 (47.4%)	16 (42.1%)	33 (86.8%)	28 (73.7%)	38
1950年代生まれ (50～59歳)	16 (100.0%)	16 (100.0%)	15 (93.8%)	16 (100.0%)	16 (100.0%)	15 (93.8%)	16 (100.0%)	14 (87.5%)	16
医学:海外の学位 または海外本務 経験あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作 成・執行の実質的 な責任者	特定の部下(大学 院生)の指導の責 任者	研究グループの予 算作成・執行の実 質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独 立の自覚	任期のない職	該当年齢層 総人数
1970年代生まれ (30～39歳)	18 (56.3%)	21 (65.6%)	16 (50.0%)	9 (28.1%)	2 (6.3%)	2 (6.3%)	15 (46.9%)	8 (25.0%)	32
1960年代生まれ (40～49歳)	77 (88.5%)	72 (82.8%)	63 (72.4%)	59 (67.8%)	33 (37.9%)	29 (33.3%)	69 (79.3%)	45 (51.7%)	87
1950年代生まれ (50～59歳)	55 (93.2%)	56 (94.9%)	52 (88.1%)	54 (91.5%)	45 (76.3%)	42 (71.2%)	57 (96.6%)	36 (61.0%)	59
農学:海外の学位 または海外本務 経験あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作 成・執行の実質的 な責任者	特定の部下(大学 院生)の指導の責 任者	研究グループの予 算作成・執行の実 質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独 立の自覚	任期のない職	該当年齢層 総人数
1970年代生まれ (30～39歳)	8 (36.4%)	17 (77.3%)	9 (40.9%)	8 (36.4%)	4 (18.2%)	1 (4.5%)	12 (54.5%)	5 (22.7%)	22
1960年代生まれ (40～49歳)	17 (85.0%)	17 (85.0%)	10 (50.0%)	9 (45.0%)	3 (15.0%)	3 (15.0%)	15 (75.0%)	17 (85.0%)	20
1950年代生まれ (50～59歳)	7 (77.8%)	9 (100.0%)	9 (100.0%)	9 (100.0%)	7 (77.8%)	6 (66.7%)	9 (100.0%)	9 (100.0%)	9
理学:海外の学位 および海外本務 経験なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作 成・執行の実質的 な責任者	特定の部下(大学 院生)の指導の責 任者	研究グループの予 算作成・執行の実 質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独 立の自覚	任期のない職	該当年齢層 総人数
1970年代生まれ (30～39歳)	218 (65.3%)	206 (61.7%)	134 (40.1%)	100 (29.9%)	49 (14.7%)	29 (8.7%)	170 (50.9%)	176 (52.7%)	334
1960年代生まれ (40～49歳)	309 (87.0%)	304 (85.6%)	245 (69.0%)	232 (65.4%)	171 (48.2%)	147 (41.4%)	297 (83.7%)	300 (84.5%)	355
1950年代生まれ (50～59歳)	177 (92.2%)	180 (93.8%)	160 (83.3%)	166 (86.5%)	139 (72.4%)	129 (67.2%)	181 (94.3%)	171 (89.1%)	192
工学:海外の学位 および海外本務 経験なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作 成・執行の実質的 な責任者	特定の部下(大学 院生)の指導の責 任者	研究グループの予 算作成・執行の実 質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独 立の自覚	任期のない職	該当年齢層 総人数
1970年代生まれ (30～39歳)	307 (87.0%)	261 (73.9%)	169 (47.9%)	148 (41.9%)	86 (24.4%)	63 (17.8%)	208 (58.9%)	238 (67.4%)	353
1960年代生まれ (40～49歳)	384 (91.6%)	374 (89.3%)	311 (74.2%)	294 (70.2%)	231 (55.1%)	194 (46.3%)	357 (85.2%)	378 (90.2%)	419
1950年代生まれ (50～59歳)	225 (93.4%)	225 (93.4%)	204 (84.6%)	213 (88.4%)	196 (81.3%)	180 (74.7%)	226 (93.8%)	218 (90.5%)	241
医学:海外の学位 および海外本務 経験なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作 成・執行の実質的 な責任者	特定の部下(大学 院生)の指導の責 任者	研究グループの予 算作成・執行の実 質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独 立の自覚	任期のない職	該当年齢層 総人数
1970年代生まれ (30～39歳)	122 (46.7%)	158 (60.5%)	102 (39.1%)	64 (24.5%)	18 (6.9%)	7 (2.7%)	91 (34.9%)	94 (36.0%)	261
1960年代生まれ (40～49歳)	270 (82.1%)	243 (73.9%)	195 (59.3%)	175 (53.2%)	83 (25.2%)	66 (20.1%)	221 (67.2%)	198 (60.2%)	329
1950年代生まれ (50～59歳)	224 (88.2%)	208 (81.9%)	198 (78.0%)	179 (70.5%)	154 (60.6%)	138 (54.3%)	220 (86.6%)	176 (69.3%)	254
農学:海外の学位 および海外本務 経験なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作 成・執行の実質的 な責任者	特定の部下(大学 院生)の指導の責 任者	研究グループの予 算作成・執行の実 質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独 立の自覚	任期のない職	該当年齢層 総人数
1970年代生まれ (30～39歳)	121 (69.5%)	114 (65.5%)	54 (31.0%)	55 (31.6%)	24 (13.8%)	17 (9.8%)	89 (51.1%)	121 (69.5%)	174
1960年代生まれ (40～49歳)	166 (82.6%)	161 (80.1%)	100 (49.8%)	101 (50.2%)	55 (27.4%)	45 (22.4%)	147 (73.1%)	187 (93.0%)	201
1950年代生まれ (50～59歳)	119 (84.4%)	123 (87.2%)	104 (73.8%)	105 (74.5%)	69 (48.9%)	60 (42.6%)	125 (88.7%)	127 (90.1%)	141

参考図表-属性9 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート(海外経験:職階別)

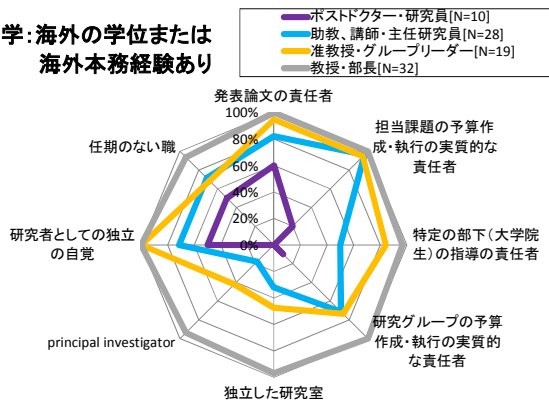
理学:海外の学位または  
海外本務経験あり



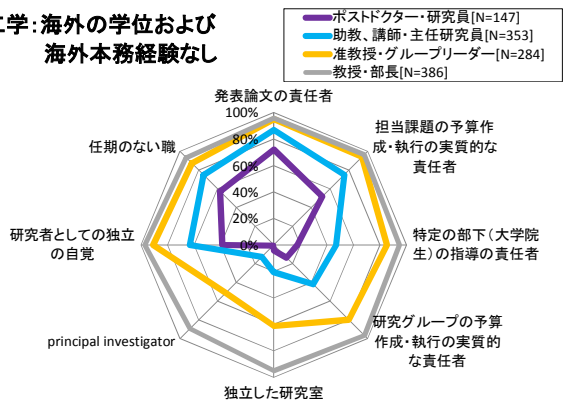
理学:海外の学位および  
海外本務経験なし



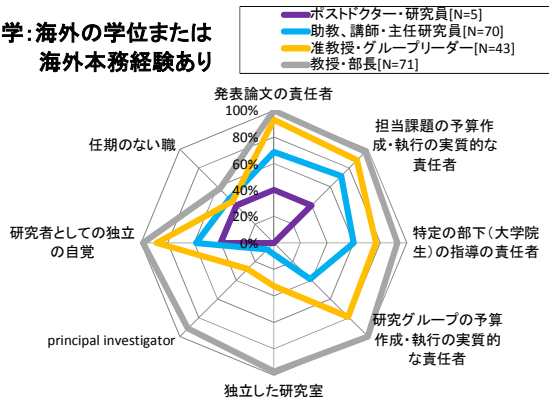
工学:海外の学位または  
海外本務経験あり



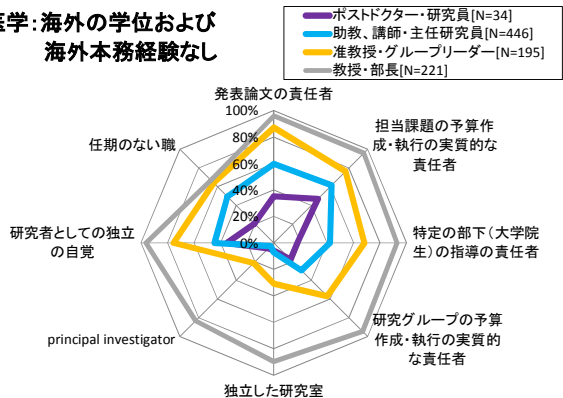
工学:海外の学位および  
海外本務経験なし



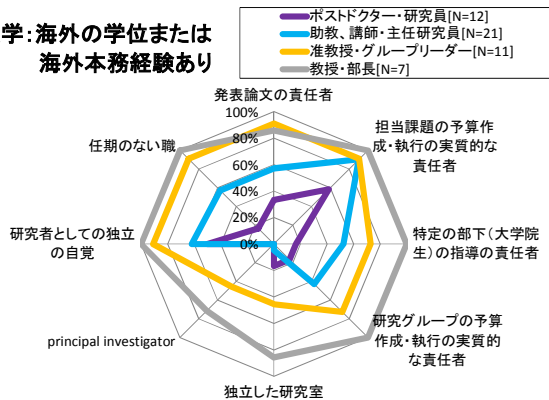
医学:海外の学位または  
海外本務経験あり



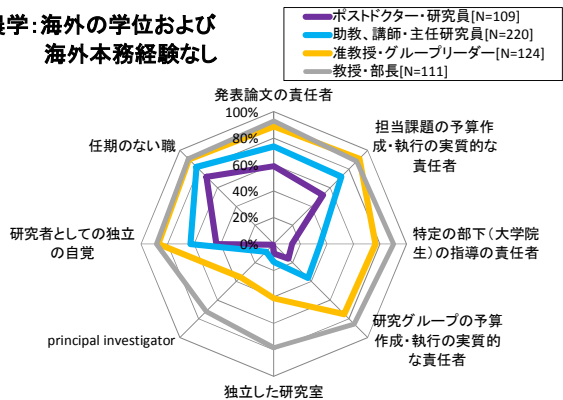
医学:海外の学位および  
海外本務経験なし



農学:海外の学位または  
海外本務経験あり



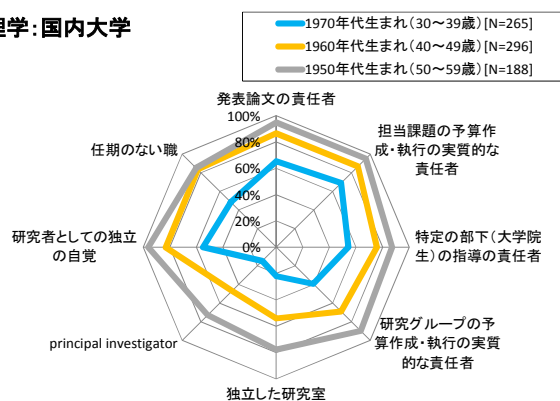
農学:海外の学位および  
海外本務経験なし



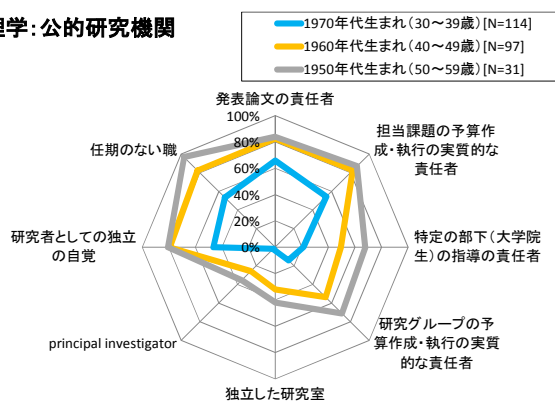
参考図表-属性9値 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表(海外経験:職階別)

理学:海外の学位 または海外本務 経験あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作 成・執行の実質的 な責任者	特定の部下(大学 院生)の指導の責 任者	研究グループの予 算作成・執行の実 質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独 立の自覚	任期のない職	該当職階 総人数
ポストドクター・ 研究員	13 (52.0%)	9 (36.0%)	6 (24.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	12 (48.0%)	4 (16.0%)	25
助教・講師・ 主任研究員	29 (59.2%)	38 (77.6%)	27 (55.1%)	18 (36.7%)	9 (18.4%)	6 (12.2%)	24 (49.0%)	31 (63.3%)	49
准教授・ グループリーダー	33 (91.7%)	34 (94.4%)	33 (91.7%)	28 (77.8%)	20 (55.6%)	19 (52.8%)	31 (86.1%)	24 (66.7%)	36
教授・部長	42 (100.0%)	42 (100.0%)	39 (92.9%)	42 (100.0%)	39 (92.9%)	37 (88.1%)	42 (100.0%)	32 (76.2%)	42
工学:海外の学位 または海外本務 経験あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作 成・執行の実質的 な責任者	特定の部下(大学 院生)の指導の責 任者	研究グループの予 算作成・執行の実 質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独 立の自覚	任期のない職	該当職階 総人数
ポストドクター・ 研究員	6 (60.0%)	2 (20.0%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (50.0%)	5 (50.0%)	10
助教・講師・ 主任研究員	23 (82.1%)	27 (96.4%)	14 (50.0%)	20 (71.4%)	9 (32.1%)	5 (17.9%)	20 (71.4%)	20 (71.4%)	28
准教授・ グループリーダー	18 (94.7%)	18 (94.7%)	16 (84.2%)	14 (73.7%)	9 (47.4%)	8 (42.1%)	19 (100.0%)	13 (68.4%)	19
教授・部長	32 (100.0%)	32 (100.0%)	31 (96.9%)	32 (100.0%)	31 (96.9%)	30 (93.8%)	32 (100.0%)	30 (93.8%)	32
医学:海外の学位 または海外本務 経験あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作 成・執行の実質的 な責任者	特定の部下(大学 院生)の指導の責 任者	研究グループの予 算作成・執行の実 質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独 立の自覚	任期のない職	該当職階 総人数
ポストドクター・ 研究員	2 (40.0%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (40.0%)	2 (40.0%)	5
助教・講師・ 主任研究員	48 (68.6%)	50 (71.4%)	42 (60.0%)	27 (38.6%)	6 (8.6%)	5 (7.1%)	41 (58.6%)	33 (47.1%)	70
准教授・ グループリーダー	40 (93.0%)	38 (88.4%)	33 (76.7%)	34 (79.1%)	14 (32.6%)	12 (27.9%)	38 (88.4%)	19 (44.2%)	43
教授・部長	71 (100.0%)	69 (97.2%)	66 (93.0%)	71 (100.0%)	69 (97.2%)	65 (91.5%)	70 (98.6%)	41 (57.7%)	71
農学:海外の学位 または海外本務 経験あり	発表論文の責任者	担当課題の予算作 成・執行の実質的 な責任者	特定の部下(大学 院生)の指導の責 任者	研究グループの予 算作成・執行の実 質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独 立の自覚	任期のない職	該当職階 総人数
ポストドクター・ 研究員	4 (33.3%)	7 (58.3%)	2 (16.7%)	2 (16.7%)	2 (16.7%)	0 (0.0%)	6 (50.0%)	2 (16.7%)	12
助教・講師・ 主任研究員	12 (57.1%)	19 (90.5%)	11 (52.4%)	9 (42.9%)	1 (4.8%)	0 (0.0%)	13 (61.9%)	12 (57.1%)	21
准教授・ グループリーダー	10 (90.9%)	10 (90.9%)	8 (72.7%)	8 (72.7%)	5 (45.5%)	5 (45.5%)	10 (90.9%)	10 (90.9%)	11
教授・部長	6 (85.7%)	7 (100.0%)	7 (100.0%)	7 (100.0%)	6 (85.7%)	5 (71.4%)	7 (100.0%)	7 (100.0%)	7
理学:海外の学位 および海外本務 経験なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作 成・執行の実質的 な責任者	特定の部下(大学 院生)の指導の責 任者	研究グループの予 算作成・執行の実 質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独 立の自覚	任期のない職	該当職階 総人数
ポストドクター・ 研究員	107 (60.8%)	78 (44.3%)	37 (21.0%)	27 (15.3%)	3 (1.7%)	2 (1.1%)	70 (39.8%)	71 (40.3%)	176
助教・講師・ 主任研究員	214 (68.6%)	222 (71.2%)	144 (46.2%)	116 (37.2%)	56 (17.9%)	34 (10.9%)	188 (60.3%)	216 (69.2%)	312
准教授・ グループリーダー	214 (92.6%)	215 (93.1%)	184 (79.7%)	180 (77.9%)	129 (55.8%)	105 (45.5%)	214 (92.6%)	200 (86.6%)	231
教授・部長	249 (97.6%)	250 (98.0%)	239 (93.7%)	240 (94.1%)	232 (91.0%)	218 (85.5%)	251 (98.4%)	227 (89.0%)	255
工学:海外の学位 および海外本務 経験なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作 成・執行の実質的 な責任者	特定の部下(大学 院生)の指導の責 任者	研究グループの予 算作成・執行の実 質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独 立の自覚	任期のない職	該当職階 総人数
ポストドクター・ 研究員	106 (72.1%)	76 (51.7%)	26 (17.7%)	20 (13.6%)	6 (4.1%)	1 (0.7%)	57 (38.8%)	84 (57.1%)	147
助教・講師・ 主任研究員	307 (87.0%)	265 (75.1%)	166 (47.0%)	148 (41.9%)	73 (20.7%)	45 (12.7%)	223 (63.2%)	264 (74.8%)	353
准教授・ グループリーダー	270 (95.1%)	267 (94.0%)	242 (85.2%)	227 (79.9%)	174 (61.3%)	145 (51.1%)	258 (90.8%)	248 (87.3%)	284
教授・部長	370 (95.9%)	372 (96.4%)	365 (94.6%)	373 (96.6%)	367 (95.1%)	345 (89.4%)	375 (97.2%)	360 (93.3%)	386
医学:海外の学位 および海外本務 経験なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作 成・執行の実質的 な責任者	特定の部下(大学 院生)の指導の責 任者	研究グループの予 算作成・執行の実 質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独 立の自覚	任期のない職	該当職階 総人数
ポストドクター・ 研究員	12 (35.3%)	16 (47.1%)	6 (17.6%)	6 (17.6%)	2 (5.9%)	2 (5.9%)	12 (35.3%)	7 (20.6%)	34
助教・講師・ 主任研究員	266 (59.6%)	275 (61.7%)	189 (42.4%)	131 (29.4%)	32 (7.2%)	15 (3.4%)	199 (44.6%)	220 (49.3%)	446
准教授・ グループリーダー	170 (87.2%)	149 (76.4%)	133 (68.2%)	111 (56.9%)	60 (30.8%)	42 (21.5%)	147 (75.4%)	125 (64.1%)	195
教授・部長	212 (95.9%)	212 (95.9%)	205 (92.8%)	209 (94.6%)	198 (89.6%)	184 (83.3%)	213 (96.4%)	148 (67.0%)	221
農学:海外の学位 および海外本務 経験なし	発表論文の責任者	担当課題の予算作 成・執行の実質的 な責任者	特定の部下(大学 院生)の指導の責 任者	研究グループの予 算作成・執行の実 質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独 立の自覚	任期のない職	該当職階 総人数
ポストドクター・ 研究員	64 (58.7%)	57 (52.3%)	15 (13.8%)	17 (15.6%)	8 (7.3%)	1 (0.9%)	47 (43.1%)	78 (71.6%)	109
助教・講師・ 主任研究員	162 (73.6%)	158 (71.8%)	77 (35.0%)	80 (36.4%)	30 (13.6%)	18 (8.2%)	138 (62.7%)	181 (82.3%)	220
准教授・ グループリーダー	110 (88.7%)	113 (91.1%)	95 (76.6%)	93 (75.0%)	51 (41.1%)	44 (35.5%)	108 (87.1%)	112 (90.3%)	124
教授・部長	103 (92.8%)	98 (88.3%)	100 (90.1%)	95 (85.6%)	87 (78.4%)	80 (72.1%)	98 (88.3%)	101 (91.0%)	111

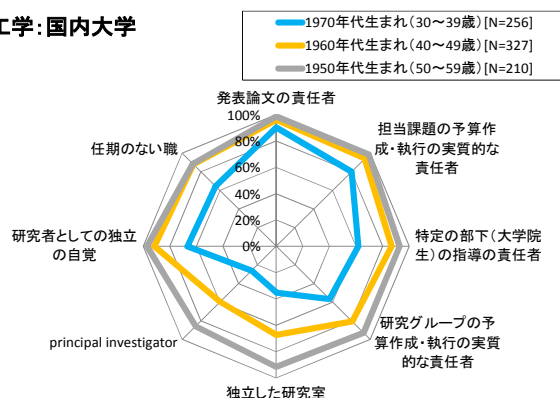
## 理学:国内大学



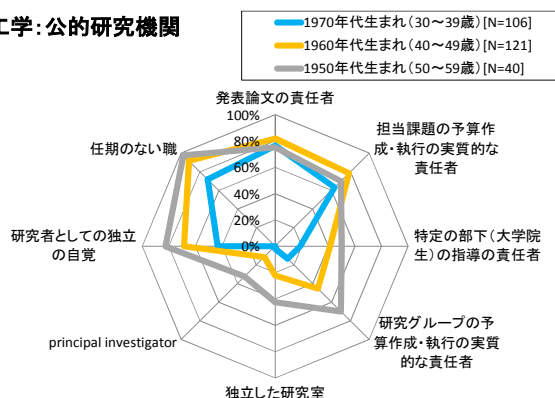
## 理学:公的研究機関



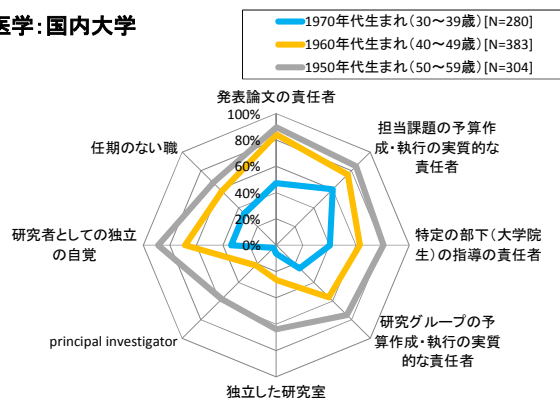
## 工学:国内大学



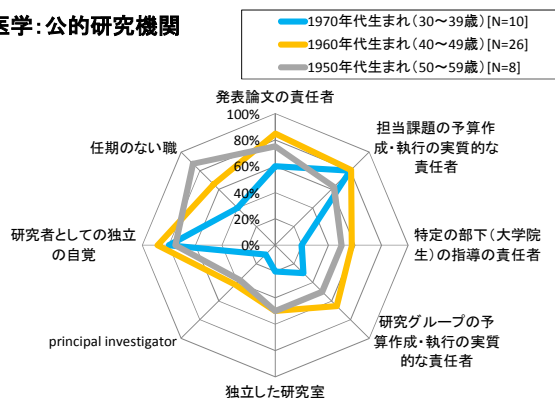
## 工学:公的研究機関



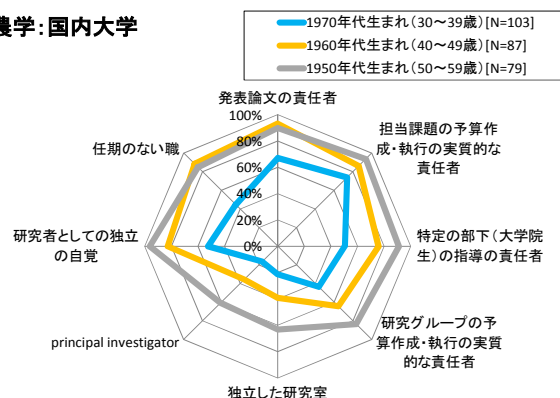
## 医学:国内大学



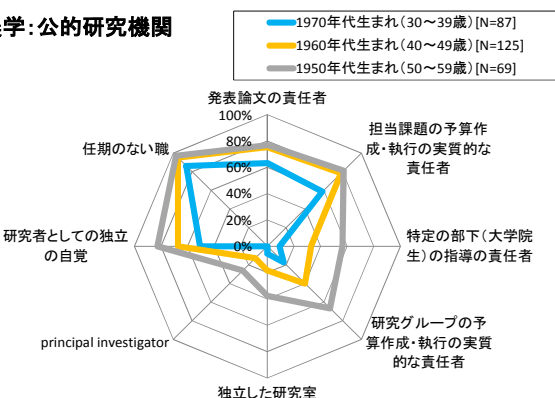
## 医学:公的研究機関



## 農学:国内大学



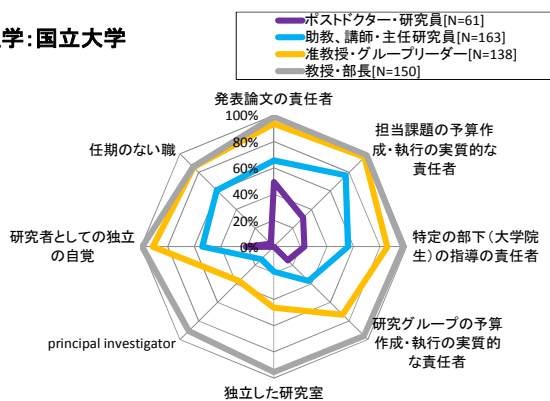
## 農学:公的研究機関



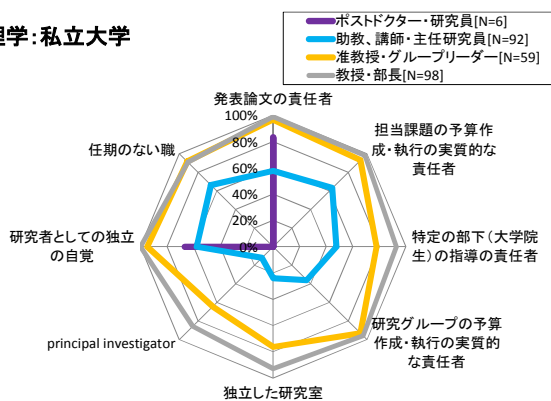
参考図表-現職機関1値 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表(機関種別:年齢層別)【図表4-14別版】

理学:国内大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	173 (65.3%)	183 (69.1%)	144 (54.3%)	104 (39.2%)	58 (21.9%)	39 (14.7%)	146 (55.1%)	128 (48.3%)	265
1960年代生まれ(40～49歳)	256 (86.5%)	257 (86.8%)	224 (75.7%)	204 (68.9%)	160 (54.1%)	139 (47.0%)	246 (83.1%)	247 (83.4%)	296
1950年代生まれ(50～59歳)	178 (94.7%)	179 (95.2%)	164 (87.2%)	169 (89.9%)	146 (77.7%)	137 (72.9%)	181 (96.3%)	160 (85.1%)	188
工学:国内大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	231 (90.2%)	205 (80.1%)	158 (61.7%)	145 (56.6%)	90 (35.2%)	67 (26.2%)	171 (66.8%)	165 (64.5%)	256
1960年代生まれ(40～49歳)	314 (96.0%)	308 (94.2%)	284 (86.9%)	264 (80.7%)	220 (67.3%)	195 (59.6%)	300 (91.7%)	288 (88.1%)	327
1950年代生まれ(50～59歳)	207 (98.6%)	207 (98.6%)	195 (92.9%)	195 (92.9%)	192 (91.4%)	180 (85.7%)	204 (97.1%)	186 (88.6%)	210
医学:国内大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	132 (47.1%)	168 (60.0%)	113 (40.4%)	70 (25.0%)	18 (6.4%)	8 (2.9%)	95 (36.8%)	95 (34.9%)	280
1960年代生まれ(40～49歳)	322 (84.1%)	291 (76.0%)	241 (62.9%)	214 (55.9%)	101 (26.4%)	83 (21.7%)	263 (68.7%)	222 (58.0%)	383
1950年代生まれ(50～59歳)	272 (89.5%)	258 (84.9%)	245 (80.6%)	228 (75.0%)	194 (63.8%)	176 (57.9%)	270 (88.8%)	204 (67.1%)	304
農学:国内大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	69 (67.0%)	76 (73.8%)	52 (50.5%)	45 (43.7%)	22 (21.4%)	17 (16.5%)	54 (52.4%)	46 (44.7%)	103
1960年代生まれ(40～49歳)	81 (93.1%)	75 (86.2%)	66 (75.9%)	56 (64.4%)	34 (39.1%)	31 (35.6%)	72 (82.8%)	77 (88.5%)	87
1950年代生まれ(50～59歳)	71 (89.9%)	74 (93.7%)	72 (91.1%)	66 (83.5%)	50 (63.3%)	48 (60.8%)	76 (96.2%)	67 (84.8%)	79
理学: 公的研究機関	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	75 (65.8%)	62 (54.4%)	24 (21.1%)	16 (14.0%)	3 (2.6%)	2 (1.8%)	53 (46.5%)	61 (53.5%)	114
1960年代生まれ(40～49歳)	80 (82.5%)	80 (82.5%)	48 (49.5%)	52 (53.6%)	31 (32.0%)	25 (25.8%)	77 (79.4%)	80 (82.5%)	97
1950年代生まれ(50～59歳)	26 (83.9%)	27 (87.1%)	21 (67.7%)	22 (71.0%)	13 (41.9%)	11 (35.5%)	25 (80.6%)	30 (96.8%)	31
工学: 公的研究機関	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	81 (76.4%)	67 (63.2%)	20 (18.9%)	14 (13.2%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)	46 (43.4%)	76 (71.7%)	106
1960年代生まれ(40～49歳)	99 (81.8%)	95 (78.5%)	50 (41.3%)	55 (45.5%)	27 (22.3%)	14 (11.6%)	83 (68.6%)	111 (91.7%)	121
1950年代生まれ(50～59歳)	30 (75.0%)	28 (70.0%)	20 (50.0%)	28 (70.0%)	17 (42.5%)	13 (32.5%)	33 (82.5%)	39 (97.5%)	40
医学: 公的研究機関	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	6 (60.0%)	8 (80.0%)	2 (20.0%)	3 (30.0%)	2 (20.0%)	1 (10.0%)	8 (80.0%)	4 (40.0%)	10
1960年代生まれ(40～49歳)	22 (84.6%)	21 (80.8%)	15 (57.7%)	17 (65.4%)	13 (50.0%)	11 (42.3%)	23 (88.5%)	17 (65.4%)	26
1950年代生まれ(50～59歳)	6 (75.0%)	5 (62.5%)	4 (50.0%)	4 (50.0%)	4 (50.0%)	3 (37.5%)	6 (75.0%)	7 (87.5%)	8
農学: 公的研究機関	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層総人数
1970年代生まれ(30～39歳)	55 (63.2%)	51 (58.6%)	8 (9.2%)	15 (17.2%)	5 (5.7%)	0 (0.0%)	44 (50.6%)	75 (86.2%)	87
1960年代生まれ(40～49歳)	94 (75.2%)	98 (78.4%)	41 (32.8%)	50 (40.0%)	23 (18.4%)	16 (12.8%)	84 (67.2%)	119 (95.2%)	125
1950年代生まれ(50～59歳)	53 (76.8%)	56 (81.2%)	39 (56.5%)	46 (66.7%)	26 (37.7%)	18 (26.1%)	57 (82.6%)	67 (97.1%)	69

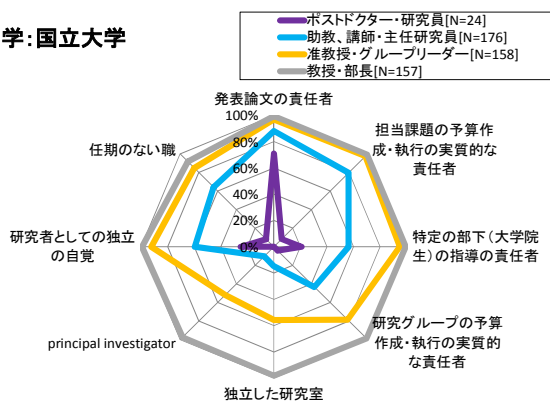
### 理学:国立大学



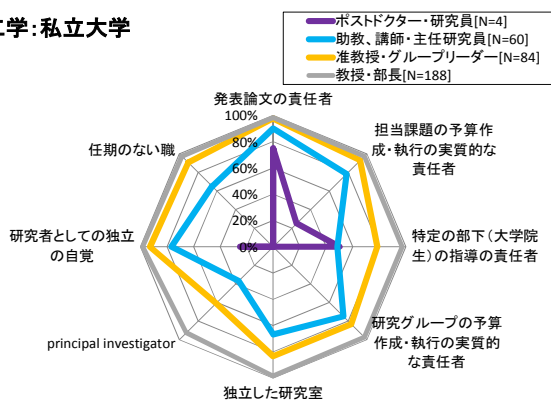
### 理学:私立大学



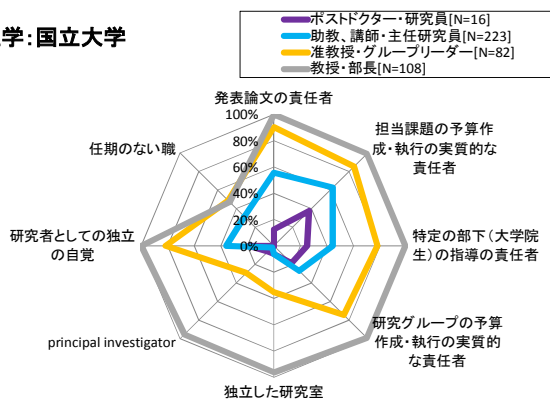
### 工学:国立大学



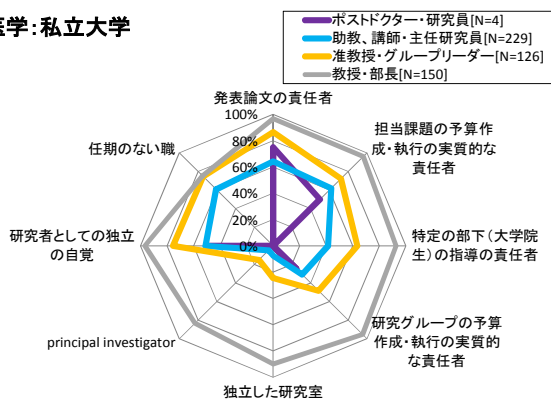
### 工学:私立大学



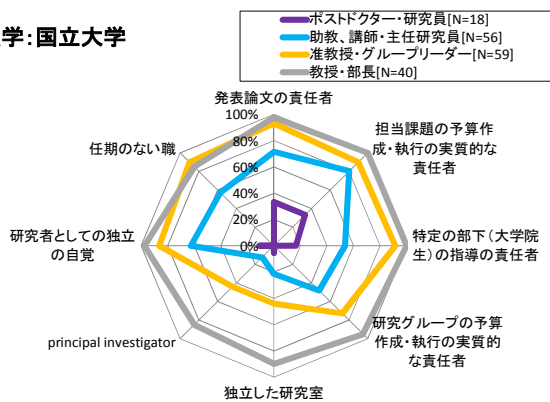
### 医学:国立大学



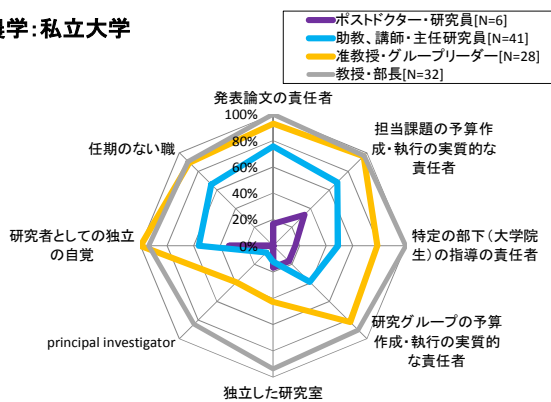
### 医学:私立大学



### 農学:国立大学



### 農学:私立大学

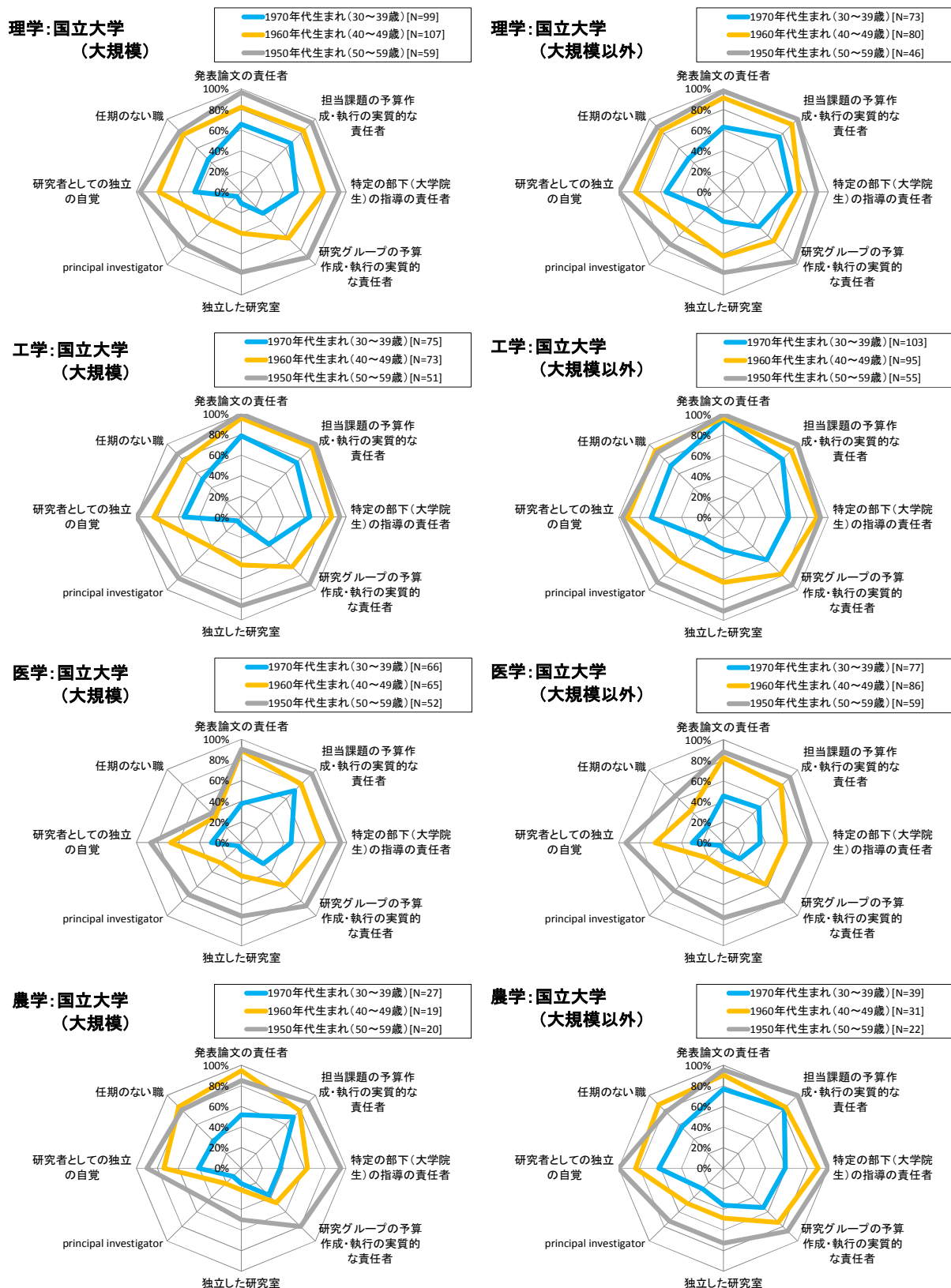


参考図表-現職機関2値 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表(大学種別:職階別)【図表4-15別版】

理学:国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	30 (49.2%)	19 (31.1%)	14 (23.0%)	9 (14.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	13 (21.3%)	2 (3.3%)	61
助教、講師・主任研究員	107 (65.6%)	125 (76.7%)	91 (55.8%)	60 (36.8%)	31 (19.0%)	22 (13.5%)	88 (54.0%)	99 (60.7%)	163
准教授・グループリーダー	129 (93.5%)	133 (96.4%)	118 (85.5%)	101 (73.2%)	64 (46.4%)	51 (37.0%)	126 (91.3%)	118 (85.5%)	138
教授・部長	148 (98.7%)	148 (98.7%)	146 (97.3%)	144 (96.0%)	143 (95.3%)	136 (90.7%)	149 (99.3%)	129 (86.0%)	150
工学:国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	17 (70.8%)	2 (8.3%)	5 (20.8%)	1 (4.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (25.0%)	2 (8.3%)	24
助教、講師・主任研究員	155 (88.1%)	140 (79.5%)	99 (56.3%)	76 (43.2%)	26 (14.8%)	18 (10.2%)	105 (59.7%)	113 (64.2%)	176
准教授・グループリーダー	153 (96.8%)	154 (97.5%)	150 (94.9%)	124 (78.5%)	88 (55.7%)	82 (51.9%)	146 (92.4%)	134 (84.8%)	158
教授・部長	156 (99.4%)	156 (99.4%)	156 (99.4%)	155 (98.7%)	154 (98.1%)	153 (97.5%)	156 (99.4%)	144 (91.7%)	157
医学:国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	2 (12.5%)	6 (37.5%)	4 (25.0%)	3 (18.8%)	1 (6.3%)	1 (6.3%)	3 (18.8%)	0 (0.0%)	16
助教、講師・主任研究員	124 (55.6%)	140 (62.8%)	99 (44.4%)	60 (26.9%)	14 (6.3%)	4 (1.8%)	80 (35.9%)	70 (31.4%)	223
准教授・グループリーダー	74 (90.2%)	70 (85.4%)	64 (78.0%)	61 (74.4%)	29 (35.4%)	24 (29.3%)	67 (81.7%)	40 (48.8%)	82
教授・部長	108 (100.0%)	107 (99.1%)	107 (99.1%)	107 (99.1%)	104 (96.3%)	103 (95.4%)	108 (100.0%)	51 (47.2%)	108
農学:国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	6 (33.3%)	6 (33.3%)	3 (16.7%)	0 (0.0%)	1 (5.6%)	0 (0.0%)	2 (11.1%)	0 (0.0%)	18
助教、講師・主任研究員	40 (71.4%)	45 (80.4%)	30 (53.6%)	27 (48.2%)	12 (21.4%)	7 (12.5%)	35 (62.5%)	32 (57.1%)	56
准教授・グループリーダー	55 (93.2%)	53 (89.8%)	54 (91.5%)	43 (72.9%)	26 (44.1%)	26 (44.1%)	51 (86.4%)	53 (89.8%)	59
教授・部長	39 (97.5%)	40 (100.0%)	40 (100.0%)	38 (95.0%)	36 (90.0%)	34 (85.0%)	39 (97.5%)	34 (85.0%)	40
理学:私立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	5 (83.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (66.7%)	0 (0.0%)	6
助教、講師・主任研究員	53 (57.6%)	58 (63.0%)	44 (47.8%)	33 (35.9%)	22 (23.9%)	11 (12.0%)	53 (57.6%)	61 (66.3%)	92
准教授・グループリーダー	57 (96.6%)	55 (93.2%)	46 (78.0%)	55 (93.2%)	45 (76.3%)	38 (64.4%)	56 (94.9%)	54 (91.5%)	59
教授・部長	97 (99.0%)	96 (98.0%)	91 (92.9%)	94 (95.9%)	91 (92.9%)	84 (85.7%)	98 (100.0%)	89 (90.8%)	98
工学:私立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	3 (75.0%)	1 (25.0%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	4
助教、講師・主任研究員	54 (90.0%)	47 (78.3%)	29 (48.3%)	45 (75.0%)	40 (66.7%)	22 (36.7%)	46 (76.7%)	39 (65.0%)	60
准教授・グループリーダー	82 (97.6%)	78 (92.9%)	66 (78.6%)	70 (83.3%)	70 (83.3%)	51 (60.7%)	78 (92.9%)	76 (90.5%)	84
教授・部長	185 (98.4%)	183 (97.3%)	183 (97.3%)	183 (97.3%)	185 (98.4%)	174 (92.6%)	185 (98.4%)	183 (97.3%)	188
医学:私立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	3 (75.0%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	4
助教、講師・主任研究員	147 (64.2%)	142 (62.0%)	95 (41.5%)	71 (31.0%)	17 (7.4%)	11 (4.8%)	117 (51.1%)	139 (60.7%)	229
准教授・グループリーダー	109 (86.5%)	91 (72.2%)	80 (63.5%)	61 (48.4%)	31 (24.6%)	19 (15.1%)	95 (75.4%)	94 (74.6%)	126
教授・部長	145 (96.7%)	144 (96.0%)	139 (92.7%)	143 (95.3%)	135 (90.0%)	125 (83.3%)	145 (96.7%)	113 (75.3%)	150
農学:私立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	1 (16.7%)	2 (33.3%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	2 (33.3%)	0 (0.0%)	6
助教、講師・主任研究員	31 (75.6%)	28 (68.3%)	20 (48.8%)	16 (39.0%)	5 (12.2%)	3 (7.3%)	23 (56.1%)	27 (65.9%)	41
准教授・グループリーダー	26 (92.9%)	27 (96.4%)	22 (78.6%)	23 (82.1%)	12 (42.9%)	11 (39.3%)	28 (100.0%)	25 (89.3%)	28
教授・部長	32 (100.0%)	31 (96.9%)	32 (100.0%)	29 (90.6%)	30 (93.8%)	27 (84.4%)	30 (93.8%)	29 (90.6%)	32



参考図表-現職機関3 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート(国立大学の規模別：年齢層別)



※本報告書が指す「大規模大学」は「国立大学法人の類型化について(案)」に従い、「北海道大学」「東北大学」「筑波大学」「千葉大学」「東京大学」「新潟大学」「名古屋大学」「京都大学」「大阪大学」「神戸大学」「岡山大学」「広島大学」「九州大学」としている。

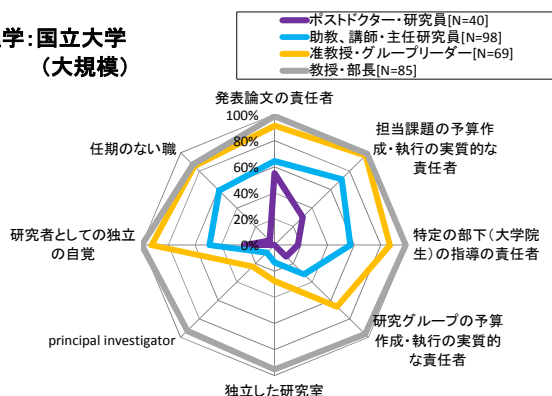


参考図表-現職機関3値 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表(国立大学の規模別:年齢層別)

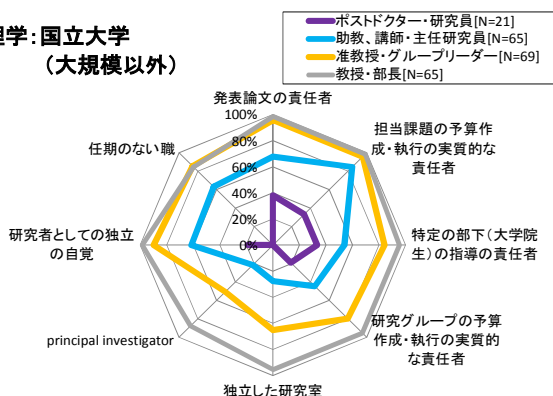
理学:大規模 国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層 総人数
1970年代生まれ (30～39歳)	65 (65.7%)	66 (66.7%)	52 (52.5%)	29 (29.3%)	11 (11.1%)	6 (6.1%)	44 (44.4%)	44 (44.4%)	99
1960年代生まれ (40～49歳)	88 (82.2%)	90 (84.1%)	84 (78.5%)	68 (63.6%)	43 (40.2%)	42 (39.3%)	84 (78.5%)	84 (78.5%)	107
1950年代生まれ (50～59歳)	57 (96.6%)	56 (94.9%)	55 (93.2%)	53 (89.8%)	46 (78.0%)	43 (72.9%)	57 (96.6%)	49 (83.1%)	59
工学:大規模 国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層 総人数
1970年代生まれ (30～39歳)	59 (78.7%)	56 (74.7%)	49 (65.3%)	28 (37.3%)	6 (8.0%)	4 (5.3%)	41 (54.7%)	39 (52.0%)	75
1960年代生まれ (40～49歳)	70 (95.9%)	70 (95.9%)	63 (86.3%)	50 (68.5%)	34 (46.6%)	30 (41.1%)	61 (83.6%)	56 (76.7%)	73
1950年代生まれ (50～59歳)	51 (100.0%)	51 (100.0%)	48 (94.1%)	47 (92.2%)	44 (86.3%)	43 (84.3%)	51 (100.0%)	44 (86.3%)	51
医学:大規模 国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層 総人数
1970年代生まれ (30～39歳)	25 (37.9%)	47 (71.2%)	31 (47.0%)	19 (28.8%)	5 (7.6%)	3 (4.5%)	19 (28.8%)	15 (22.7%)	66
1960年代生まれ (40～49歳)	58 (89.2%)	52 (80.0%)	50 (76.9%)	38 (58.5%)	21 (32.3%)	18 (27.7%)	44 (67.7%)	23 (35.4%)	65
1950年代生まれ (50～59歳)	47 (90.4%)	49 (94.2%)	49 (94.2%)	45 (86.5%)	37 (71.2%)	37 (71.2%)	45 (86.5%)	21 (40.4%)	52
農学:大規模 国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層 総人数
1970年代生まれ (30～39歳)	14 (51.9%)	19 (70.4%)	10 (37.0%)	10 (37.0%)	4 (14.8%)	3 (11.1%)	11 (40.7%)	10 (37.0%)	27
1960年代生まれ (40～49歳)	18 (94.7%)	15 (78.9%)	12 (63.2%)	9 (47.4%)	4 (21.1%)	4 (21.1%)	14 (73.7%)	16 (84.2%)	19
1950年代生まれ (50～59歳)	17 (85.0%)	18 (90.0%)	19 (95.0%)	16 (80.0%)	10 (50.0%)	9 (45.0%)	18 (90.0%)	16 (80.0%)	20
理学:大規模 以外の国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層 総人数
1970年代生まれ (30～39歳)	46 (63.0%)	55 (75.3%)	47 (64.4%)	35 (47.9%)	21 (28.8%)	17 (23.3%)	40 (54.8%)	34 (46.6%)	73
1960年代生まれ (40～49歳)	73 (91.3%)	74 (92.5%)	58 (72.5%)	54 (67.5%)	50 (62.5%)	41 (51.3%)	67 (83.8%)	67 (83.8%)	80
1950年代生まれ (50～59歳)	45 (97.8%)	46 (100.0%)	41 (89.1%)	44 (95.7%)	36 (78.3%)	33 (71.7%)	46 (100.0%)	41 (89.1%)	46
工学:大規模 以外の国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層 総人数
1970年代生まれ (30～39歳)	98 (95.1%)	82 (79.6%)	64 (62.1%)	60 (58.3%)	32 (31.1%)	29 (28.2%)	71 (68.9%)	73 (70.9%)	103
1960年代生まれ (40～49歳)	92 (96.8%)	87 (91.6%)	85 (89.5%)	74 (77.9%)	60 (63.2%)	57 (60.0%)	87 (91.6%)	87 (91.6%)	95
1950年代生まれ (50～59歳)	55 (100.0%)	55 (100.0%)	51 (92.7%)	51 (92.7%)	50 (90.9%)	49 (89.1%)	53 (96.4%)	49 (89.1%)	55
医学:大規模 以外の国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層 総人数
1970年代生まれ (30～39歳)	35 (45.5%)	37 (48.1%)	27 (35.1%)	17 (22.1%)	6 (7.8%)	3 (3.9%)	23 (29.9%)	17 (22.1%)	77
1960年代生まれ (40～49歳)	71 (82.6%)	67 (77.9%)	51 (59.3%)	49 (57.0%)	21 (24.4%)	18 (20.9%)	56 (65.1%)	38 (44.2%)	86
1950年代生まれ (50～59歳)	52 (88.1%)	53 (89.8%)	49 (83.1%)	47 (79.7%)	43 (72.9%)	39 (66.1%)	55 (93.2%)	38 (64.4%)	59
農学:大規模 以外の国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当年齢層 総人数
1970年代生まれ (30～39歳)	30 (76.9%)	32 (82.1%)	23 (59.0%)	21 (53.8%)	14 (35.9%)	11 (28.2%)	24 (61.5%)	22 (56.4%)	39
1960年代生まれ (40～49歳)	28 (90.3%)	26 (83.9%)	28 (90.3%)	23 (74.2%)	15 (48.4%)	15 (48.4%)	26 (83.9%)	27 (87.1%)	31
1950年代生まれ (50～59歳)	21 (95.5%)	22 (100.0%)	22 (100.0%)	19 (86.4%)	16 (72.7%)	16 (72.7%)	22 (100.0%)	17 (77.3%)	22

参考図表-現職機関4 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無のレーダーチャート(国立大学の規模別・職階別)

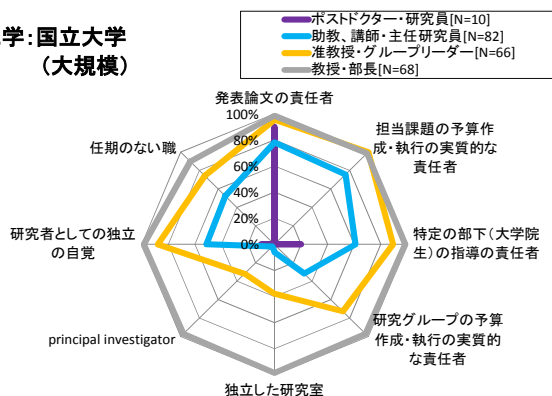
理学:国立大学  
(大規模)



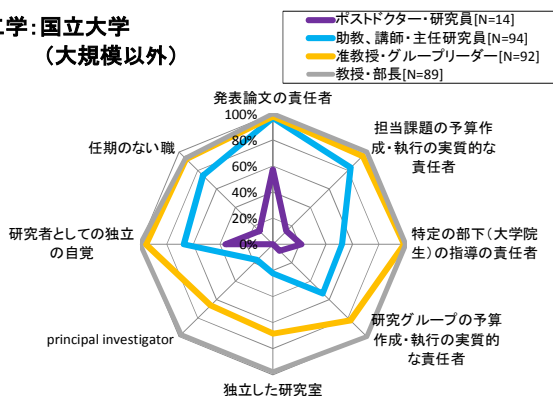
理学:国立大学  
(大規模以外)



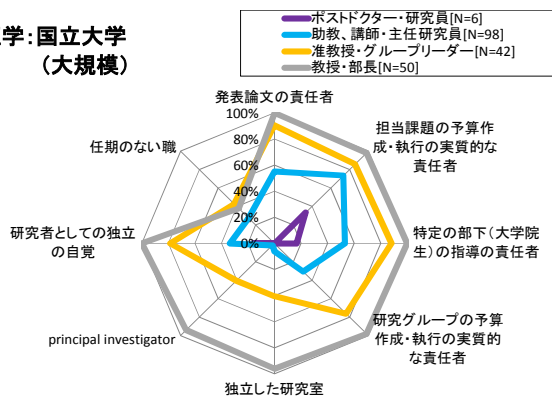
工学:国立大学  
(大規模)



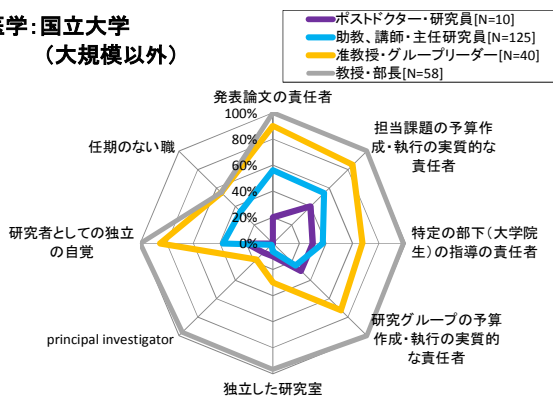
工学:国立大学  
(大規模以外)



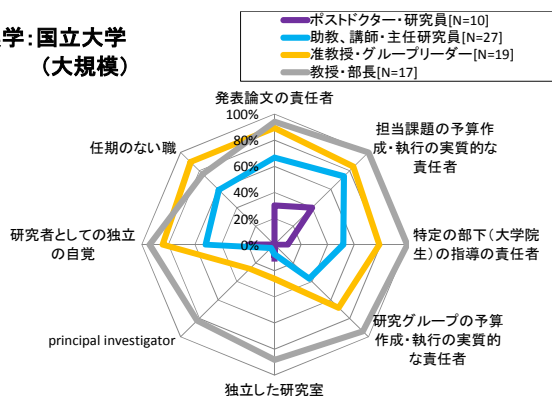
医学:国立大学  
(大規模)



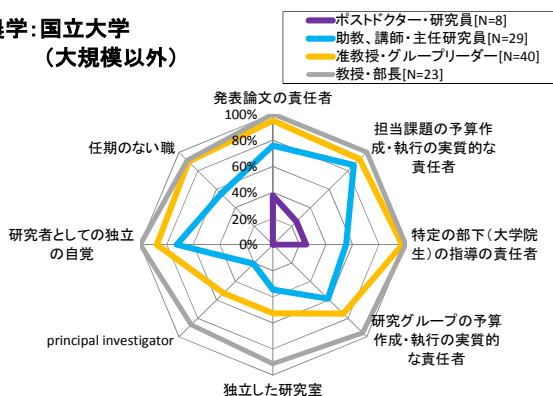
医学:国立大学  
(大規模以外)



農学:国立大学  
(大規模)



農学:国立大学  
(大規模以外)

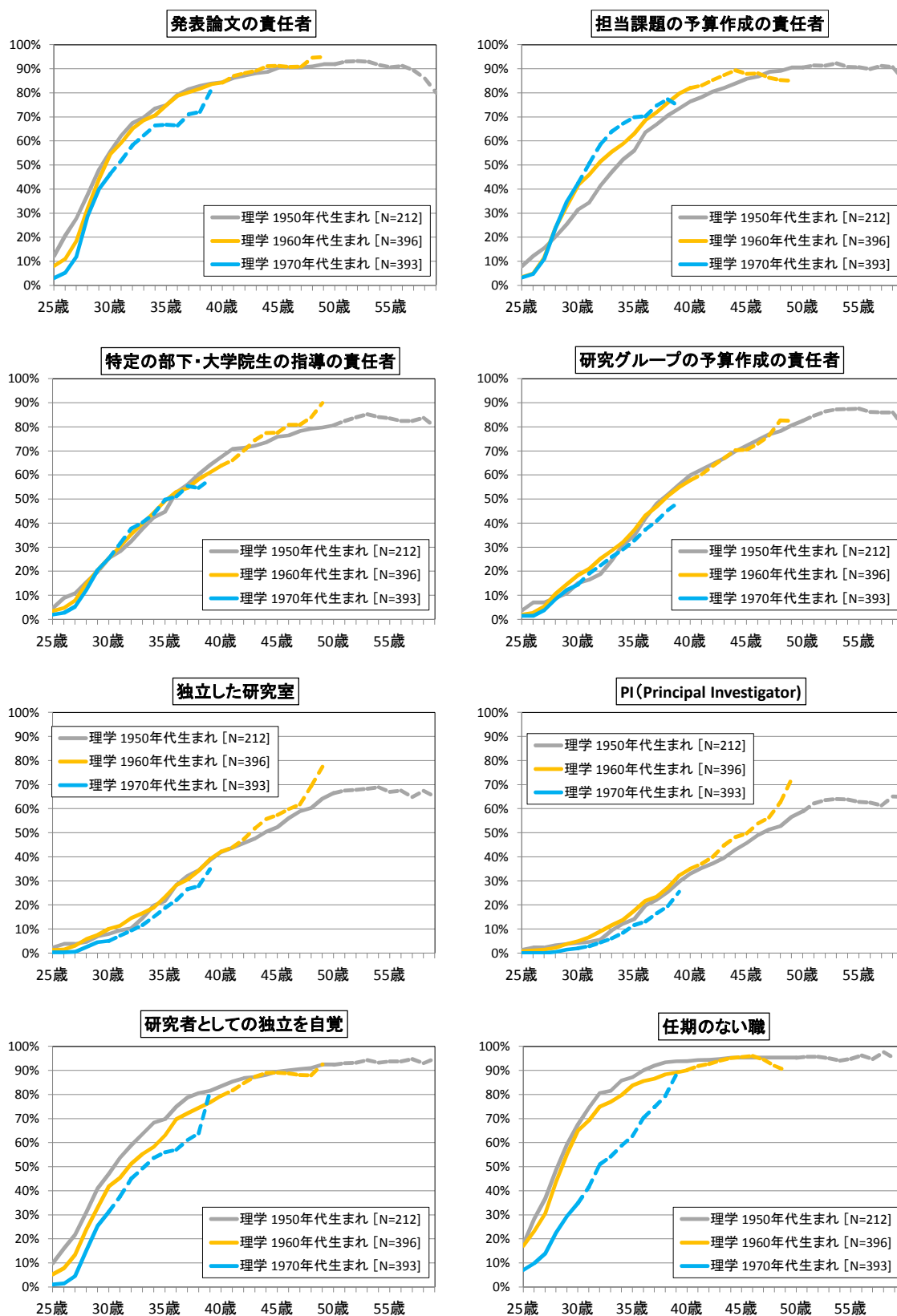


※本報告書が指す「大規模大学」は「国立大学法人の類型化について(案)」に従い、「北海道大学」「東北大学」「筑波大学」「千葉大学」「東京大学」「新潟大学」「名古屋大学」「京都大学」「大阪大学」「神戸大学」「岡山大学」「広島大学」「九州大学」としている。

参考図表-現職機関4値 研究環境・権限、独立の自覚、任期の有無の内訳表(国立大学の規模別:職階別)

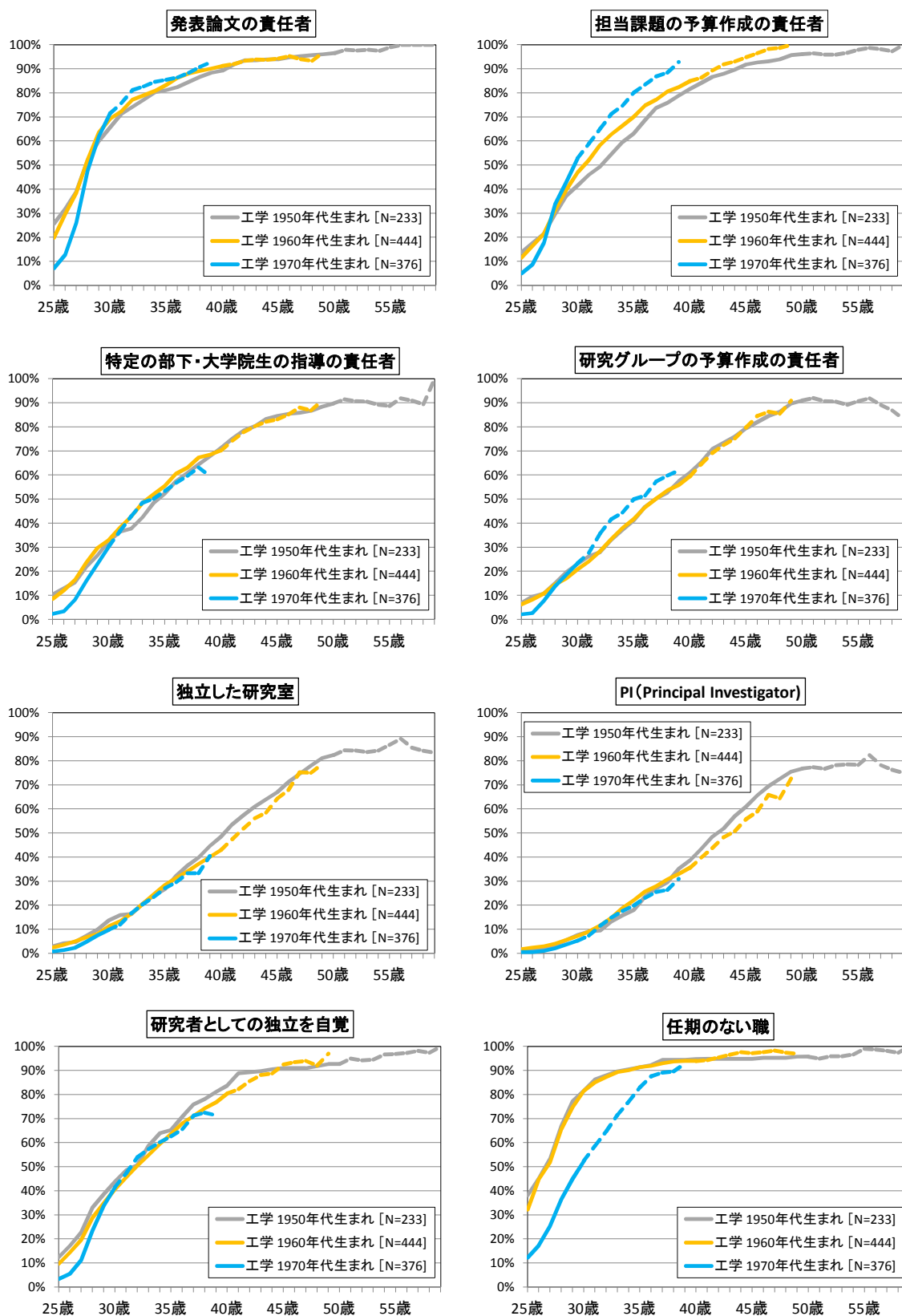
理学:大規模 国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	22 (55.0%)	12 (30.0%)	7 (17.5%)	5 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (22.5%)	2 (5.0%)	40
助教・講師・主任研究員	63 (64.3%)	70 (71.4%)	56 (57.1%)	31 (31.6%)	13 (13.3%)	8 (8.2%)	48 (49.0%)	58 (59.2%)	98
准教授・グループリーダー	63 (91.3%)	67 (97.1%)	60 (87.0%)	46 (66.7%)	19 (27.5%)	16 (23.2%)	64 (92.8%)	59 (85.5%)	69
教授・部長	84 (98.8%)	84 (98.8%)	84 (98.8%)	82 (96.5%)	81 (95.3%)	79 (92.9%)	85 (100.0%)	74 (87.1%)	85
工学:大規模 国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	9 (90.0%)	0 (0.0%)	2 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	10
助教・講師・主任研究員	64 (78.0%)	62 (75.6%)	50 (61.0%)	26 (31.7%)	5 (6.1%)	2 (2.4%)	42 (51.2%)	43 (52.4%)	82
准教授・グループリーダー	63 (95.5%)	66 (100.0%)	59 (89.4%)	48 (72.7%)	25 (37.9%)	21 (31.8%)	58 (87.9%)	49 (74.2%)	66
教授・部長	67 (98.5%)	67 (98.5%)	67 (98.5%)	66 (97.1%)	67 (98.5%)	66 (97.1%)	67 (98.5%)	61 (89.7%)	68
医学:大規模 国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	0 (0.0%)	2 (33.3%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	6
助教・講師・主任研究員	54 (55.1%)	72 (73.5%)	52 (53.1%)	30 (30.6%)	6 (6.1%)	2 (2.0%)	33 (33.7%)	27 (27.6%)	98
准教授・グループリーダー	38 (90.5%)	36 (85.7%)	37 (88.1%)	32 (76.2%)	17 (40.5%)	17 (40.5%)	33 (78.6%)	18 (42.9%)	42
教授・部長	50 (100.0%)	49 (98.0%)	50 (100.0%)	49 (98.0%)	48 (96.0%)	47 (94.0%)	50 (100.0%)	19 (38.0%)	50
農学:大規模 国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	3 (30.0%)	4 (40.0%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	2 (20.0%)	0 (0.0%)	10
助教・講師・主任研究員	18 (66.7%)	20 (74.1%)	14 (51.9%)	10 (37.0%)	2 (7.4%)	1 (3.7%)	14 (51.9%)	16 (59.3%)	27
准教授・グループリーダー	17 (89.5%)	16 (84.2%)	15 (78.9%)	13 (68.4%)	5 (26.3%)	5 (26.3%)	16 (84.2%)	17 (89.5%)	19
教授・部長	16 (94.1%)	17 (100.0%)	17 (100.0%)	16 (94.1%)	15 (88.2%)	14 (82.4%)	16 (94.1%)	13 (76.5%)	17
理学:大規模 以外の国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	8 (38.1%)	7 (33.3%)	7 (33.3%)	4 (19.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (19.0%)	0 (0.0%)	21
助教・講師・主任研究員	44 (67.7%)	55 (84.6%)	35 (53.8%)	29 (44.6%)	18 (27.7%)	14 (21.5%)	40 (61.5%)	41 (63.1%)	65
准教授・グループリーダー	66 (95.7%)	66 (95.7%)	58 (84.1%)	55 (79.7%)	45 (65.2%)	35 (50.7%)	62 (89.9%)	59 (85.5%)	69
教授・部長	64 (98.5%)	64 (98.5%)	62 (95.4%)	62 (95.4%)	62 (95.4%)	57 (87.7%)	64 (98.5%)	55 (84.6%)	65
工学:大規模 以外の国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	8 (57.1%)	2 (14.3%)	3 (21.4%)	1 (7.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (35.7%)	2 (14.3%)	14
助教・講師・主任研究員	91 (96.8%)	78 (83.0%)	49 (52.1%)	50 (53.2%)	21 (22.3%)	16 (17.0%)	63 (67.0%)	70 (74.5%)	94
准教授・グループリーダー	90 (97.8%)	88 (95.7%)	91 (98.9%)	76 (82.6%)	63 (68.5%)	61 (66.3%)	88 (95.7%)	85 (92.4%)	92
教授・部長	89 (100.0%)	89 (100.0%)	89 (100.0%)	89 (100.0%)	87 (97.8%)	87 (97.8%)	89 (100.0%)	83 (93.3%)	89
医学:大規模 以外の国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	2 (20.0%)	4 (40.0%)	3 (30.0%)	3 (30.0%)	1 (10.0%)	1 (10.0%)	2 (20.0%)	0 (0.0%)	10
助教・講師・主任研究員	70 (56.0%)	68 (54.4%)	47 (37.6%)	30 (24.0%)	8 (6.4%)	2 (1.6%)	47 (37.6%)	43 (34.4%)	125
准教授・グループリーダー	36 (90.0%)	34 (85.0%)	27 (67.5%)	29 (72.5%)	12 (30.0%)	7 (17.5%)	34 (85.0%)	22 (55.0%)	40
教授・部長	58 (100.0%)	58 (100.0%)	57 (98.3%)	58 (100.0%)	56 (96.6%)	56 (96.6%)	58 (100.0%)	32 (55.2%)	58
農学:大規模 以外の国立大学	発表論文の責任者	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者	特定の部下(大学院生)の指導の責任者	研究グループの予算作成・執行の実質的な責任者	独立した研究室	principal investigator	研究者としての独立の自覚	任期のない職	該当職階総人数
ポストドクター・研究員	3 (37.5%)	2 (25.0%)	2 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8
助教・講師・主任研究員	22 (75.9%)	25 (86.2%)	16 (55.2%)	17 (58.6%)	10 (34.5%)	6 (20.7%)	21 (72.4%)	16 (55.2%)	29
准教授・グループリーダー	38 (95.0%)	37 (92.5%)	39 (97.5%)	30 (75.0%)	21 (52.5%)	21 (52.5%)	35 (87.5%)	36 (90.0%)	40
教授・部長	23 (100.0%)	23 (100.0%)	23 (100.0%)	22 (95.7%)	21 (91.3%)	20 (87.0%)	23 (100.0%)	21 (91.3%)	23

参考図表-世代1 理学分野における研究に関する経験割合の世代間比較(全研究者)



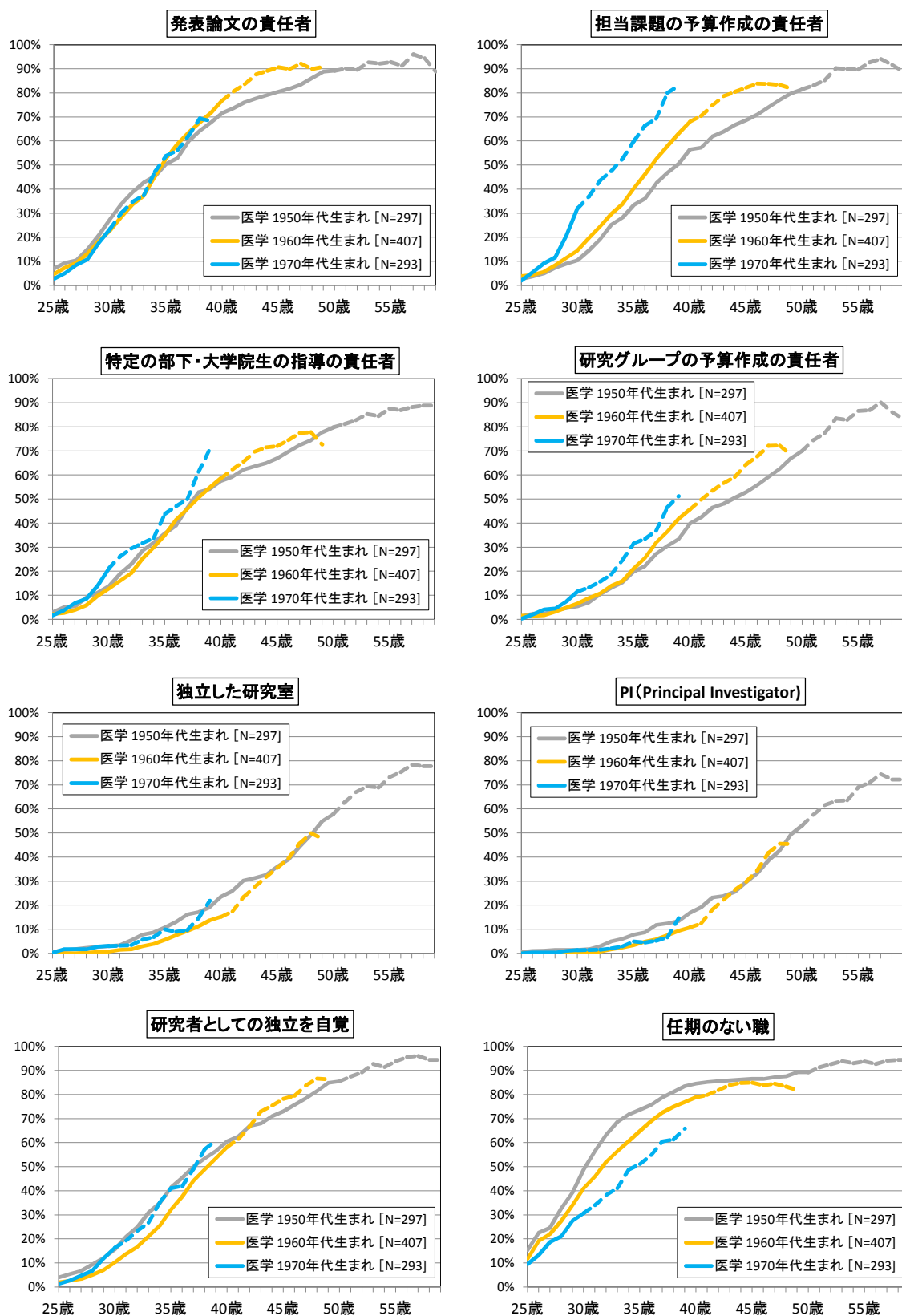
※凡例にあるサンプルサイズは実線部分に対応している。点線部分は2009年12月31日時点で横軸の年齢に達していた回答者のみから算出しているため、サンプルサイズが減少する。

参考図表-世代2 工学分野における研究に関する経験割合の世代間比較(全研究者)



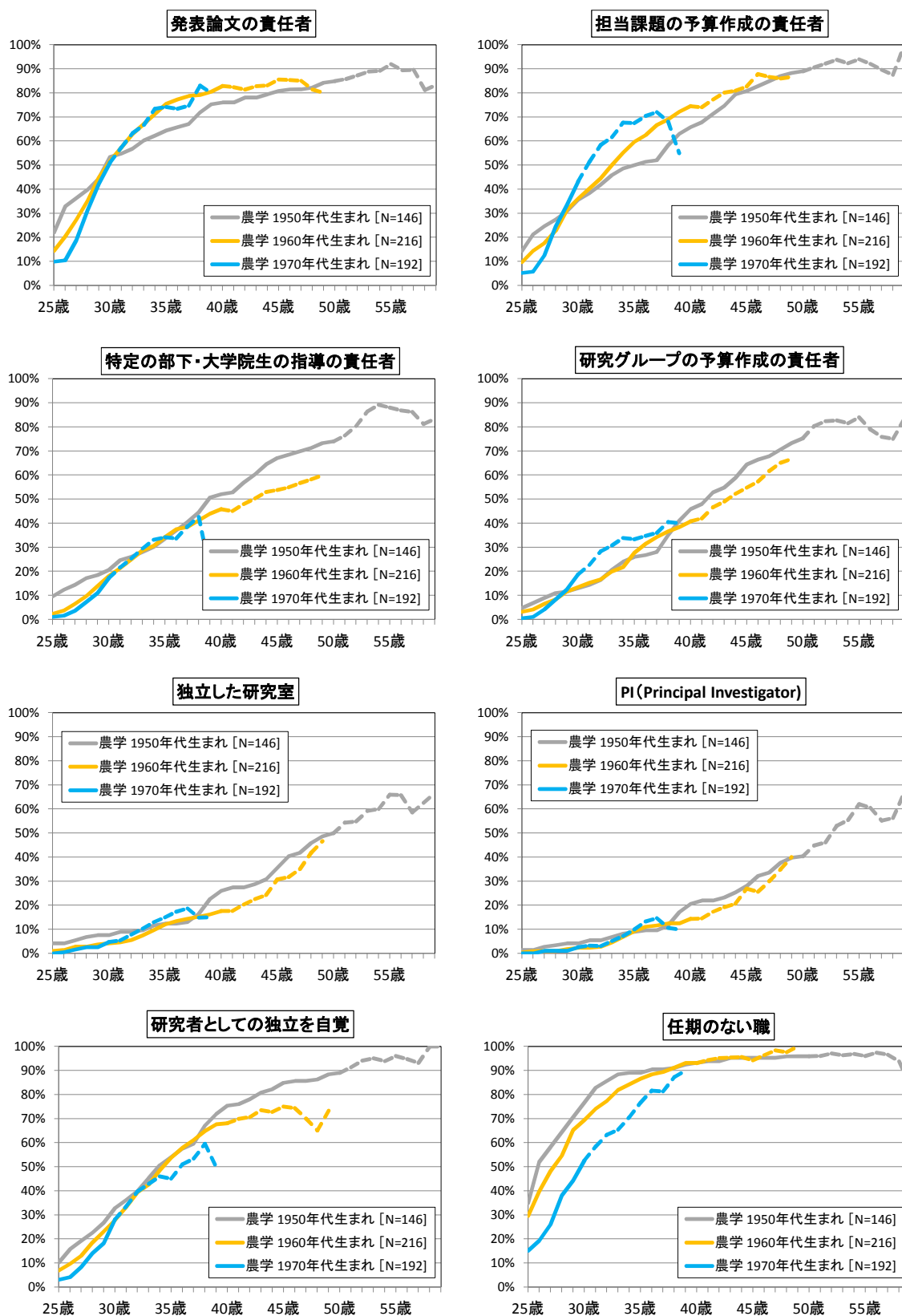
※凡例にあるサンプルサイズは実線部分に対応している。点線部分は2009年12月31日時点で横軸の年齢に達していた回答者のみから算出しているため、サンプルサイズが減少する。

参考図表-世代3 医学分野における研究に関する経験割合の世代間比較(全研究者)



※凡例にあるサンプルサイズは実線部分に対応している。点線部分は2009年12月31日時点で横軸の年齢に達していた回答者のみから算出しているため、サンプルサイズが減少する。

参考図表-世代4 農学分野における研究に関する経験割合の世代間比較(全研究者)



※凡例にあるサンプルサイズは実線部分に対応している。点線部分は2009年12月31日時点で横軸の年齢に達していた回答者のみから算出しているため、サンプルサイズが減少する。

参考図表-世代1値 理学分野における研究に関する経験割合の世代間比較表(全研究者)

		25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳	31歳	32歳	33歳	34歳	35歳	36歳	37歳	38歳	39歳	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳	51歳	52歳	53歳	54歳	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳	
有効IDカウント	1950年代生(50～59歳)	212	212	212	212	212	212	212	212	212	212	212	212	212	212	212	212	212	212	212	212	212	212	212	212	212	212	212	188	162	142	119	97	80	57	43	20
	1960年代生(40～49歳)	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	396	
	1970年代生(30～39歳)	393	393	393	393	393	393	371	339	308	272	223	182	139	97	43																					
	1980年代生(20～29歳)	26	44	59	80	102	118	132	143	148	156	159	168	173	176	178	179	183	185	187	188	192	192	192	193	195	195	175	151	132	109	88	73	51	37	16	
発表論文の責任者	1950年代生(50～59歳)	32	44	73	127	175	216	235	258	272	280	297	312	318	324	331	334	309	278	241	206	167	138	100	71	38											
	1960年代生(40～49歳)	12	21	47	113	157	182	193	198	192	181	149	121	99	70	35																					
	1970年代生(30～39歳)	17	26	33	43	54	67	73	88	100	111	119	135	142	150	156	162	166	171	174	178	182	184	188	189	192	192	172	148	131	108	88	72	52	39	17	
	1980年代生(20～29歳)	14	20	46	95	131	165	182	204	220	233	250	272	285	301	316	325	295	269	236	202	161	134	95	64	34											
担当課題の予算作成の責任者	1950年代生(50～59歳)	13	19	43	94	137	167	188	199	197	183	156	128	104	75	32																					
	1960年代生(40～49歳)	10	19	23	33	42	54	60	69	80	90	95	112	119	128	136	143	150	151	153	156	161	162	166	168	169	171	155	136	121	100	81	66	47	36	16	
	1970年代生(30～39歳)	14	19	31	59	81	101	120	140	158	176	195	210	216	231	242	253	235	221	201	175	142	123	89	63	36											
	1980年代生(20～29歳)	8	11	21	48	81	100	117	128	124	119	111	93	77	53	25																					
特定の部下(大学院生)の指導の責任者	1950年代生(50～59歳)	8	15	15	19	23	32	35	40	52	66	74	89	102	110	119	127	132	137	142	148	153	158	163	166	171	175	159	140	124	104	85	69	49	37	16	
	1960年代生(40～49歳)	8	11	21	42	58	73	83	100	113	127	147	171	186	203	218	229	214	201	181	159	129	111	84	62	33											
	1970年代生(30～39歳)	6	6	15	33	48	57	71	76	80	79	73	68	57	44	21																					
	1980年代生(20～29歳)	5	8	8	10	15	17	20	22	31	42	46	60	68	73	82	89	93	97	101	107	111	119	125	128	136	141	127	110	97	82	65	54	37	29	13	
独立した研究室	1950年代生(50～59歳)	5	6	12	23	30	40	45	58	66	75	93	112	121	136	155	167	156	149	140	126	105	91	68	52	31											
	1960年代生(40～49歳)	1	1	2	10	18	20	27	32	36	41	42	40	37	27	15																					
	1970年代生(30～39歳)	3	5	5	7	8	9	10	12	20	26	30	42	47	54	63	70	75	79	84	91	97	104	109	112	120	125	117	103	91	76	61	50	35	28	13	
	1980年代生(20～29歳)	3	4	6	9	15	20	26	36	46	55	70	86	93	108	128	139	132	126	121	109	91	82	62	47	29											
PIの本務職に就いた	1950年代生(50～59歳)	0	0	0	2	6	8	11	15	19	23	26	24	23	19	11																					
	1960年代生(40～49歳)	4	8	8	11	12	16	19	24	35	44	52	68	77	87	96	105	112	117	121	127	134	137	143	146	150	154	144	128	114	95	77	62	44	33	14	
	1970年代生(30～39歳)	3	6	11	18	26	34	43	58	72	86	102	122	136	153	169	180	173	163	150	133	107	92	70	51	30											
	1980年代生(20～29歳)	4	4	6	9	17	22	29	34	39	42	44	42	39	29	14																					
「独立した研究室」を除く4項目全て	1950年代生(50～59歳)	21	34	46	66	87	100	114	125	135	145	148	159	167	171	173	177	181	184	185	187	190	191	192	193	196	196	175	151	134	111	91	75	54	40	19	
	1960年代生(40～49歳)	21	31	53	95	131	166	180	203	219	231	250	276	286	295	304	315	290	267	236	201	163	135	97	66	37											
	1970年代生(30～39歳)	4	6	18	60	100	123	140	153	152	146	125	104	85	62	35																					
	1980年代生(20～29歳)	38	60	78	103	126	143	158	171	173	182	185	191	195	198	199	199	200	200	201	202	202	202	202	202	202	202	202	180	155	135	112	92	77	54	42	19
任期のない職	1950年代生(50～59歳)	68	92	121	173	219	257	274	297	305	316	332	339	343	350	353	357	326	292	254	215	175	146	104	69	36											
	1960年代生(40～49歳)	28	39	55	89	116	137	154	173	167	160	140	128	104	77	38																					
	1970年代生(30～39歳)																																				
	1980年代生(20～29歳)																																				

参考図表-世代2値 工学分野における研究に関する経験割合の世代間比較表(全研究者)

		25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳	31歳	32歳	33歳	34歳	35歳	36歳	37歳	38歳	39歳	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳	51歳	52歳	53歳	54歳	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳	
有効IDカウント	1950年代生(50～59歳)	233	233	233	233	233	233	233	233	233	233	233	233	233	233	233	233	233	233	233	233	233	233	233	233	233	233	233	199	172	147	121	97	74	55	38	12
	1960年代生(40～49歳)	444	444	444	444	444	444	444	444	444	444	444	444	444	444	444	444	389	347	294	258	213	168	117	76	33	233	233									
	1970年代生(30～39歳)	376	376	376	376	376	376	351	324	295	261	206	169	129	87	42																					
発表論文の責任者	1950年代生(50～59歳)	60	74	91	121	140	153	166	173	180	187	189	192	197	202	206	208	214	218	218	219	219	221	222	223	224	225	195	168	144	118	96	74	55	38	12	
	1960年代生(40～49歳)	88	132	171	232	282	308	321	343	351	359	370	383	391	396	400	405	358	324	276	242	201	160	110	71	32											
	1970年代生(30～39歳)	27	48	98	179	233	269	266	263	244	221	176	146	114	79	39																					
担当課題の予算作成の責任者	1950年代生(50～59歳)	32	41	50	69	87	97	107	115	127	139	147	160	172	177	184	190	196	202	205	209	214	216	217	219	223	224	192	165	141	117	95	73	54	37	12	
	1960年代生(40～49歳)	51	73	95	139	177	209	231	259	279	295	311	332	343	358	366	377	336	310	270	240	202	162	115	75	33											
	1970年代生(30～39歳)	19	33	66	127	162	199	207	211	210	195	165	141	112	77	39												224	192	165	141	117	95	73	54	37	12
特定の部下(大学院生)の指導の責任者	1950年代生(50～59歳)	24	30	36	51	62	76	85	88	99	113	122	134	142	150	158	166	175	183	187	194	197	199	200	202	206	209	182	156	133	108	86	68	50	34	12	
	1960年代生(40～49歳)	38	54	73	105	132	147	169	190	215	231	246	269	280	299	304	312	289	270	236	212	177	143	103	66	30											
	1970年代生(30～39歳)	9	13	31	60	87	114	129	139	143	131	110	96	77	55	25																					
研究グループの予算作成の責任者	1950年代生(50～59歳)	16	22	25	35	46	54	61	65	77	87	96	109	117	123	134	142	152	165	171	177	185	191	197	201	209	212	183	156	133	108	88	68	49	33	10	
	1960年代生(40～49歳)	28	37	48	65	76	93	107	126	148	169	185	207	223	238	248	264	251	240	213	194	170	142	101	65	30											
	1970年代生(30～39歳)	8	10	29	52	70	88	97	116	123	116	103	87	74	52	26																					
独立した研究室	1950年代生(50～59歳)	7	10	11	17	23	32	37	38	48	56	62	75	85	93	104	113	125	134	142	149	156	166	174	182	189	192	168	145	123	102	84	66	47	32	10	
	1960年代生(40～49歳)	11	16	22	30	36	50	59	73	91	109	126	139	151	165	178	191	185	180	165	151	137	114	88	57	26											
	1970年代生(30～39歳)	3	5	9	18	28	37	42	54	60	61	56	50	43	29	17																					
PIの本務職に就いた	1950年代生(50～59歳)	3	4	5	8	13	18	21	22	31	37	42	55	63	69	82	90	101	113	121	133	142	153	162	169	176	179	154	132	115	95	76	61	43	29	9	
	1960年代生(40～49歳)	8	11	13	18	25	32	40	51	66	84	98	114	124	137	147	158	155	152	142	131	119	99	77	49	24											
	1970年代生(30～39歳)	2	2	4	8	14	20	26	37	44	46	41	39	33	23	13																					
「独立した研究室」を除く4項目全て	1950年代生(50～59歳)	9	13	14	20	29	36	40	43	53	62	70	83	92	99	113	121	132	143	149	159	166	174	181	185	191	194	168	143	124	100	79	64	46	31	10	
	1960年代生(40～49歳)	20	26	31	41	52	60	74	87	106	126	143	165	181	197	207	221	214	208	189	172	149	120	88	56	28											
	1970年代生(30～39歳)	4	4	14	24	38	51	61	76	85	82	74	68	58	41	22																					
研究者として「独立した」と自覚した	1950年代生(50～59歳)	29	40	53	77	90	102	113	118	137	149	152	165	177	182	189	195	207	208	209	211	212	212	214	214	216	216	189	162	139	117	94	72	54	37	12	
	1960年代生(40～49歳)	43	64	87	128	155	180	202	224	244	264	282	302	316	330	341	357	320	297	259	229	197	157	110	70	32											
	1970年代生(30～39歳)	13	21	42	88	127	156	166	175	169	157	129	111	92	63	30																					
任期のない職	1950年代生(50～59歳)	89	105	124	156	180	190	201	205	209	211	213	215	220	220	220	221	221	221	221	221	221	222	222	222	223	223	189	165	141	117	96	73	54	37	12	
	1960年代生(40～49歳)	143	199	230	291	332	362	378	388	397	400	406	408	413	416	417	417	367	331	284	252	207	164	115	74	32											
	1970年代生(30～39歳)	46	65	95	137	169	197	206	210	211	201	171	148	115	78	39																					



参考図表-世代3値 医学分野における研究に関する経験割合の世代間比較表(全研究者)

		25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳	31歳	32歳	33歳	34歳	35歳	36歳	37歳	38歳	39歳	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳	51歳	52歳	53歳	54歳	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳
有効IDカウント	1950年代生(50～59歳)	297	297	297	297	297	297	297	297	297	297	297	297	297	297	297	297	297	297	297	297	297	297	297	297	297	297	255	203	164	129	97	69	51	36	18
	1960年代生(40～49歳)	407	407	407	407	407	407	407	407	407	407	407	407	407	407	407	407	372	342	300	277	225	180	129	90	44										
	1970年代生(30～39歳)	293	293	293	293	293	293	279	261	246	207	180	155	114	75	41																				
発表論文の責任者	1950年代生(50～59歳)	21	28	31	45	62	82	100	115	127	135	150	157	178	191	201	213	219	226	231	235	239	243	248	256	264	265	230	182	152	119	90	63	49	34	16
	1960年代生(40～49歳)	19	30	38	54	75	93	116	137	152	185	215	239	259	276	292	313	300	286	263	247	204	162	119	81	40										
	1970年代生(30～39歳)	8	15	25	32	52	69	84	91	92	98	97	87	71	52	28																				
担当課題の予算作成の責任者	1950年代生(50～59歳)	8	11	15	22	27	31	43	57	75	84	99	107	126	139	150	168	170	184	190	198	204	211	220	229	237	242	212	173	148	116	87	64	48	33	16
	1960年代生(40～49歳)	16	18	23	34	47	59	80	100	121	138	164	188	214	236	257	277	262	256	236	223	185	151	108	75	36										
	1970年代生(30～39歳)	6	16	27	34	61	94	103	114	117	109	108	103	79	60	34																				
特定の部下(大学院生)の指導の責任者	1950年代生(50～59歳)	9	15	16	27	33	41	56	68	85	95	106	116	138	157	161	171	176	185	189	193	199	207	215	221	231	237	207	168	140	109	85	60	45	32	16
	1960年代生(40～49歳)	9	11	16	24	40	52	65	78	103	122	143	169	187	206	223	239	232	224	209	198	162	134	100	70	32										
	1970年代生(30～39歳)	5	11	20	25	41	62	73	77	78	70	79	73	57	46	29																				
研究グループの予算作成の責任者	1950年代生(50～59歳)	4	7	7	11	14	16	21	31	39	46	59	66	81	91	99	118	126	138	143	150	157	166	176	186	199	208	190	157	137	107	84	60	46	31	15
	1960年代生(40～49歳)	6	6	7	13	20	27	36	44	57	65	86	104	130	149	170	186	185	183	170	164	145	122	93	65	30										
	1970年代生(30～39歳)	1	6	12	13	22	34	37	41	46	51	57	52	42	35	21																				
独立した研究室	1950年代生(50～59歳)	2	4	5	7	8	9	10	16	23	26	32	39	48	51	57	70	77	90	93	97	107	116	132	146	163	172	160	136	114	89	71	52	40	28	14
	1960年代生(40～49歳)	0	0	0	1	2	3	6	7	12	16	23	31	38	46	56	62	65	80	83	88	80	71	59	45	21										
	1970年代生(30～39歳)	1	5	5	8	9	9	9	9	14	14	18	14	11	11	9																				
PIの本務職に就いた	1950年代生(50～59歳)	2	3	3	4	4	4	5	9	15	18	23	26	35	37	40	50	57	69	71	76	88	99	115	127	147	158	147	125	104	82	67	49	38	26	13
	1960年代生(40～49歳)	0	0	0	0	0	0	2	3	7	10	14	20	24	31	38	44	46	62	67	73	67	62	54	41	20										
	1970年代生(30～39歳)	0	1	1	1	3	4	4	4	5	6	9	7	6	5	6																				
「独立した研究室」を除く4項目全て	1950年代生(50～59歳)	3	5	5	7	8	10	14	18	25	33	42	48	61	71	76	90	97	110	114	120	128	139	153	163	178	188	172	140	120	92	73	53	41	27	13
	1960年代生(40～49歳)	1	1	2	4	9	13	18	23	31	36	49	60	78	94	112	128	131	137	134	131	116	98	78	56	27										
	1970年代生(30～39歳)	0	3	5	5	9	13	15	20	24	28	35	30	26	23	16																				
研究者として「独立した」と自覚した	1950年代生(50～59歳)	12	16	20	28	36	47	62	74	92	104	123	135	149	159	168	180	186	199	202	211	217	225	233	242	252	254	223	181	152	118	91	66	49	34	17
	1960年代生(40～49歳)	8	11	14	21	29	42	56	68	86	104	131	153	180	199	218	237	229	228	219	209	176	143	108	78	38										
	1970年代生(30～39歳)	4	8	14	20	35	48	54	61	66	73	74	65	56	43	25	25	253	254	255	256	257	257	259	260	265	265	233	188	154	120	91	64	48	34	17
任期のない職	1950年代生(50～59歳)	46	67	73	97	117	145	168	188	204	213	219	225	234	241	248	251	253	254	255	256	257	257	259	260	265	265	233	188	154	120	91	64	48	34	17
	1960年代生(40～49歳)	48	78	90	112	139	167	187	212	230	247	264	281	295	305	313	321	297	280	252	235	191	151	109	75	36										
	1970年代生(30～39歳)	28	39	55	62	81	90	95	100	101	101	92	85	69	46	27																				

参考図表-世代4値 農学分野における研究に関する経験割合の世代間比較表(全研究者)

		25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳	31歳	32歳	33歳	34歳	35歳	36歳	37歳	38歳	39歳	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳	51歳	52歳	53歳	54歳	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳
有効IDカウント	1950年代生(50～59歳)	146	146	146	146	146	146	146	146	146	146	146	146	146	146	146	146	146	146	146	146	146	146	146	146	146	146	127	102	81	65	50	38	29	16	6
	1960年代生(40～49歳)	216	216	216	216	216	216	216	216	216	216	216	216	216	216	216	216	193	167	151	136	104	82	60	43	15										
	1970年代生(30～39歳)	192	192	192	192	192	192	185	166	156	139	120	98	75	47	20																				
発表論文の責任者	1950年代生(50～59歳)	32	48	53	58	65	78	80	83	88	91	94	96	98	105	110	111	111	114	114	116	118	119	119	120	123	124	109	89	72	58	46	34	26	13	5
	1960年代生(40～49歳)	31	44	59	76	97	112	124	136	145	154	163	167	170	171	174	179	159	136	125	113	89	70	51	35	12										
	1970年代生(30～39歳)	19	20	36	60	81	98	106	105	104	102	89	72	56	39	16																				
担当課題の予算作成の責任者	1950年代生(50～59歳)	21	31	36	40	45	52	56	61	67	71	73	75	76	85	92	96	99	104	109	116	118	121	124	127	129	130	115	94	76	60	47	35	26	14	6
	1960年代生(40～49歳)	21	31	38	49	68	78	87	96	108	119	129	135	144	149	156	161	143	129	121	110	86	72	52	37	13										
	1970年代生(30～39歳)	10	11	24	47	64	83	95	97	96	94	81	69	54	32	11																				
特定の部下(大学院生)の指導の責任者	1950年代生(50～59歳)	14	18	21	25	27	30	36	38	41	44	49	54	59	65	74	76	77	83	88	94	98	100	102	104	107	108	97	82	70	58	44	33	25	13	5
	1960年代生(40～49歳)	5	8	14	21	30	39	46	54	62	66	74	81	83	89	95	99	87	80	76	72	56	45	34	25	9										
	1970年代生(30～39歳)	2	3	7	14	21	33	40	42	46	46	41	33	29	20	4																				
研究グループの予算作成の責任者	1950年代生(50～59歳)	7	10	13	16	17	19	21	24	30	35	38	39	41	51	60	67	70	77	80	86	94	97	99	103	107	110	102	84	67	53	42	30	22	12	5
	1960年代生(40～49歳)	7	9	14	18	25	29	33	36	43	47	60	68	74	79	83	88	81	78	74	71	57	47	37	28	10										
	1970年代生(30～39歳)	1	2	8	16	24	36	42	47	48	47	40	34	27	19	8																				
独立した研究室	1950年代生(50～59歳)	6	6	8	10	11	11	13	13	14	17	18	19	24	33	38	40	40	42	45	52	59	61	67	71	73	69	56	48	39	33	25	17	10	4	
	1960年代生(40～49歳)	2	3	6	6	8	9	10	12	16	21	26	29	31	33	35	38	34	34	34	33	32	26	21	18	7										
	1970年代生(30～39歳)	0	1	3	5	5	9	10	13	16	18	18	17	14	7	3																				
PIの本務職に就いた	1950年代生(50～59歳)	2	2	4	5	6	6	8	8	10	12	13	14	14	17	25	30	32	32	34	37	41	47	49	55	58	59	57	47	43	36	31	23	16	9	4
	1960年代生(40～49歳)	1	2	2	2	4	5	5	6	10	15	20	24	25	27	27	31	28	29	29	28	28	21	18	15	6										
	1970年代生(30～39歳)	0	0	2	2	2	5	6	5	8	10	12	13	11	5	2																				
「独立した研究室」を除く4項目全て	1950年代生(50～59歳)	4	6	8	9	10	12	14	16	19	21	24	26	29	35	44	49	52	57	60	65	70	74	75	80	84	85	80	67	57	46	36	25	18	9	4
	1960年代生(40～49歳)	1	2	4	7	11	14	16	19	25	29	41	47	51	54	56	62	58	57	56	55	46	37	30	21	7										
	1970年代生(30～39歳)	0	0	3	3	6	12	16	15	18	19	20	18	16	9	2																				
研究者として「独立した」と自覚した	1950年代生(50～59歳)	15	23	28	33	39	48	53	58	66	74	79	84	87	98	105	110	111	114	118	120	124	125	125	126	129	130	116	96	77	61	48	36	27	16	6
	1960年代生(40～49歳)	15	21	28	40	50	60	72	85	92	105	116	125	132	140	146	147	135	118	111	99	78	61	42	28	11										
	1970年代生(30～39歳)	6	8	16	27	35	54	62	66	67	64	54	50	42	28	10																				
任期のない職	1950年代生(50～59歳)	51	76	85	94	103	112	121	125	129	130	130	132	132	133	135	136	137	137	139	139	139	139	139	140	140	140	122	99	78	63	48	37	28	15	5
	1960年代生(40～49歳)	64	86	104	118	141	150	160	167	177	182	187	191	193	197	201	201	182	159	144	130	98	79	59	42	15										
	1970年代生(30～39歳)	29	37	50	73	85	101	108	105	102	98	92	80	61	41	18																				



## 参考資料3:調査票



## 【調査依頼メール】

キャリアパス調査のお願い【文部科学省 科学技術政策研究所】(ID : N099A99F999B 様)

研究人材の流動性に関する調査のご回答者様 (前回調査 ID : N099A99F999B 様)

拝啓 晩秋の候 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。  
文部科学省 科学技術政策研究所でございます。

2008 年 11～12 月において、第 3 期科学技術基本計画のフォローアップに係る調査研究の一つである「科学技術人材に関する調査」にご協力頂き、誠にありがとうございました。今年 7 月に御礼のご連絡をさせて頂いた通り、この調査による報告書は下記 URL から PDF 形式でダウンロードができます。<http://www.nistep.go.jp/achiev/ftx/jpn/rep123j/idx123j.html>

本件、皆様には重ね重ねお手数をおかけし、大変申し訳ございませんが、もう一度だけ調査にご協力いただけないかという御願いで連絡させて頂きました。

研究者の育成・支援政策立案のため、「各研究分野において、どのようなキャリアを経て、どのくらいの時期に独立した研究者となるのか？また、研究者のキャリアパスは年代によりどう変化しているのか？」といった定量把握が我が国には不足しているという指摘もあり、直近の調査課題となっております。

2008 年度にご協力頂いた調査では、研究機関間の移動に着目し、各研究機関の在籍状況を回答して頂きました。この調査結果を活用して、上記課題に対応するため、同一機関内での「内部昇格」等について前回調査記載内容に「内部昇格」等を含めて、ご回答を頂きたいと考えております。

前回調査は Web 上のアンケートにお答え頂きましたが、今回の調査票は Excel 形式となっております。添付の回答用 Excel ファイルには各ご回答者様が前回の調査でお答え頂いた回答が記入されております。この Excel ファイルに加筆、修正をして頂き xxx@nistep.go.jp へご返送頂くことで回収したいと考えております。

「内部昇格」に加えて、各キャリアにおける「雇用の形態」や「研究における権限や自由度の範囲」を質問させて頂いております。詳細は回答用 Excel ファイルの [README] シートや「回答例・注釈」シートをご覧ください。なお、本メール調査は約 7000 名の研究者に尋ねております。回答は集計処理が行われ、研究者個人と個別回答を結びつけて公表することはありません。

お忙しい中、お手数をかけて恐縮ですが、11 月 20 日(金)までにご返送頂けると幸いです。よろしく願いいたします。

敬具

\*\*\*\*\*

文部科学省 科学技術政策研究所 (NISTEP)

第一調査研究グループ 流動性調査担当(中務、齋藤)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-2-2

中央合同庁舎第 7 号館東館 16F

調査用 E-mail: xxx@nistep.go.jp

TEL: 03-XXXX-XXXX

\*\*\*\*\*

# 【調査票(READMEシート)】

## アカデミックキャリアパスの実態把握のための調査

### ○記入のお願い

2008年11月、12月に実施いたしました「研究組織における人材の現状と流動性に関する調査」にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

このたび、文部科学省 科学技術政策研究所では、新たに研究者の育成・支援施策立案のため、研究分野ごとに研究者のキャリアパスの実態を調査・分析することとなりました。

この分析にご回答を頂きました「研究組織における人材の現状と流動性に関する調査」の調査結果の一部を活用させて頂きたいと考えております。

しかしながら、前回の調査内容は機関をまたぐような移動に関するものであり、同一機関内での昇進などを含めたキャリアパス全体を尋ねたものではありませんでした。

つきましては、**前回の回答内容[調査票]シートをご確認いただくとともに、下記の定義における「キャリア」変化があった場合は前回の回答に必要な行を挿入し各項目の記入**をお願いいたします。

「研究組織における人材の現状と流動性に関する調査」について、回答者リストを元にした調査はこれで最後と考えております。繰り返しお手をかけ申し訳ありませんが、何卒よろしくお願いいたします。

### ○「キャリア」変化とは

前回調査では研究機関間の移動に着目し、回答いただきました。今回の調査では研究機関内の職階等の変化を含め、以下のような場合について「キャリアの変化」とみなすこととします。

- ・**常勤の研究者として所属機関を移動した場合**（前回調査した項目です。[\[調査票\]シートに転記しておりますのでご確認頂き、誤りがあれば修正して下さい](#)）
- ・**同一組織内で昇格、昇進など職名が変化した場合**
- ・**同じ職名であったとしても、任期付きから任期なし、またはその逆に雇用形態が変化した場合**
- ・**任期の形態が変更された場合**（例：同一機関、同一雇用主のもとで任期が終了した後、新たな別の任期付き雇用となった場合【再任は除く】等）
- ・**在籍機関は同一であっても、1年以上の外向や派遣として別機関に常勤した場合**

### ○2008年度調査からの転記について

- ・2008年度調査のご回答をもとに、開始年の小さい(古い)順に研究機関の移動の状況を並べてあります。
- ・各研究機関における開始年、終了年のご回答内容によっては、正しく取得できていない場合(西暦を昭和、平成で回答された場合等)があります。

### ○記入上の注意

- ・キャリアを追加する場合は、追加する一つ下の行番号やセルを選択し、行を挿入して下さい。
- ・「任期のタイプ」については、任期があるキャリアの場合のみ記入して下さい。
- ・外向や派遣またはサバティカルの間をキャリアとして回答する場合、「在籍機関からの派遣・外向またはサバティカルであれば記入」の欄を選択してください。
- ・「権限や自由度の範囲」は、それぞれのキャリアにおいて、当てはまる選択肢を選んで下さい。

### ○お問い合わせ先

文部科学省 科学技術政策研究所 第一調査研究グループ（中務、齋藤）

xxx@nistep.go.jp（[調査依頼メールの差出人アドレス](#)ですので、[メールソフトの「返信」](#)で指定できます。）

03-XXXX-XXXX

### ○ご返送方法

本ファイル名及びシート名を変更せず保存し、以下のアドレスに電子メールの添付ファイルとしてお送りください。

xxx@nistep.go.jp（[調査依頼メールの差出人アドレス](#)ですので、[メールソフトの「返信」](#)で指定できます。）

### ○調査結果の公表予定

2009年春を目処に、本調査の結果を用いた「世代別・分野別の研究者のキャリアや権限の状況」をご報告させていただく予定です。

[（前回調査の結果:NISTEP REPORT No.123 科学技術人材に関する調査 \[http://www.nistep.go.jp/achiev/ftx/jpn/rep123i/idx123i.html\]](http://www.nistep.go.jp/achiev/ftx/jpn/rep123i/idx123i.html)）

お手数がかかる調査に二度もご協力いただき、誠にありがとうございます。

# 【調査票(回答例・注釈シート)】

## 回答例・注釈

### 1. ご回答者について

(2008年度の回答をもとにしています。)

ご回答者ID N09A99F999B

連絡先 abcd@mail.efgh.ac.jp

(連絡先アドレスを変更希望の方は修正ください。)

### キャリア変化の定義

- ・常勤の研究者として所属機関を移動した場合 (前回調査した項目です。転記していただく確認頂き、誤りがあれば修正して下さい。)
- ・同一組織内で昇格、昇進など職名が変化した場合
- ・同じ職名であったとしても、任期付きから任期なし、またはその逆に雇用形態が変化した場合
- ・任期の形態が変更された場合
- ・在籍機関は同一であっても、1年以上の出向や派遣として別機関に常勤した場合

### 記入の方法

1列の所属機関種より右側はセルを選択すると、プルダウン用のボタンが表示されます。クリックして選択肢を選んで下さい。(キーボードの場合は[Alt+ ]で項目を選べます。)

なお、同じ選択肢を入力する場合は、既に記入したセルをコピーして貼りつけることもできます。

例:B大学で講師から准教授へ内部昇格した場合、行を挿入。(セルへのは着色は不要です)

例:D大学において任期ありから任期なしに雇用形態が変化した場合、行を挿入。

(注)ここでは、研究室内の研究グループを指します。

(注)担当課題は、科研費等を含め、大小問いません。

(注)実態として、発表論文の主な連絡先となったか否かです。

(注)ご自身の主観でお答えください。主観的に研究を遂行することが可能な研究者であったか否かです。

### 2. ご回答者の研究キャリア

2008年度調査でご回答いただいた内容(修正が必要な箇所がありましたら、修正してください)							今回新たにご回答いただく内容											
No.	開始年 (西暦)	終了年 (西暦)	所属機関名	所属機関の種類	職階クラス	任期の有無	所属機関の確認		職名※1	任期があれば記入	雇用の形態		ご回答者の研究における権限や自由度の範囲					
							所属機関名(回答内容から推定した正式名称)	所属機関種別(回答内容から推定した種別(中分類))			任期のタイプ※2(任期ありの場合のみ)	在籍機関からの派遣・出向またはサバティカルであれば記入	独立した研究室※3を持った	研究グループ※4の予算作成・執行の実質的な責任者であった	担当課題の予算作成・執行の実質的な責任者であった	特定の部下(大学院生)の指導の責任者であった	発表論文の著者であった	研究者として「独立した」と自覚した
1	1988	1991	A大学	大学等	主任研究員、助手・助教、講師クラス	任期なし	A大学	国立大学	助教・助手				×該当しない	×該当しない	×該当しない	×該当しない	○該当する	×該当しない
2	1992	1996	B大学	大学等	主任研究員、助手・助教、講師クラス	任期なし	B大学	国立大学	講師				×該当しない	×該当しない	×該当しない	×該当しない	×該当しない	×該当しない
	1996	1997	B大学	大学等	グループリーダークラス、准教授(助教)クラス	任期なし	B大学	国立大学	准教授・助教				×該当しない	×該当しない	×該当しない	○該当する	○該当する	○該当する
3	1995	1996	C University	大学等	ポストドクター、研究員クラス	任期あり	C University	海外大学	准教授・助教	任期あり	更新・再任の可能性(回数や年数に上限あり)	出向・派遣として勤務	×該当しない	×該当しない	×該当しない	×該当しない	○該当する	○該当する
4	1998	2000	D大学	大学等	グループリーダークラス、准教授(助教)クラス	任期あり	D大学	国立大学	特任准教授・特任助教	任期あり	更新・再任の可能性(回数や年数に上限なし)		×該当しない	×該当しない	○該当する	○該当する	○該当する	○該当する
	2000	2004	D大学	大学等	グループリーダークラス、准教授(助教)クラス	任期なし	D大学	国立大学	准教授・助教				○該当する	○該当する	○該当する	○該当する	○該当する	○該当する
5	2004	2007	E大	大学等	部長、室長、教授クラス	任期あり	E大学	私立大学	教授				○該当する	○該当する	○該当する	○該当する	○該当する	○該当する
6	2007	2009	F大	大学等	部長、室長、教授クラス	任期なし	F大学	国立大学	教授				○該当する	○該当する	○該当する	○該当する	○該当する	○該当する

※1「職名」はリストから選んでください。リストにない場合は記入ください。

※2「任期のタイプ」は任期満了後の処遇で分類しています。選択肢から選んでください。

※3「独立した研究室」とは、ご自身の名前がついた研究室、またはその名称をご自身が命名した研究室を言います。独立行政法人等の場合、ご自身の名前がついていないケースもありえますが、その場合は大学の研究室相当を指すとお考えください。

例:必要に応じて、正式名称への修正をお願いします。(機械的処理で修正可能なものについては、既に修正されています。)

例:B大学に所属しながら海外大学に客員研究員として派遣された場合

### キャリアの行を追加する場合

10. 2. ご回答者の研究キャリア

2008年度調査でご回答いただいた内容

11. 2. ご回答者の研究キャリア

2008年度調査でご回答いただいた内容

12. 2. ご回答者の研究キャリア

2008年度調査でご回答いただいた内容

行の番号をクリックして行全体を選択した後、マウスの右クリックメニューから[挿入]を選んで下さい。  
選択した行の上側に空白の行が追加されます。  
(キーボードからの操作の場合は[Alt+I]に載って[Enter]を押してください)

### 各列の選択肢一覧

国立大学 教授  
大学共同利用機関 特任教授  
私立大学 准教授・助教  
公立大学 特任准教授・特任助教  
独立行政法人 講師  
政府研究機関 助教・助手  
財団法人・社団法人 特任助教・助手  
海外大学 主任研究員  
海外研究機関 主任研究員  
公設試験場 研究員  
病院・診療所 グループリーダー  
地方自治体 チームリーダー  
上記以外の公的機関 部長  
民間企業 室長  
その他 研究官  
技官  
技師  
学長  
副学長  
理事  
名誉教授  
上記にない場合は記入ください

### 任期あり 更新・再任なしを前提

更新・再任の可能性(回数や年数に上限あり)  
更新・再任の可能性(回数や年数に上限なし)  
テニユア職への移行・昇進が前提  
その他

### 出向・派遣として勤務

サバティカル

### ○該当する

×該当しない

### ○該当する

×該当しない

### ○該当する

×該当しない

### ○該当する

×該当しない

### ○該当する

×該当しない

### ○該当する

×該当しない

### ○該当する

×該当しない